

大学入学者選抜における総合型選抜の 導入効果に関するアンケート調査結果 (概要)

目次

1. 調査の概要	2
2. 大学入学者選抜における総合型選抜の導入効果に関するアンケート調査結果（概要）	3
(1) 大学入学者選抜における総合型選抜の導入実態について(概要)	3
(2) 大学入学者選抜において総合型選抜を導入する大学等の実態について(概要)	1 2
(3) 大学入学者選抜において総合型選抜を導入していない大学等の実態について（概要）	1 2 2

1. 調査の概要

1 目的

文部科学省では、高等学校までに育成した学力の3要素を多面的・総合的に評価し、大学教育で更に向上・発展させるため、高大接続改革を推進しており、その改革の一環として大学入学者選抜改革も進めてきた。各大学は、改革の方向性を踏まえ、多様な入学者選抜を導入しながら、それぞれが求める学生像に相応する入学者の選抜に努めているところである。

このうち総合型選抜は、入学志願者の能力、意欲、適性等の多面的・総合的な評価により適していると言われている一方、他の選抜方法より評価する観点の設計や実施体制を整える人員の確保が難しいとの意見もある。制度導入から20年超を経過した今、総合型選抜の成果、各大学が抱える課題について、具体的な事例も含めて把握・分析し、大学入学者選抜における総合型選抜の導入効果を検証する必要がある。

以上を踏まえ、各大学へのアンケート調査や面接調査の実施により、総合型選抜の成果と課題について分析を行う上での基礎資料とすることを目的とする。

2 実施時期および方法

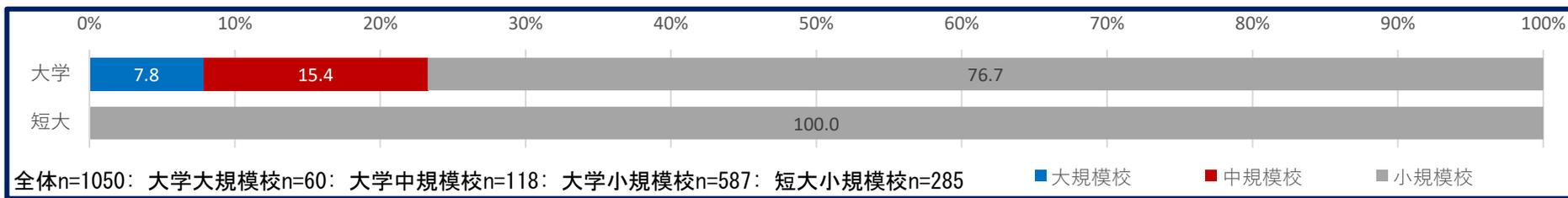
令和5年9月2日～令和6年1月22日

eメールによる調査票の発送及び回答票回収

3 対象

本調査は、国公私立大学782機関、公私立短期大学290機関を対象として実施(回答票数大学765(回答率97.8%)、短期大学285(回答率98.3%))

参考：大学・短期大学規模

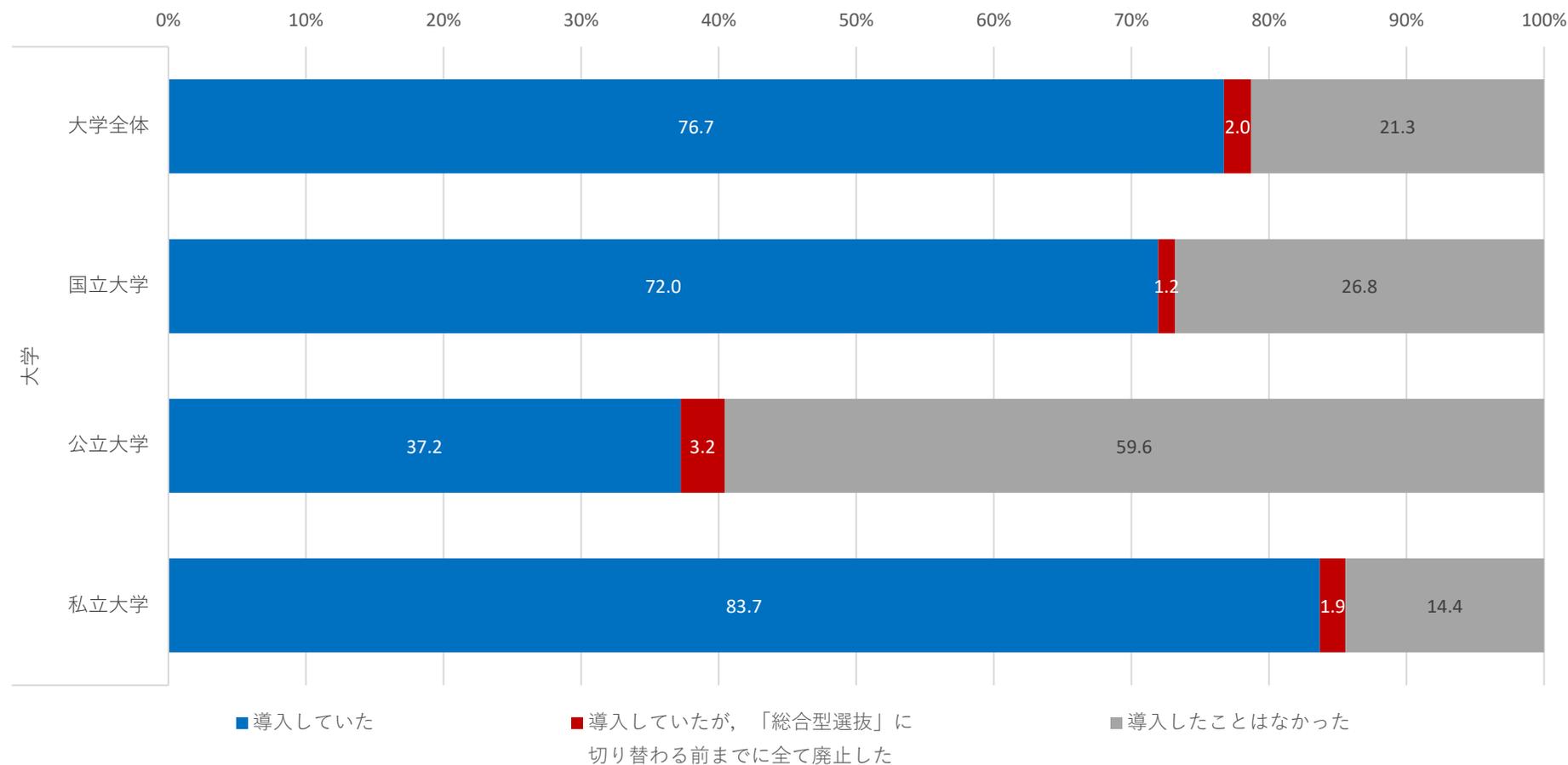


大学入学者選抜における総合型選抜の 導入効果に関するアンケート調査結果 (概要)

(1) 大学入学者選抜における総合型選抜の 導入実態について (概要)

「総合型選抜」方法に切り替わる2020年度入試までの「AO入試（それに準じた入試）」導入実態について ①大学・設置主体別

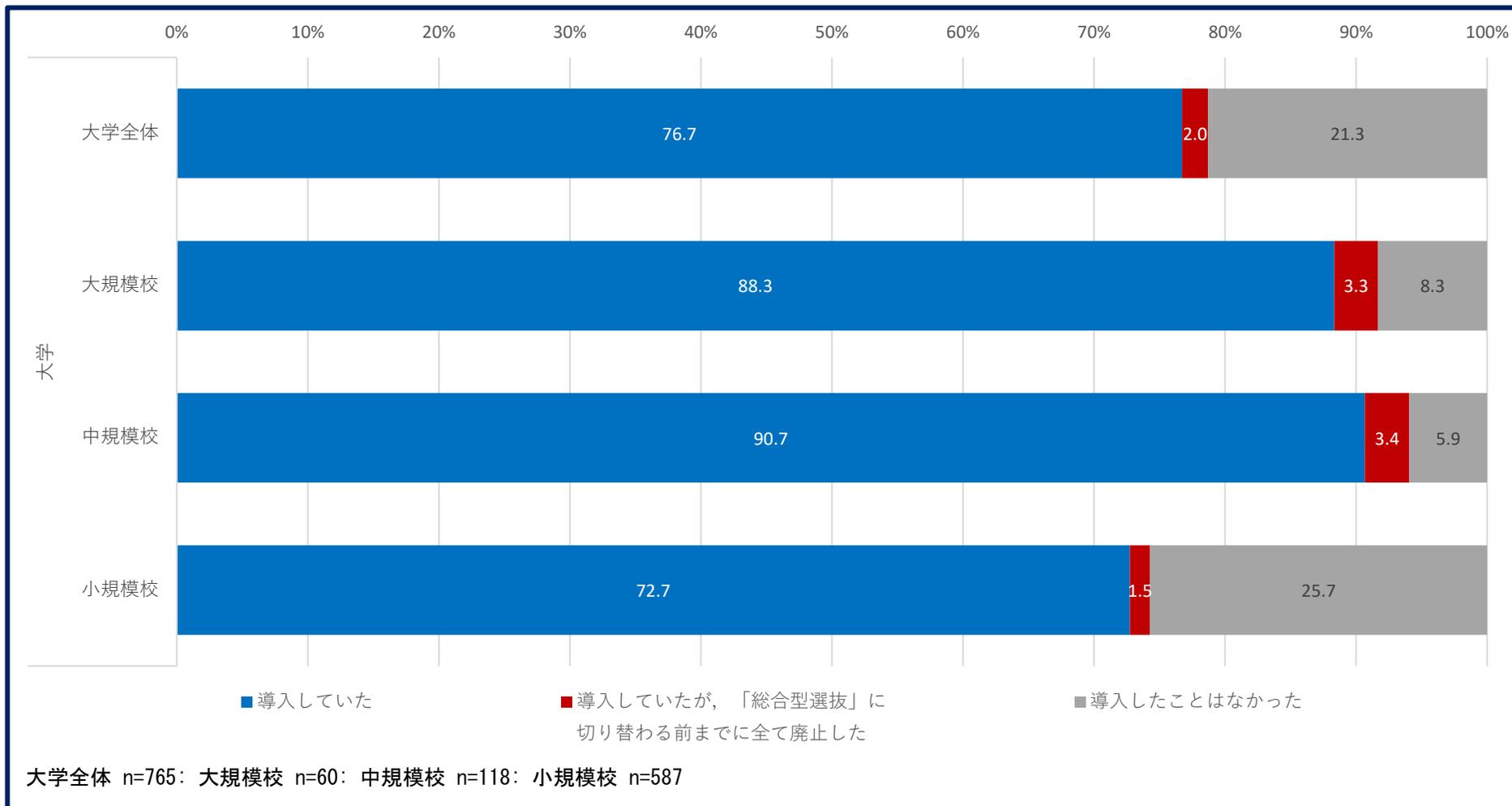
- 大学全体では、「導入していた(76.7%)」、「導入していたが「総合型選抜」に切り替わる前までに全て廃止した(2.0%)」、「導入したことはなかった(21.3%)」となっている。
- 私立大学、国立大学では、7割以上が導入していたが、公立大学では、廃止を含めて導入していたのは4割程度となっている。



大学全体 n=765: 国立大学 n=82: 公立大学 n=94: 私立大学 n=589

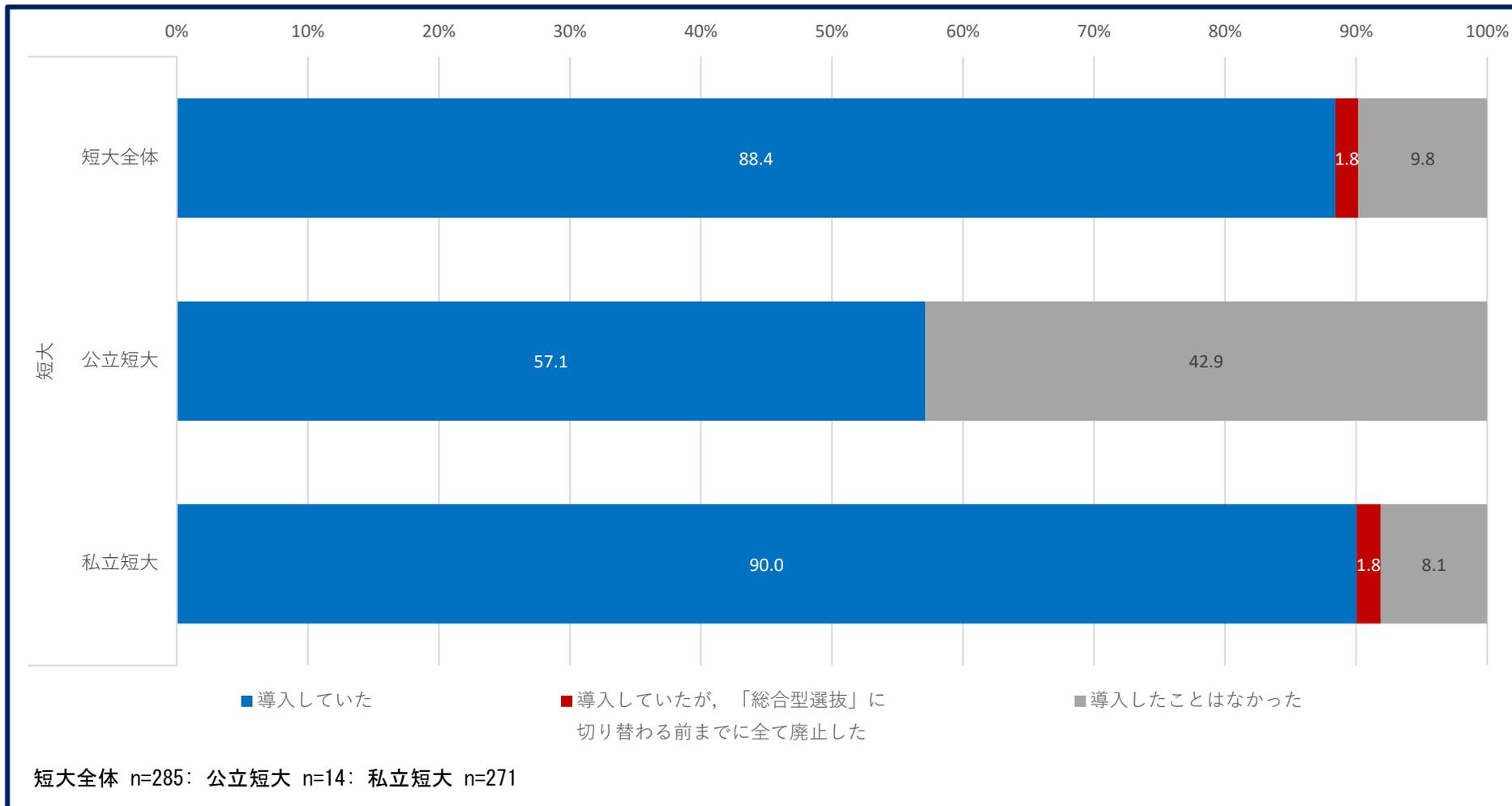
「総合型選抜」方法に切り替わる2020年度入試までの「AO入試（それに準じた入試）」導入実態について ②大学・規模別

- 大学の規模別に見ると、大規模校は88.3%、中規模校は90.7%が「導入していた」と回答した。
- 小規模校で「導入していた」と回答したのは、72.7%となっており、大規模校、中規模校よりも若干割合が少ない。



「総合型選抜」方法に切り替わる2020年度入試までの「AO入試（それに準じた入試）」導入実態について ③短大・設置主体別

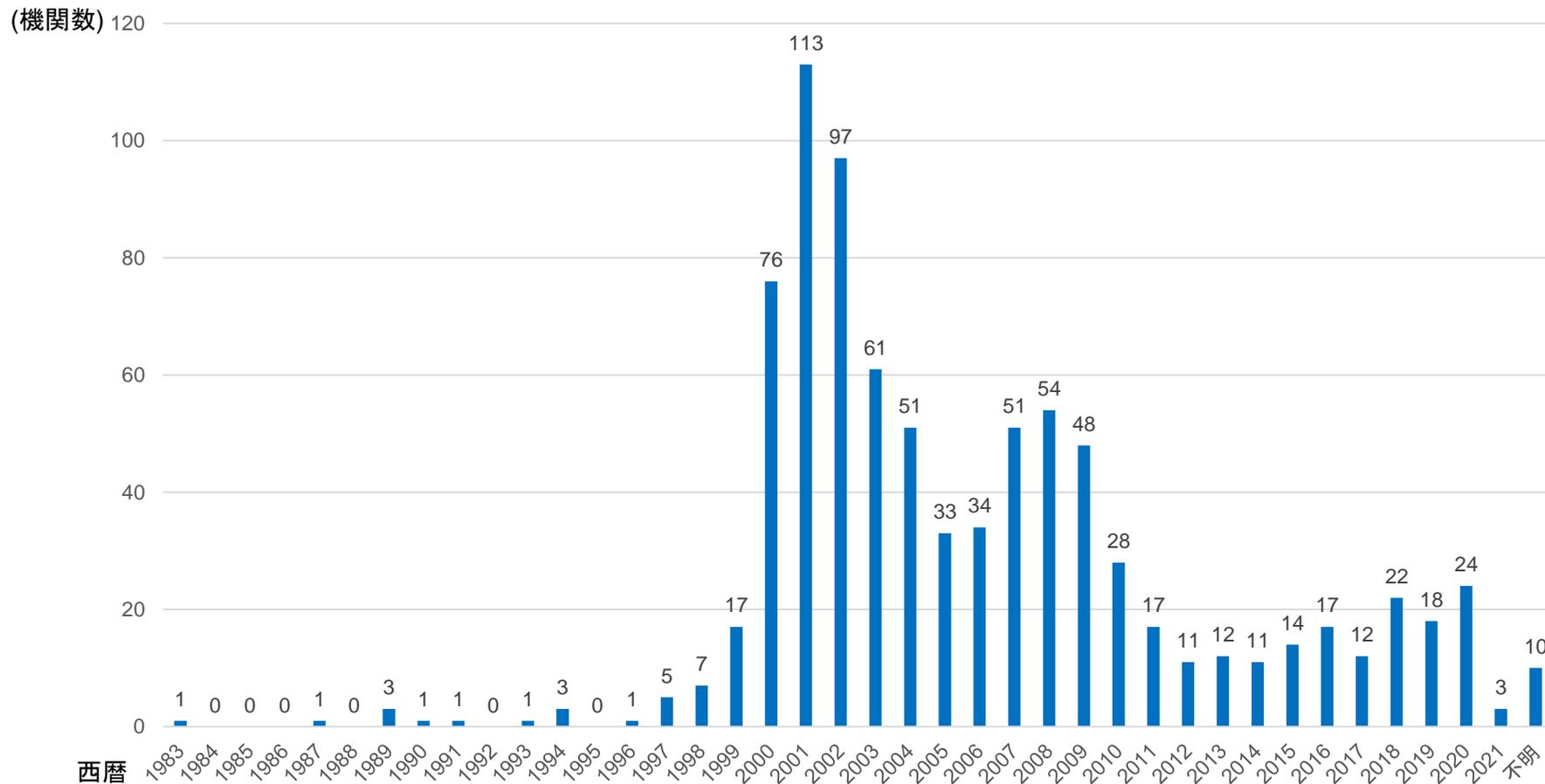
- 短大全体では、「導入していた(88.4%)」、「導入したことはなかった(9.8%)」となっている。
- 私立短大では、「導入していた」が90.0%であるが、公立短大は「導入していた」が57.1%にとどまっている。



「AO入試（それに準じた入試）」を最初に導入した時期

（前問で「AO入試を導入」又は「AO入試を導入したが廃止」を選択した大学のみ）

- 「AO入試（それに準じた入試）」の導入時期は、2000年～2005年にかけて最初の大きなピークがあり、続いて2008年前後にも、それより小さなピークがある。
- 2011年以降は顕著なピークは見られず、総合型選抜への切り替えにともない、2021年には3件に減少している。

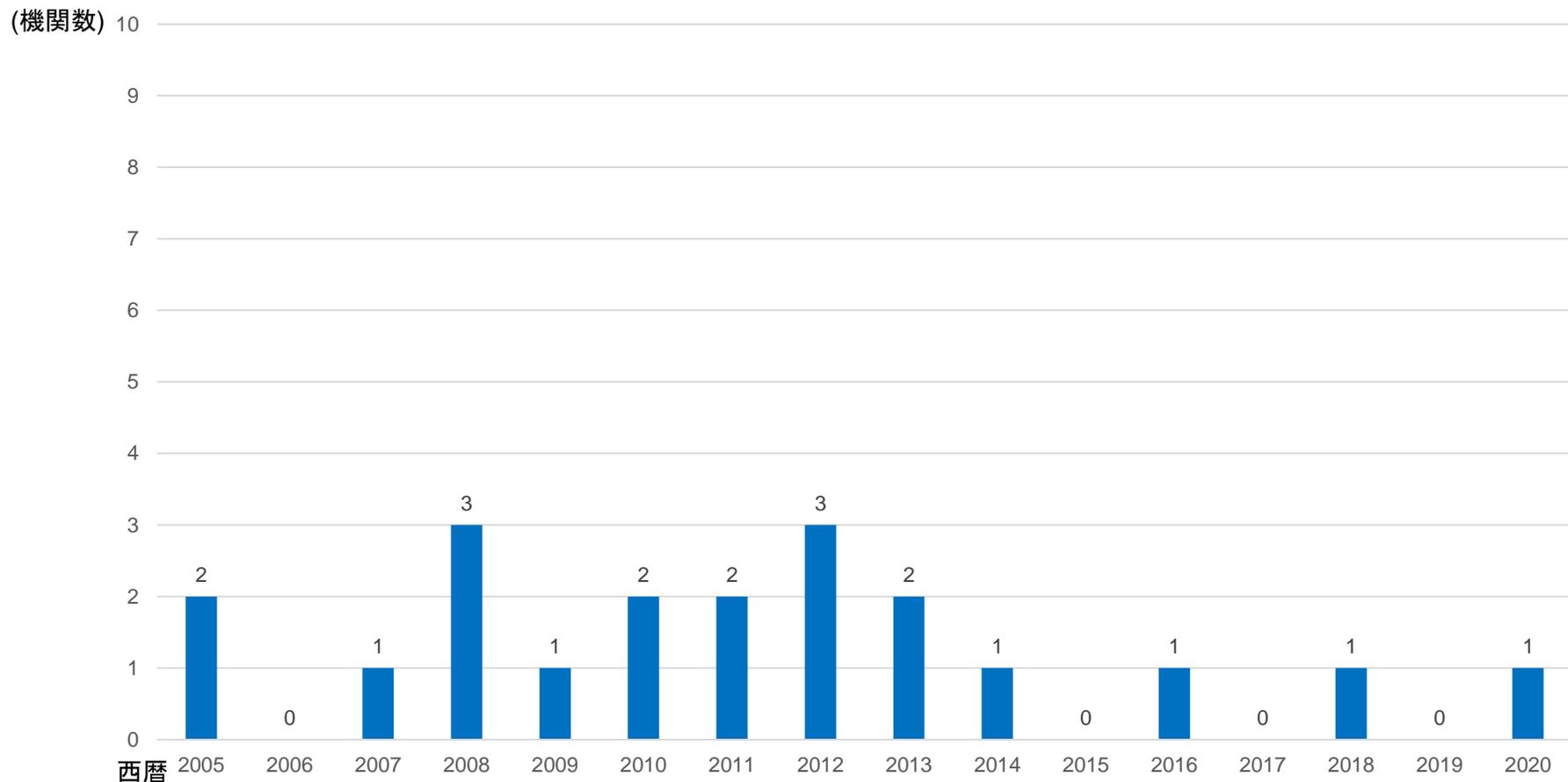


n=859

「AO入試（それに準じた入試）」を最後に実施した時期

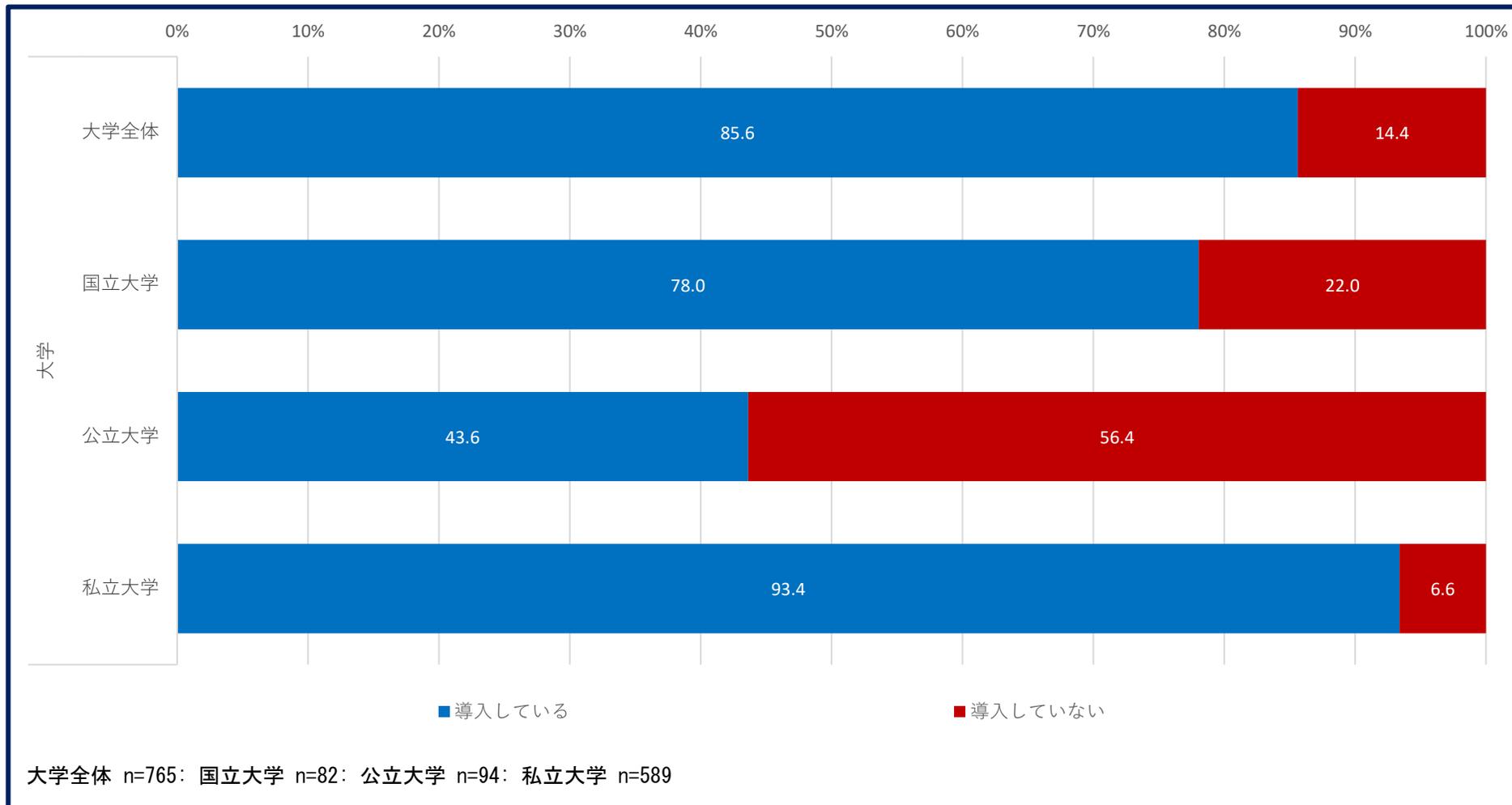
（前問で「AO入試を導入したが廃止」を選択した大学のみ）

- 「AO入試（それに準じた入試）」を最後に実施した時期については、顕著な傾向は見られず、2005年～2020年まで、毎年0～3件の大学が最後のAO入試を実施している。

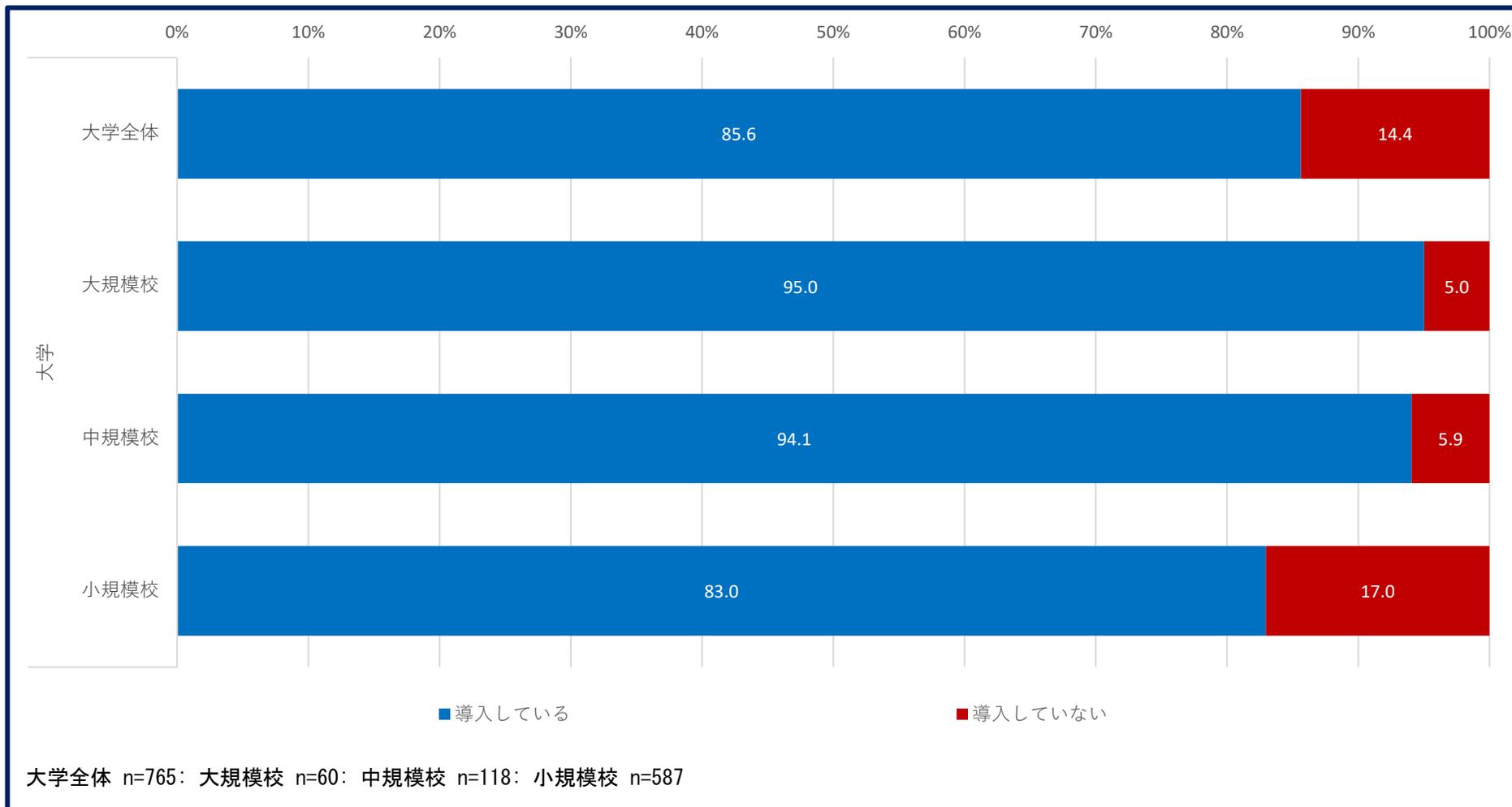


n=20

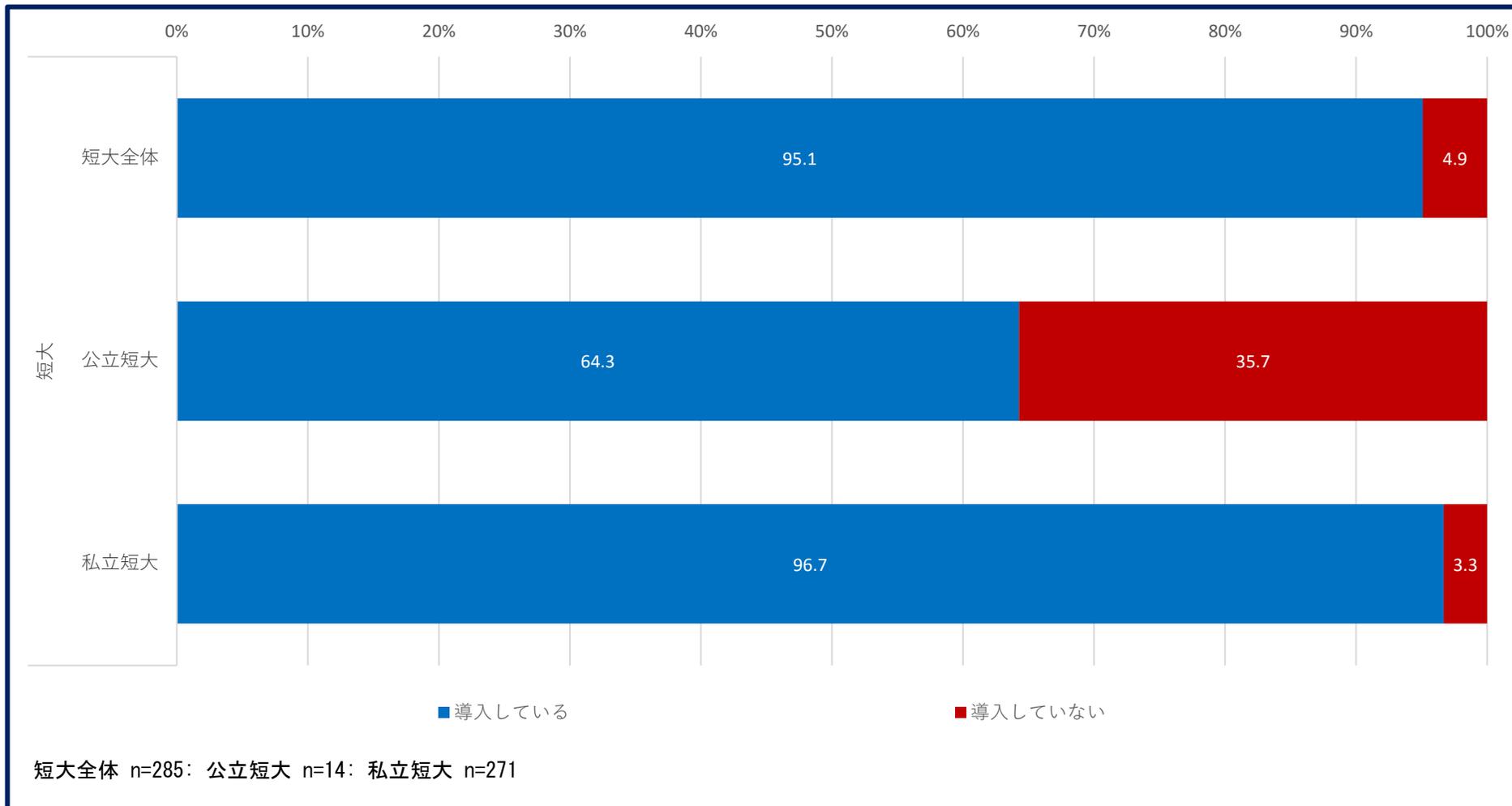
- 大学全体では、「導入している(85.6%)」、「導入していない(14.4%)」となっている。
- 私立大学、国立大学では、それぞれ93.4%、78.0%が導入しているが、公立大学では「導入している」が43.6%となっている。



- 大学の規模別に見ると、大規模校は95.0%、中規模校は94.1%が「導入している」と回答した。
- 小規模校で「導入している」と回答したのは、83.0%となっており、大規模校、中規模校よりも若干割合が少ない。



- 短大全体では、「導入している(95.1%)」、「導入していない(4.9%)」となっている。
- 私立短大では、「導入している」が96.7%であるが、公立短大は「導入している」が64.3%となっている。

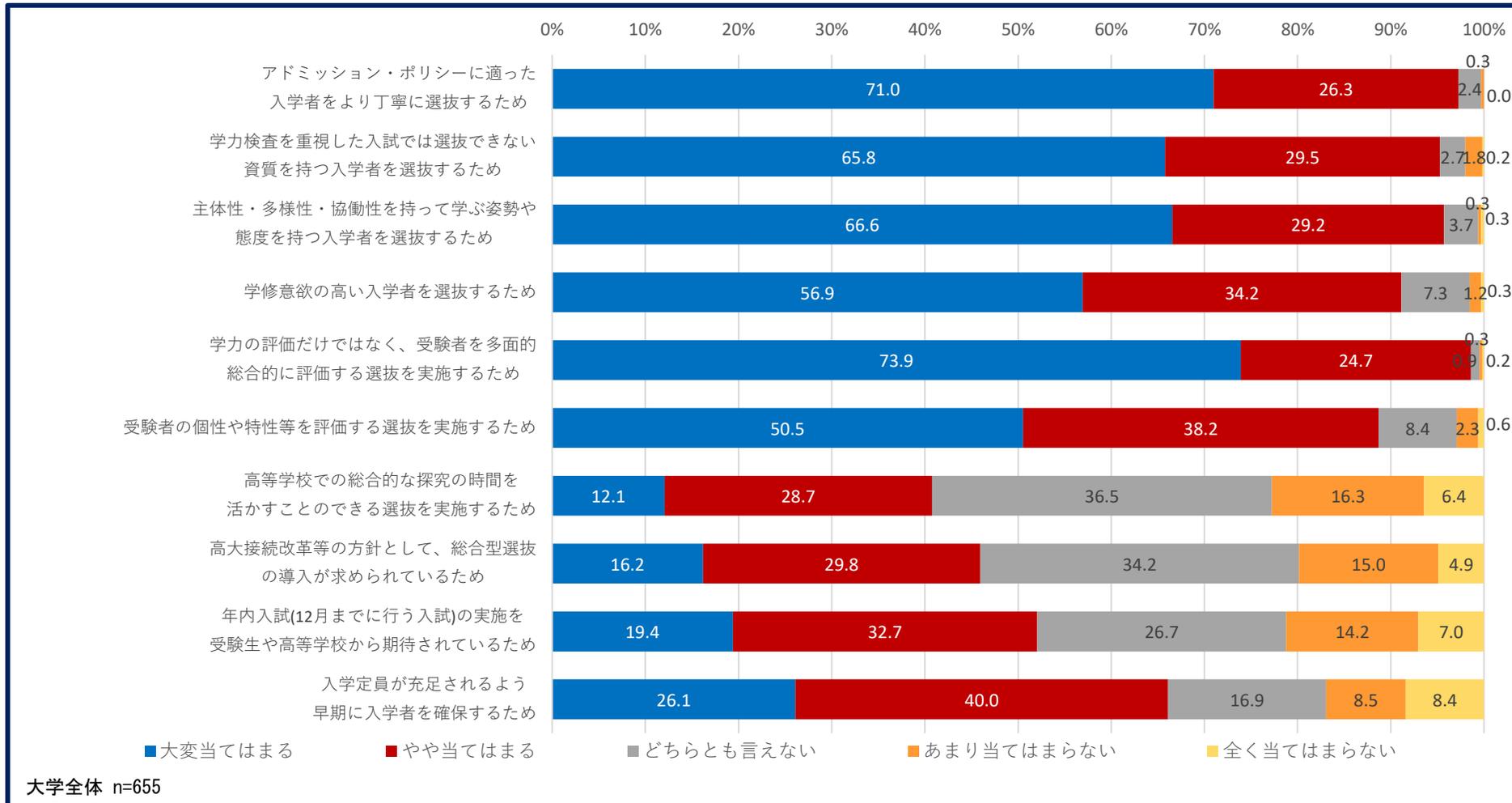


大学入学者選抜における総合型選抜の 導入効果に関するアンケート調査結果 (概要)

(2) 大学入学者選抜において総合型選抜 を導入する大学等の実態について (概要)

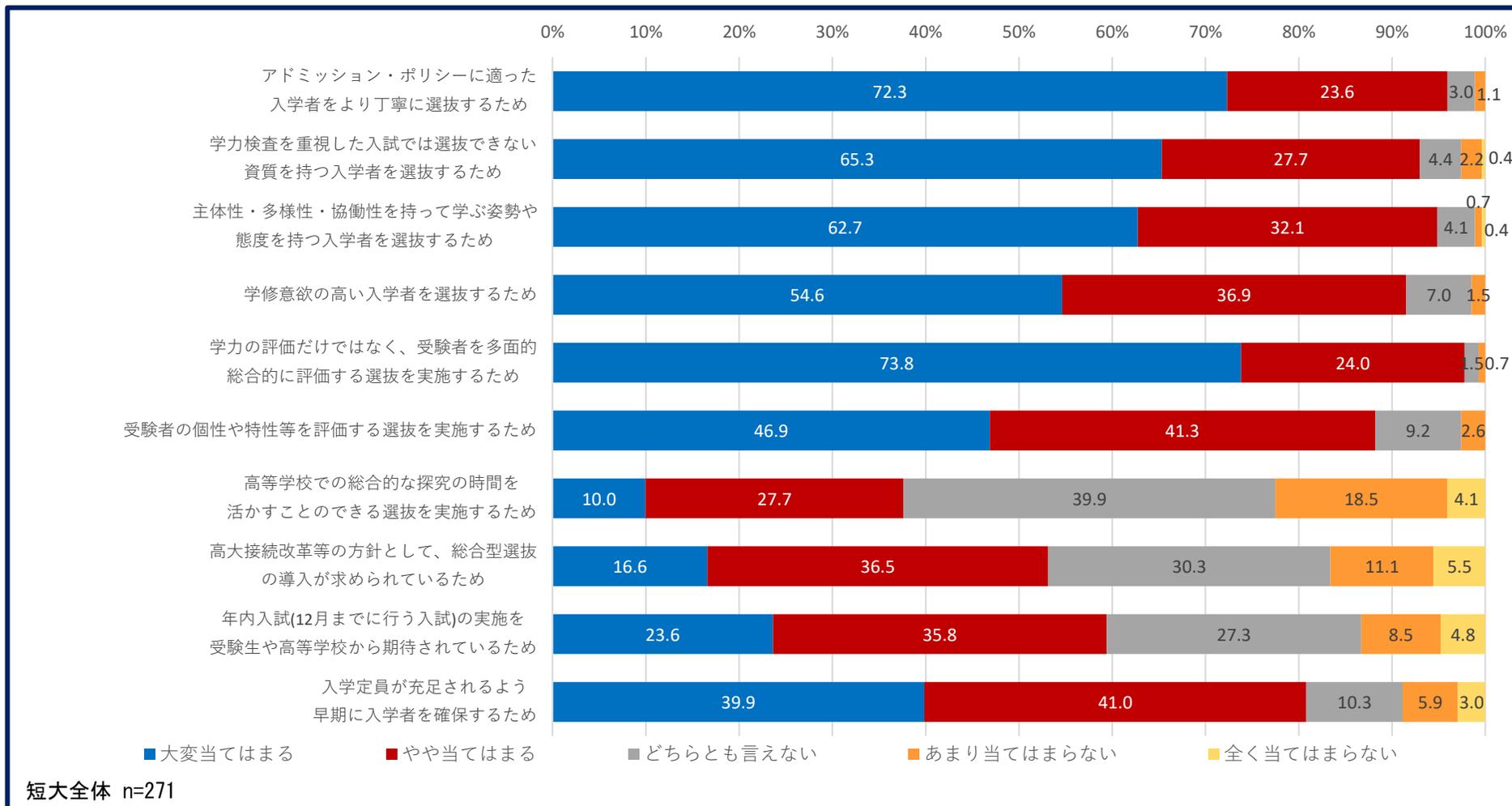
「総合型選抜」導入の目的について ①大学全体

- 大学全体では、「学力の評価だけではなく、受験者を多面的・総合的に評価する選抜を実施するため」が最も多く、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」を合計すると約99%となっている。次いで、「アドミッション・ポリシーに合った入学者をより丁寧に選抜するため」、「主体性・多様性・協働性を持って学ぶ姿勢や態度を持つ入学者を選抜するため」などが多い。



「総合型選抜」導入の目的について ②短大全体

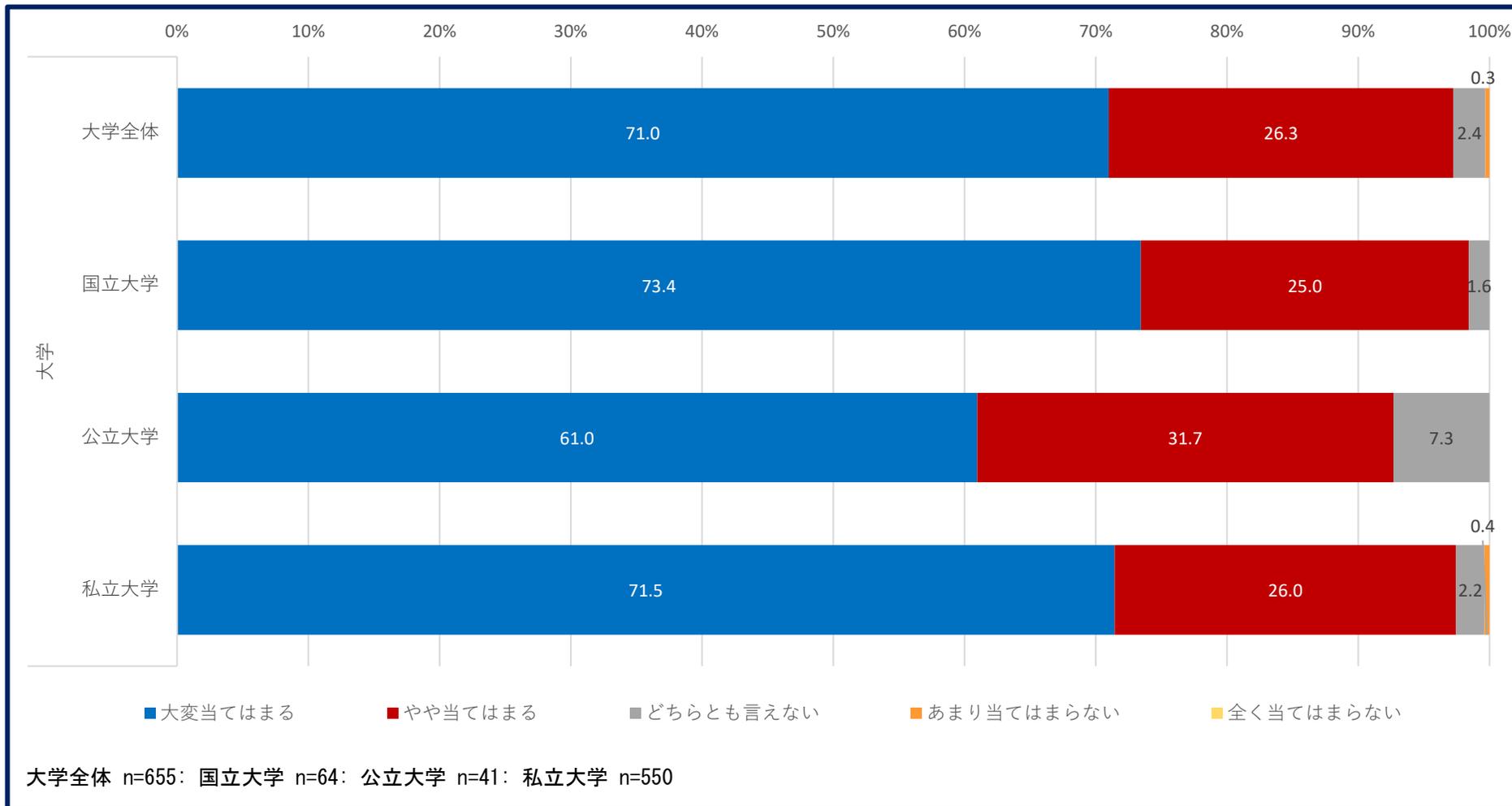
- 短大全体では、「学力の評価だけではなく、受験者を多面的・総合的に評価する選抜を実施するため」が最も多く、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」を合計すると約98%となっている。次いで、「アドミッション・ポリシーに合った入学者をより丁寧に選抜するため」、「主体性・多様性・協働性を持って学ぶ姿勢や態度を持つ入学者を選抜するため」などが多い。



「総合型選抜」導入の目的について ①大学・設置主体別

a. アドミッション・ポリシーに適った入学者をより丁寧に選抜するため

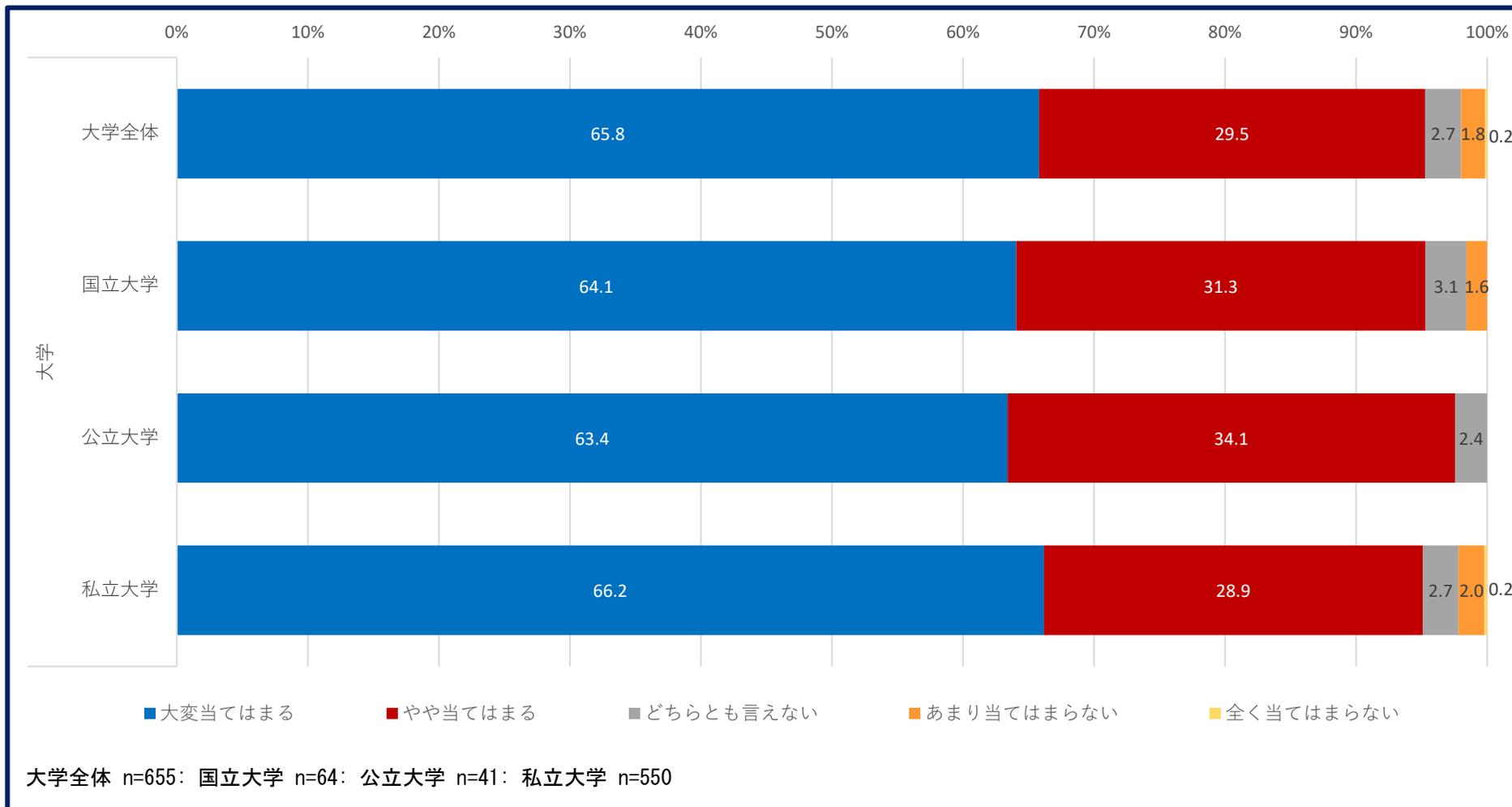
- 大学全体では、「大変当てはまる(71.0%)」、「やや当てはまる(26.3%)」となっている。
- 国立大学、私立大学では、それぞれ73.4%、71.5%が「大変当てはまる」としているが、公立大学では「大変当てはまる」は61.0%となっている。



「総合型選抜」導入の目的について ①大学・設置主体別

b. 学力検査を重視した入試では選抜できない資質を持つ入学者を選抜するため

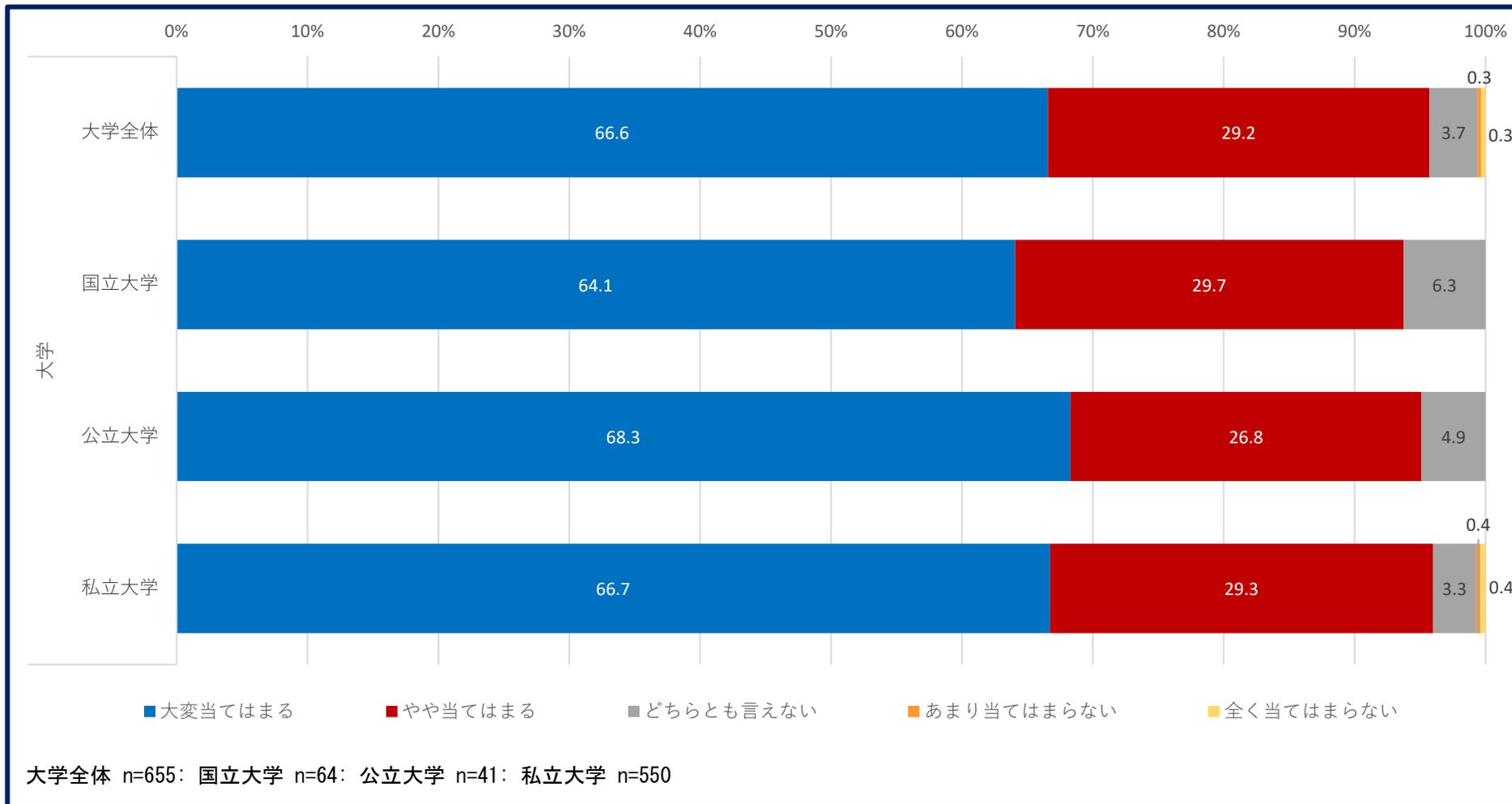
- 大学全体では、「大変当てはまる(65.8%)」、「やや当てはまる(29.5%)」となっている。
- 設置主体別に見ても、国立大学、公立大学、私立大学で顕著な傾向の違いは見られない。



「総合型選抜」導入の目的について ①大学・設置主体別

c. 主体性・多様性・協働性を持って学ぶ姿勢や態度を持つ入学者を選抜するため

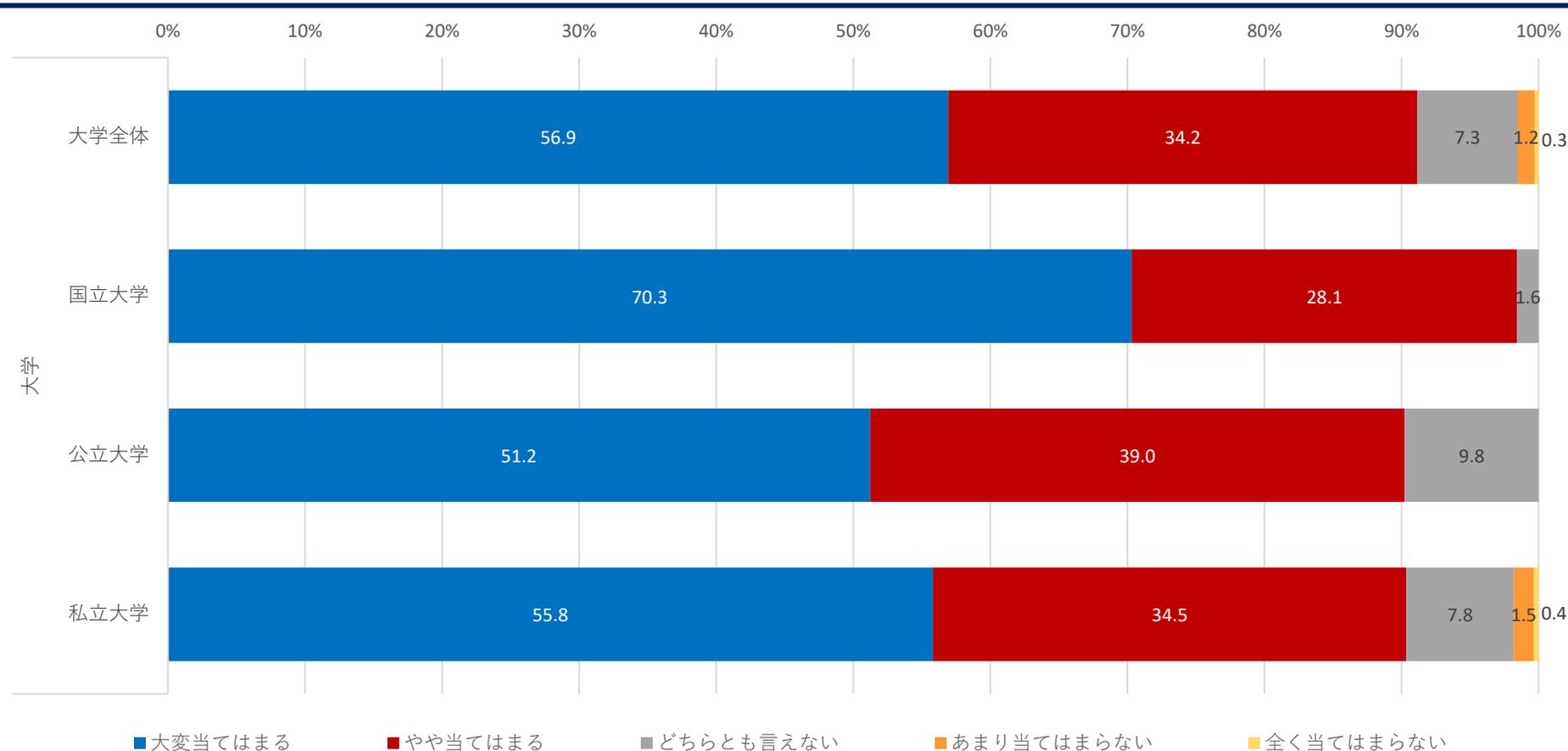
- 大学全体では、「大変当てはまる(66.6%)」、「やや当てはまる(29.2%)」となっている。
- 設置主体別に見ても、国立大学、公立大学、私立大学で顕著な傾向の違いは見られない。



「総合型選抜」導入の目的について ①大学・設置主体別

d. 学修意欲の高い入学者を選抜するため

- 大学全体では、「大変当てはまる(56.9%)」、「やや当てはまる(34.2%)」となっている。
- 国立大学では「大変当てはまる(70.3%)」であるが、公立大学、私立大学ではやや比率が下がり、それぞれ51.2%、55.8%となっている。

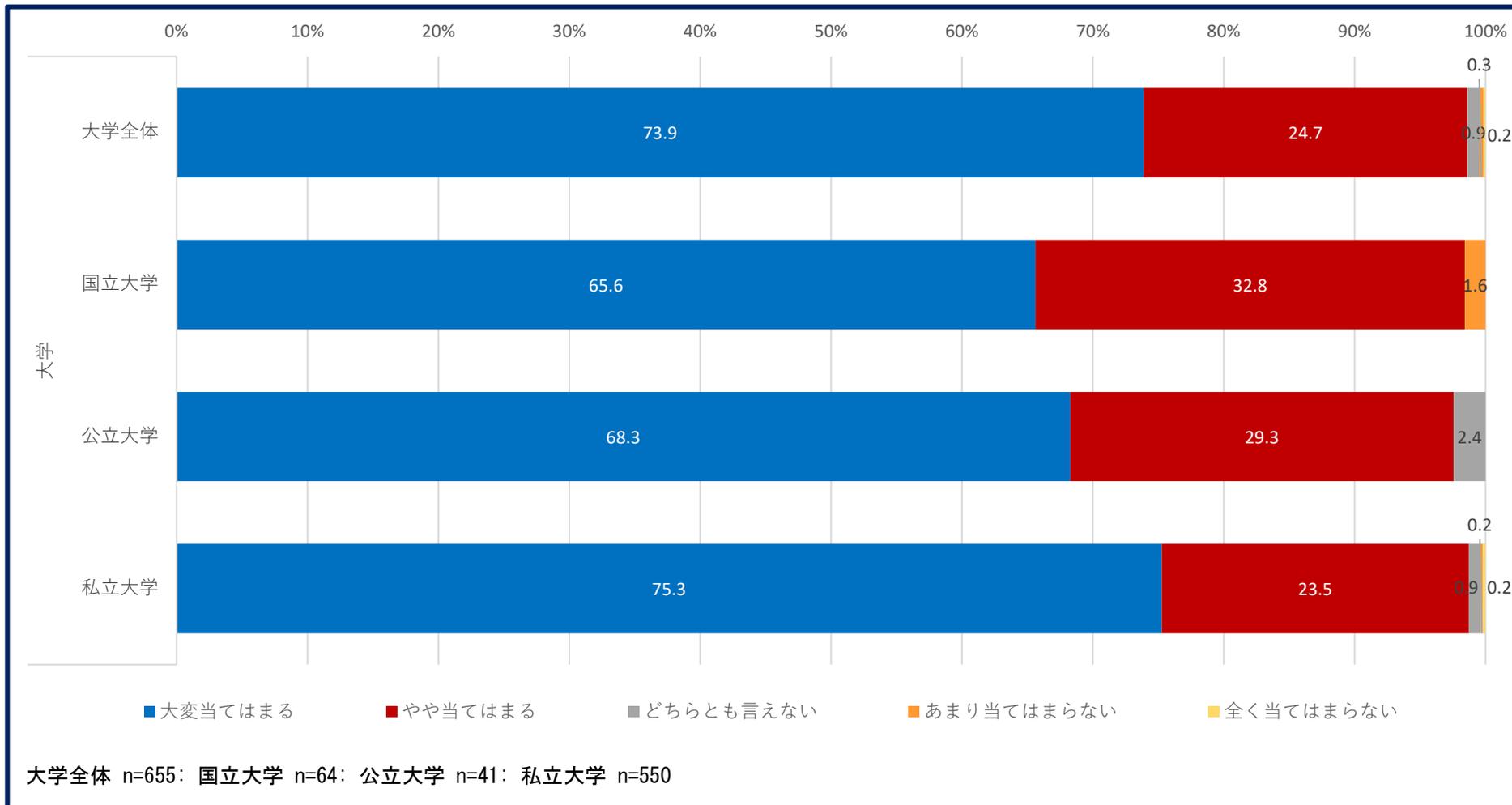


大学全体 n=655: 国立大学 n=64: 公立大学 n=41: 私立大学 n=550

「総合型選抜」導入の目的について ①大学・設置主体別

e. 学力の評価だけではなく、受験者を多面的総合的に評価する選抜を実施するため

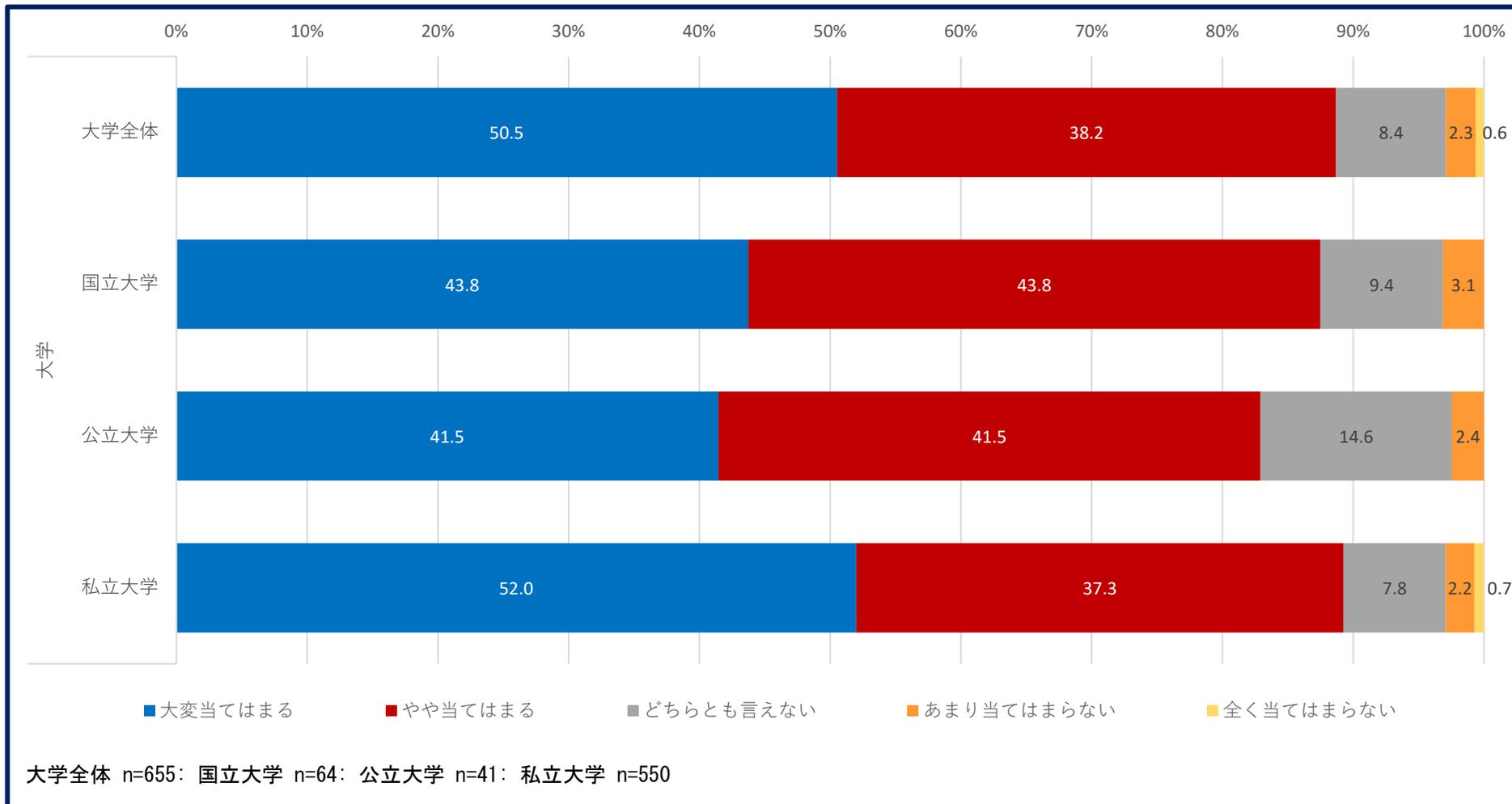
- 大学全体では、「大変当てはまる(73.9%)」、「やや当てはまる(24.7%)」となっている。
- 私立大学では「大変当てはまる(75.3%)」であるが、国立大学、公立大学では、それぞれ65.6%、68.3%となっている。



「総合型選抜」導入の目的について ①大学・設置主体別

f. 受験者の個性や特性等を評価する選抜を実施するため

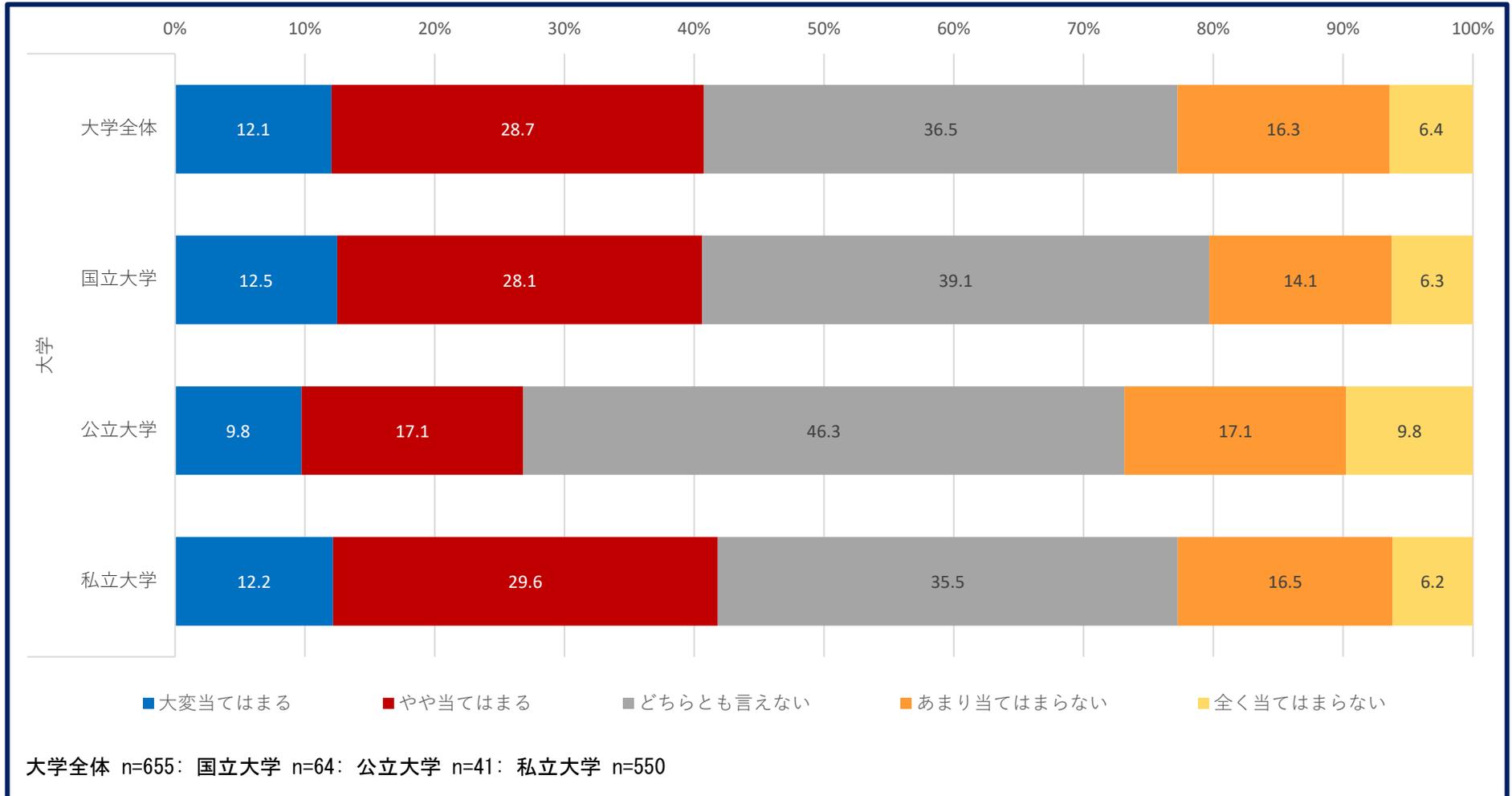
- 大学全体では、「大変当てはまる(50.5%)」、「やや当てはまる(38.2%)」となっている。
- 私立大学では「大変当てはまる(52.0%)」であるが、国立大学、公立大学では、それぞれ43.8%、41.5%となっている。



「総合型選抜」導入の目的について ①大学・設置主体別

g. 高等学校での総合的な探究の時間を活かすことのできる選抜を実施するため

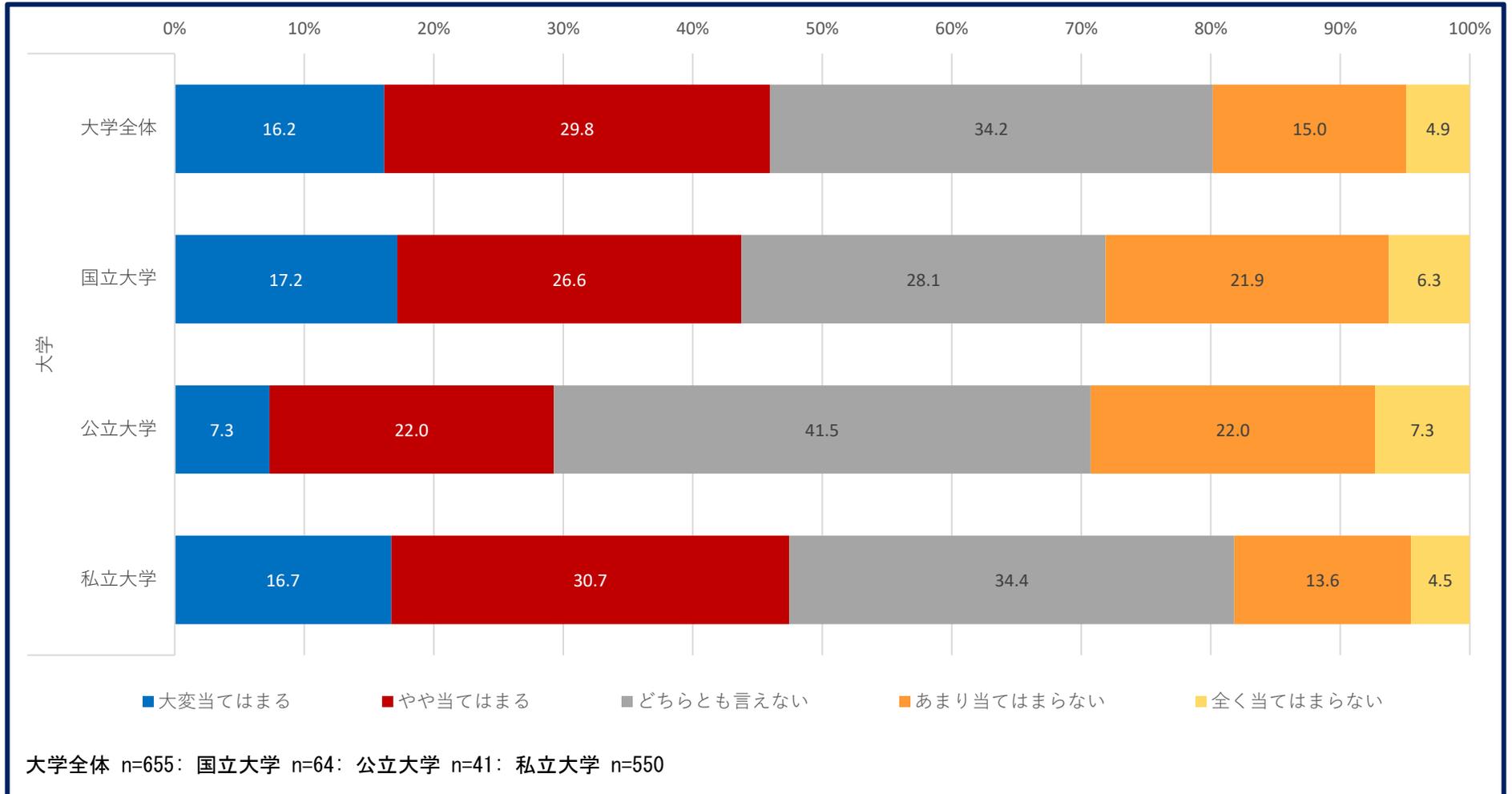
- 大学全体では、「大変当てはまる(12.1%)」、「やや当てはまる(28.7%)」、「どちらとも言えない(36.5%)」であり、この項目を積極的な導入目的とする大学は全体の4割程度となっている。
- 公立大学では、「大変当てはまる(9.8%)」、「やや当てはまる(17.1%)」で、「どちらとも言えない」が46.3%となっている。



「総合型選抜」導入の目的について ①大学・設置主体別

h. 高大接続改革等の方針として、総合型選抜の導入が求められているため

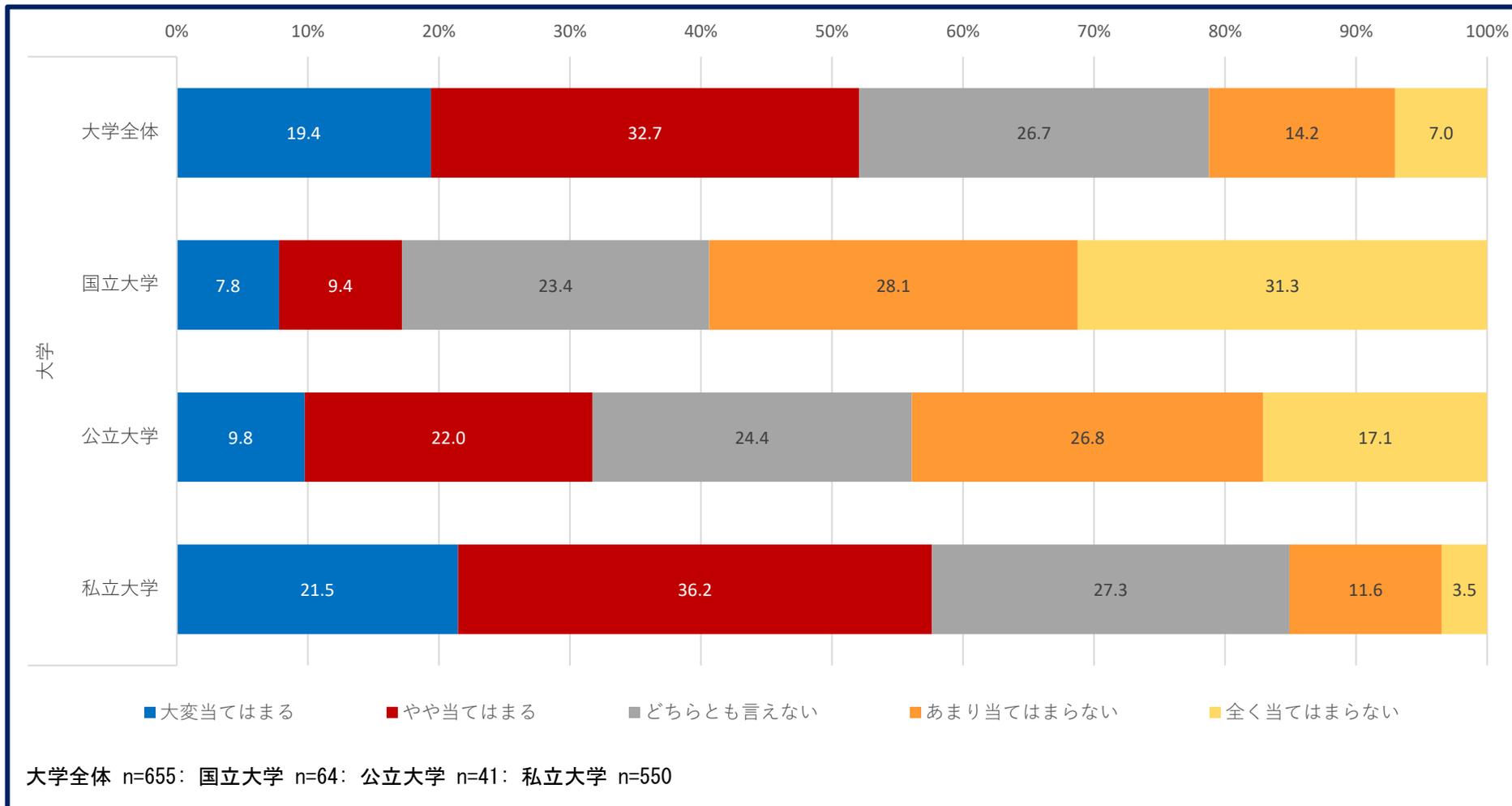
- 大学全体では、「大変当てはまる(16.2%)」、「やや当てはまる(29.8%)」となっており、この項目を積極的な導入目的とする大学は全体の約46%である。
- 公立大学では、「大変当てはまる(7.3%)」、「やや当てはまる(22.0%)」で、「どちらとも言えない」が41.5%となっている。



「総合型選抜」導入の目的について ①大学・設置主体別

i. 年内入試(12月までに行う入試)の実施を受験生や高等学校から期待されているため

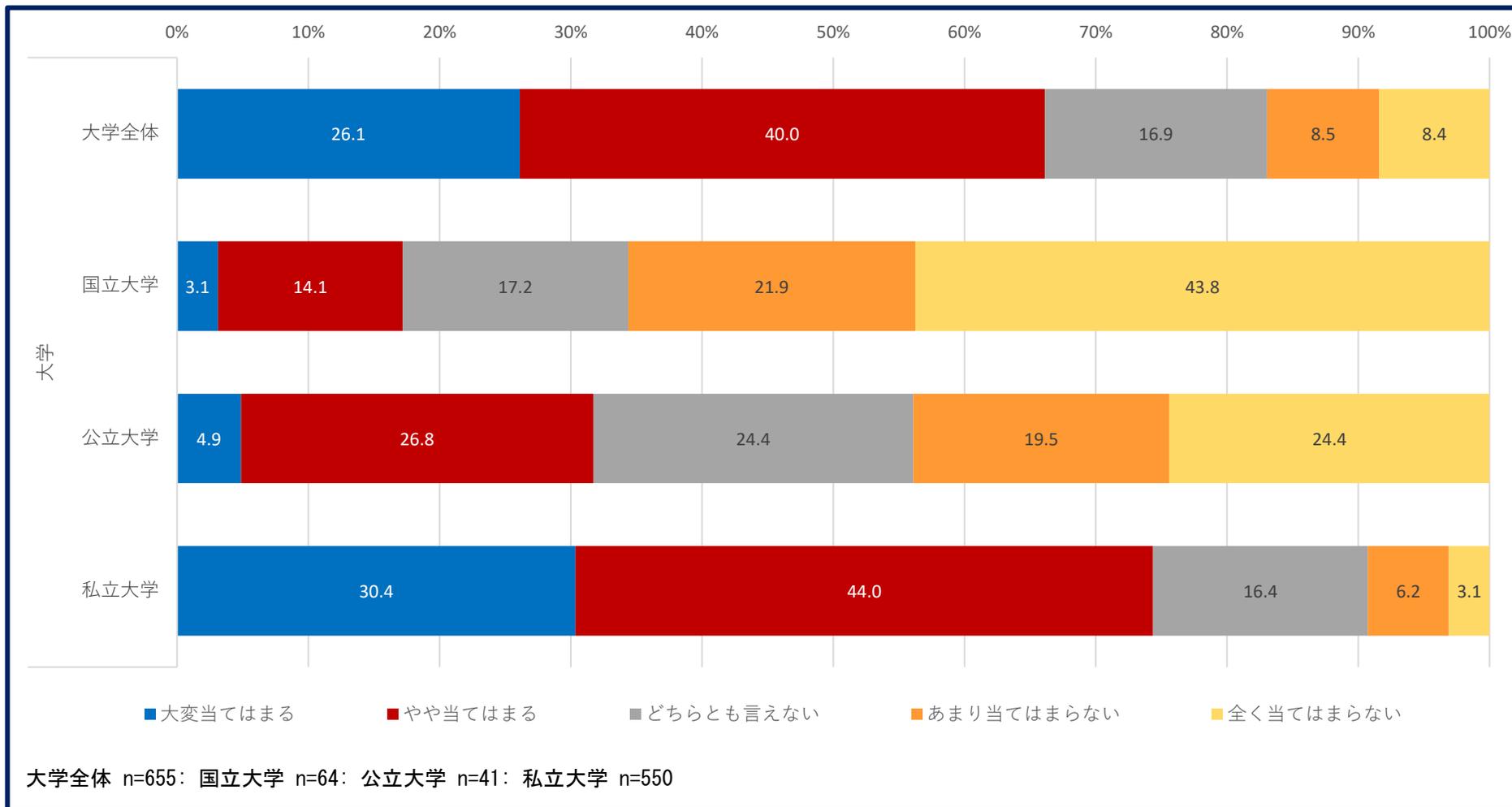
- 大学全体では、「大変当てはまる(19.4%)」、「やや当てはまる(32.7%)」、「どちらとも言えない(26.7%)」となっている。
- 私立大学では「大変当てはまる」、「やや当てはまる」を合計すると約58%であるが、公立大学では約32%、国立大学では約17%となっている。



「総合型選抜」導入の目的について ①大学・設置主体別

j. 入学定員が充足されるよう早期に入学者を確保するため

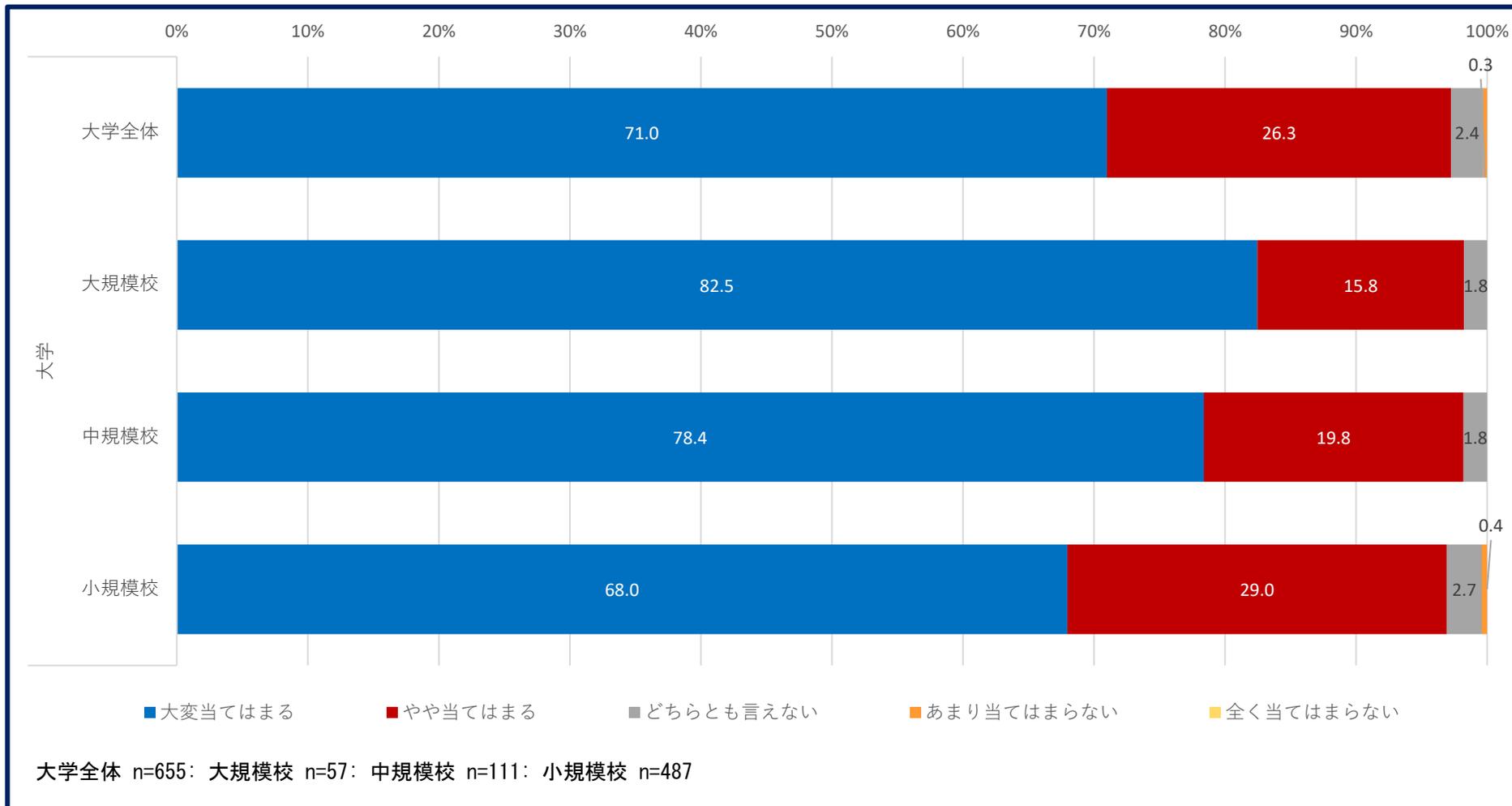
- 大学全体では、「大変当てはまる(26.1%)」、「やや当てはまる(40.0%)」となっている。
- 私立大学では「大変当てはまる」、「やや当てはまる」を合計すると約74%であるが、公立大学では約32%、国立大学では約17%となっている。



「総合型選抜」導入の目的について ②大学・規模別

a. アドミッション・ポリシーに適った入学者をより丁寧に選抜するため

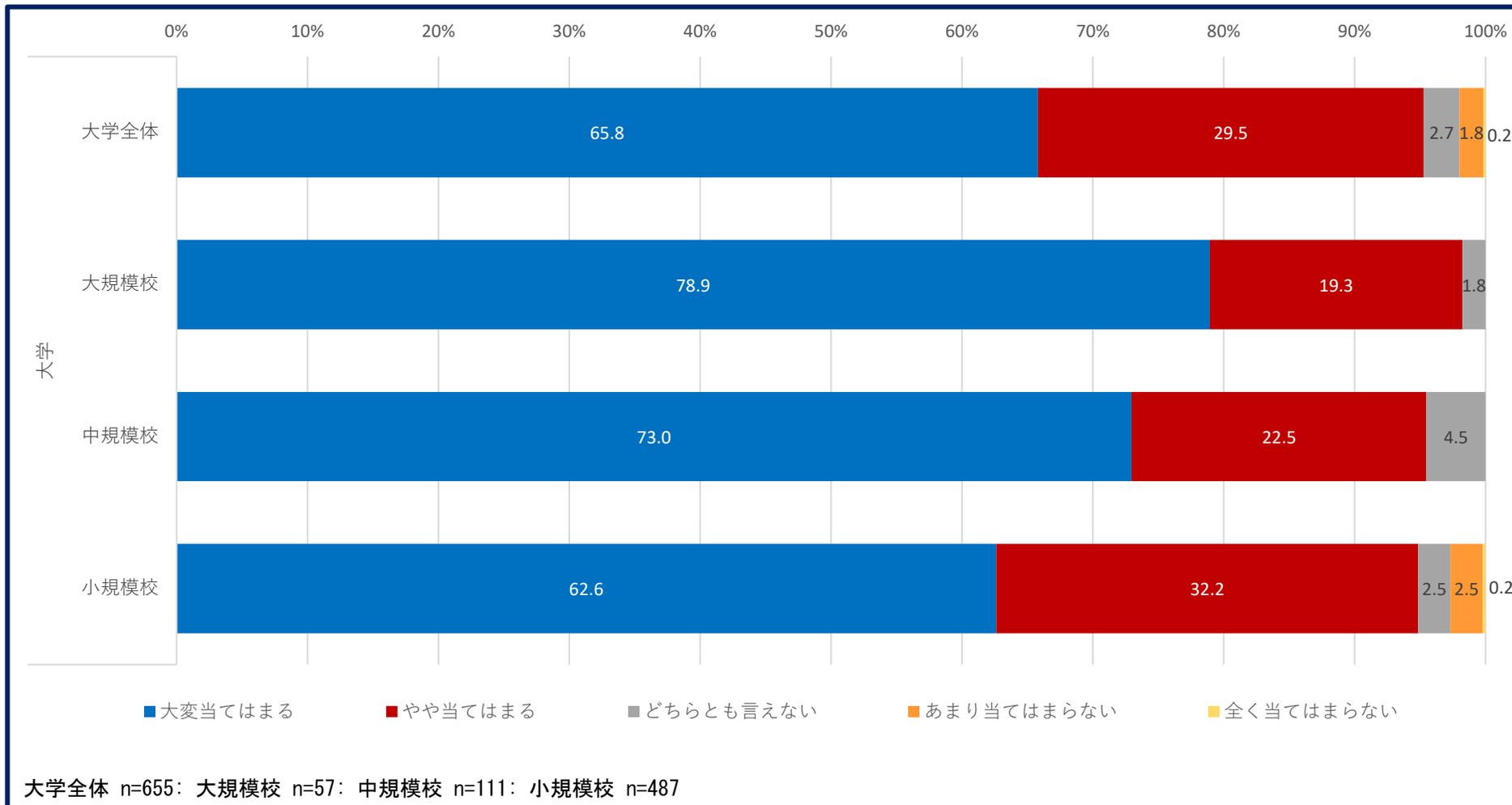
- 大学全体では、「大変当てはまる(71.0%)」、「やや当てはまる(26.3%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(82.5%)」であるが、中規模校、小規模校では、それぞれ78.4%、68.0%となっており、若干割合が小さくなる。



「総合型選抜」導入の目的について ②大学・規模別

b. 学力検査を重視した入試では選抜できない資質を持つ入学者を選抜するため

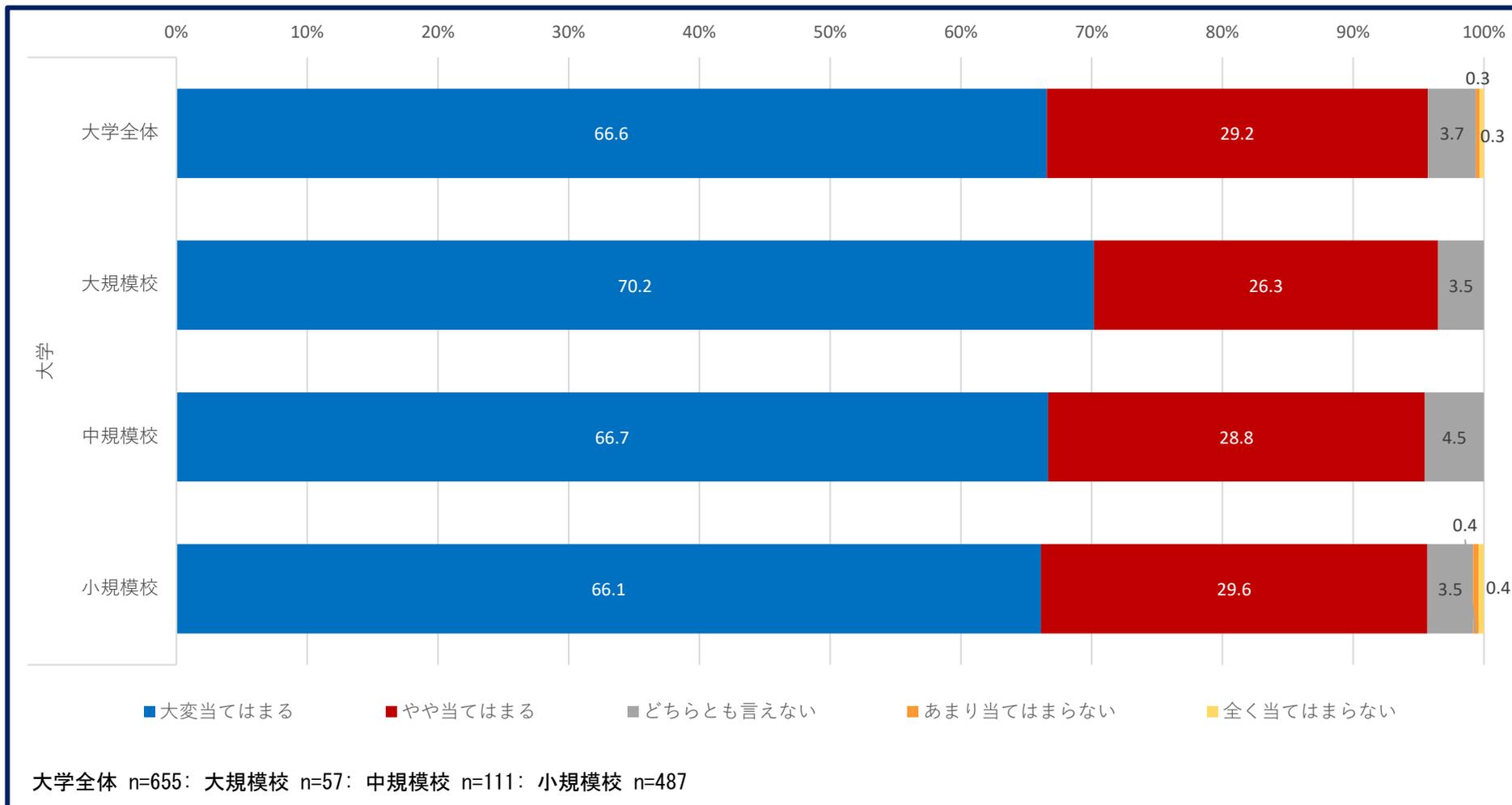
- 大学全体では、「大変当てはまる(65.8%)」、「やや当てはまる(29.5%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(78.9%)」であるが、中規模校、小規模校では、それぞれ73.0%、62.6%となっており、若干割合が小さくなる。



「総合型選抜」導入の目的について ②大学・規模別

c. 主体性・多様性・協働性を持って学ぶ姿勢や態度を持つ入学者を選抜するため

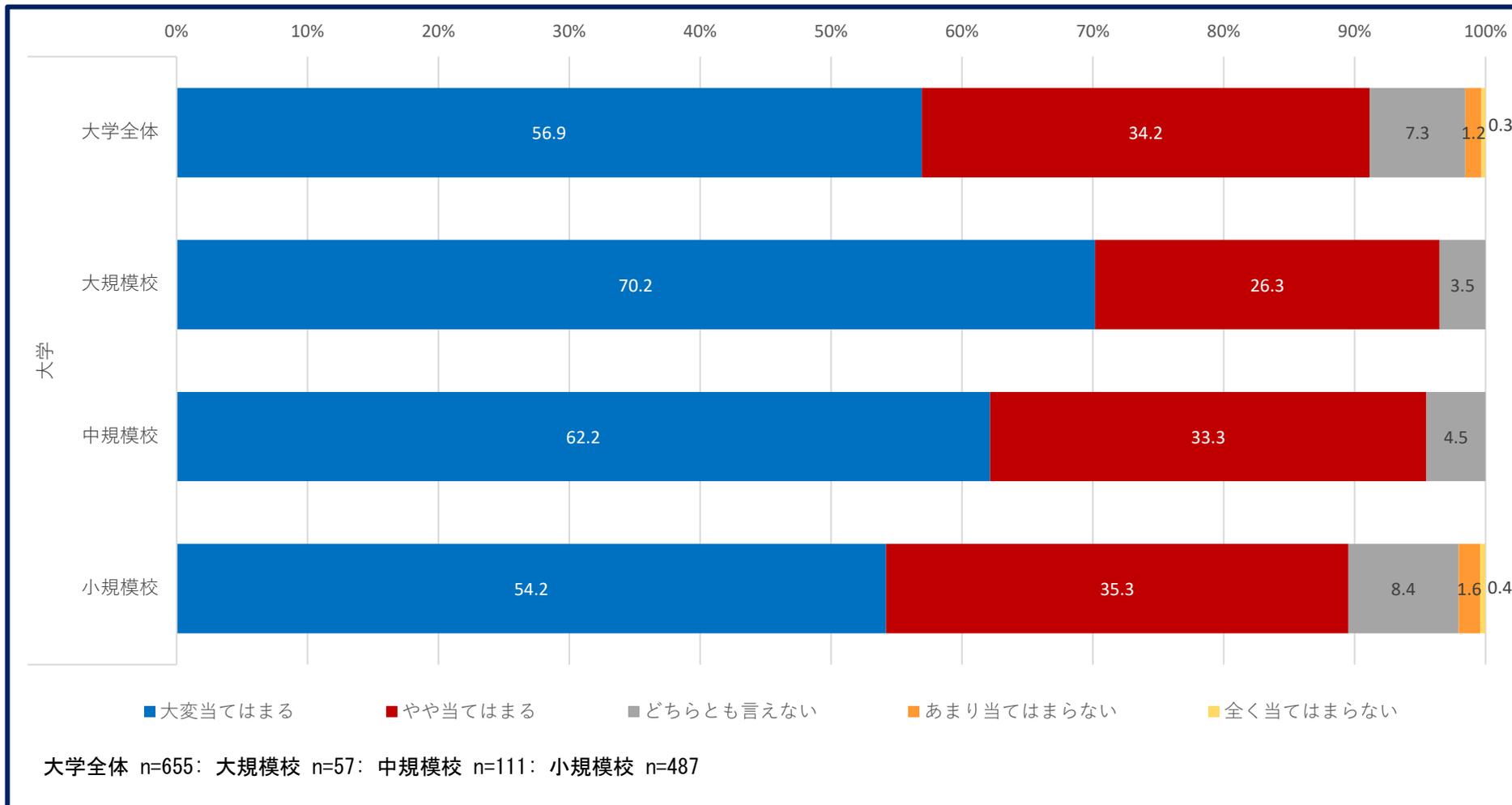
- 大学全体では、「大変当てはまる(66.6%)」、「やや当てはまる(29.2%)」となっている。
- 規模別に見ても、大規模校、中規模校、小規模校で顕著な傾向の違いは見られない。



「総合型選抜」導入の目的について ②大学・規模別

d. 学修意欲の高い入学者を選抜するため

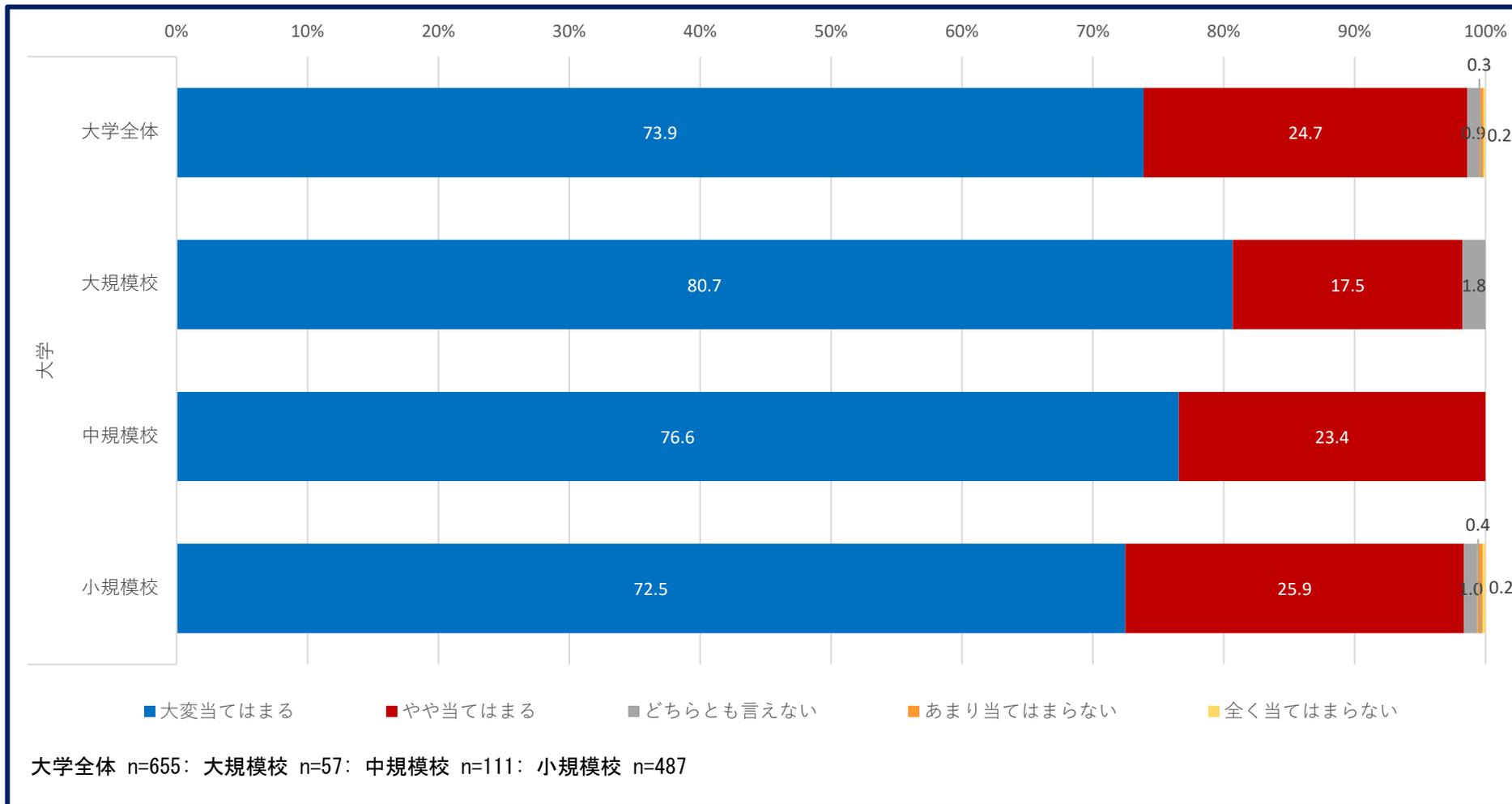
- 大学全体では、「大変当てはまる(56.9%)」、「やや当てはまる(34.2%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(70.2%)」であるが、中規模校、小規模校では、それぞれ62.2%、54.2%となっており、若干割合が小さくなる。



「総合型選抜」導入の目的について ②大学・規模別

e. 学力の評価だけではなく、受験者を多面的総合的に評価する選抜を実施するため

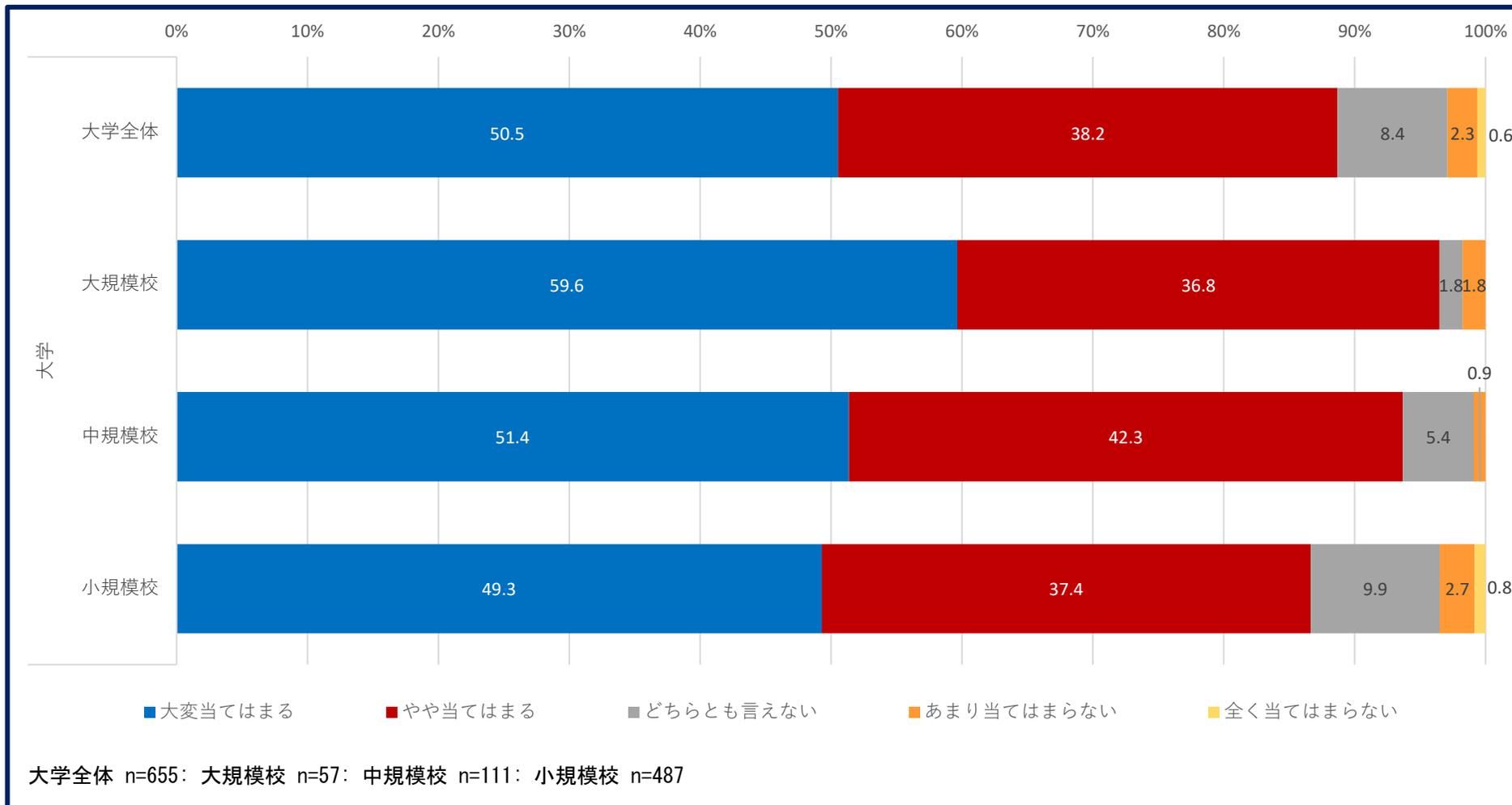
- 大学全体では、「大変当てはまる(73.9%)」、「やや当てはまる(24.7%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(80.7%)」であるが、中規模校、小規模校では、それぞれ76.6%、72.5%となっており、若干割合が小さくなる。



「総合型選抜」導入の目的について ②大学・規模別

f. 受験者の個性や特性等を評価する選抜を実施するため

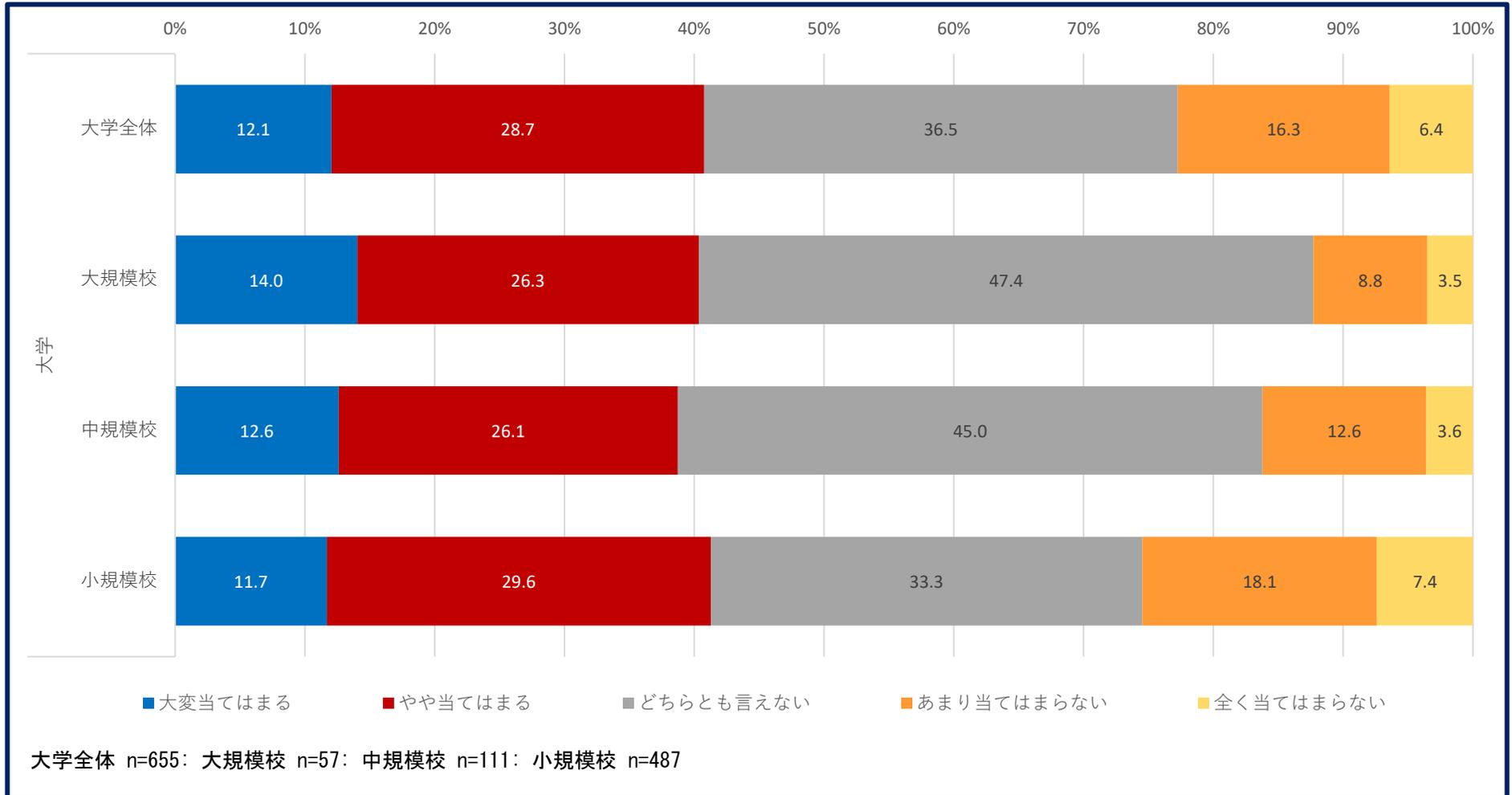
- 大学全体では、「大変当てはまる(50.5%)」、「やや当てはまる(38.2%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(59.6%)」であるが、中規模校、小規模校では、それぞれ51.4%、49.3%となっており、若干割合が小さくなる。



「総合型選抜」導入の目的について ②大学・規模別

g. 高等学校での総合的な探究の時間を活かすことのできる選抜を実施するため

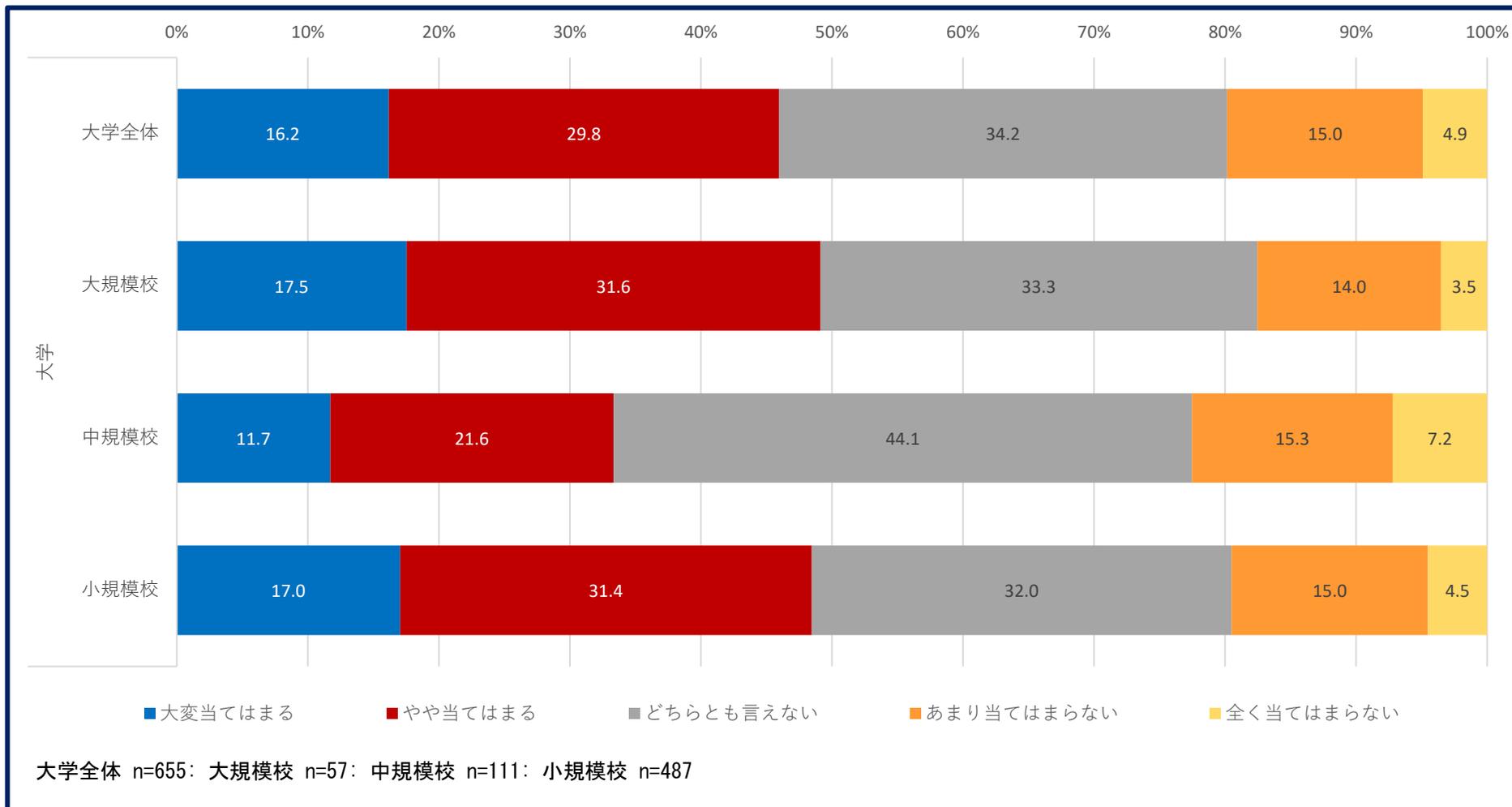
- 大学全体では、「大変当てはまる(12.1%)」、「やや当てはまる(28.7%)」、「どちらとも言えない(36.5%)」となっている。
- 規模別の傾向も概ね同様であるが、大規模校、中規模校では、「どちらとも言えない」との回答がそれぞれ47.4%、45.0%となっている。



「総合型選抜」導入の目的について ②大学・規模別

h. 高大接続改革等の方針として、総合型選抜の導入が求められているため

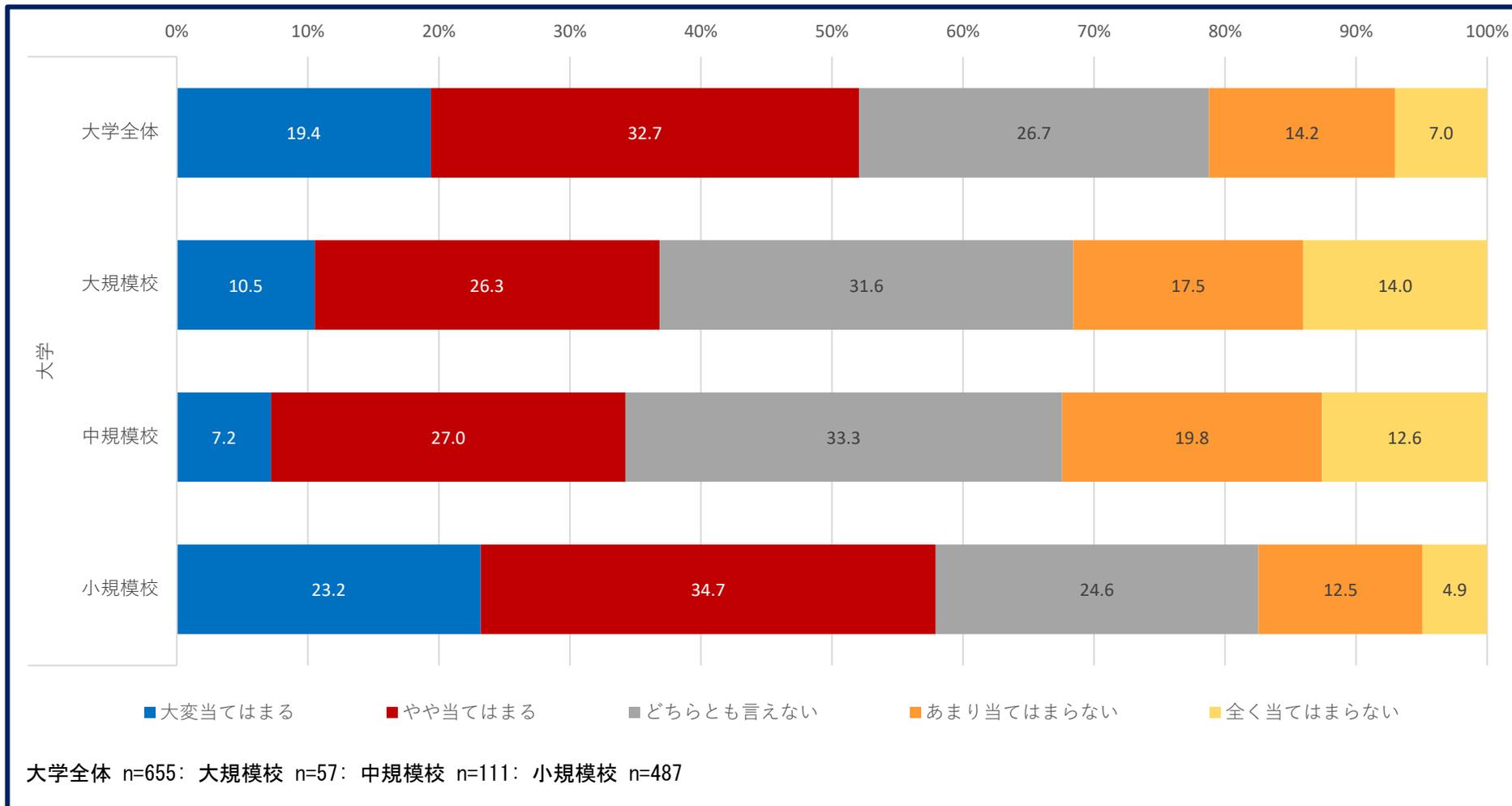
- 大学全体では、「大変当てはまる(16.2%)」、「やや当てはまる(29.8%)」、「どちらとも言えない(34.2%)」となっている。
- 中規模校では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計が約33%にとどまり、「どちらとも言えない」とする回答が44.1%に達する。



「総合型選抜」導入の目的について ②大学・規模別

i. 年内入試(12月までに行う入試)の実施を受験生や高等学校から期待されているため

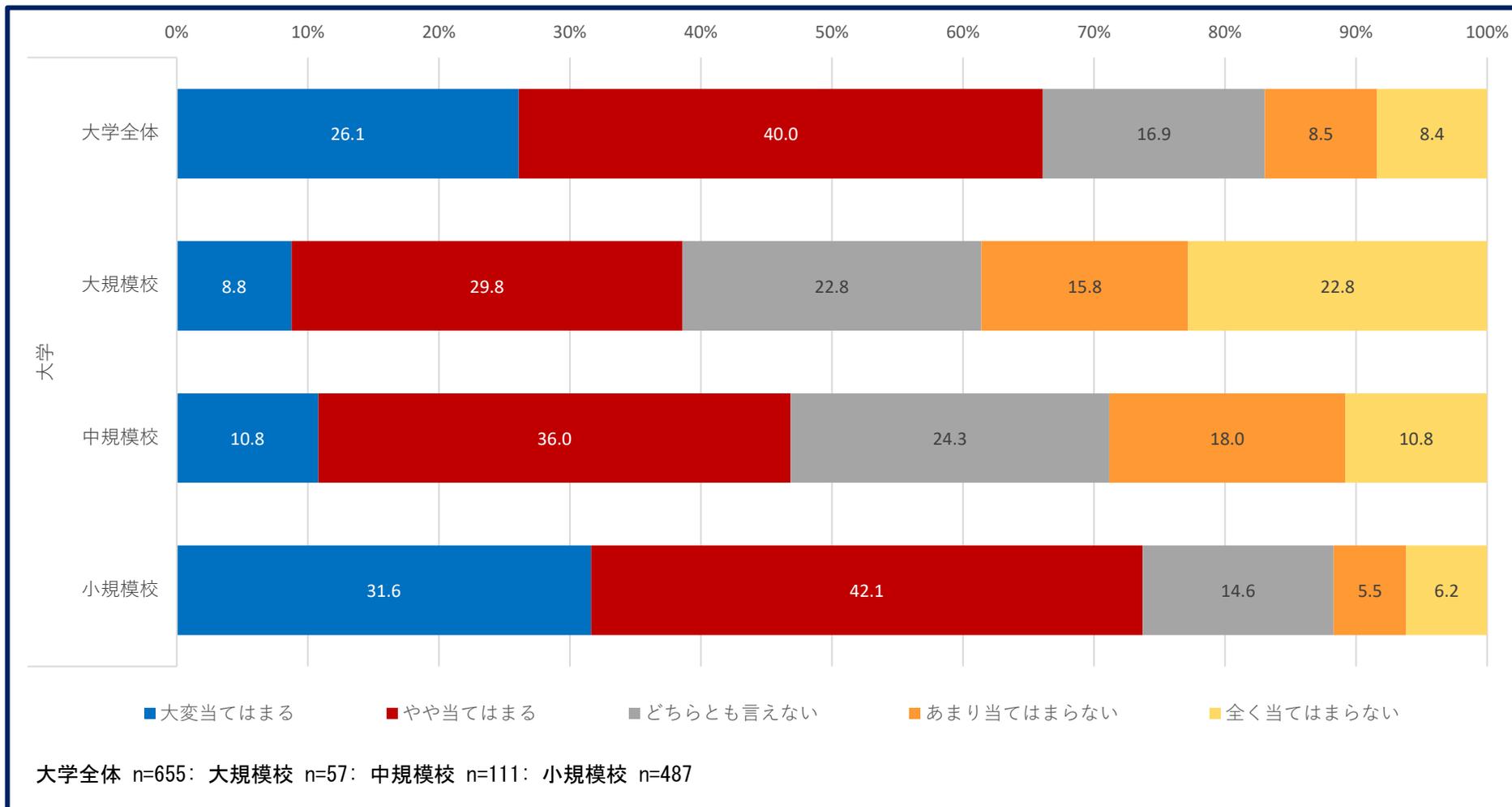
- 大学全体では、「大変当てはまる(19.4%)」、「やや当てはまる(32.7%)」、「どちらとも言えない(26.7%)」となっている。
- 小規模校では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計が約58%に達し、大規模校、中規模校よりも割合が多くなっている。



「総合型選抜」導入の目的について ②大学・規模別

j. 入学定員が充足されるよう早期に入学者を確保するため

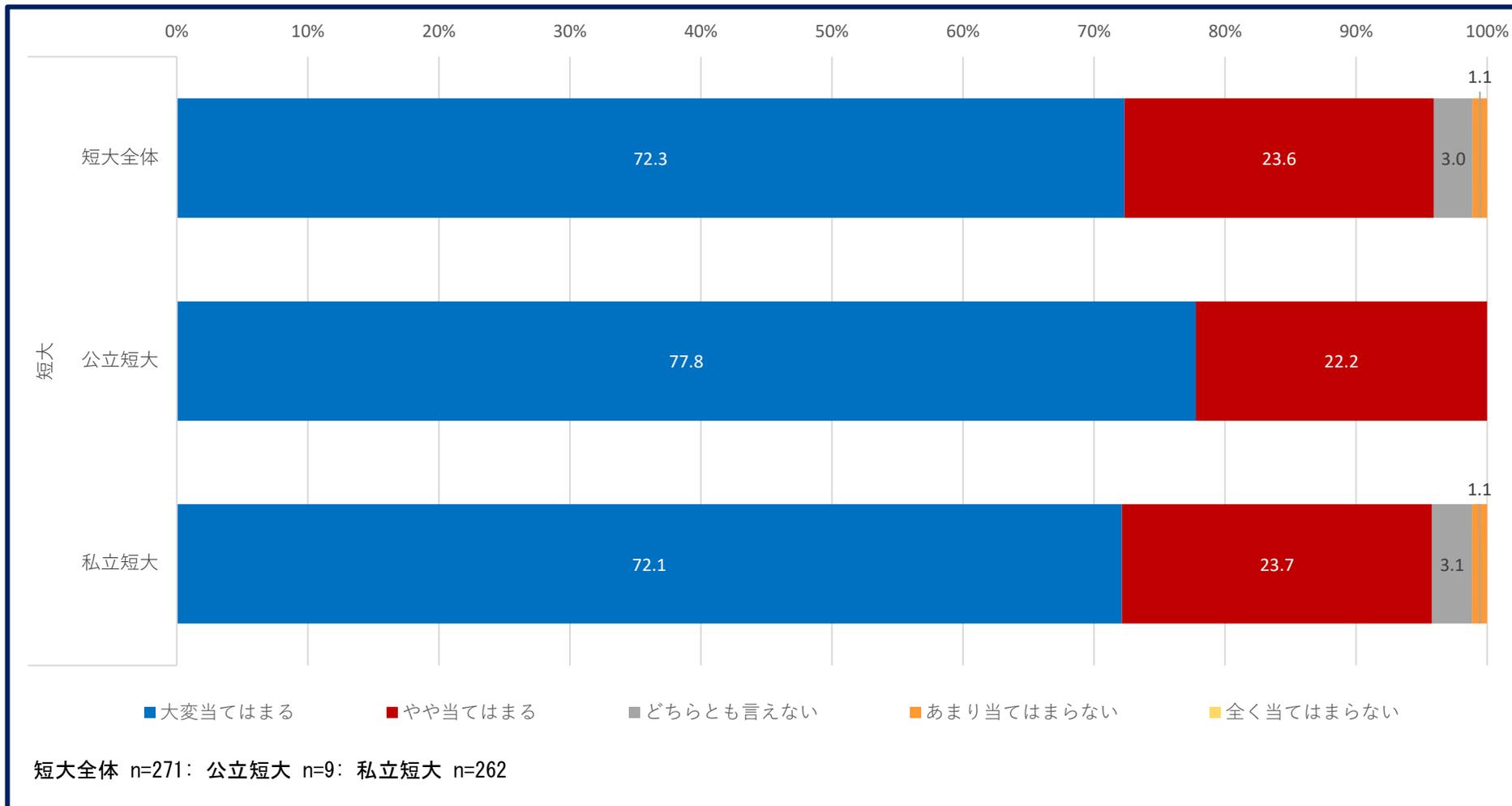
- 大学全体では、「大変当てはまる(26.1%)」、「やや当てはまる(40.0%)」となっている。
- 大規模校、中規模校では、「大変当てはまる」がそれぞれ8.8%、10.8%であるが、小規模校では31.6に達し、割合が顕著に高くなっている。



「総合型選抜」導入の目的について ③短大・設置主体別

a. アドミッション・ポリシーに適った入学者をより丁寧に選抜するため

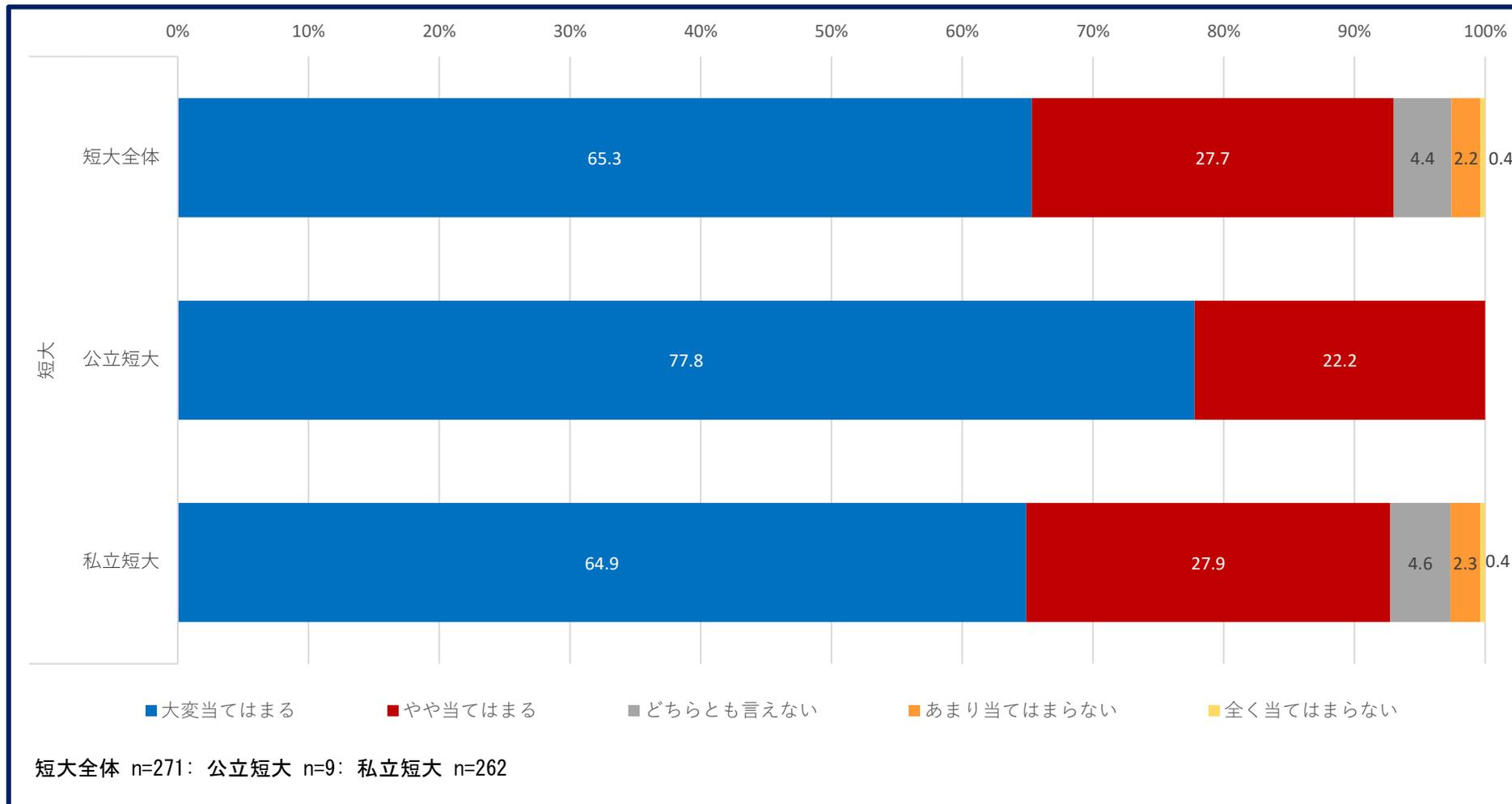
- 短大全体では、「大変当てはまる(72.3%)」、「やや当てはまる(23.6%)」となっている。
- 公立短大、私立短大では、「大変当てはまる」がそれぞれ77.8%、72.1%となっており、顕著な傾向の違いはない。



「総合型選抜」導入の目的について ③短大・設置主体別

b. 学力検査を重視した入試では選抜できない資質を持つ入学者を選抜するため

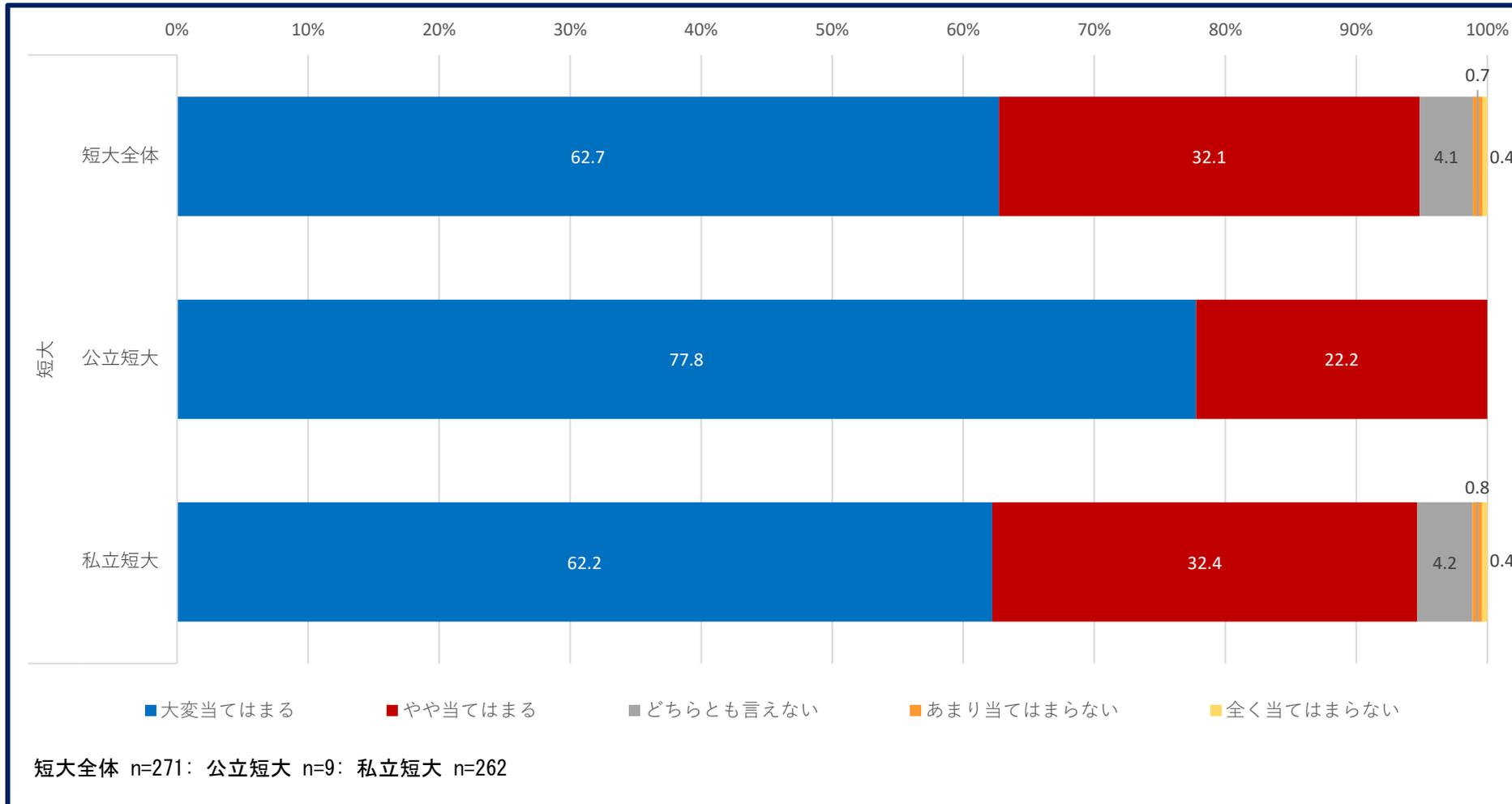
- 短大全体では、「大変当てはまる(65.3%)」、「やや当てはまる(27.7%)」となっている。
- 公立短大、私立短大では、「大変当てはまる」がそれぞれ77.8%、64.9%となっており、公立短大の方が割合が大きくなっている。



「総合型選抜」導入の目的について ③短大・設置主体別

c. 主体性・多様性・協働性を持って学ぶ姿勢や態度を持つ入学者を選抜するため

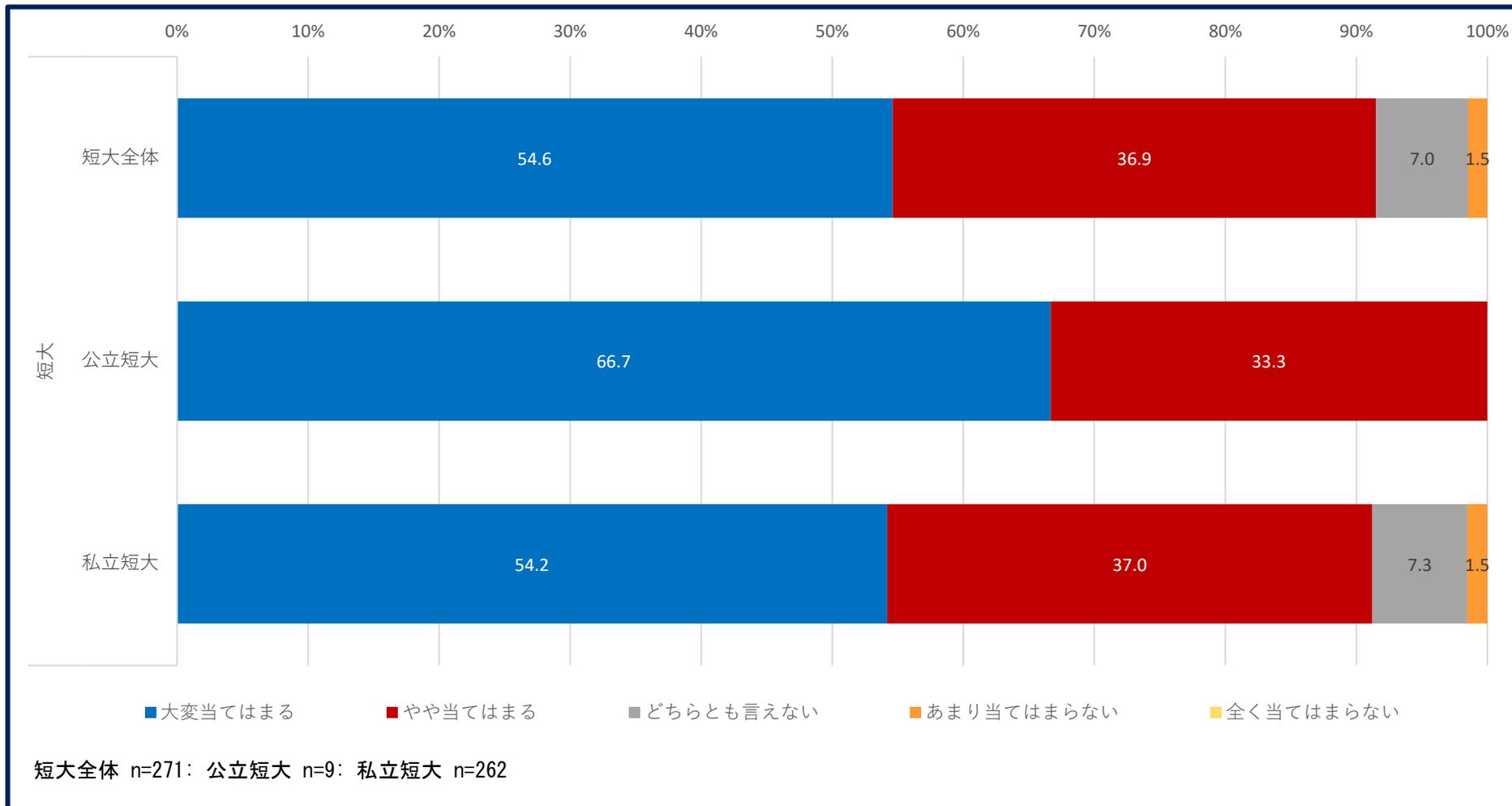
- 短大全体では、「大変当てはまる(62.7%)」、「やや当てはまる(32.1%)」となっている。
- 公立短大、私立短大では、「大変当てはまる」がそれぞれ77.8%、62.2%となっており、公立短大の方が割合が大きくなっている。



「総合型選抜」導入の目的について ③短大・設置主体別

d. 学修意欲の高い入学者を選抜するため

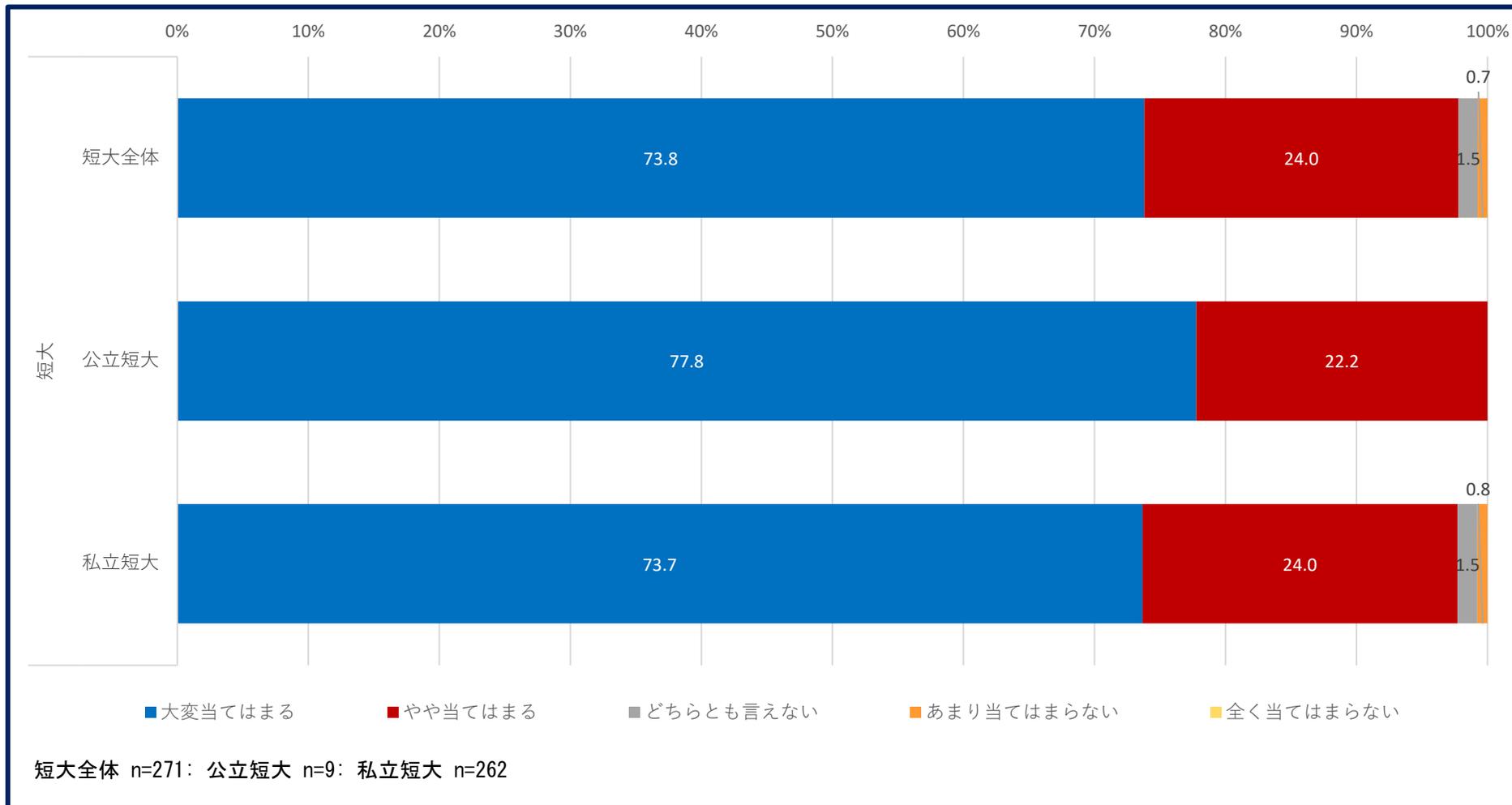
- 短大全体では、「大変当てはまる(54.6%)」、「やや当てはまる(36.9%)」となっている。
- 公立短大、私立短大では、「大変当てはまる」がそれぞれ66.7%、54.2%となっており、公立短大の方が割合が大きくなっている。



「総合型選抜」導入の目的について ③短大・設置主体別

e. 学力の評価だけではなく、受験者を多面的総合的に評価する選抜を実施するため

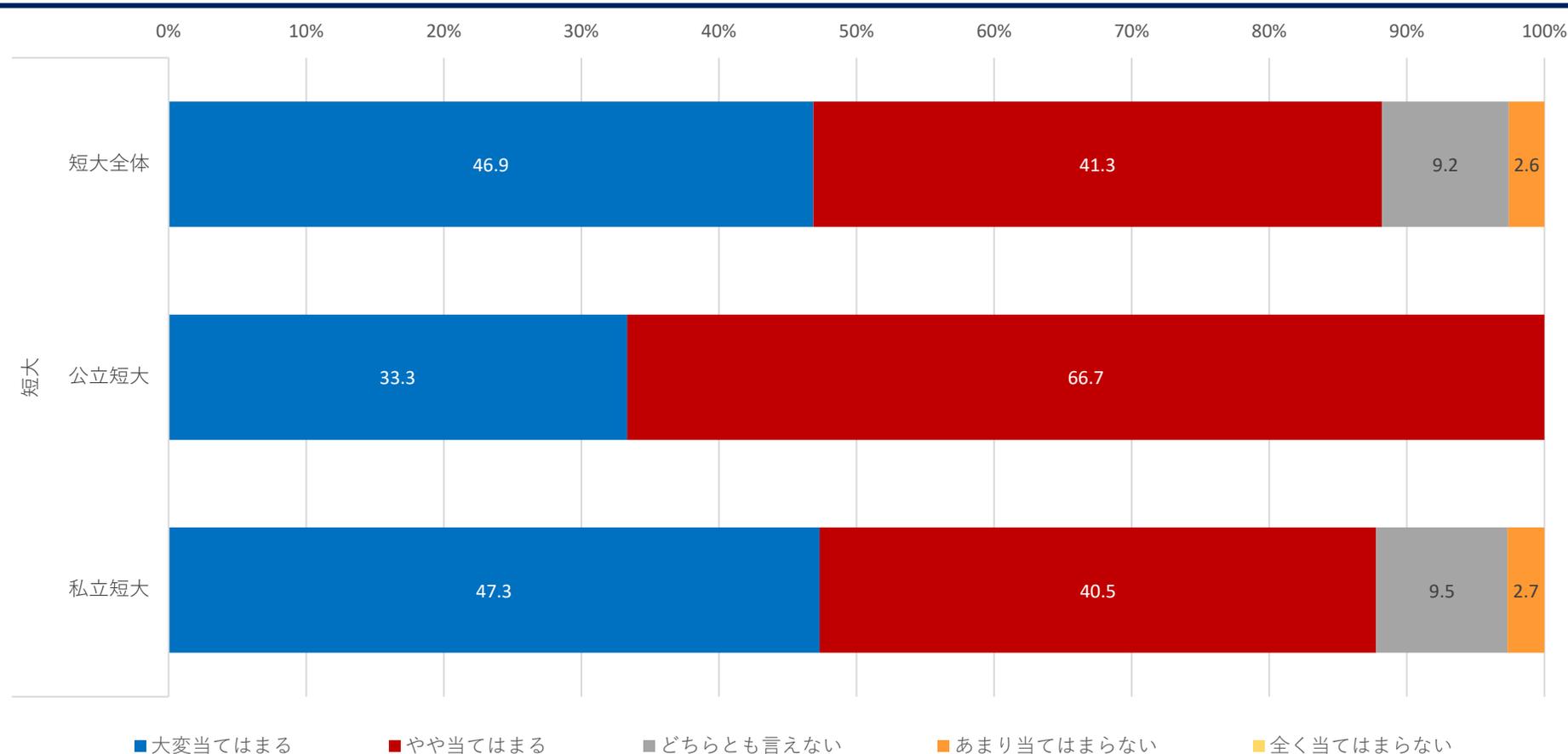
- 短大全体では、「大変当てはまる(73.8%)」、「やや当てはまる(24.0%)」となっている。
- 公立短大、私立短大では、「大変当てはまる」がそれぞれ77.8%、73.7%で、公立短大の方がやや割合が高くなっている。



「総合型選抜」導入の目的について ③短大・設置主体別

f. 受験者の個性や特性等を評価する選抜を実施するため

- 短大全体では、「大変当てはまる(46.9%)」、「やや当てはまる(41.3%)」となっている。
- 私立短大では「大変当てはまる(47.3%)」となっているが、公立短大では33.3%であり、公立短大の方が割合が小さくなっている。

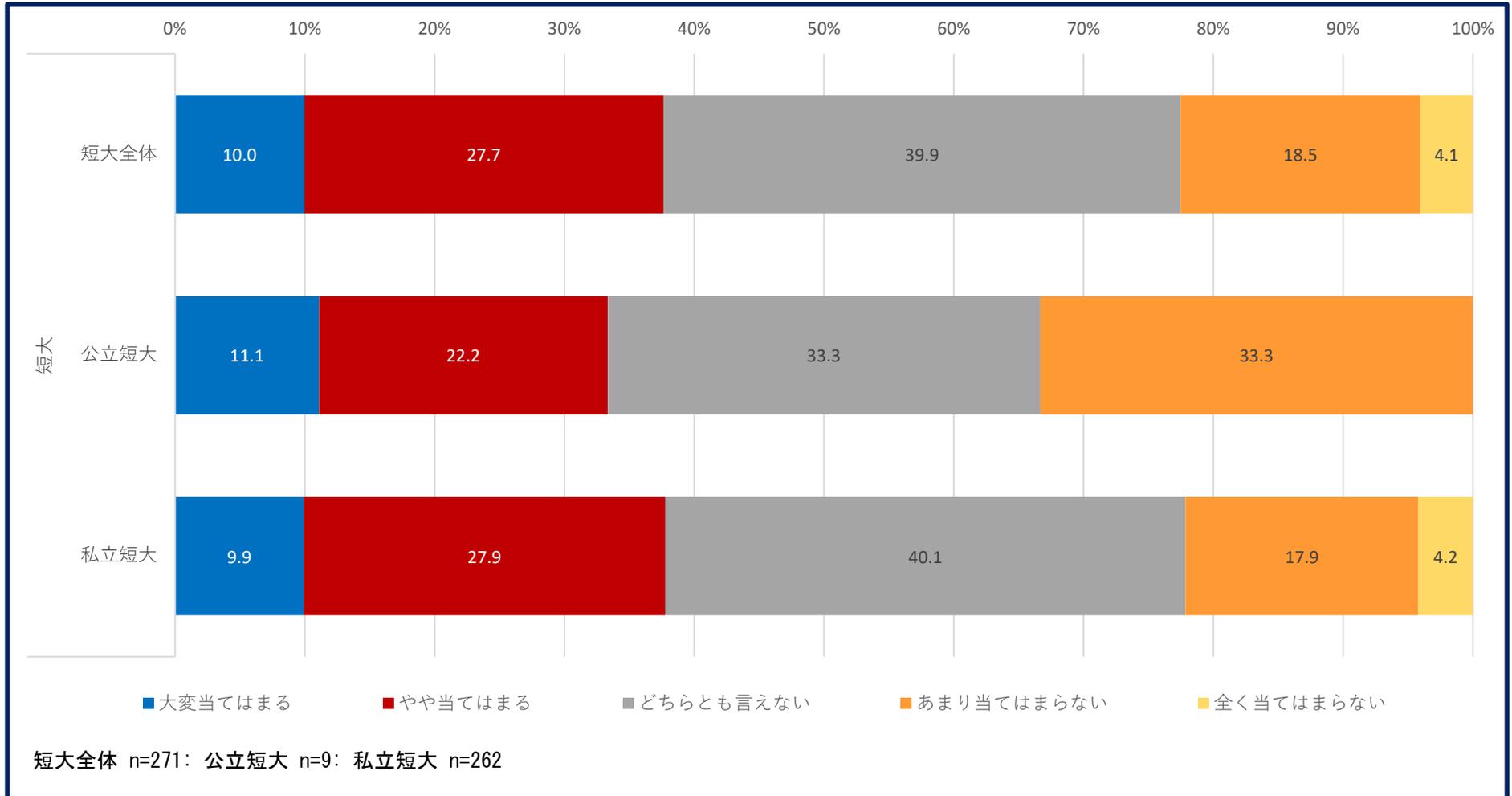


短大全体 n=271: 公立短大 n=9: 私立短大 n=262

「総合型選抜」導入の目的について ③短大・設置主体別

g. 高等学校での総合的な探究の時間を活かすことのできる選抜を実施するため

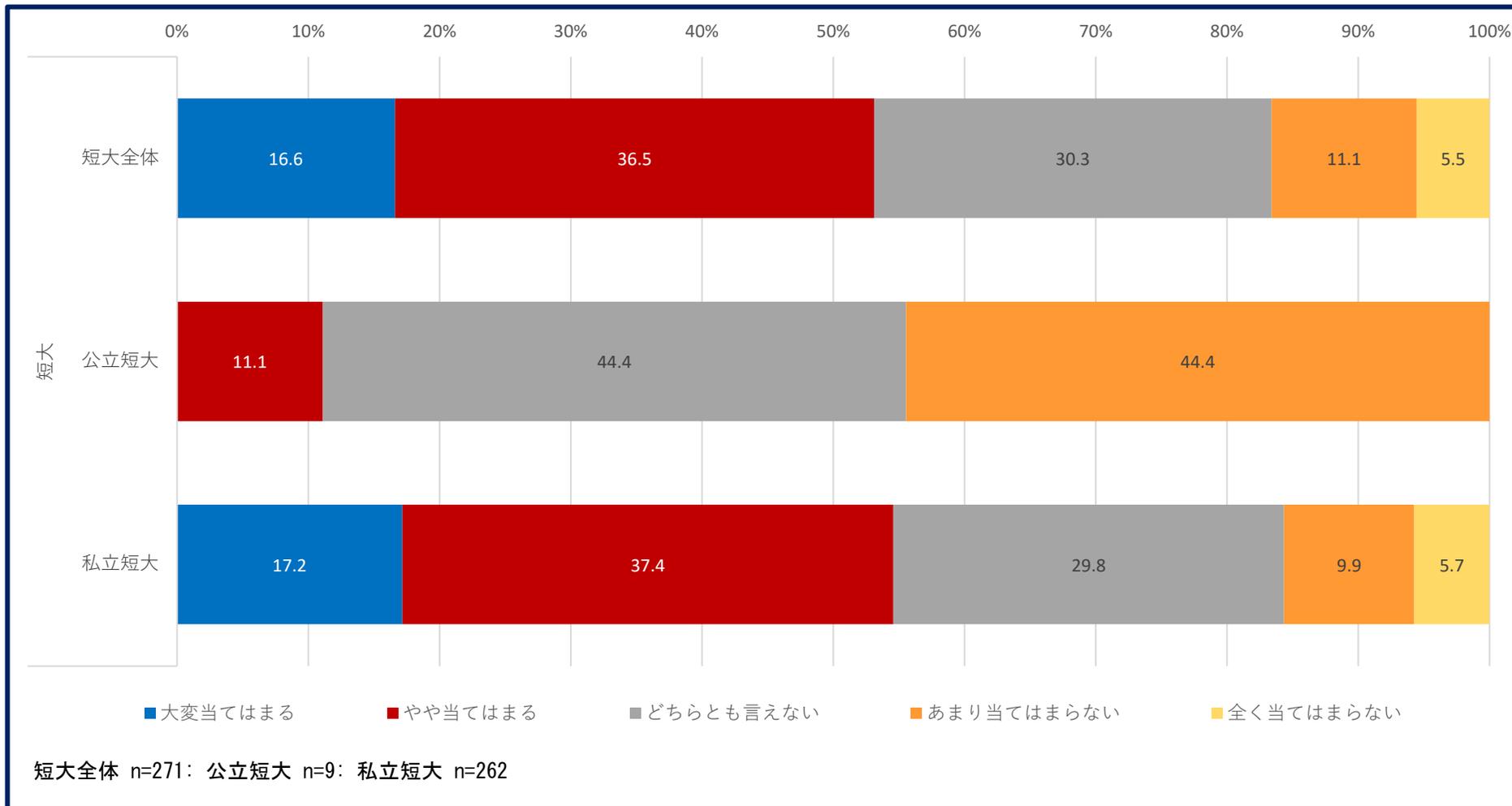
- 短大全体では、「大変当てはまる(10.0%)」、「やや当てはまる(27.7%)」、「どちらとも言えない(39.9%)」となっている。
- 公立短大では、「あまり当てはまらない」が33.3%となっており、私立短大の17.9%に比べて多くなっている。



「総合型選抜」導入の目的について ③短大・設置主体別

h. 高大接続改革等の方針として、総合型選抜の導入が求められているため

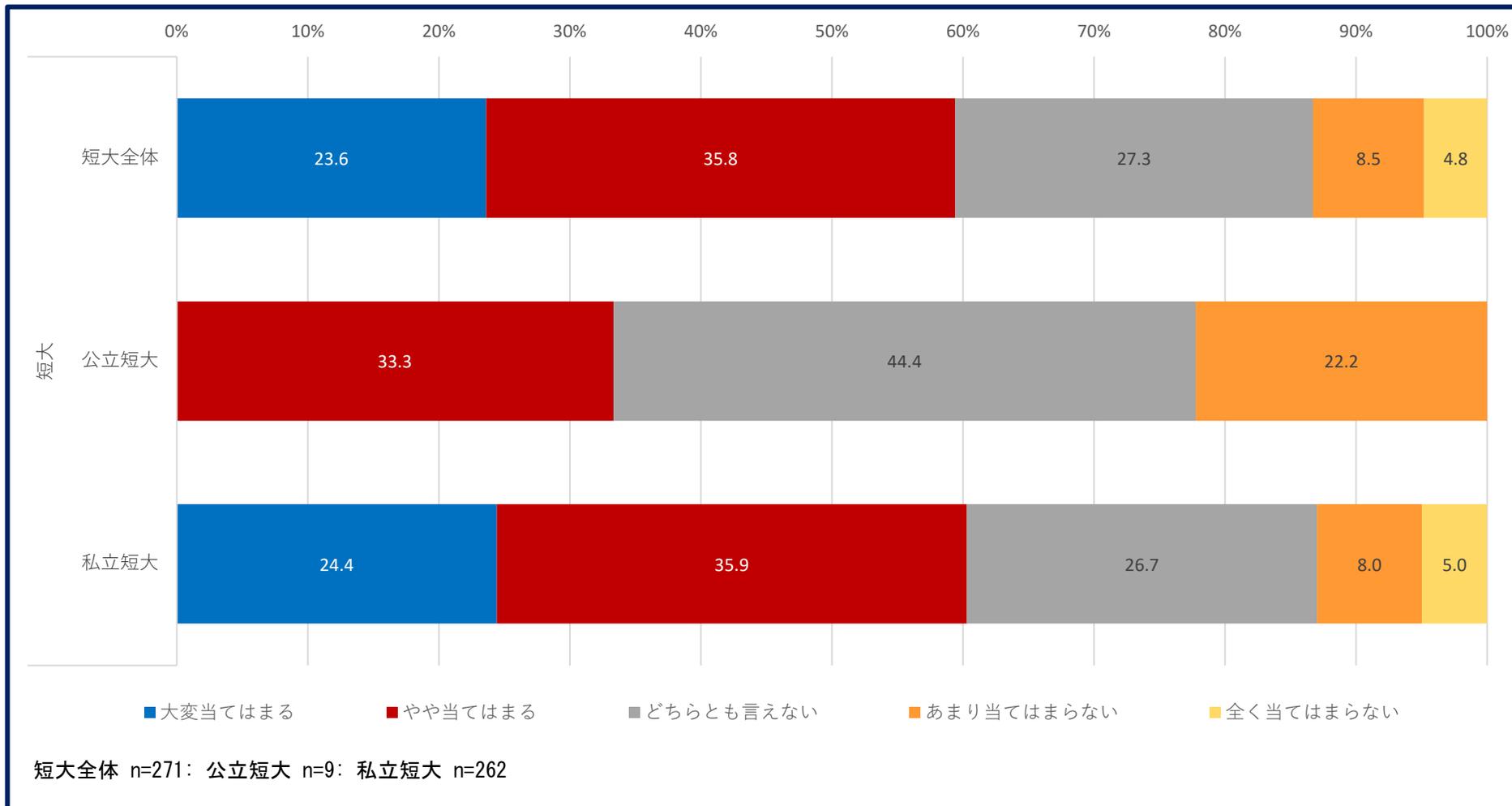
- 短大全体では、「大変当てはまる(16.6%)」、「やや当てはまる(36.5%)」、「どちらとも言えない(30.3%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(0%)」、「やや当てはまる(11.1%)」に対して、「あまり当てはまらない(44.4%)」であり、私立短大と異なる傾向を示している。



「総合型選抜」導入の目的について ③短大・設置主体別

i. 年内入試(12月までに行う入試)の実施を受験生や高等学校から期待されているため

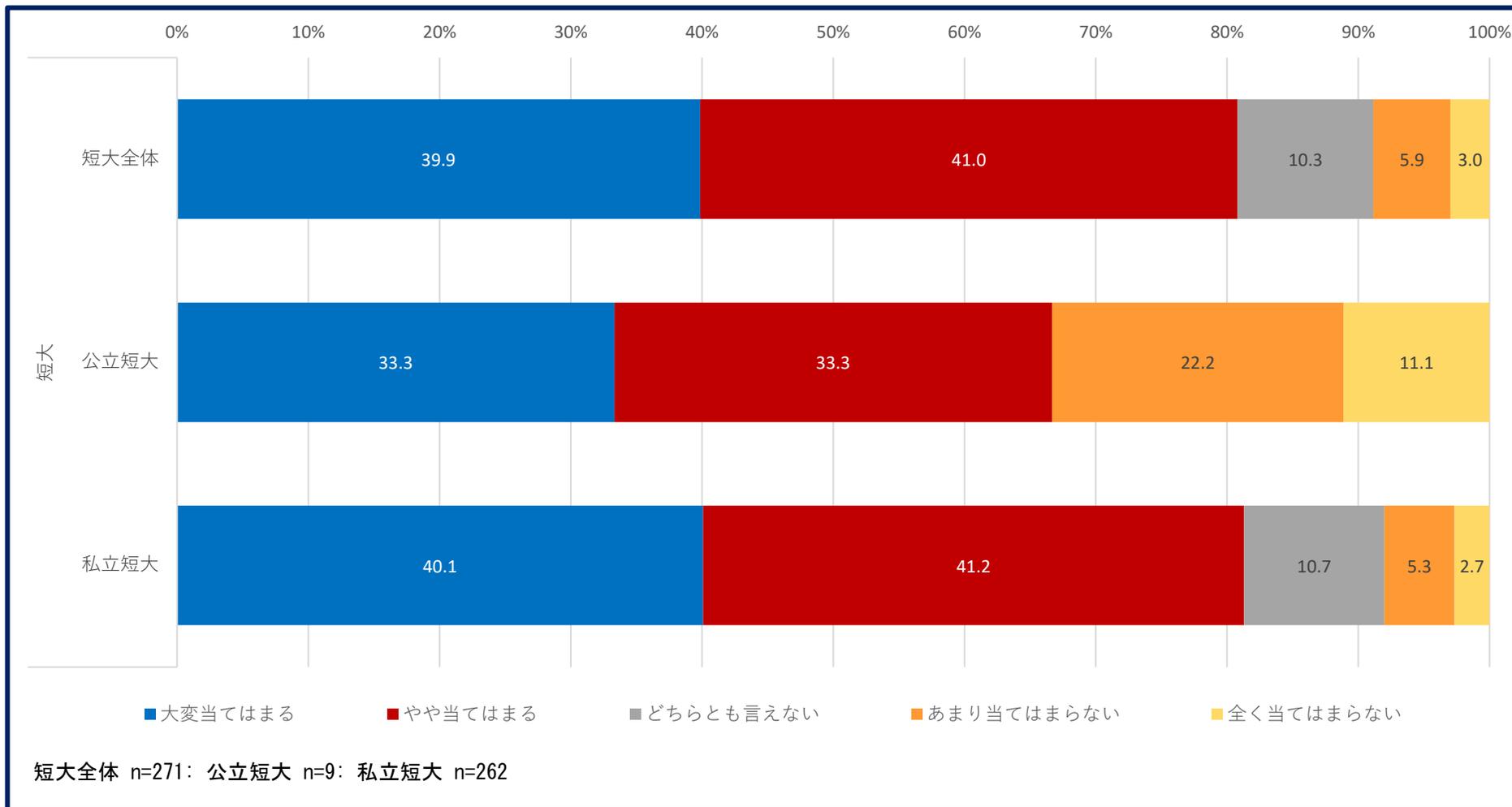
- 短大全体では、「大変当てはまる(23.6%)」、「やや当てはまる(35.8%)」、「どちらとも言えない(27.3%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(0%)」、「やや当てはまる(33.3%)」に対して、「あまり当てはまらない(22.2%)」であり、私立短大と異なる傾向を示している。



「総合型選抜」導入の目的について ③短大・設置主体別

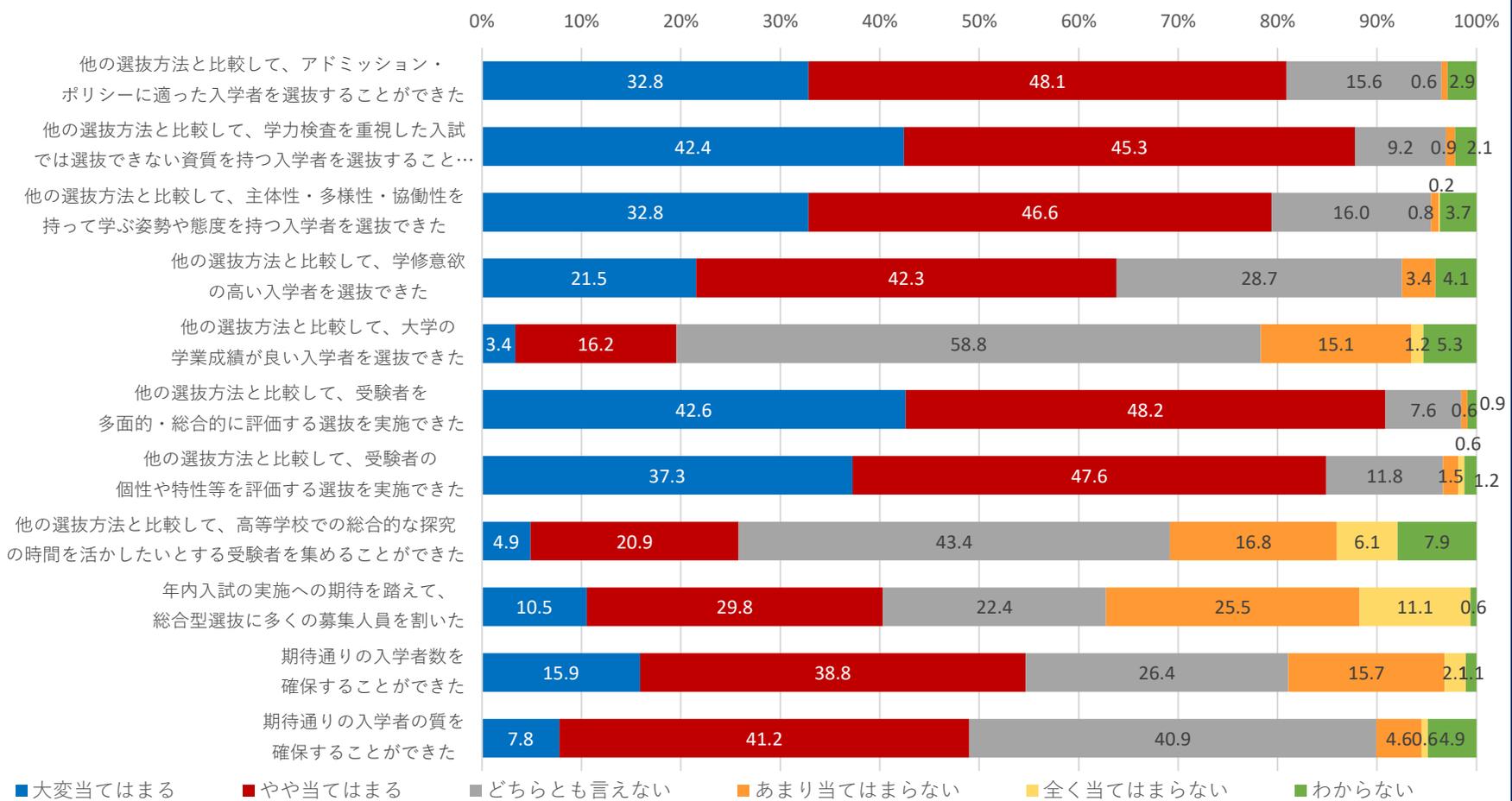
j. 入学定員が充足されるよう早期に入学者を確保するため

- 短大全体では、「大変当てはまる(39.9%)」、「やや当てはまる(41.0%)」となっている。
- 私立短大では、「全く当てはまらない」と「あまり当てはまらない」の合計比率は約8%であるのに対し、公立短大では両者の合計が33.3%に達する。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学全体

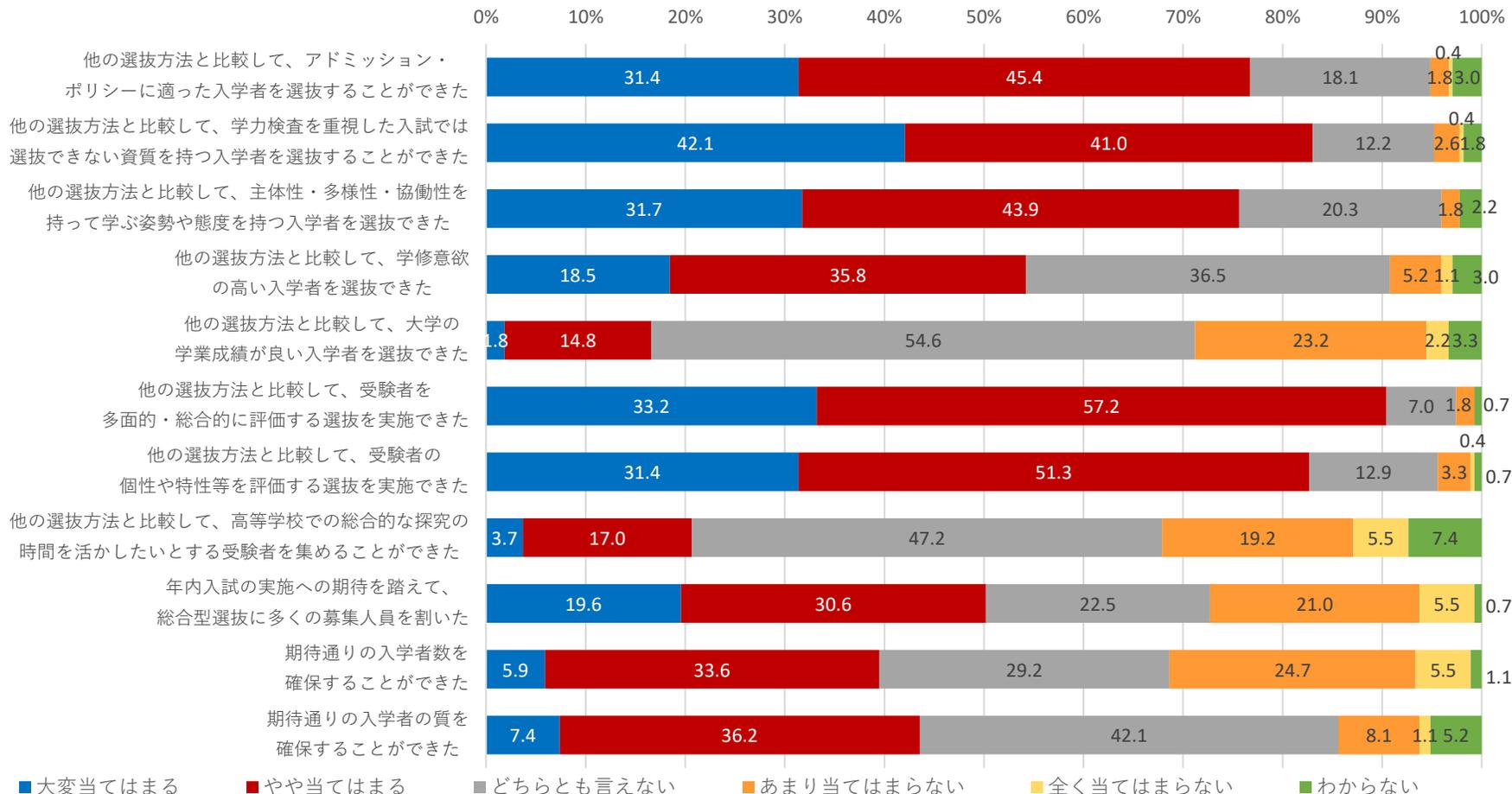
- 「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計を見ると、「他の選抜方法と比較して、受験者を多面的・総合的に評価する選抜を実施できた」、「他の選抜方法と比較して、学力検査を重視した入試では選抜できない資質を持つ入学者を選抜することができた」、「他の選抜方法と比較して、主体性・多様性・協働性を持って学ぶ姿勢や態度を持つ入学者を選抜できた」とする回答が多い。



大学全体 n=655

「総合型選抜」導入に対する評価について ②短大全体

- 「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計を見ると、「他の選抜方法と比較して、受験者を多面的・総合的に評価する選抜を実施できた」、「他の選抜方法と比較して、学力検査を重視した入試では選抜できない資質を持つ入学者を選抜することができた」、「他の選抜方法と比較して、受験者の個性や特性等を評価する選抜を実施できた」とする回答が多い。

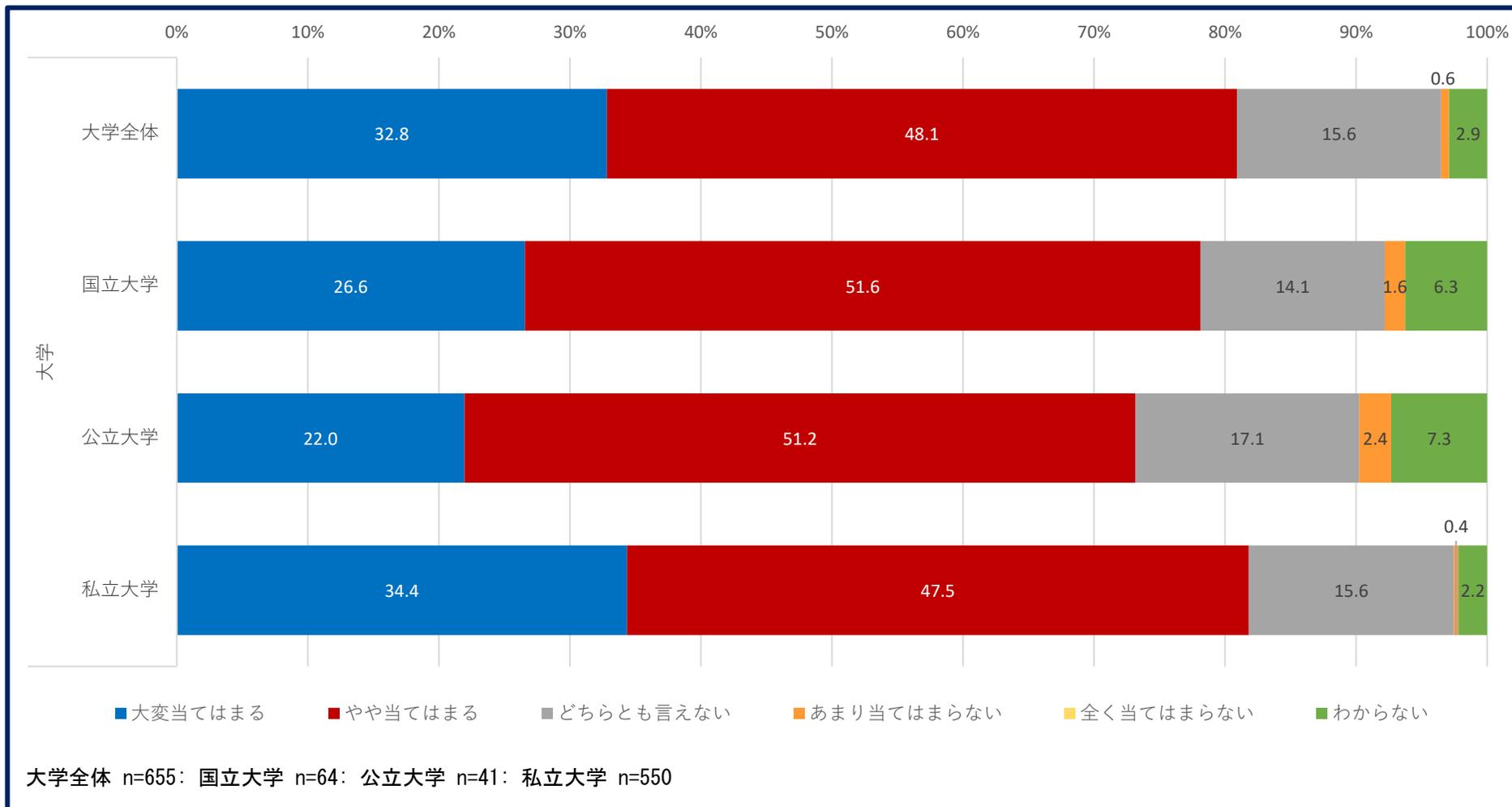


短大全体 n=271

「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

a. 他の選抜方法と比較して、アドミッション・ポリシーに適った入学者を選抜することができた

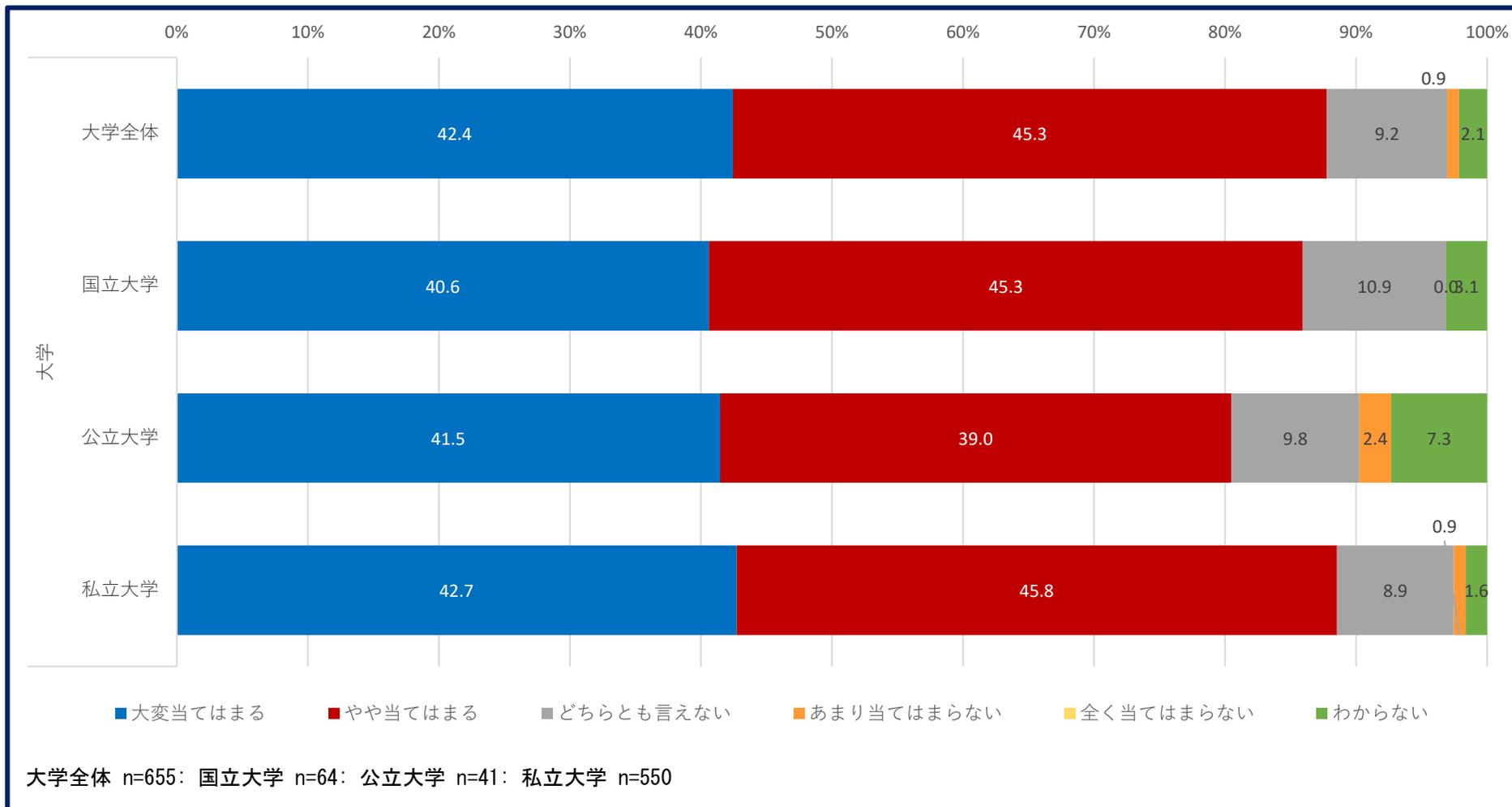
- 大学全体では、「大変当てはまる(32.8%)」、「やや当てはまる(48.1%)」となっている。
- 国立大学、公立大学では「大変当てはまる」がそれぞれ26.6%、22.0%であるが、私立大学では「大変当てはまる(34.4%)」となっており、私立大学において本項目の評価が高くなっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

b. 他の選抜方法と比較して、学力検査を重視した入試では選抜できない資質を持つ入学者を選抜することができた

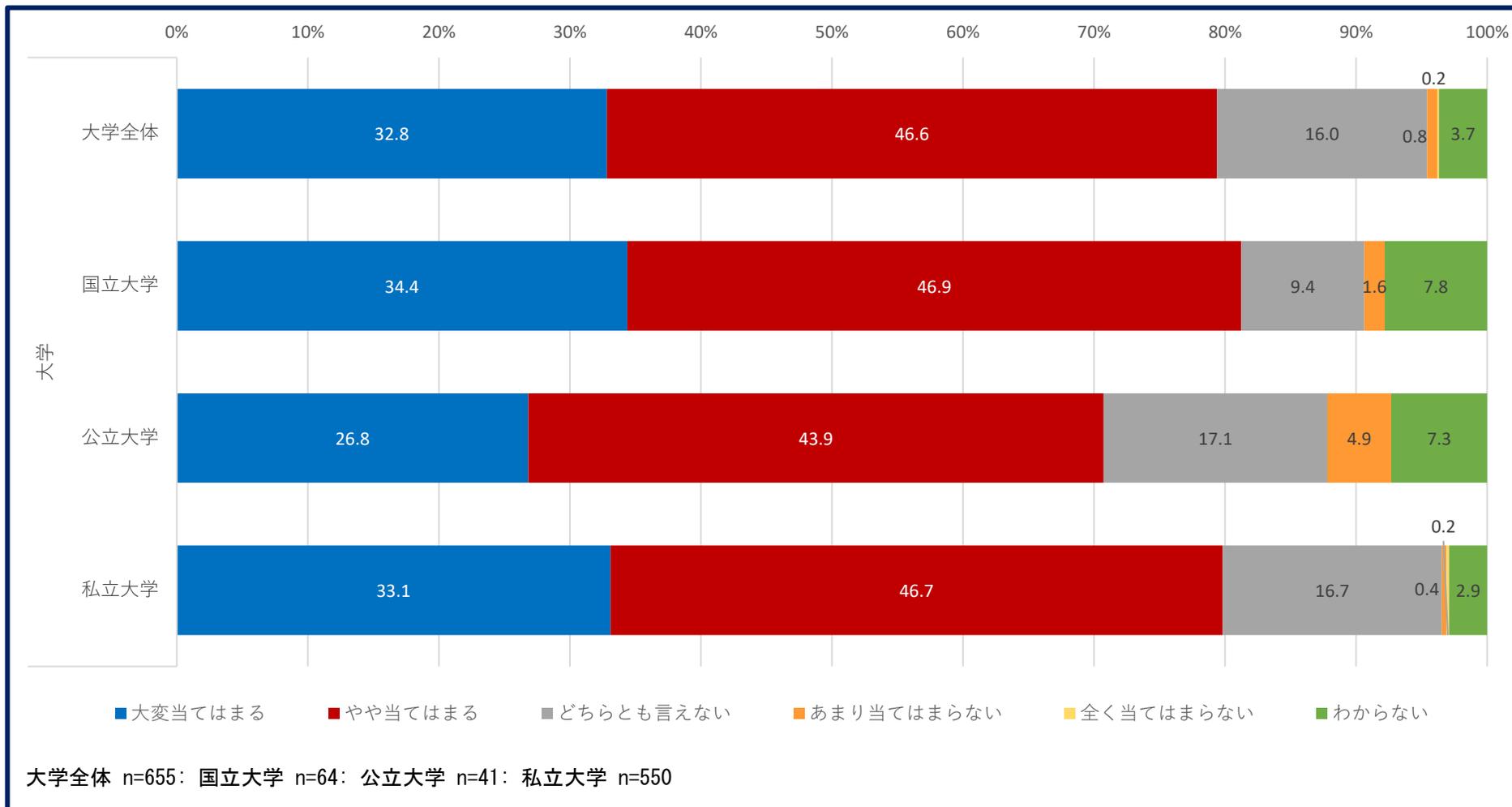
- 大学全体では、「大変当てはまる(42.4%)」、「やや当てはまる(45.3%)」となっている。
- 設置主体別に見ても、国立大学、公立大学、私立大学とも概ね同様の傾向となっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

c. 他の選抜方法と比較して、主体性・多様性・協働性を持って学ぶ姿勢や態度を持つ入学者を選抜できた

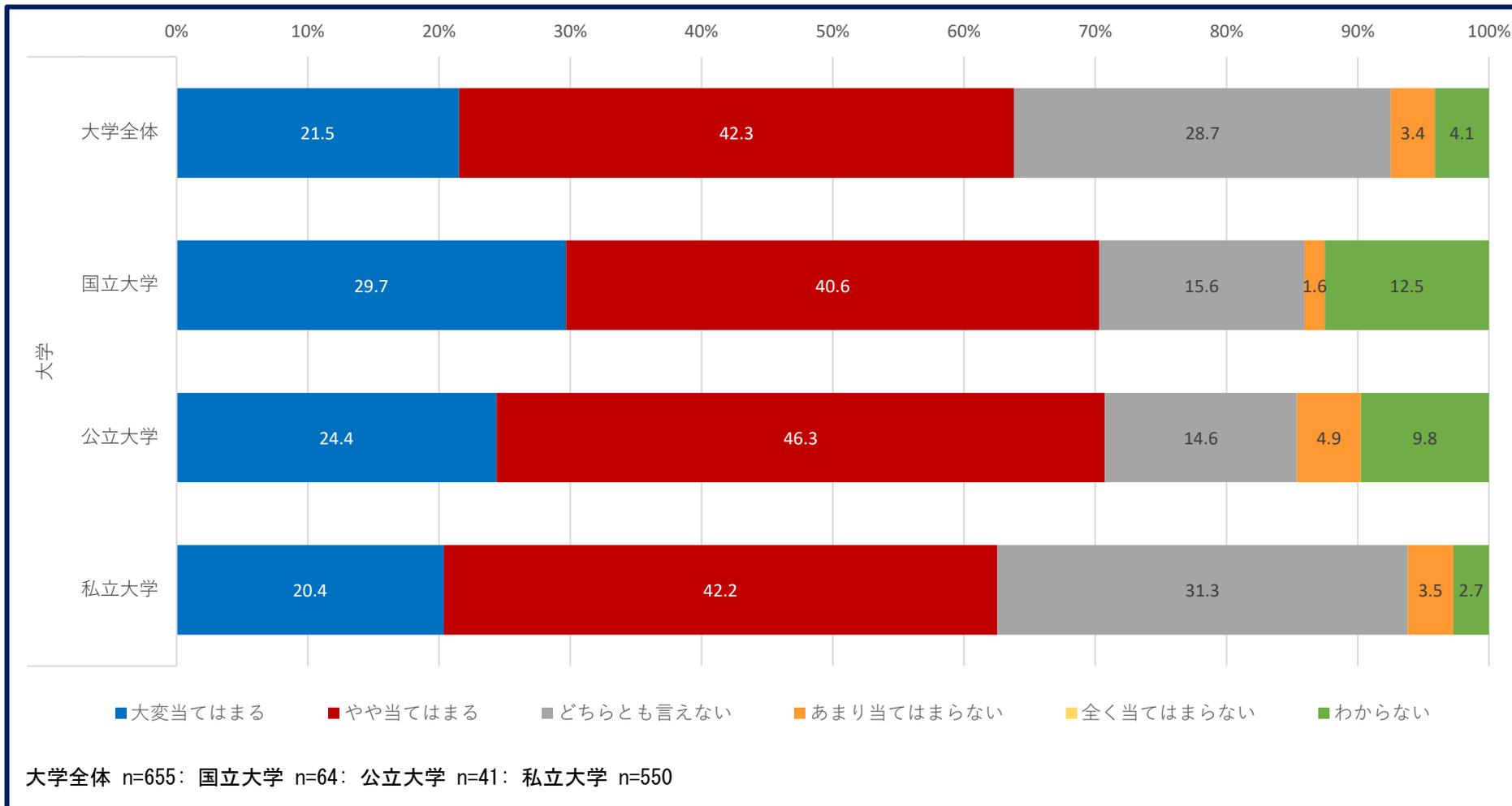
- 大学全体では、「大変当てはまる(32.8%)」、「やや当てはまる(46.6%)」となっている。
- 公立大学は、「大変当てはまる(26.8%)」、「やや当てはまる(43.9%)」で、国立大学、私立大学に比べると若干評価が下がっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

d. 他の選抜方法と比較して、学修意欲の高い入学者を選抜できた

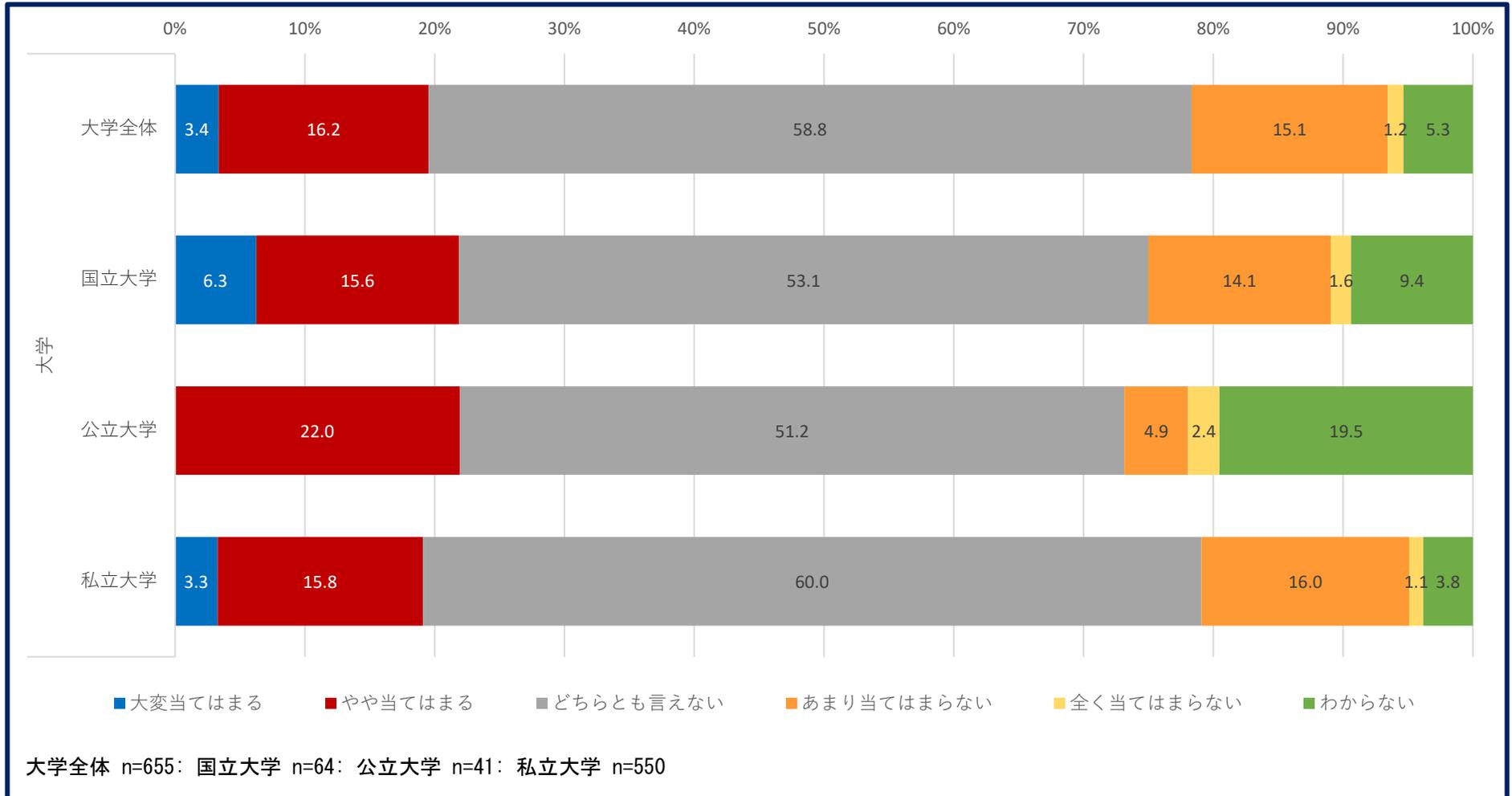
- 大学全体では、「大変当てはまる(21.5%)」、「やや当てはまる(42.3%)」となっている。
- 国立大学では、「大変当てはまる(29.7%)」であるが、公立大学、私立大学では、それぞれ24.4%、20.4%となっており、国立大学でこの項目の評価が高い。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

e. 他の選抜方法と比較して、大学の学業成績が良い入学者を選抜できた

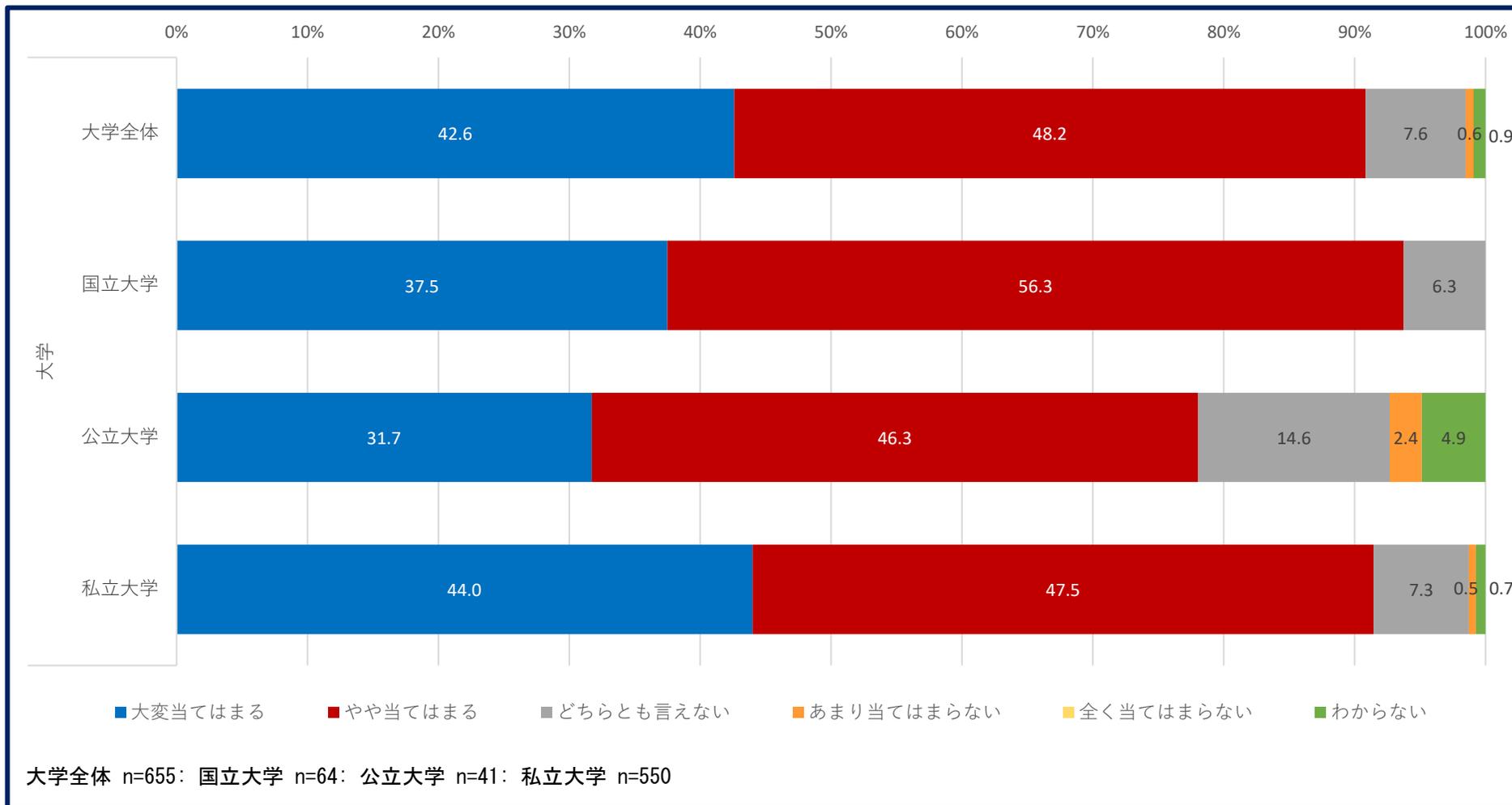
- 大学全体では、「大変当てはまる(3.4%)」、「やや当てはまる(16.2%)」、「どちらとも言えない(58.8%)」となっている。
- 公立大学では、「大変当てはまる(0%)」に対して、「わからない(19.5%)」となっており、国立大学、私立大学に比べて、「わからない」とする回答が多い。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

f. 他の選抜方法と比較して、受験者を多面的・総合的に評価する選抜を実施できた

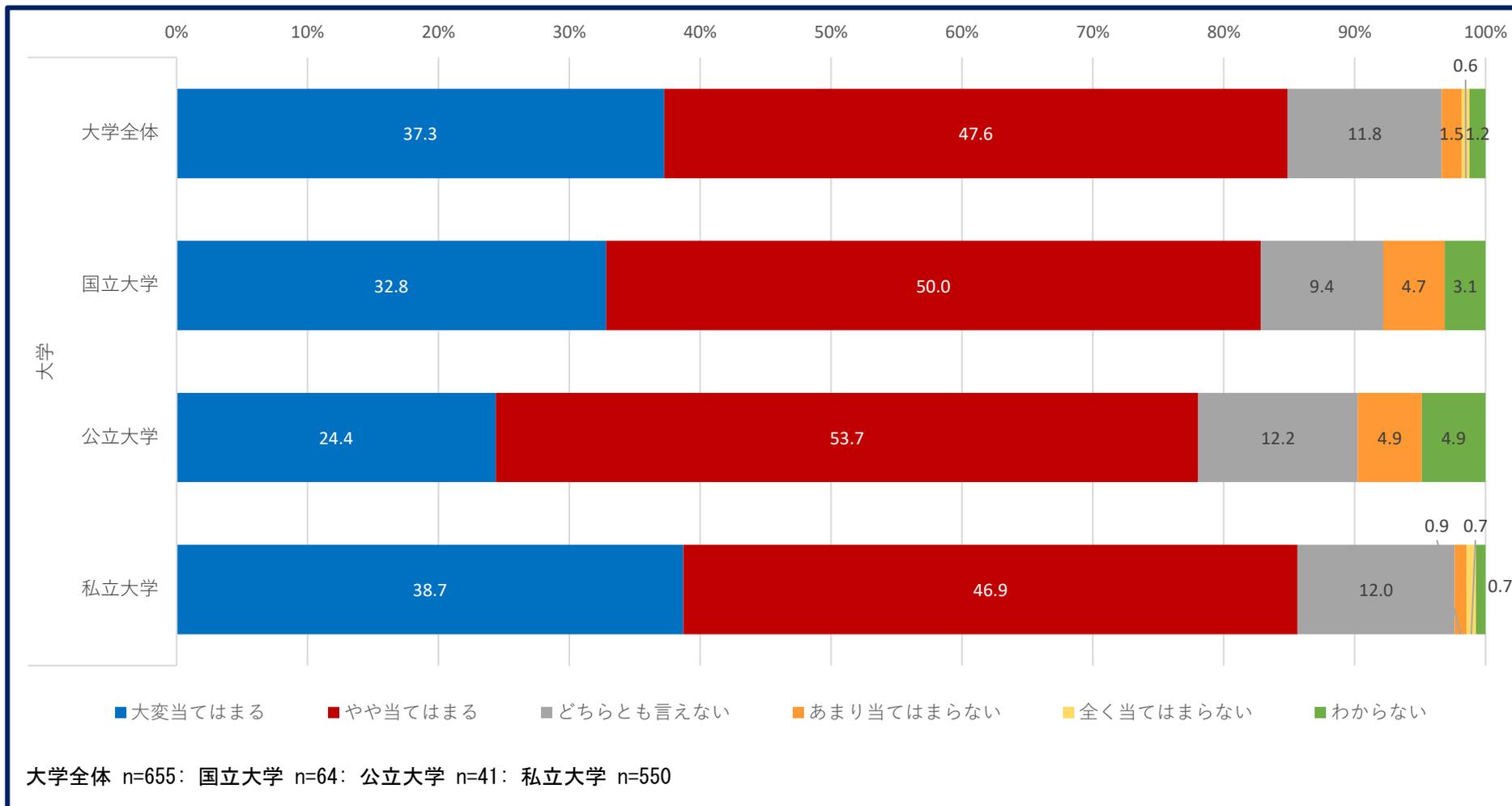
- 大学全体では、「大変当てはまる(42.6%)」、「やや当てはまる(48.2%)」となっている。
- 公立大学では、「大変当てはまる(31.7%)」、「やや当てはまる(46.3%)」であり、国立大学、私立大学に比べて若干低い評価となっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

g. 他の選抜方法と比較して、受験者の個性や特性等を評価する選抜を実施できた

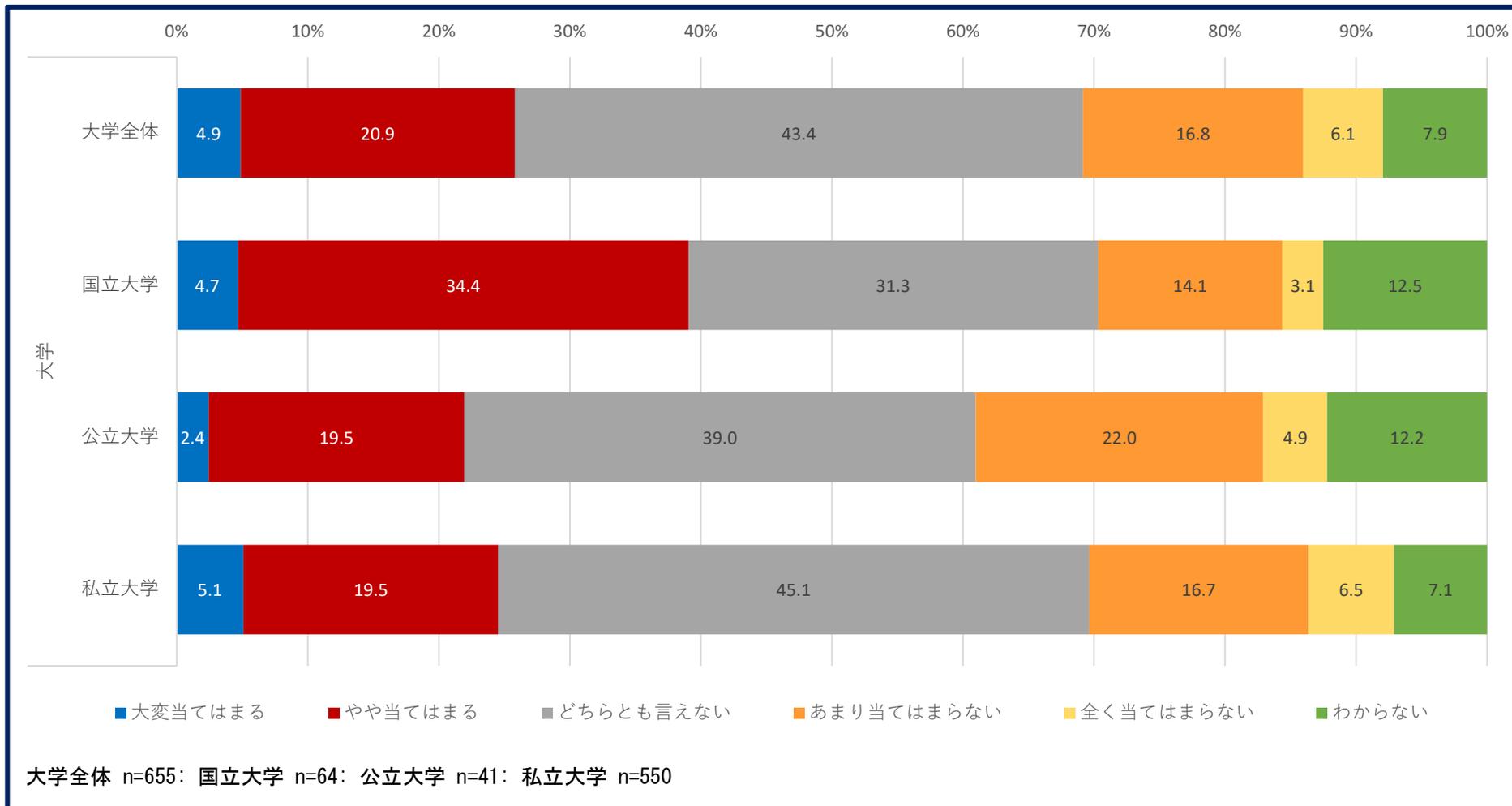
- 大学全体では、「大変当てはまる(37.3%)」、「やや当てはまる(47.6%)」となっている。
- 公立大学では、「大変当てはまる(24.4%)」、「やや当てはまる(53.7%)」であり、国立大学、私立大学に比べて若干低い評価となっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

h. 他の選抜方法と比較して、高等学校での総合的な探究の時間を活かしたいとする受験者を集めることができた

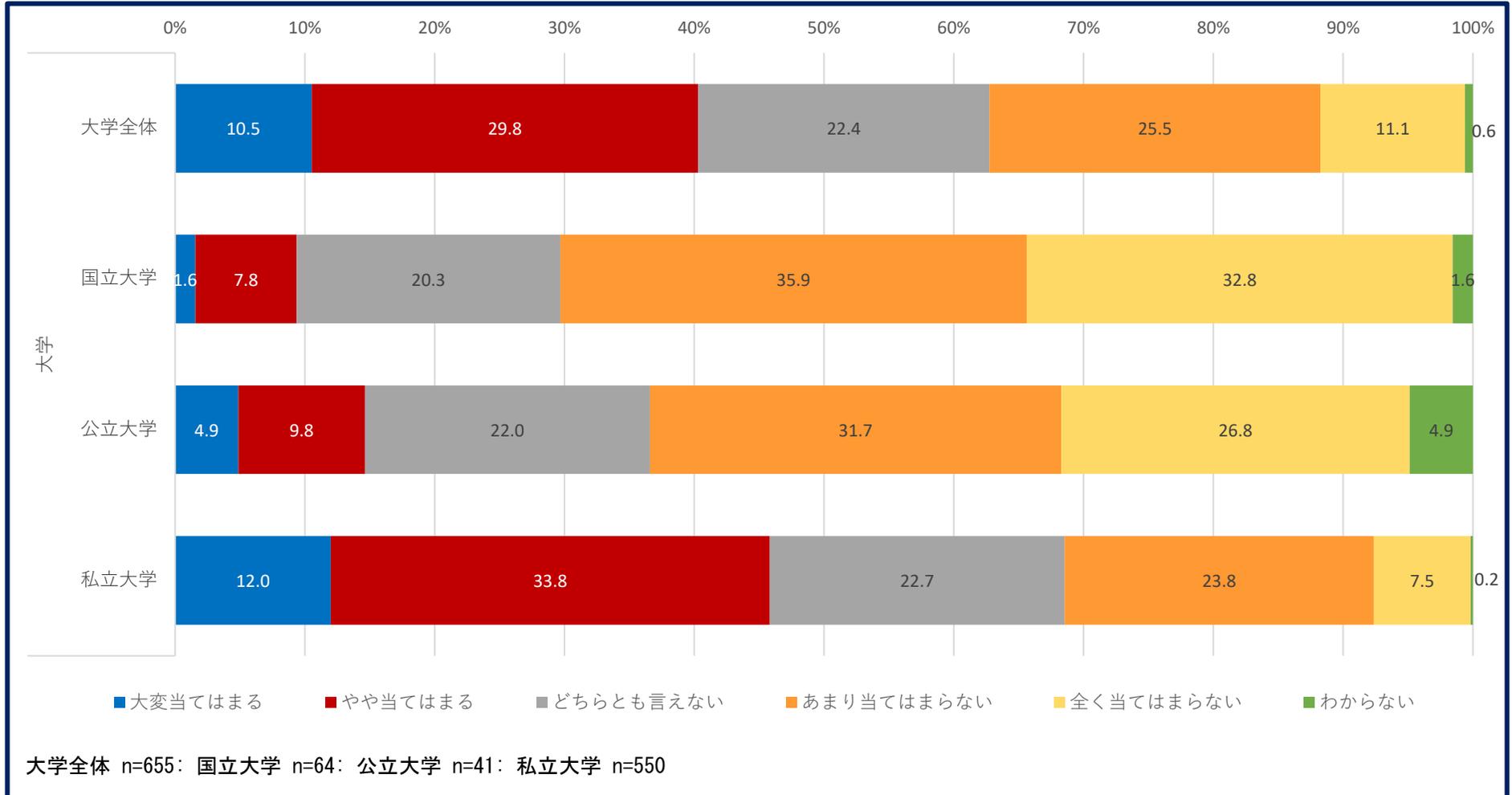
- 大学全体では、「大変当てはまる(4.9%)」、「やや当てはまる(20.9%)」、「どちらとも言えない(43.4%)」となっている。
- 国立大学は、「大変当てはまる(4.7%)」、「やや当てはまる(34.4%)」となっており、公立大学、私立大学に比べて若干評価が高い。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

i. 年内入試の実施への期待を踏まえて、総合型選抜に多くの募集人員を割いた

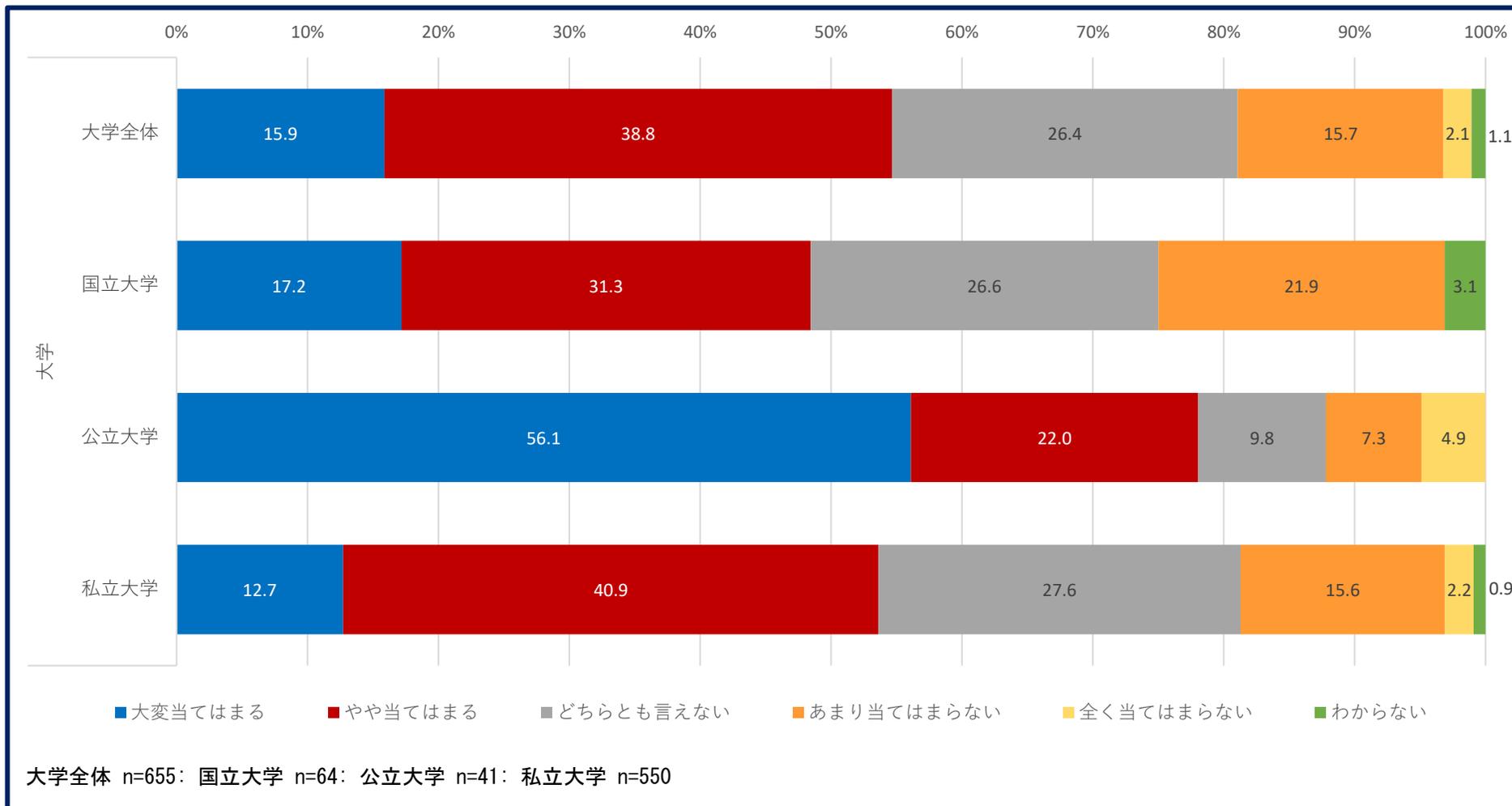
- 大学全体では、「大変当てはまる(10.5%)」、「やや当てはまる(29.8%)」となっている。
- 私立大学では、「大変当てはまる(12.0%)」、「やや当てはまる(33.8%)」となっており、国立大学、公立大学に比べて、当てはまるとした回答比率が高くなっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

j. 期待通りの入学者数を確保することができた

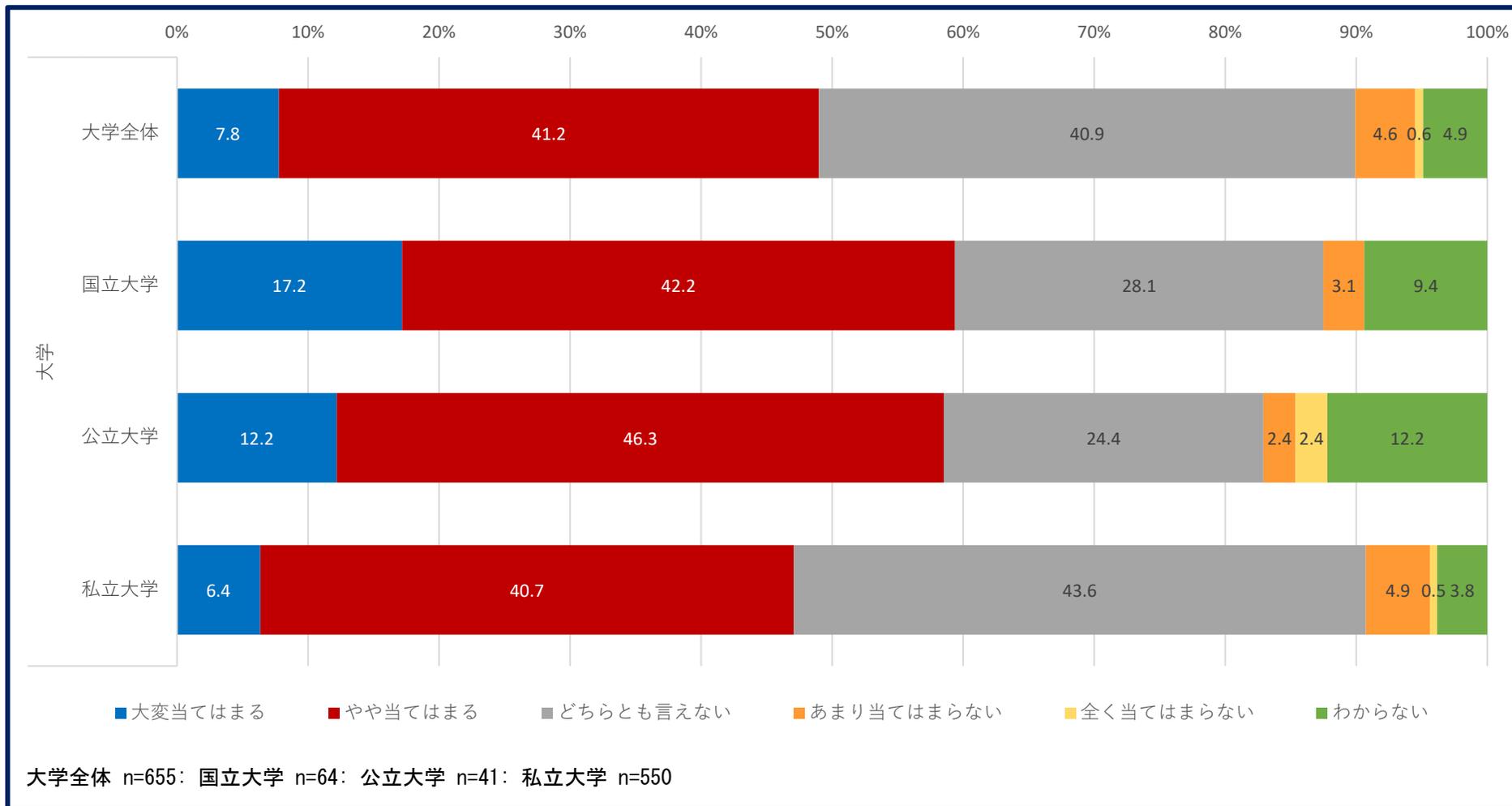
- 大学全体では、「大変当てはまる(15.9%)」、「やや当てはまる(38.8%)」となっている。
- 公立大学では、「大変当てはまる(56.1%)」、「やや当てはまる(22.0%)」となっており、国立大学、私立大学に比べて、当てはまるとした回答比率が高くなっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ①大学・設置主体別

k. 期待通りの入学者の質を確保することができた

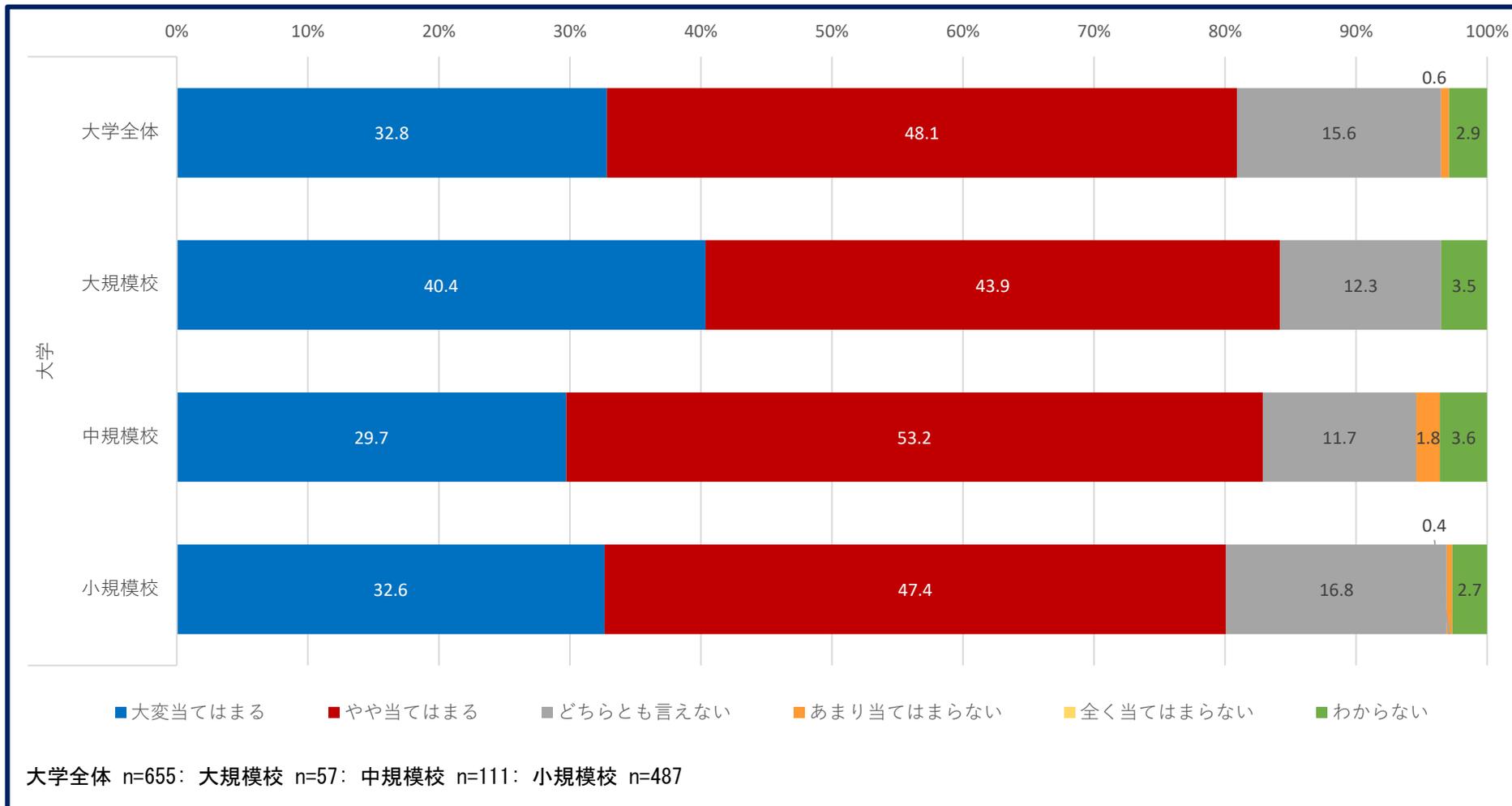
- 大学全体では、「大変当てはまる(7.8%)」、「やや当てはまる(41.2%)」となっている。
- 国立大学では、「大変当てはまる(17.2%)」であったが、公立大学、私立大学では、それぞれ12.2%、6.4%となっており、国立大学において本項目の評価が高い。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

a. 他の選抜方法と比較して、アドミッション・ポリシーに適った入学者を選抜することができた

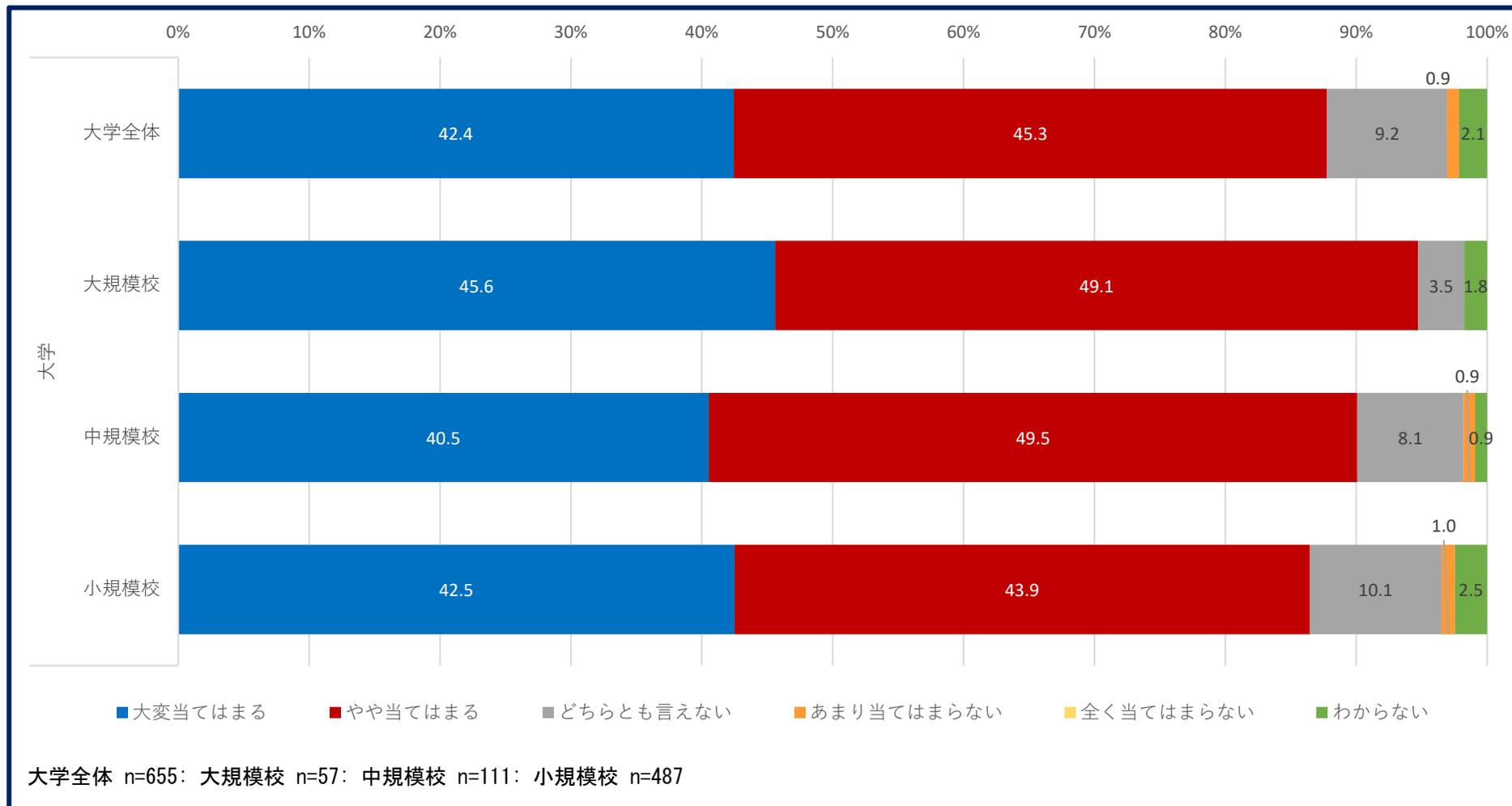
- 大学全体では、「大変当てはまる(32.8%)」、「やや当てはまる(48.1%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(40.4%)」で、中規模校、小規模校よりも若干比率が高くなっているが、全体的には規模別による顕著な違いは見られない。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

b. 他の選抜方法と比較して、学力検査を重視した入試では選抜できない資質を持つ入学者を選抜することができた

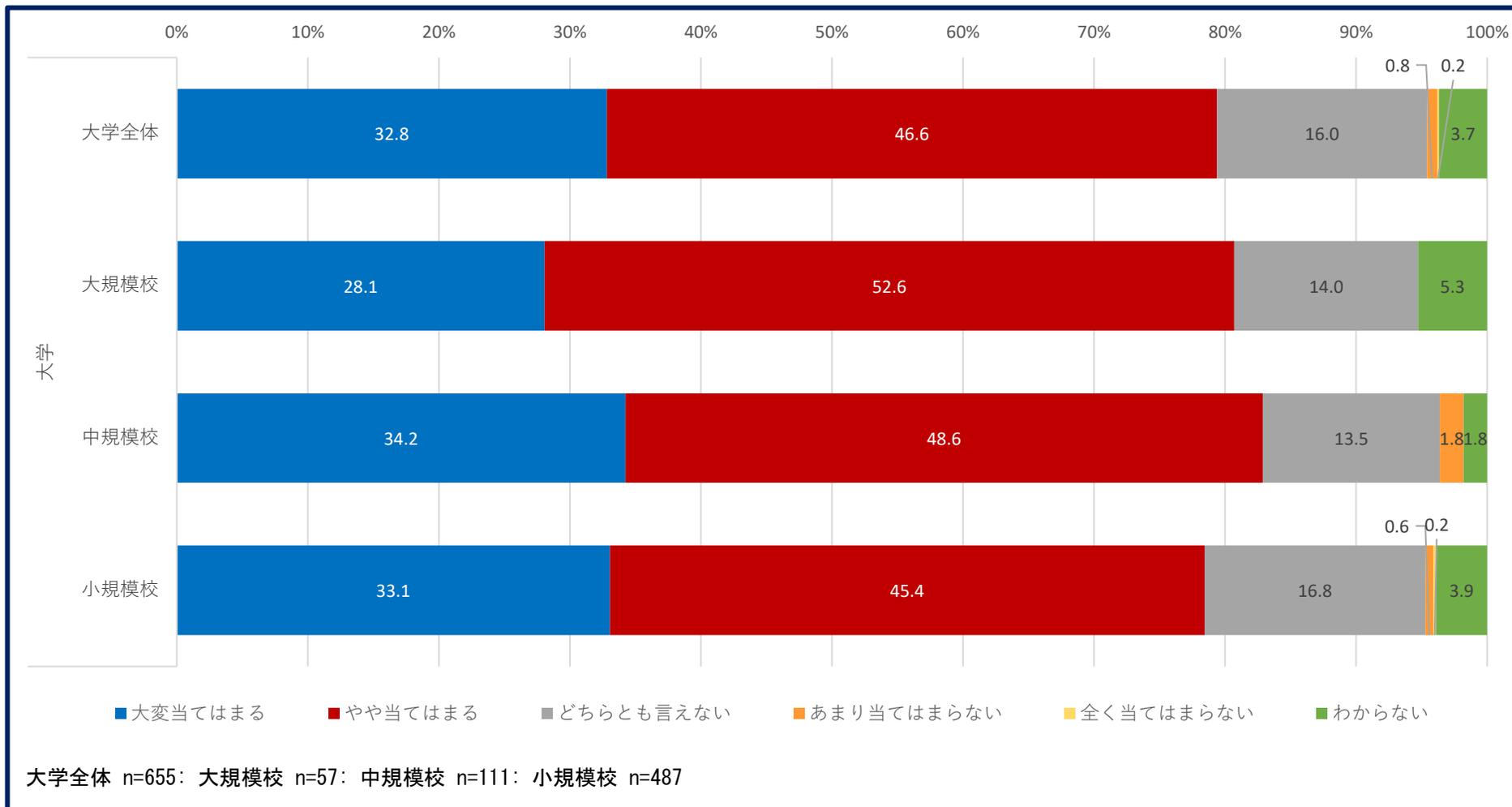
- 大学全体では、「大変当てはまる(42.4%)」、「やや当てはまる(45.3%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(45.6%)」、「やや当てはまる(49.1%)」で、中規模校、小規模校になると、当てはまると回答した比率が減少するものの、全体的には規模による顕著な違いは見られない。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

c. 他の選抜方法と比較して、主体性・多様性・協働性を持って学ぶ姿勢や態度を持つ入学者を選抜できた

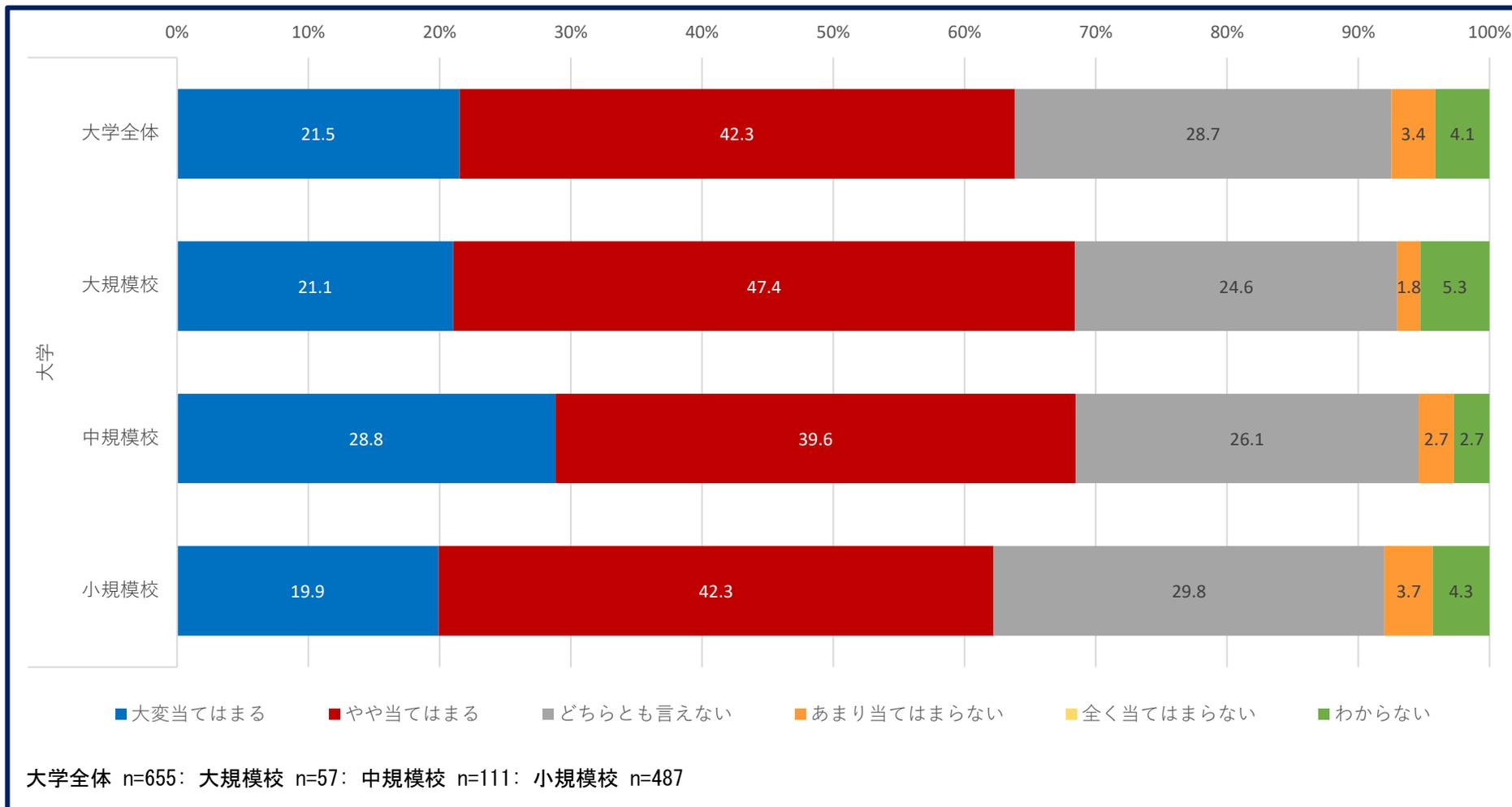
- 大学全体では、「大変当てはまる(32.8%)」、「やや当てはまる(46.6%)」となっている。
- 大規模校、中規模校、小規模校とも概ね同様の傾向となっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

d. 他の選抜方法と比較して、学修意欲の高い入学者を選抜できた

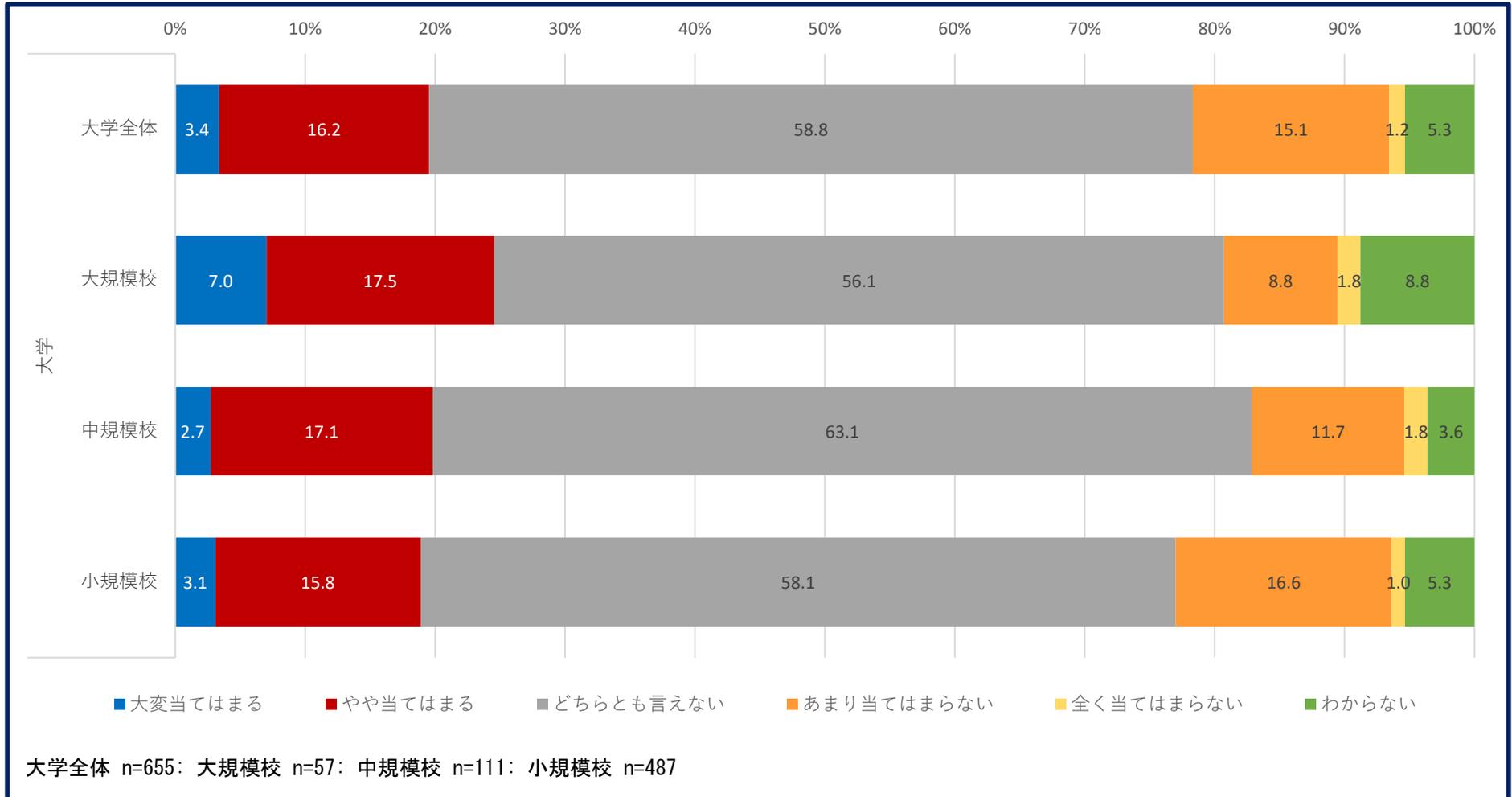
- 大学全体では、「大変当てはまる(21.5%)」、「やや当てはまる(42.3%)」となっている。
- 中規模校では、「大変当てはまる(28.8%)」で、大規模校、小規模校よりも若干比率が高くなっているが、全体的には規模による顕著な違いは見られない。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

e. 他の選抜方法と比較して、大学の学業成績が良い入学者を選抜できた

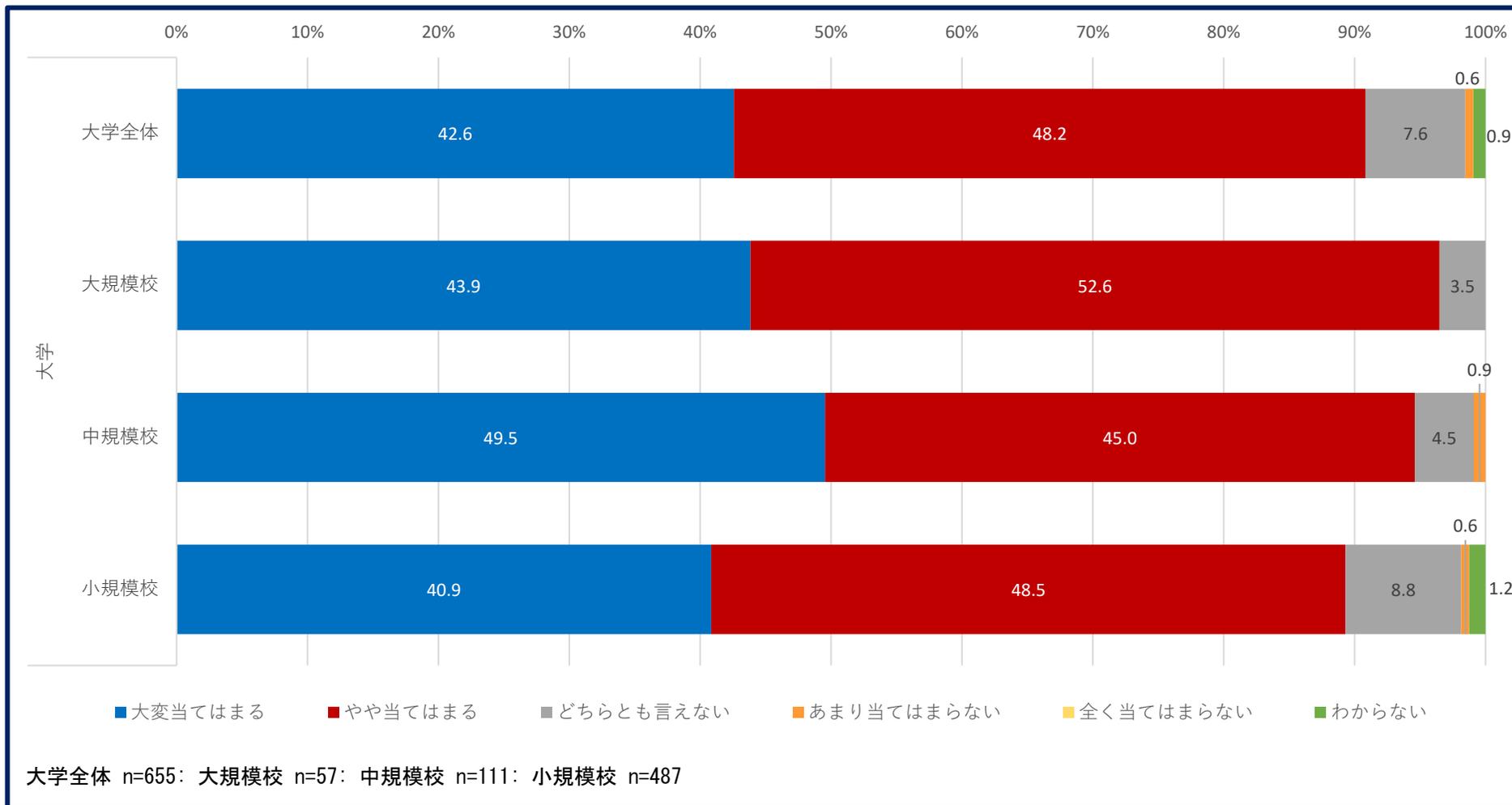
- 大学全体では、「大変当てはまる(3.4%)」、「やや当てはまる(16.2%)」、「どちらとも言えない(58.8%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(7.0%)」、「やや当てはまる(17.5%)」であり、中規模校、小規模校よりも若干評価が高くなっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

f. 他の選抜方法と比較して、受験者を多面的・総合的に評価する選抜を実施できた

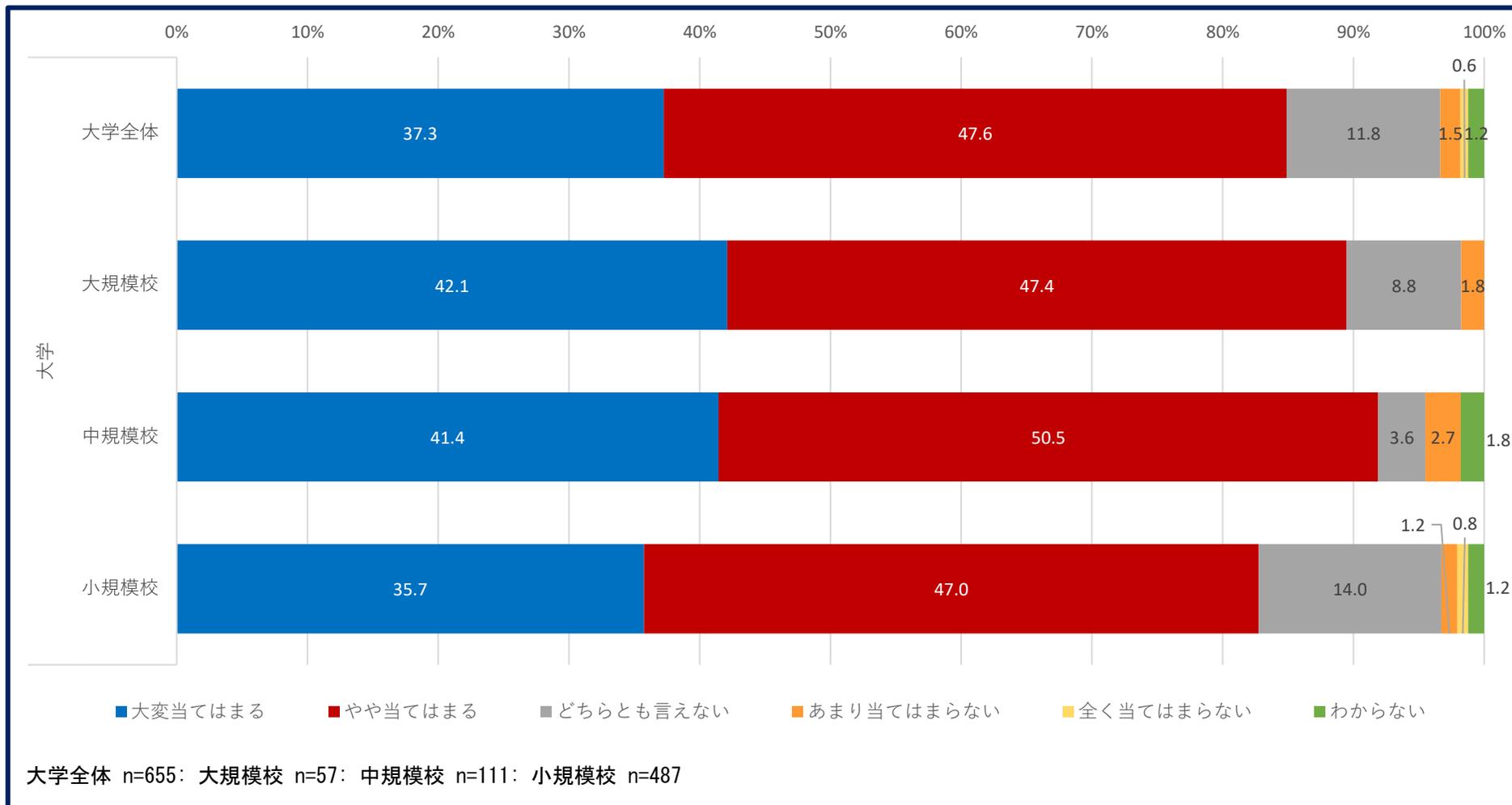
- 大学全体では、「大変当てはまる(42.6%)」、「やや当てはまる(48.2%)」となっている。
- 小規模校は、「大変当てはまる(40.9%)」で、大規模校、中規模校よりも「大変当てはまる」とした割合が少ないものの、全体としては概ね同様の傾向となっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

g. 他の選抜方法と比較して、受験者の個性や特性等を評価する選抜を実施できた

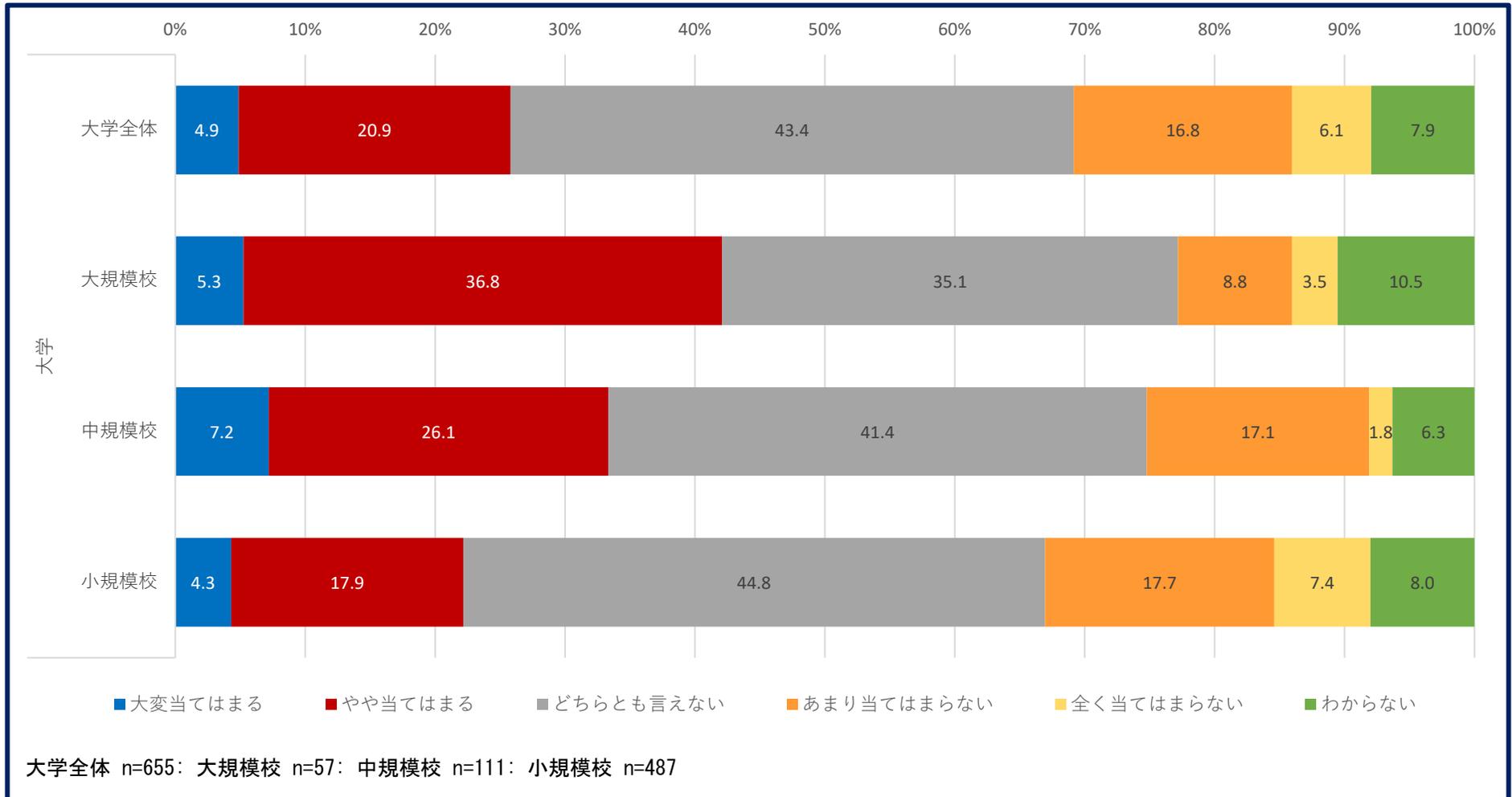
- 大学全体では、「大変当てはまる(37.3%)」、「やや当てはまる(47.6%)」となっている。
- 小規模校では、「大変当てはまる(35.7%)」、「やや当てはまる(47.0%)」となっており、大規模校、中規模校よりも、当てはまると回答した割合が少ない。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

h. 他の選抜方法と比較して、高等学校での総合的な探究の時間を活かしたいとする受験者を集めることができた

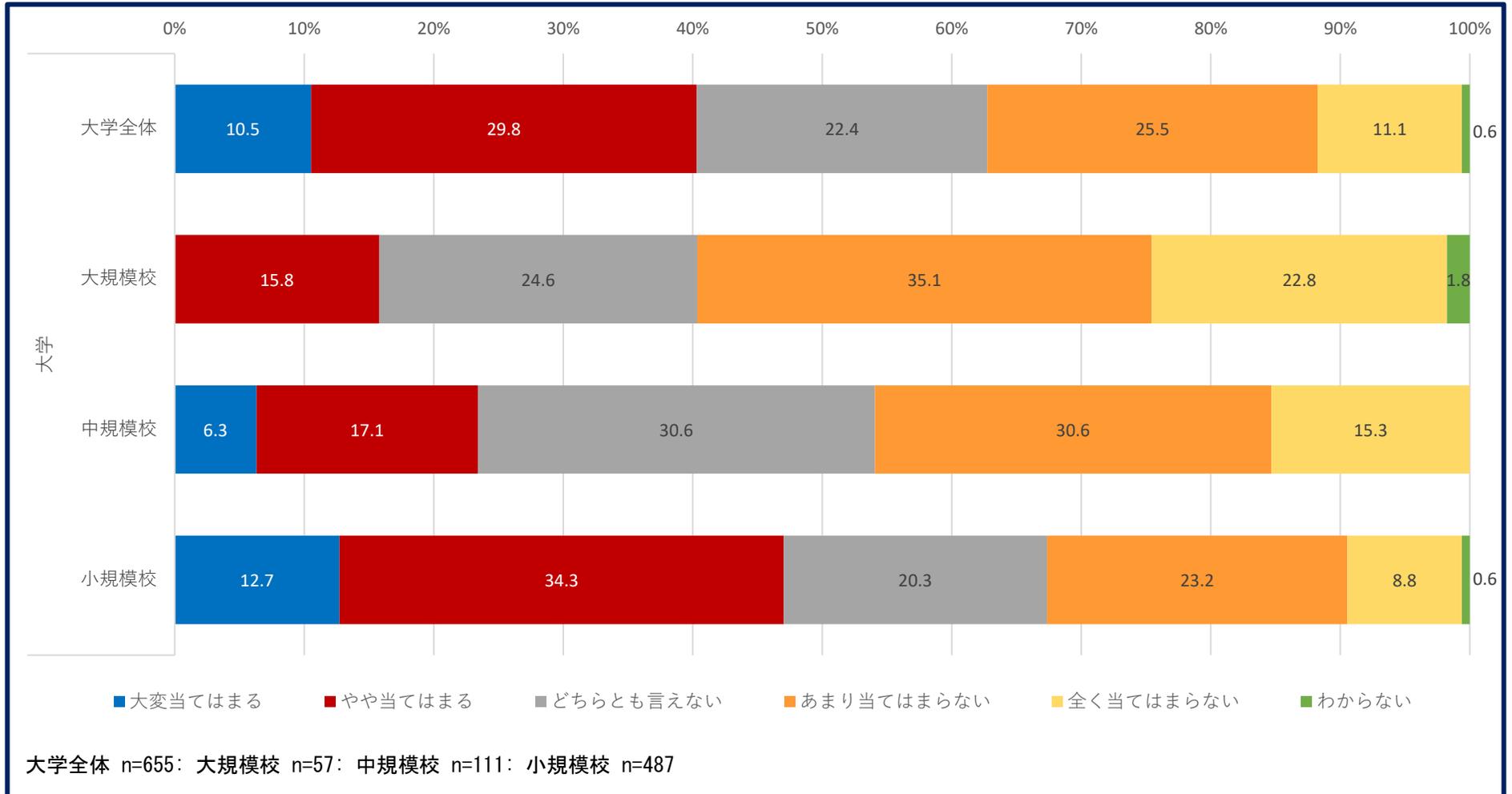
- 大学全体では、「大変当てはまる(4.9%)」、「やや当てはまる(20.9%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(5.3%)」、「やや当てはまる(36.8%)」であり、中規模校、小規模校に比べて、本項目についての評価が高い。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

i. 年内入試の実施への期待を踏えて、総合型選抜に多くの募集人員を割いた

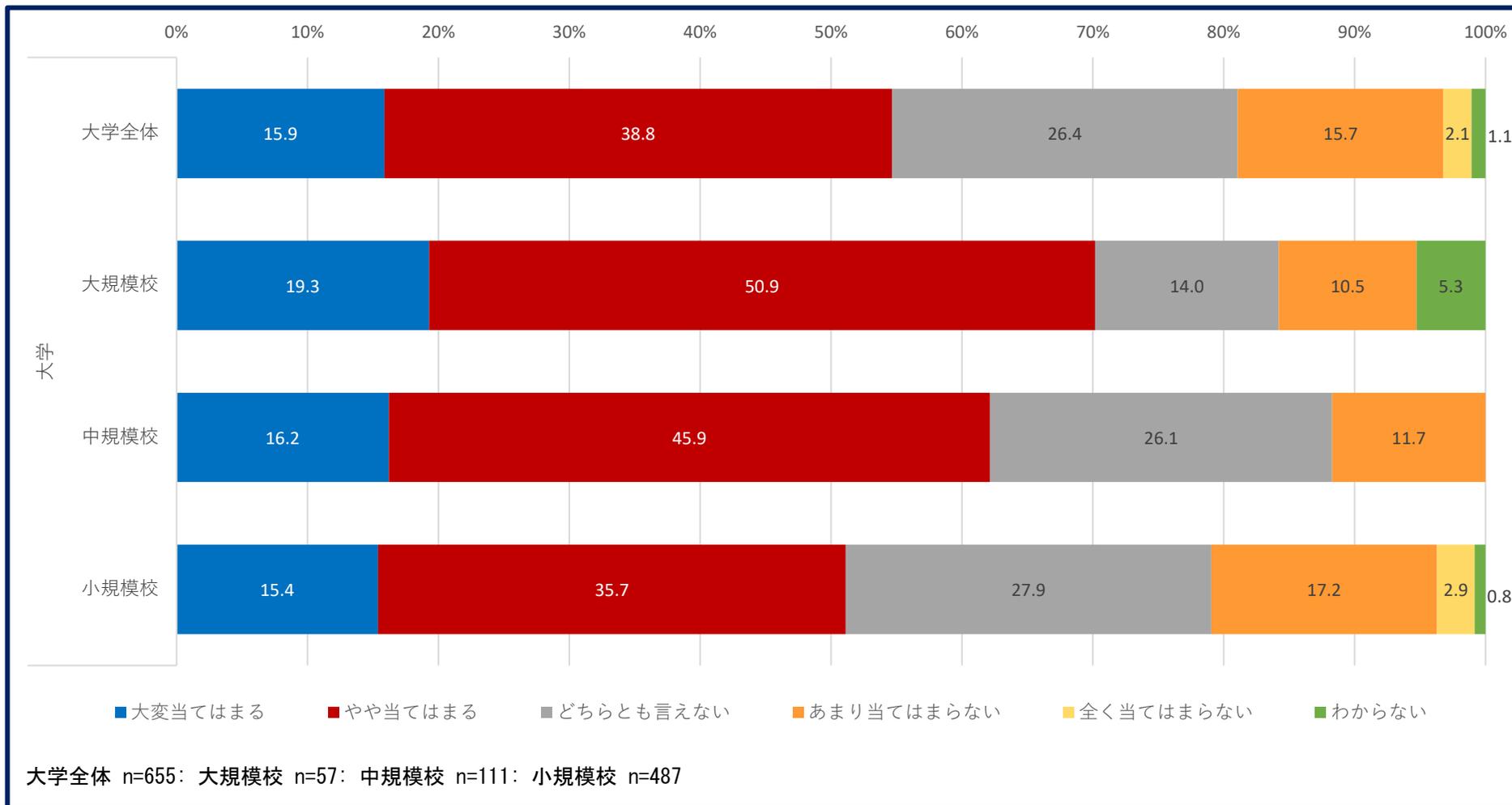
- 大学全体では、「大変当てはまる(10.5%)」、「やや当てはまる(29.8%)」となっている。
- 大学の規模が小さくなるほど、「大変当てはまる」または「やや当てはまる」と回答した比率が増加し、小規模校では、「大変当てはまる(12.7%)」、「やや当てはまる(34.3%)」となっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

j. 期待通りの入学者数を確保することができた

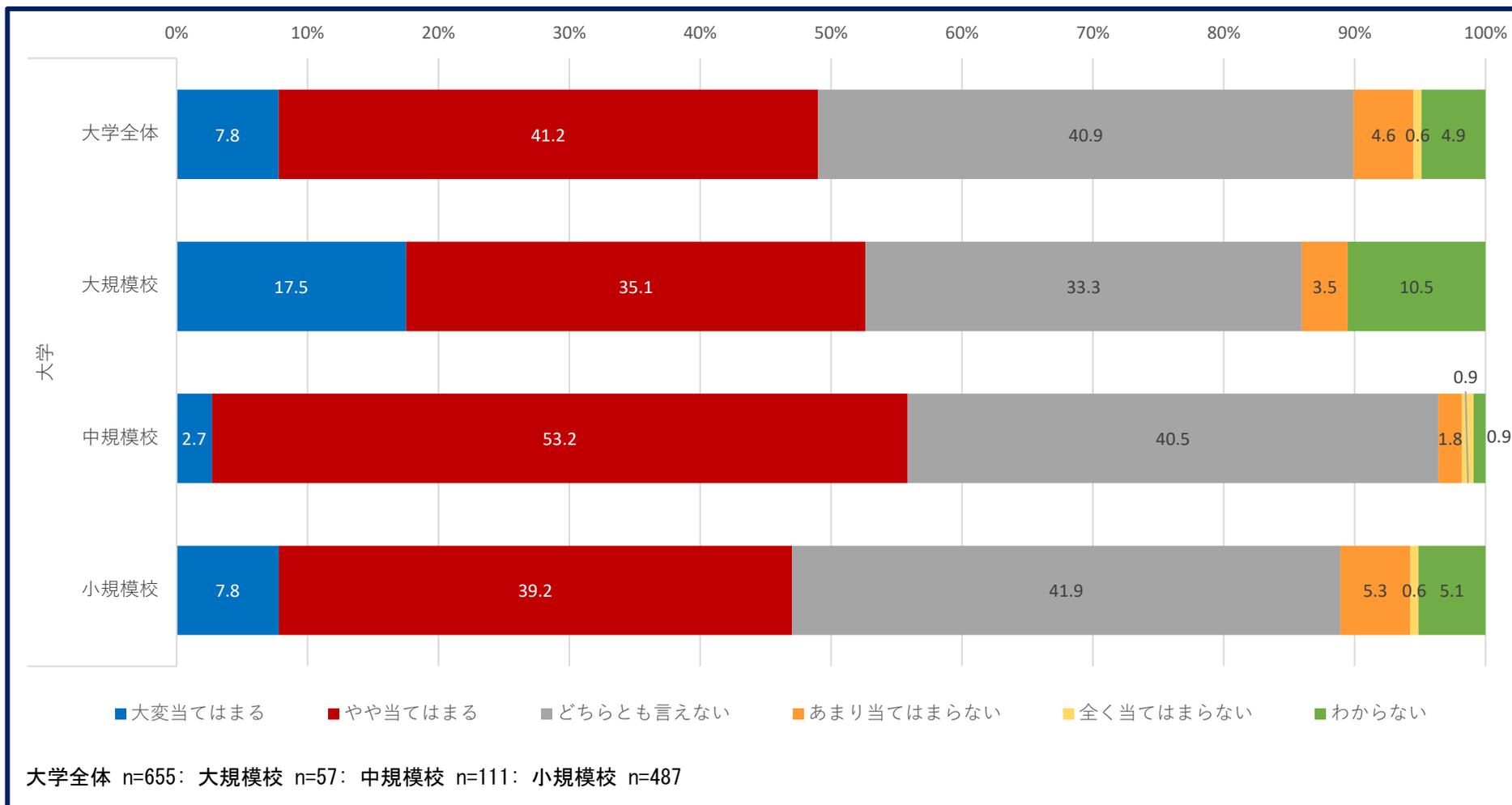
- 大学全体では、「大変当てはまる(15.9%)」、「やや当てはまる(38.8%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(19.3%)」、「やや当てはまる(50.9%)」となっており、両者合計で約70%が当てはまるとの回答であったが、中規模校、小規模校では当てはまるとした回答が減る傾向が見られた。



「総合型選抜」導入に対する評価について ②大学・規模別

k. 期待通りの入学者の質を確保することができた

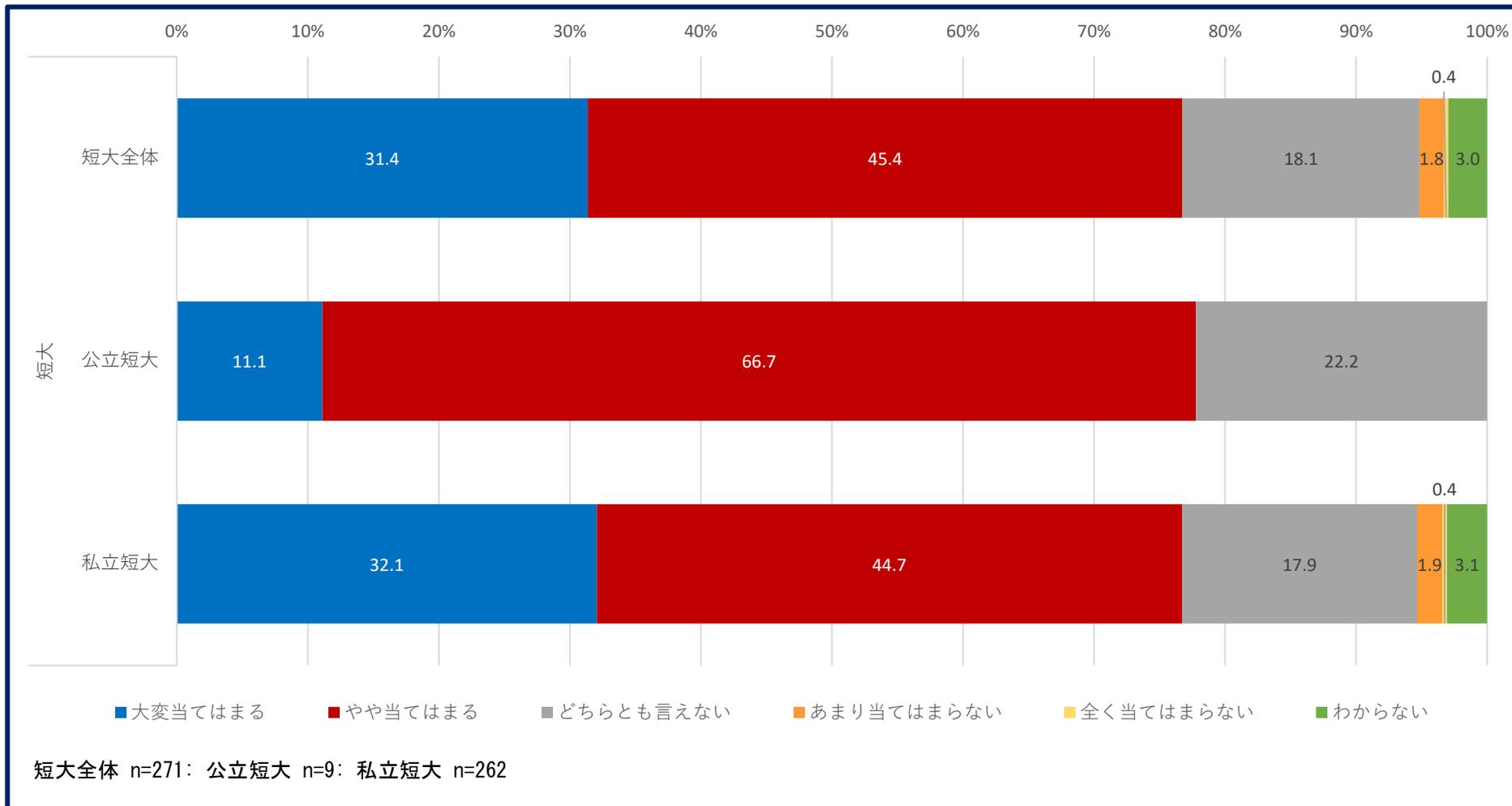
- 大学全体では、「大変当てはまる(7.8%)」、「やや当てはまる(41.2%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる(17.5%)」であるが、中規模校、小規模校では、それぞれ2.7%、7.8%となっており、規模による違いが見られた。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

a. 他の選抜方法と比較して、アドミッション・ポリシーに適った入学者を選抜することができた

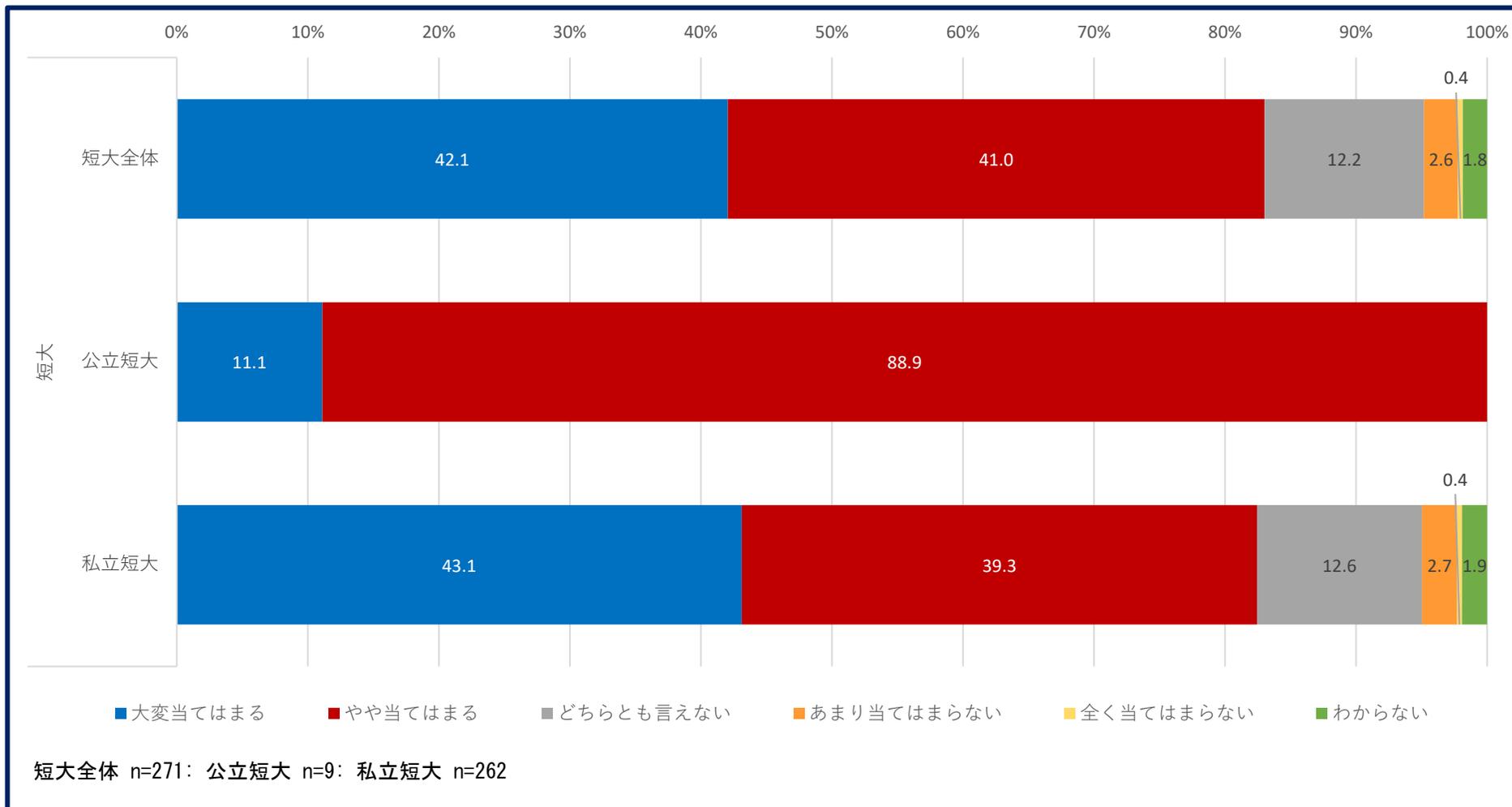
- 短大全体では、「大変当てはまる(31.4%)」、「やや当てはまる(45.4%)」となっている。
- 「大変当てはまる」とした回答は公立短大、私立短大でそれぞれ11.1%、32.1%と違いがあるが、「大変当てはまる」と「やや当てはまる」の合計で見ると、ほぼ同程度となっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

b. 他の選抜方法と比較して、学力検査を重視した入試では選抜できない資質を持つ入学者を選抜することができた

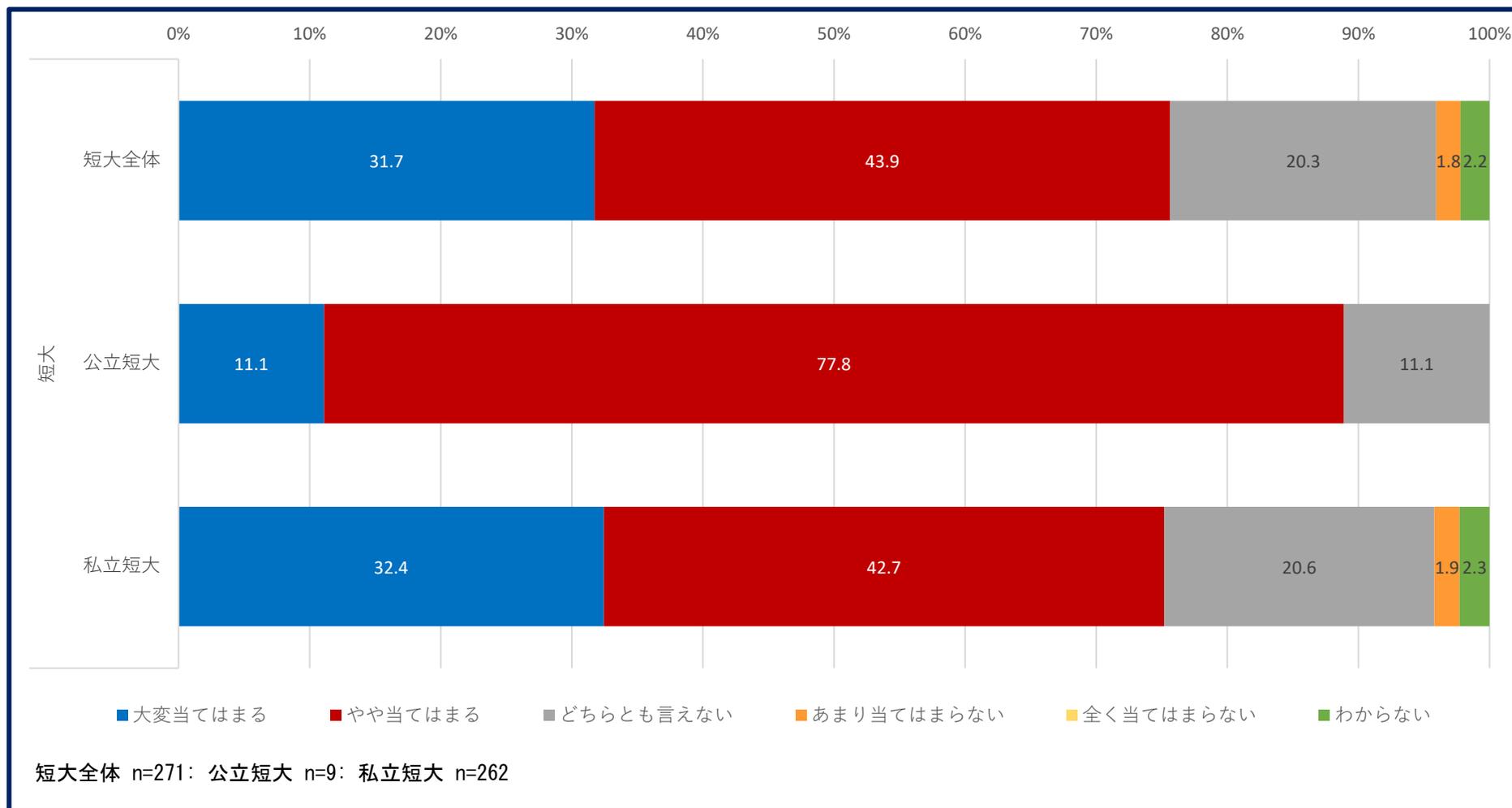
- 短大全体では、「大変当てはまる(42.1%)」、「やや当てはまる(41.0%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(11.1%)」、「やや当てはまる(88.9%)」で、すべての短大が当てはまると評価した。
- 私立短大では、「大変当てはまる(43.1%)」、「やや当てはまる(39.3%)」となっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

c. 他の選抜方法と比較して、主体性・多様性・協働性を持って学ぶ姿勢や態度を持つ入学者を選抜できた

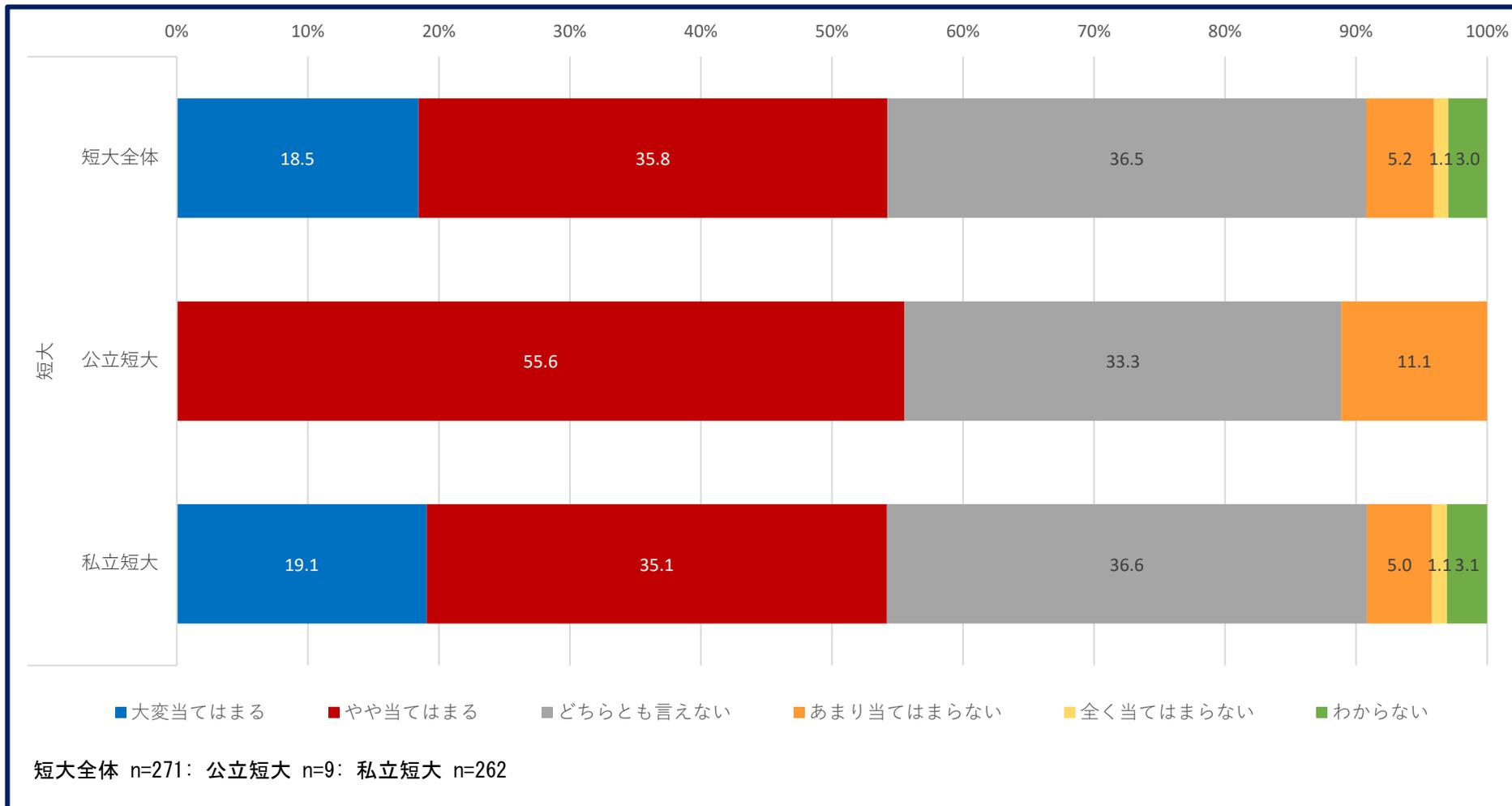
- 短大全体では、「大変当てはまる(31.7%)」、「やや当てはまる(43.9%)」となっており、私立短大も同様の傾向である。
- 公立短大では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」がそれぞれ11.1%、77.8%となっており、約9割が当てはまると回答した。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

d. 他の選抜方法と比較して、学修意欲の高い入学者を選抜できた

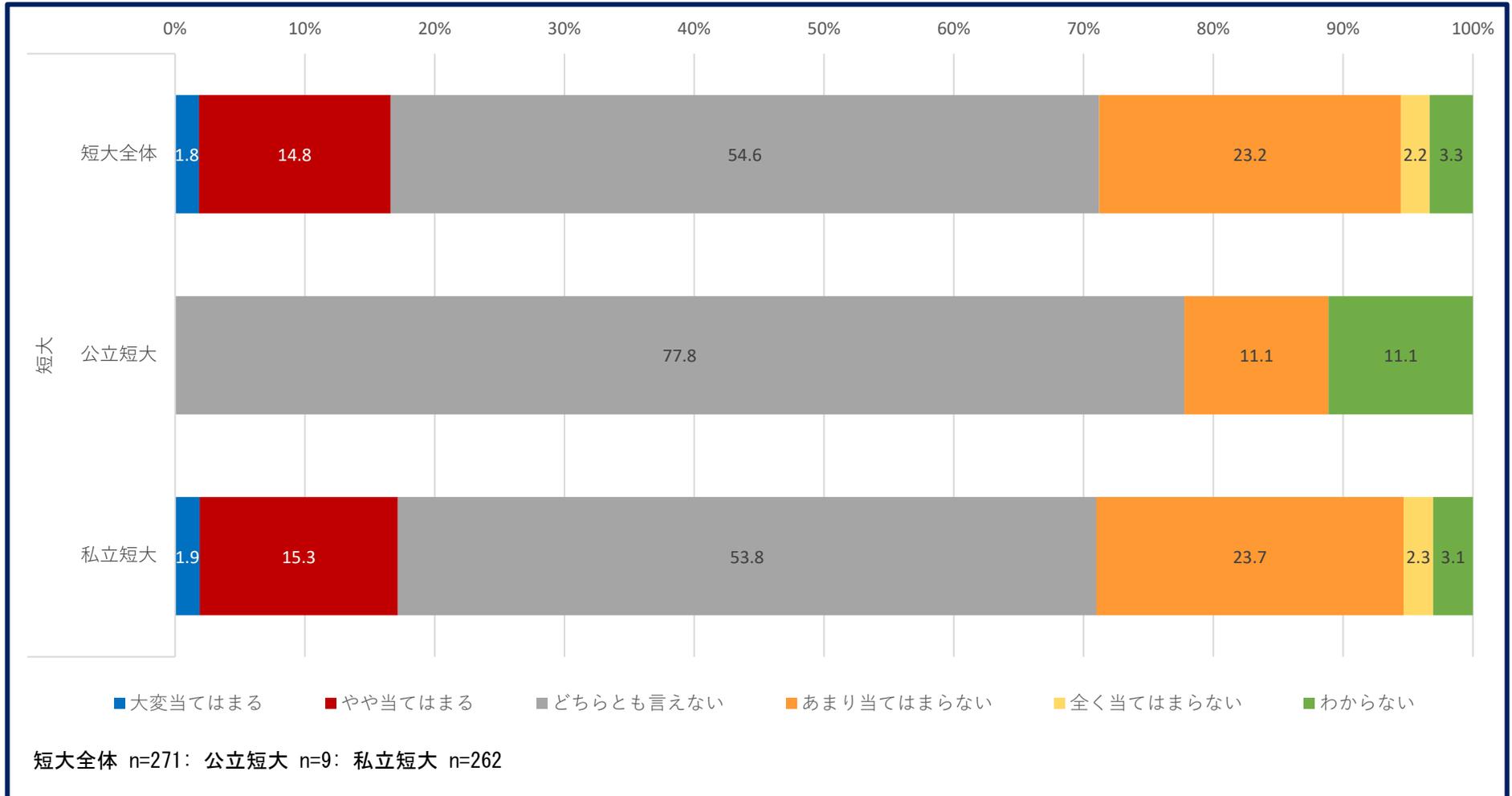
- 短大全体では、「大変当てはまる(18.5%)」、「やや当てはまる(35.8%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる」は0%だが、「やや当てはまる」とした回答が55.6%となっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

e. 他の選抜方法と比較して、大学の学業成績が良い入学者を選抜できた

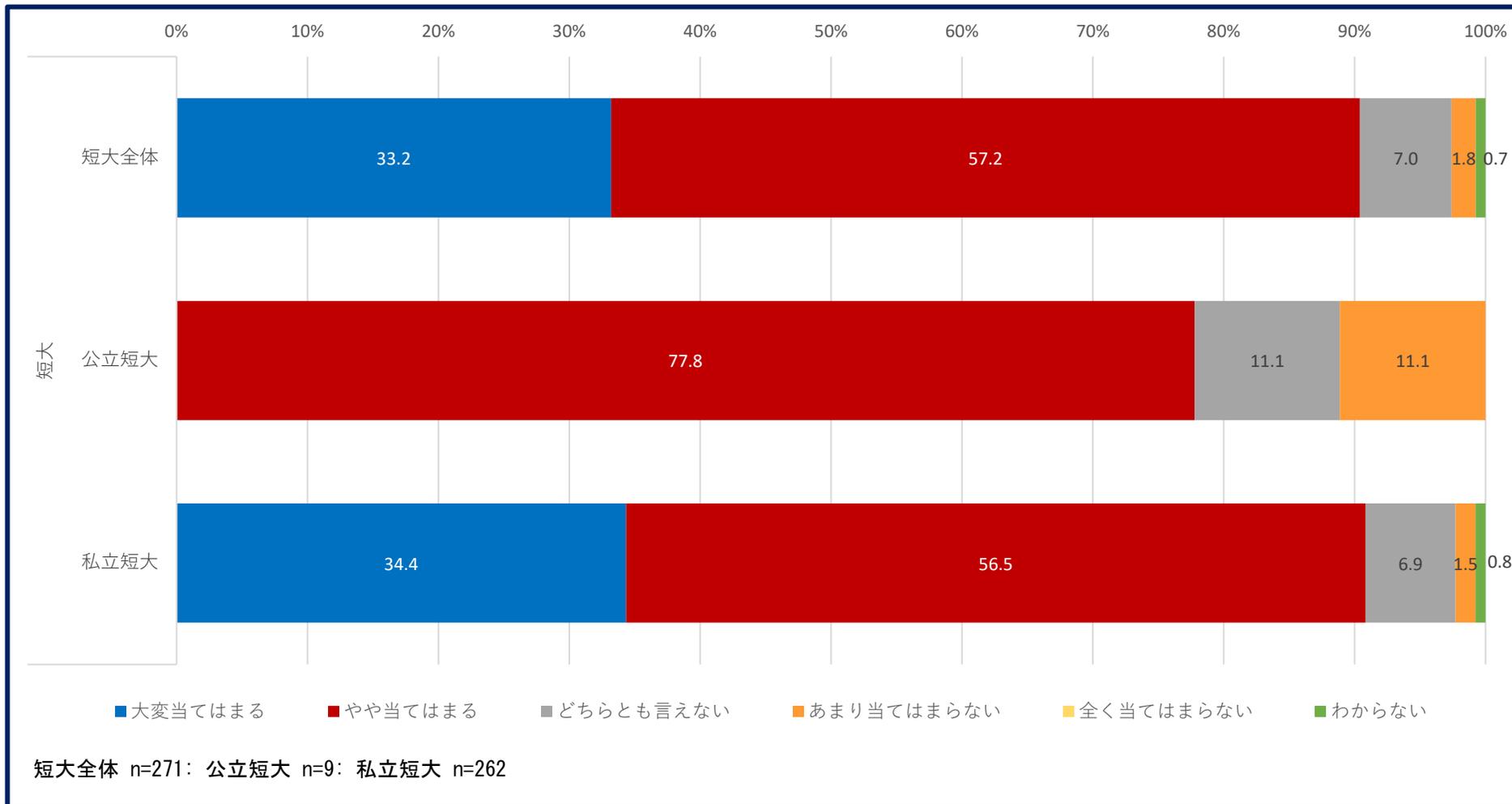
- 短大全体では、「大変当てはまる(1.8%)」、「やや当てはまる(14.8%)」、「どちらとも言えない(54.6%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」という回答はなく、77.8%が「どちらとも言えない」と評価した。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

f. 他の選抜方法と比較して、受験者を多面的・総合的に評価する選抜を実施できた

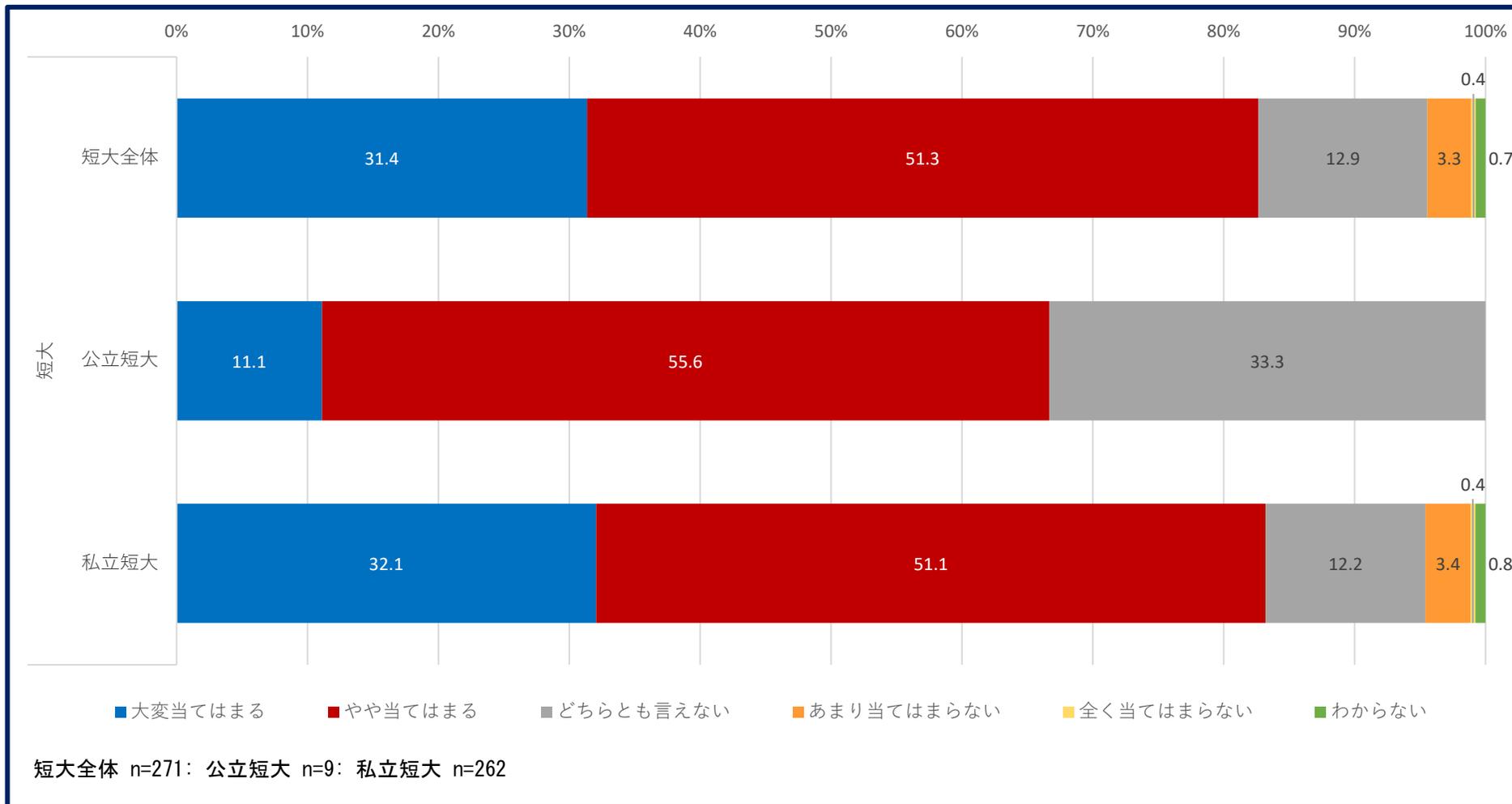
- 短大全体では、「大変当てはまる(33.2%)」、「やや当てはまる(57.2%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる」は0%であるが、77.8%が「やや当てはまる」と回答した。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

g. 他の選抜方法と比較して、受験者の個性や特性等を評価する選抜を実施できた

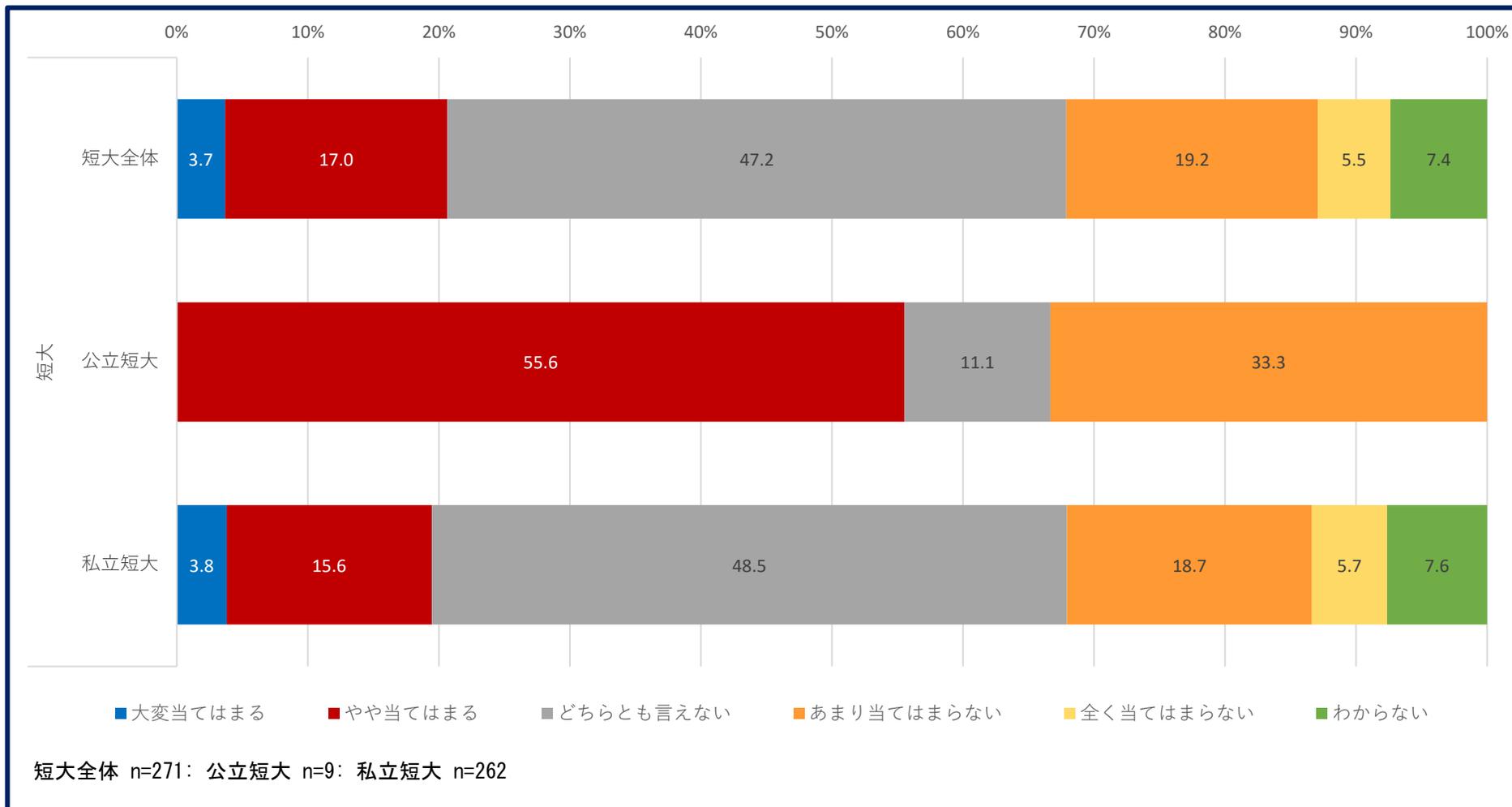
- 短大全体では、「大変当てはまる(31.4%)」、「やや当てはまる(51.3%)」となっている。
- 公立短大は、「大変当てはまる(11.1%)」、「やや当てはまる(55.6%)」となっており、私立短大に比べて当てはまるとした回答が少ない。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

h. 他の選抜方法と比較して、高等学校での総合的な探究の時間を活かしたいとする受験者を集めることができた

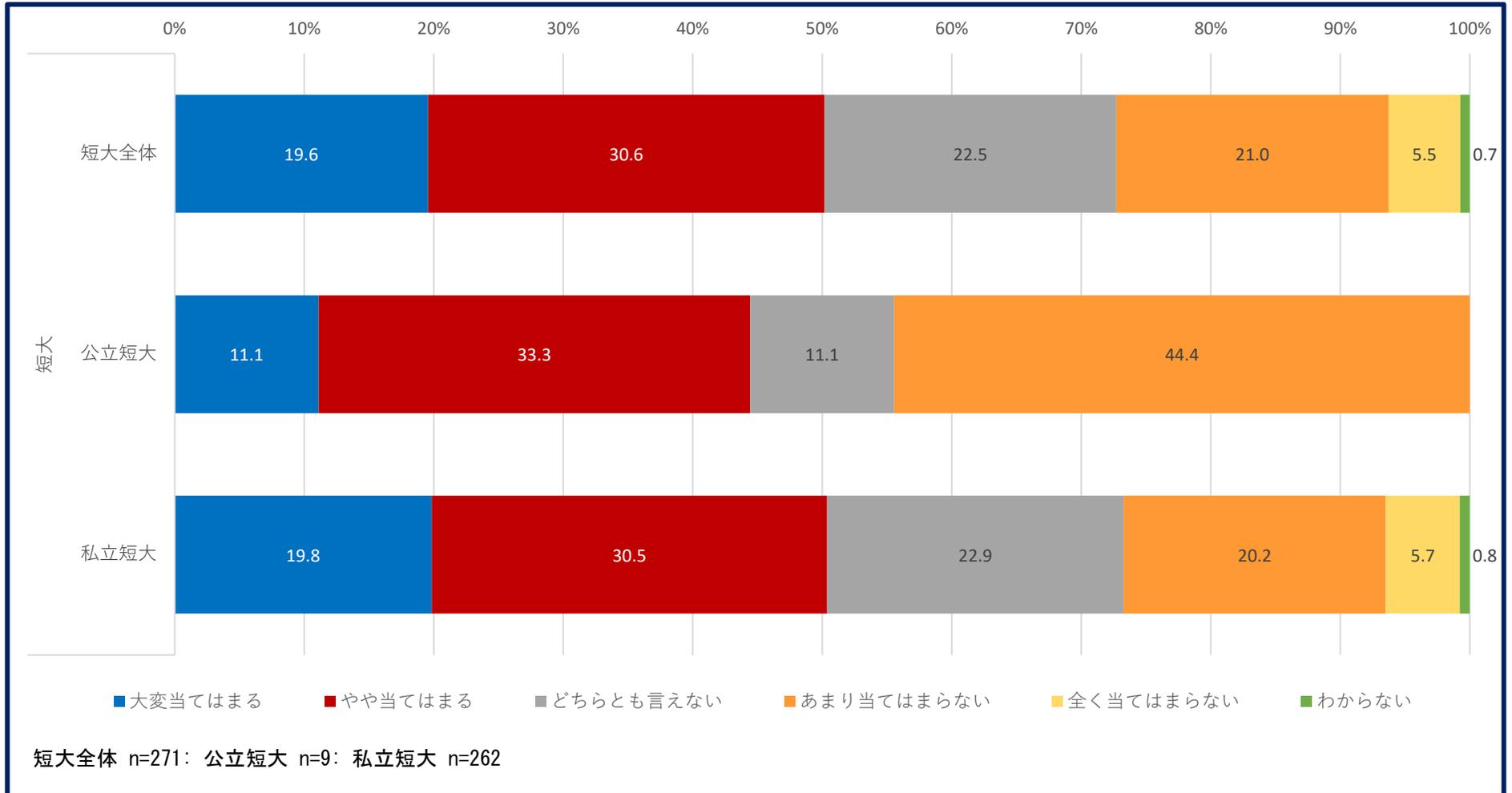
- 短大全体では、「大変当てはまる(3.7%)」、「やや当てはまる(17.0%)」、「どちらとも言えない(47.2%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる」は0%であったが、「やや当てはまる」とした回答が55.6%あり、私立短大と異なる傾向が見られた。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

i. 年内入試の実施への期待を踏えて、総合型選抜に多くの募集人員を割いた

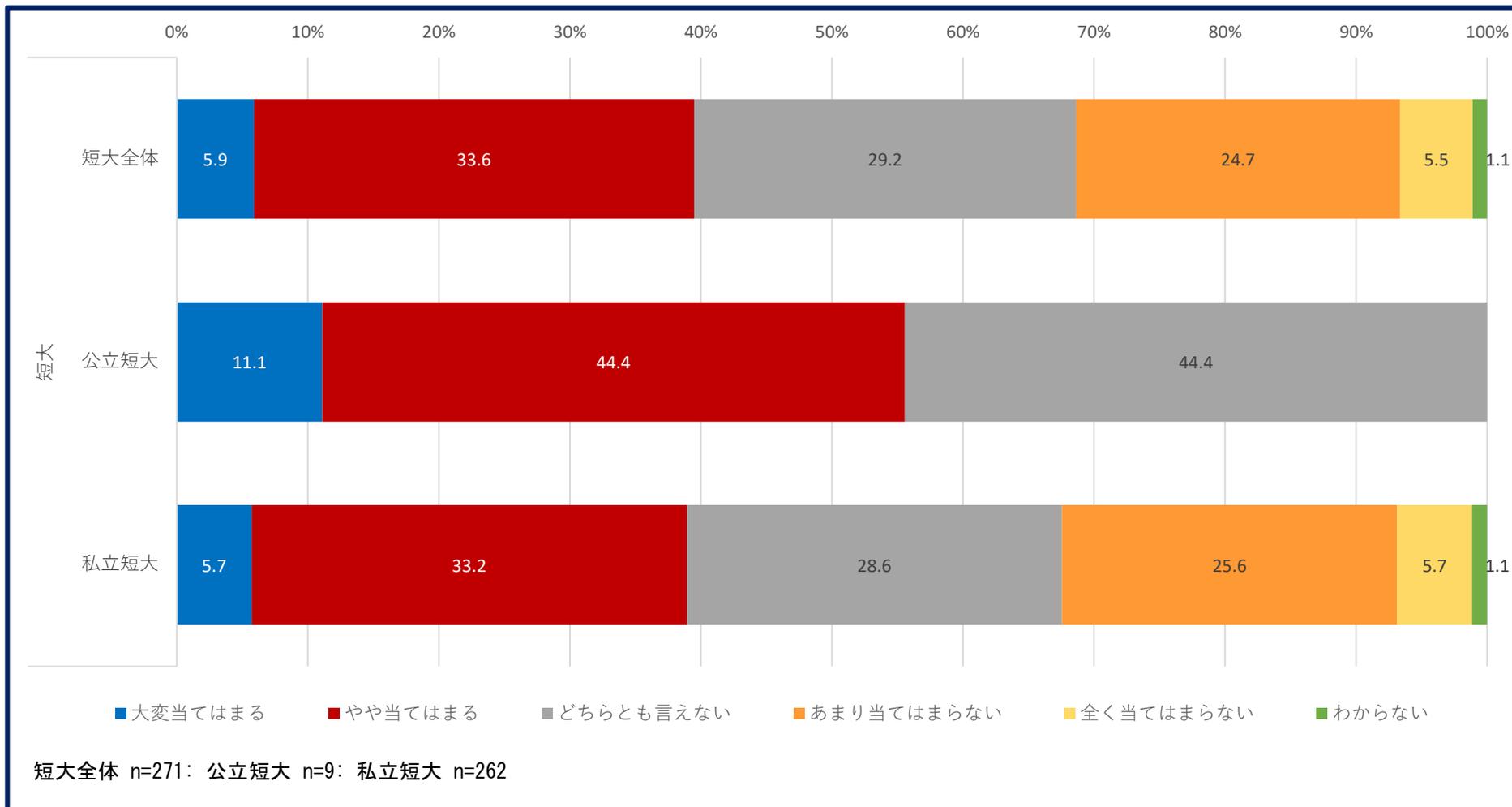
- 短大全体では、「大変当てはまる(19.6%)」、「やや当てはまる(30.6%)」となっている。
- 「大変当てはまる」と「やや当てはまる」の合計は、公立短大、私立短大それぞれ約44%、約50%となっている。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

j. 期待通りの入学者数を確保することができた

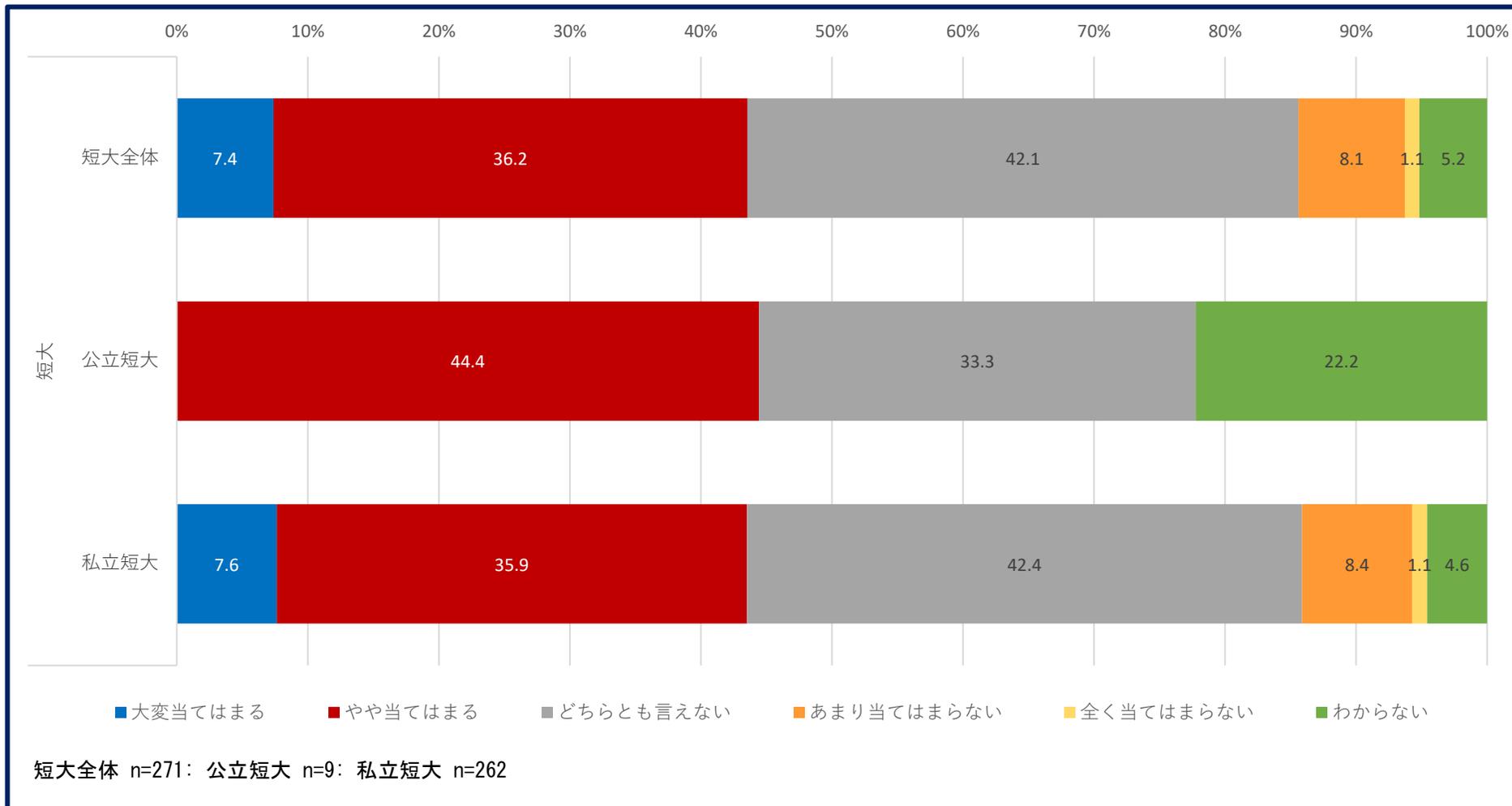
- 短大全体では、「大変当てはまる(5.9%)」、「やや当てはまる(33.6%)」となっている。
- 公立短大では、「あまり当てはまらない」または「全く当てはまらない」とした回答はなく、「大変当てはまる(11.1%)」、「やや当てはまる(44.4%)」であった。



「総合型選抜」導入に対する評価について ③短大・設置主体別

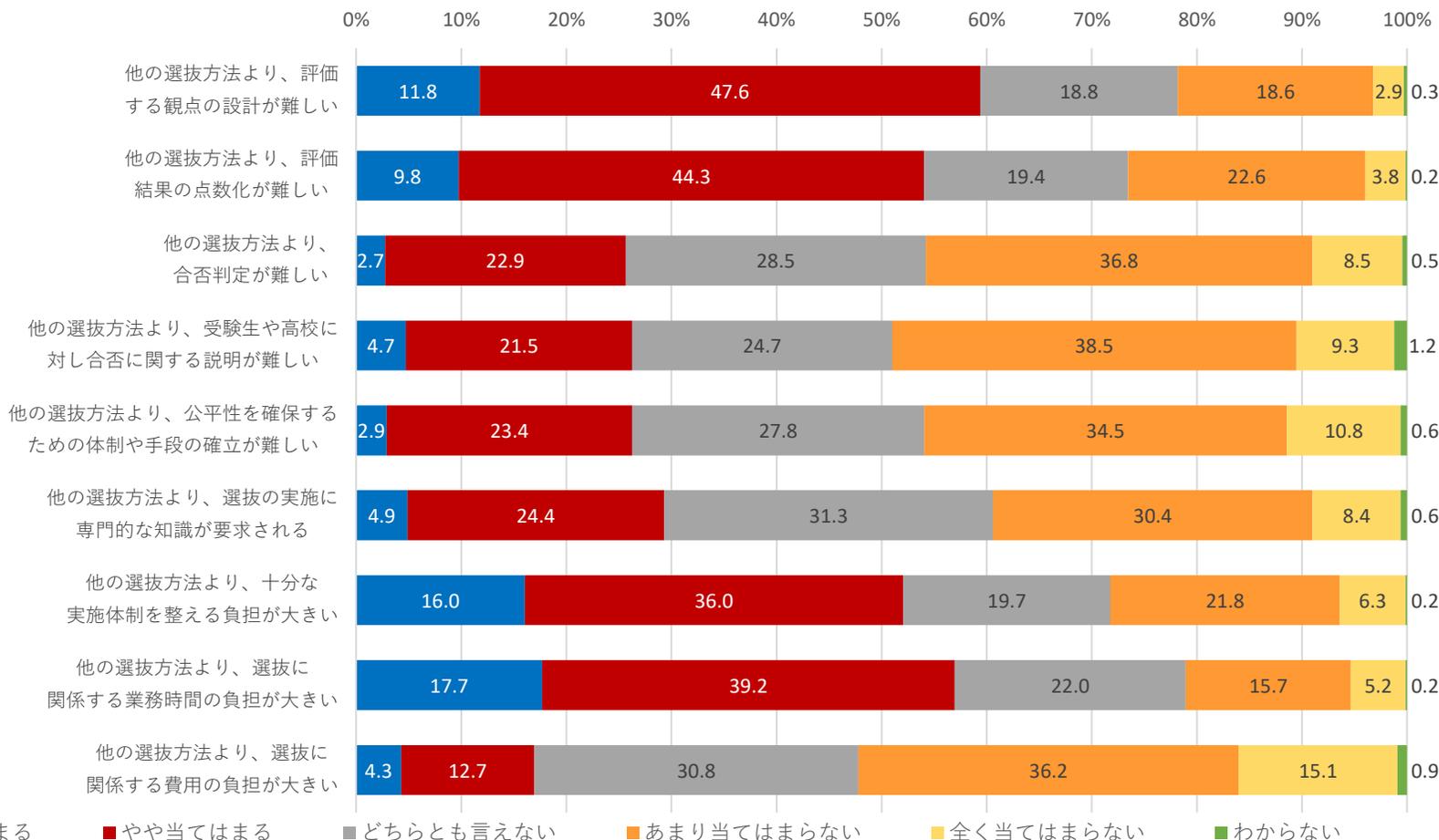
k. 期待通りの入学者の質を確保することができた

- 短大全体では、「大変当てはまる(7.4%)」、「やや当てはまる(36.2%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる」とした回答は0%であるが、「やや当てはまる」は44.4%となっており、当てはまると評価した割合は私立短大と同程度であった。



「総合型選抜」導入に対する課題について ①大学全体

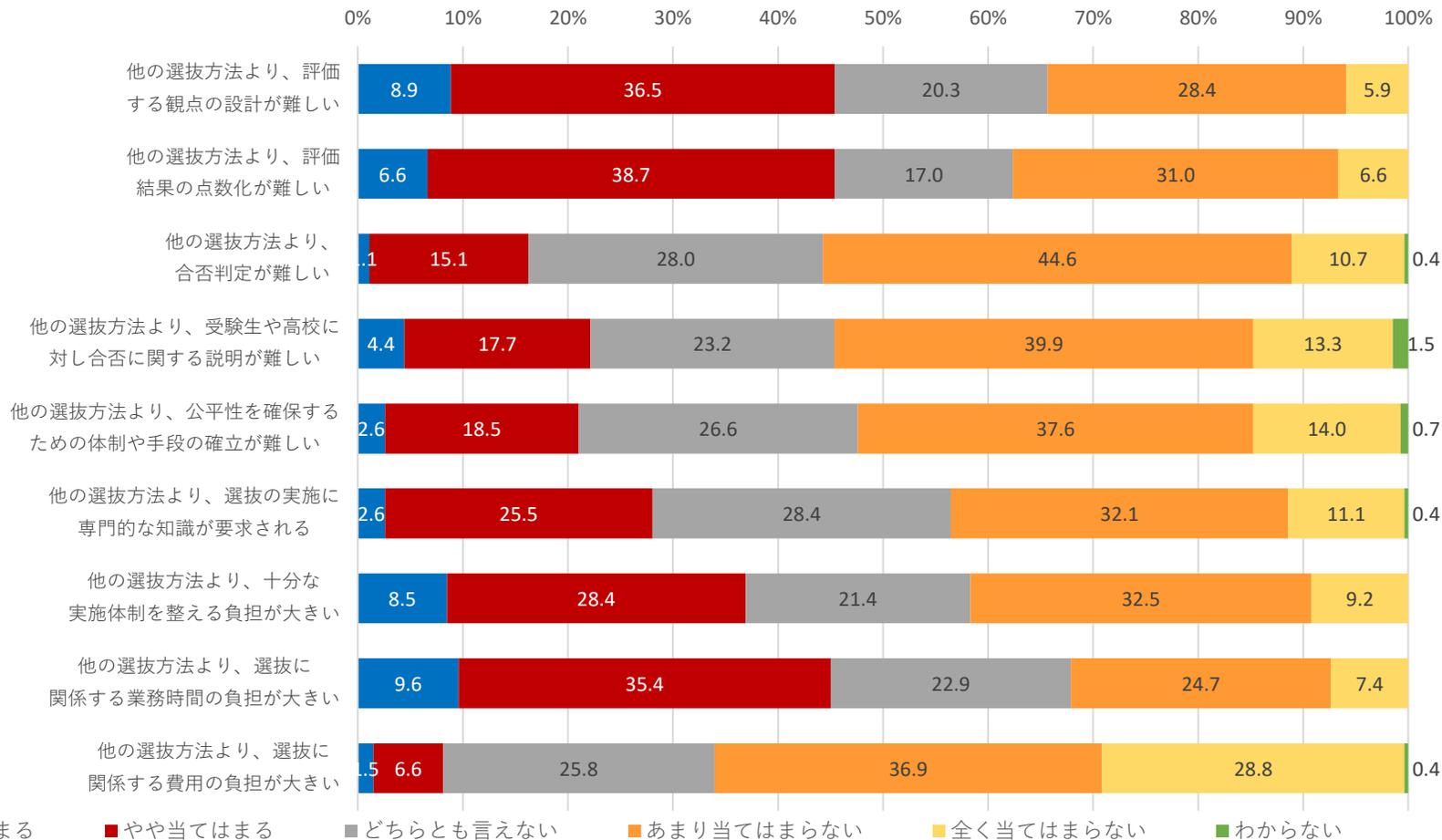
- 「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計で見ると、「他の選抜方法より、評価する観点の設計が難しい」とする回答が59.4%で最も多く、以下、「他の選抜方法より、選抜に関する業務時間の負担が大きい」、「他の選抜方法より、評価結果の点数化が難しい」、「他の選抜方法より、十分な実施体制を整える負担が大きい」という回答が続いている。



大学全体 n=655

「総合型選抜」導入に対する課題について ②短大全体

- 「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計で見ると、「他の選抜方法より、評価する観点の設計が難しい」、「他の選抜方法より、評価結果の点数化が難しい」、「他の選抜方法より、選抜に関する業務時間の負担が大きい」という課題が約45%程度となっている。次いで、「他の選抜方法より、十分な実施体制を整える負担が大きい」という回答が続いている。

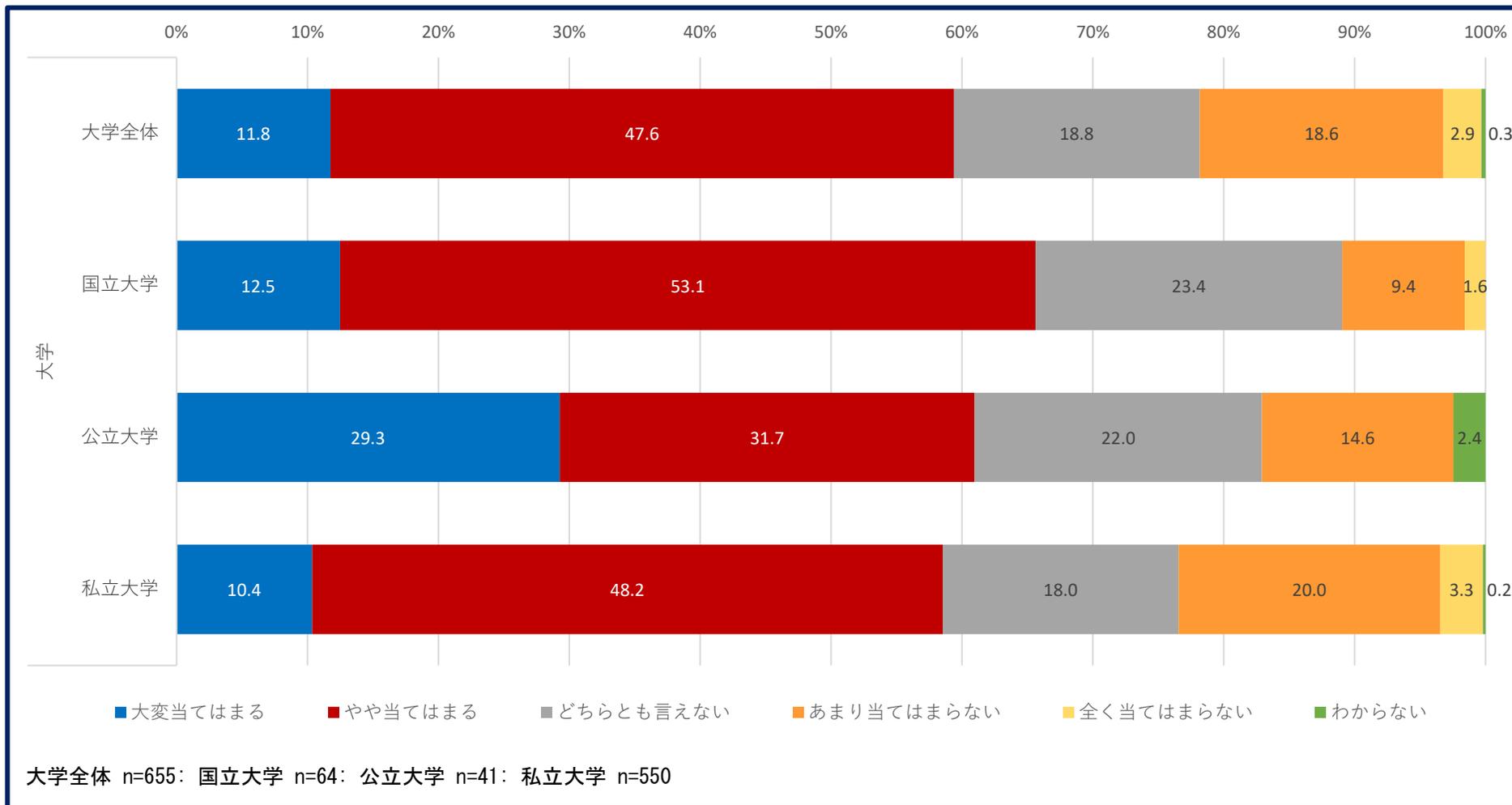


短大全体 n=271

「総合型選抜」導入に対する課題について ①大学・設置主体別

a. 他の選抜方法より、評価する観点の設計が難しい

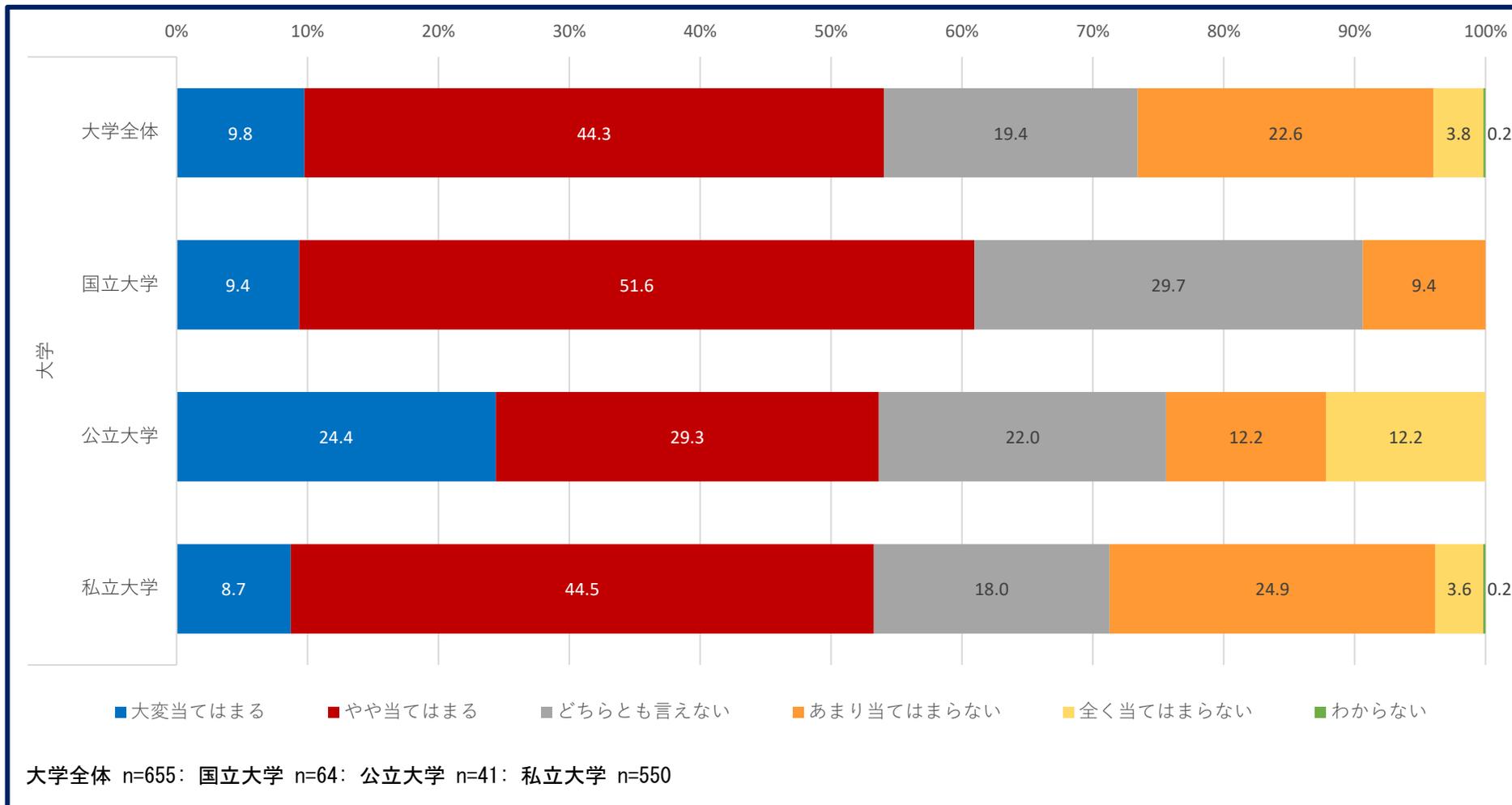
- 大学全体では、「大変当てはまる(11.8%)」、「やや当てはまる(47.6%)」となっている。
- 公立大学では「大変当てはまる(29.3%)」で、国立大学、私立大学に比べて、「大変当てはまる」とした割合が多くなっている。一方、私立大学では「あまり当てはまらない」とする回答の割合が国立大学、公立大学よりも多い。



「総合型選抜」導入に対する課題について ①大学・設置主体別

b. 他の選抜方法より、評価結果の点数化が難しい

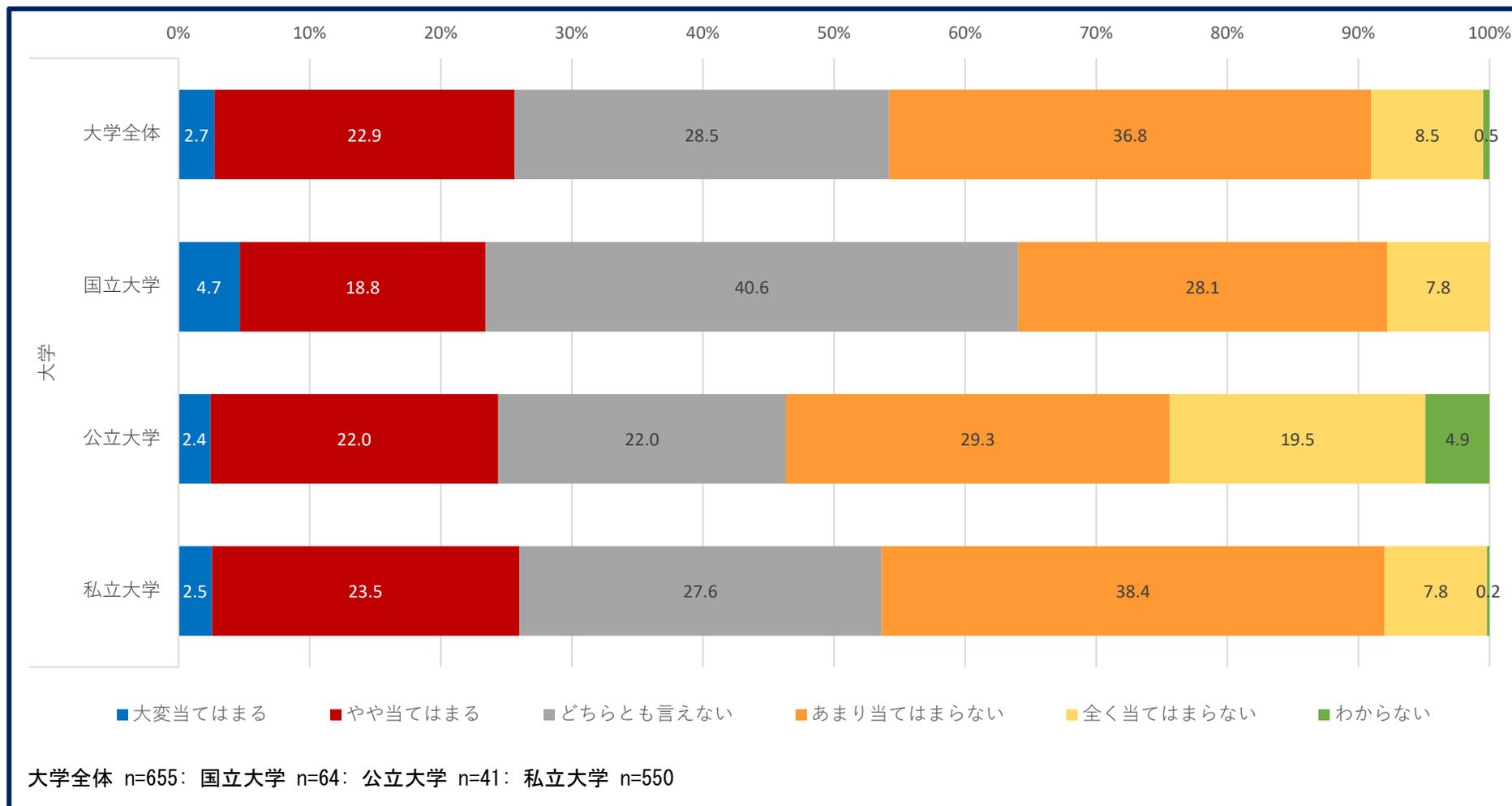
- 大学全体では、「大変当てはまる(9.8%)」、「やや当てはまる(44.3%)」となっている。
- 公立大学では「大変当てはまる(24.4%)」で、国立大学、私立大学に比べて、「大変当てはまる」とした割合が多くなっている。一方、私立大学では「あまり当てはまらない」とする回答の割合が多い。



「総合型選抜」導入に対する課題について ①大学・設置主体別

c. 他の選抜方法より、合否判定が難しい

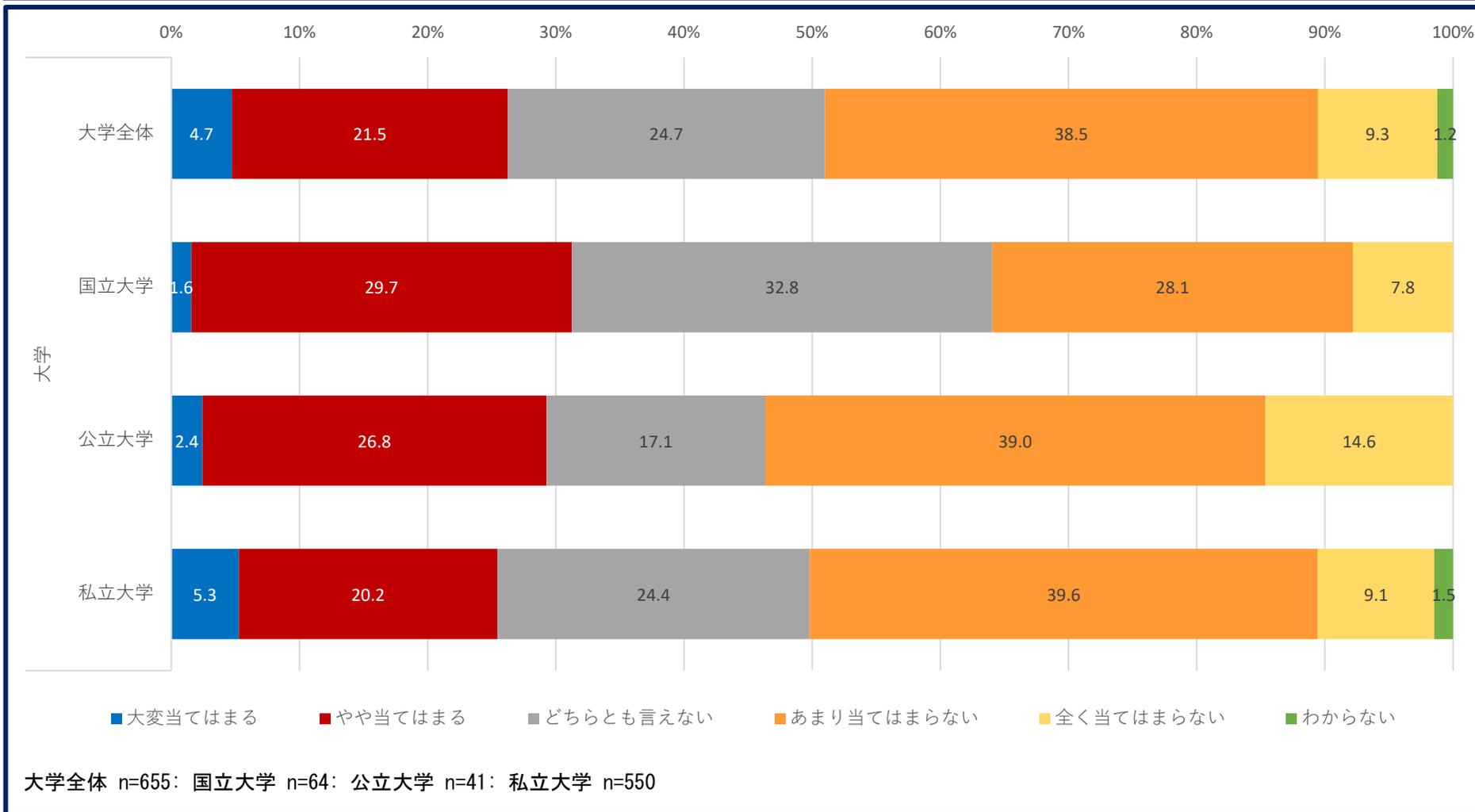
- 大学全体では、「当てはまらない(36.8%)」が最も多く、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」はそれぞれ2.7%、22.9%である。
- 国立大学、私立大学では、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」の合計が50%弱となっており、国立大学よりも多くなっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ①大学・設置主体別

d. 他の選抜方法より、受験生や高校に対し合否に関する説明が難しい

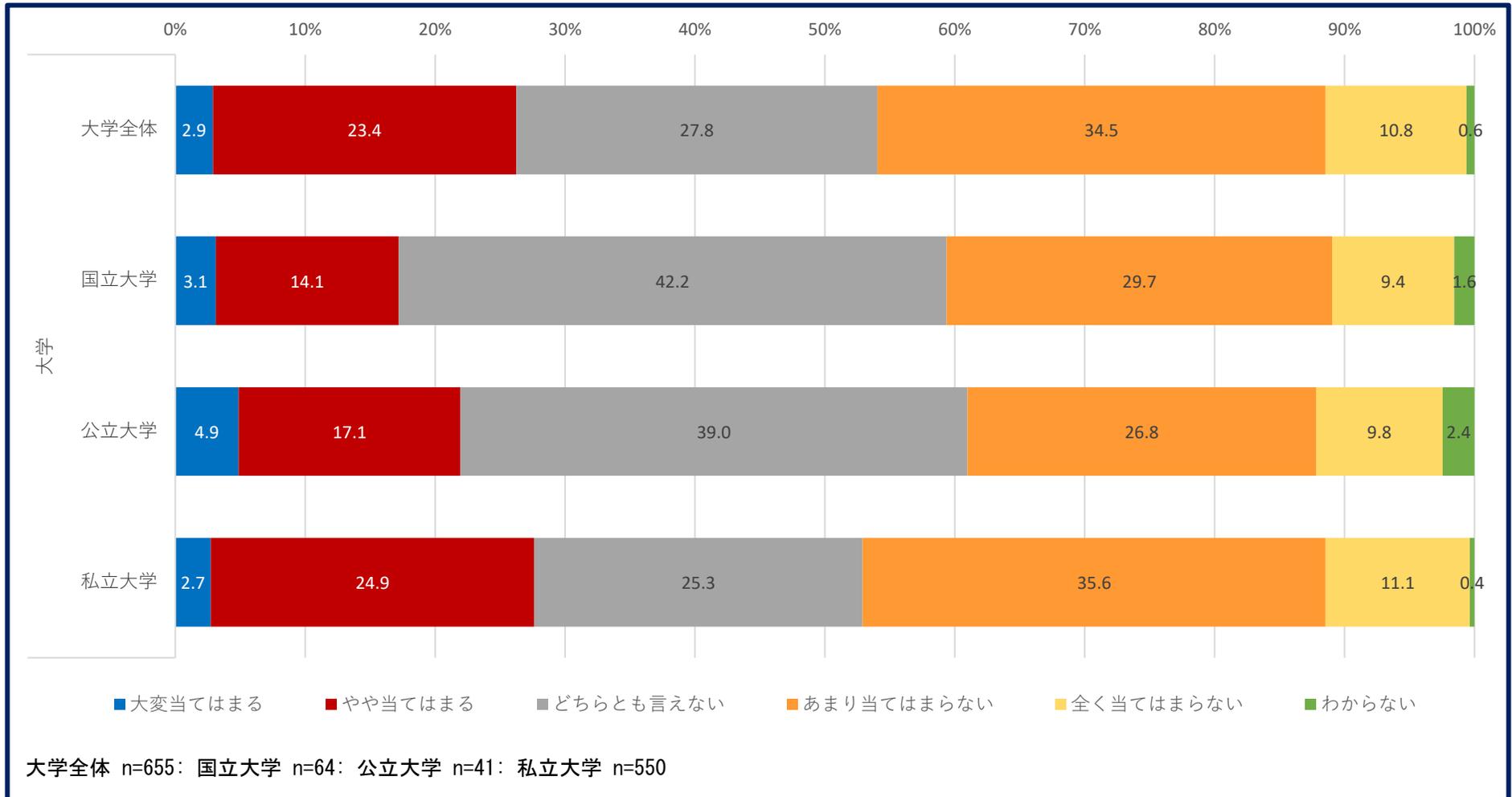
- 大学全体では、「あまり当てはまらない(38.5%)」が最も多く、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」はそれぞれ4.7%、21.5%である。
- 公立大学、私立大学では、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」の合計が概ね50%程度となっており、国立大学よりも多くなっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ①大学・設置主体別

e. 他の選抜方法より、公平性を確保するための体制や手段の確立が難しい

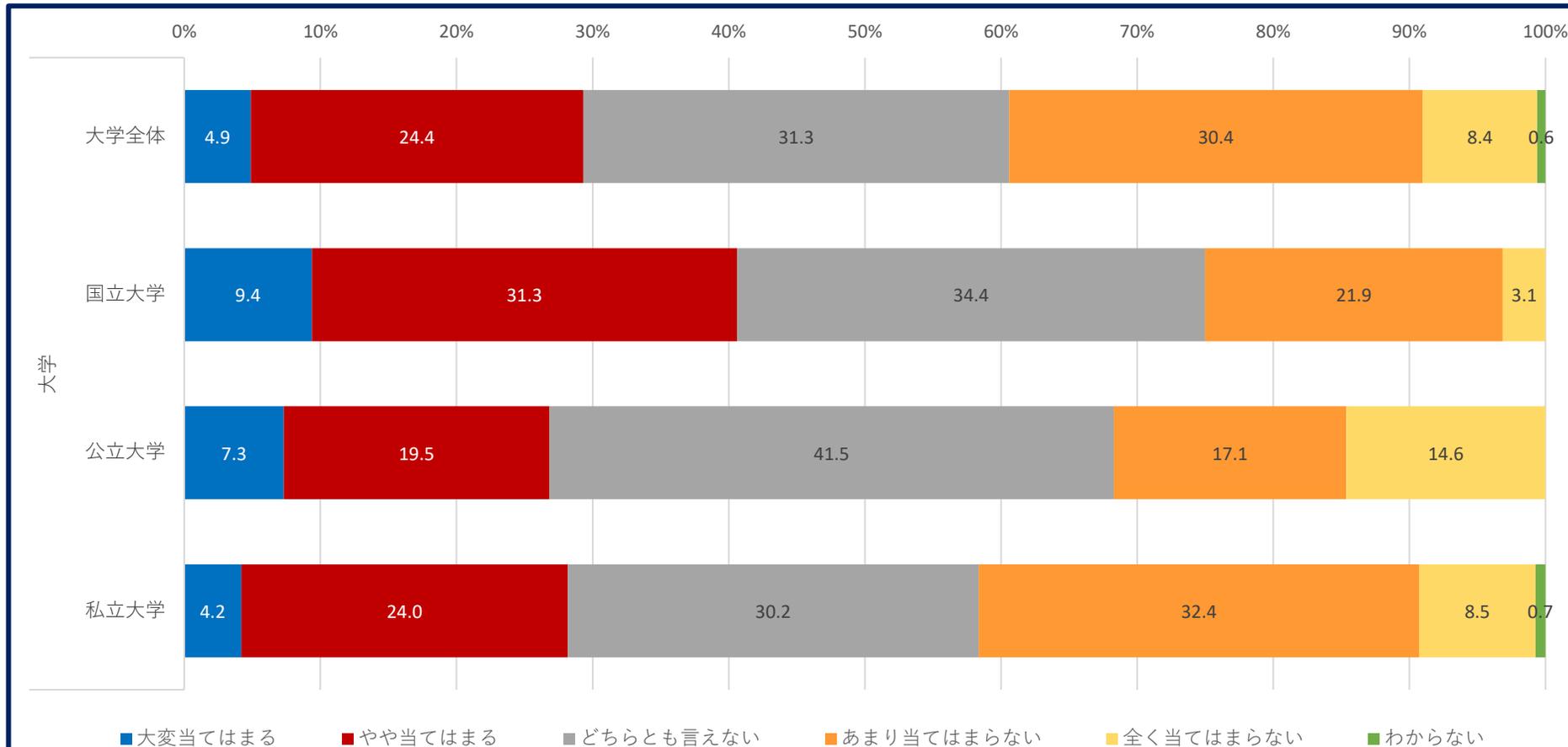
- 大学全体では、「あまり当てはまらない」が34.5%で最も多く、「大変当てはまる(2.9%)」、「やや当てはまる(23.4%)」となっている。
- 「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計比率で見ると、国立大学に比べて、公立大学、私立大学では当てはまるとする回答が多くなっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ①大学・設置主体別

f. 他の選抜方法より、選抜の実施に専門的な知識が要求される

- 大学全体では、「どちらとも言えない(31.3%)」、「あまり当てはまらない(30.4%)」が多く、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」はそれぞれ4.9%、24.4%となっている。
- 国立大学では、「大変当てはまる(9.4%)」、「やや当てはまる(31.3%)」となっており、公立大学、私立大学に比べて、当てはまるとする回答が多い。

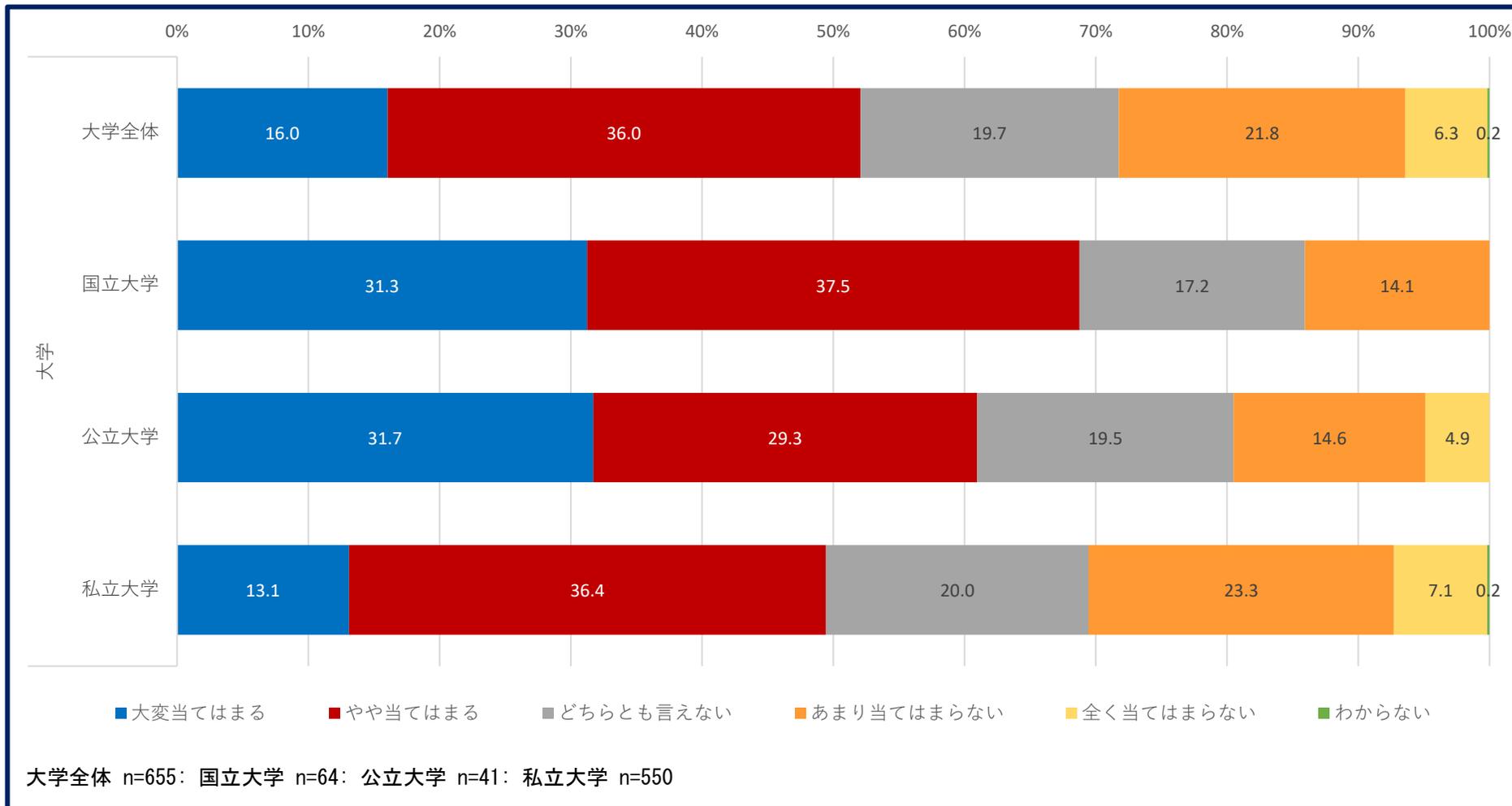


大学全体 n=655: 国立大学 n=64: 公立大学 n=41: 私立大学 n=550

「総合型選抜」導入に対する課題について ①大学・設置主体別

g. 他の選抜方法より、十分な実施体制を整える負担が大きい

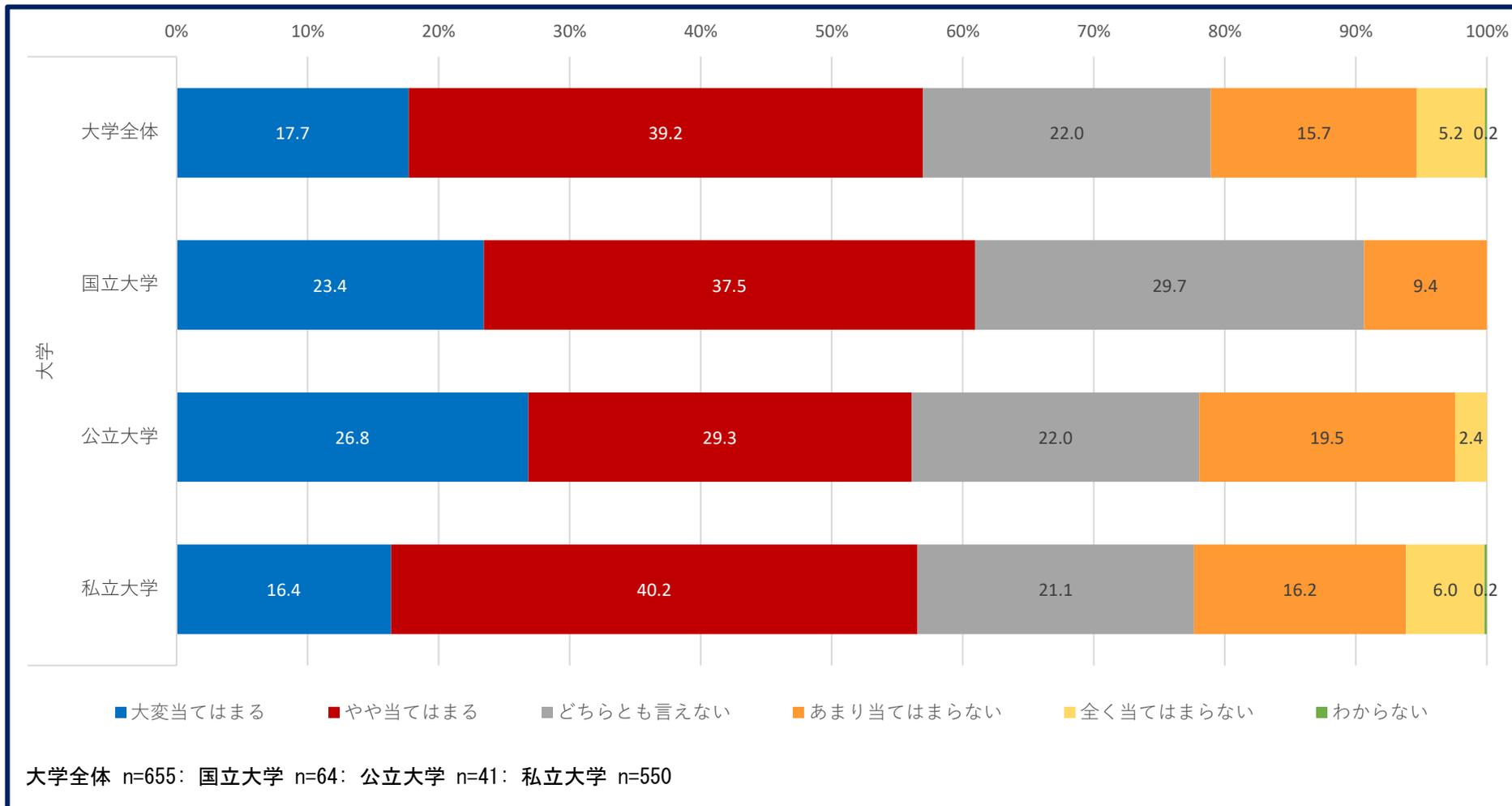
- 大学全体では、「大変当てはまる(16.0%)」、「やや当てはまる(36.0%)」となっている。
- 「大変当てはまる」または「やや当てはまる」と回答した割合は、国立大学が最も多く、公立大学、私立大学の順に少なくなる。



「総合型選抜」導入に対する課題について ①大学・設置主体別

h. 他の選抜方法より、選抜に関係する業務時間の負担が大きい

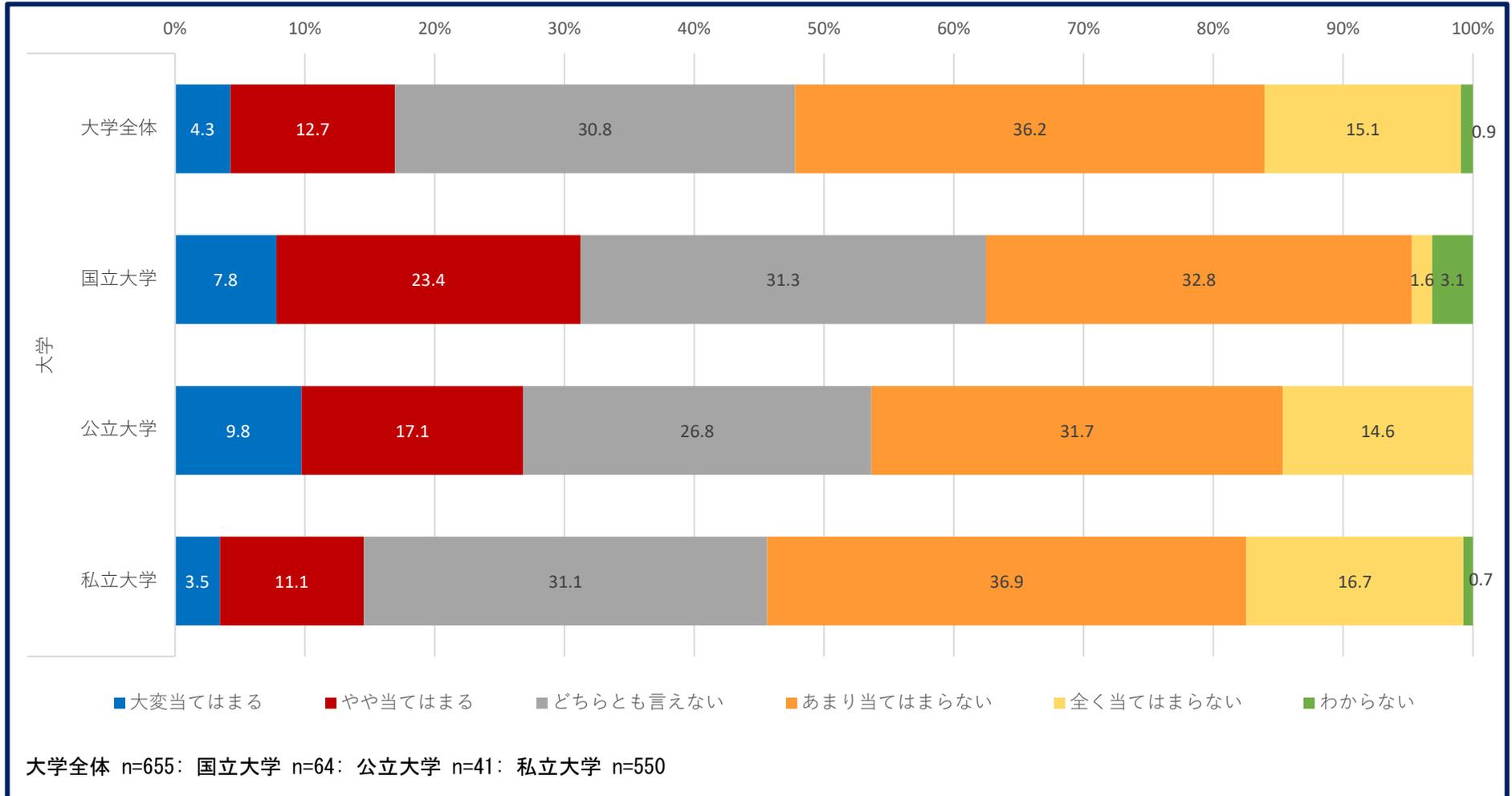
- 大学全体では、「大変当てはまる(17.7%)」、「やや当てはまる(39.2%)」となっている。
- 国立大学では、「大変当てはまる(23.4%)」、「やや当てはまる(37.5%)」であり、両者の合計比率は公立大学、私立大学よりも若干多くなっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ①大学・設置主体別

i. 他の選抜方法より、選抜に関する費用の負担が大きい

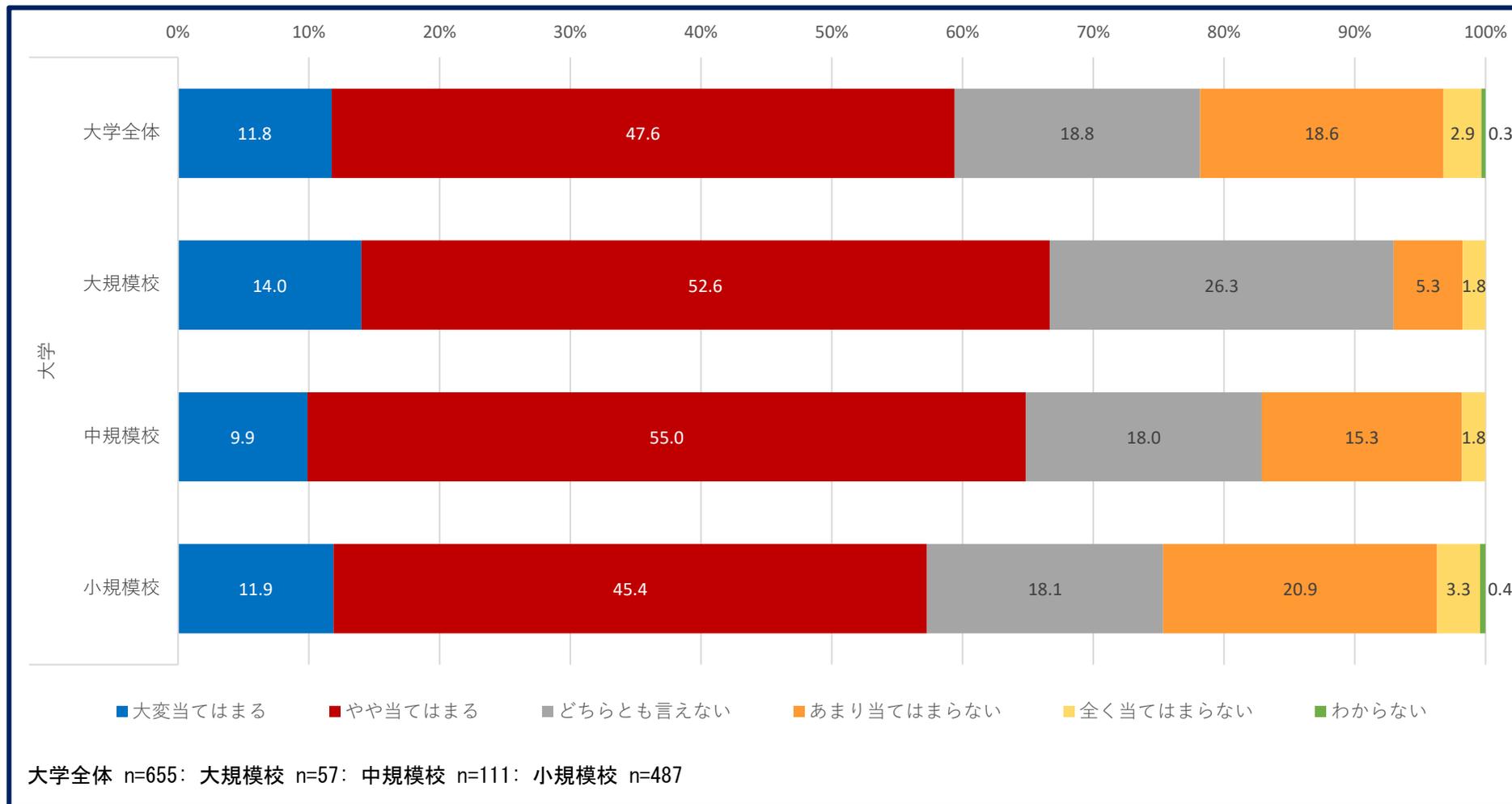
- 大学全体では、「あまり当てはまらない(36.2%)」が最も多く、「大変当てはまる(4.3%)」、「やや当てはまる(12.7%)」となっている。
- 「大変当てはまる」と「やや当てはまる」の合計比率は、国立大学で約31%であり、公立大学、私立大学の順に比率が低くなる。



「総合型選抜」導入に対する課題について ②大学・規模別

a. 他の選抜方法より、評価する観点の設計が難しい

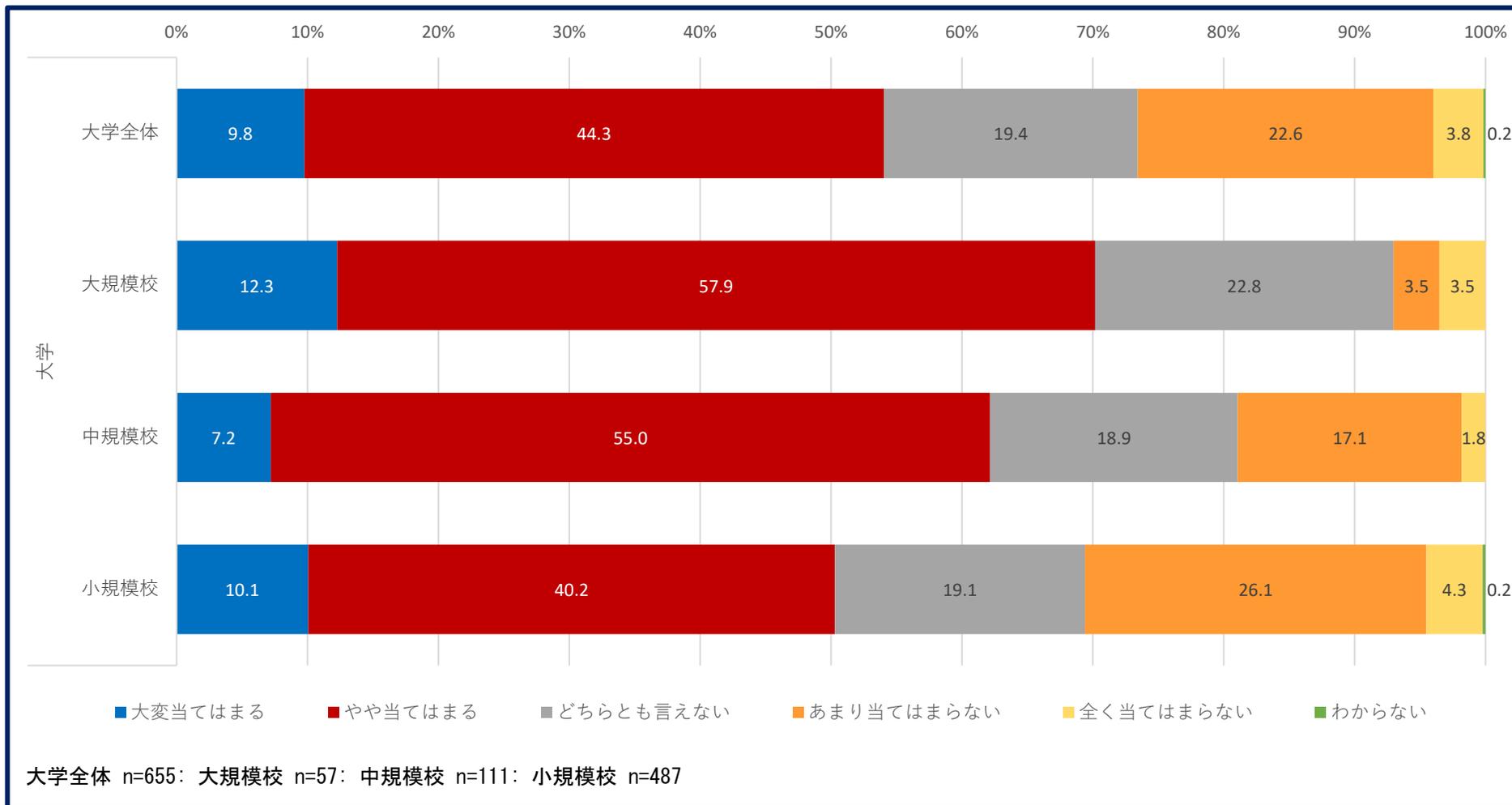
- 大学全体では、「大変当てはまる(11.8%)」、「やや当てはまる(47.6%)」となっている。
- 小規模校では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計比率が大規模校、中規模校に比べて若干少なく、「あまり当てはまらない(20.9%)」が多くなっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ②大学・規模別

b. 他の選抜方法より、評価結果の点数化が難しい

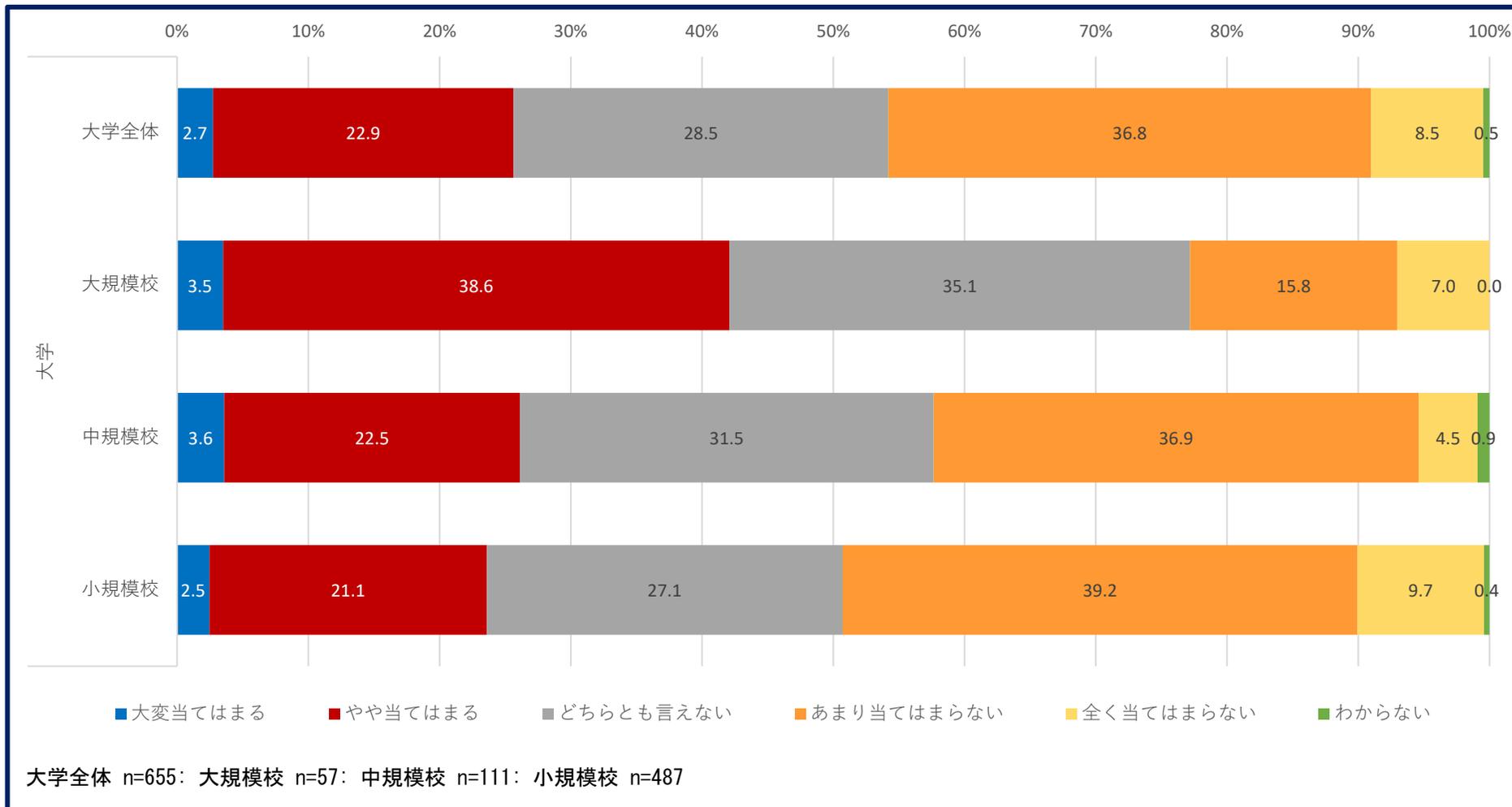
- 大学全体では、「大変当てはまる(9.8%)」、「やや当てはまる(44.3%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計比率が約70%であるが、中規模校、小規模校になるにしたがって比率が低下する。



「総合型選抜」導入に対する課題について ②大学・規模別

c. 他の選抜方法より、合否判定が難しい

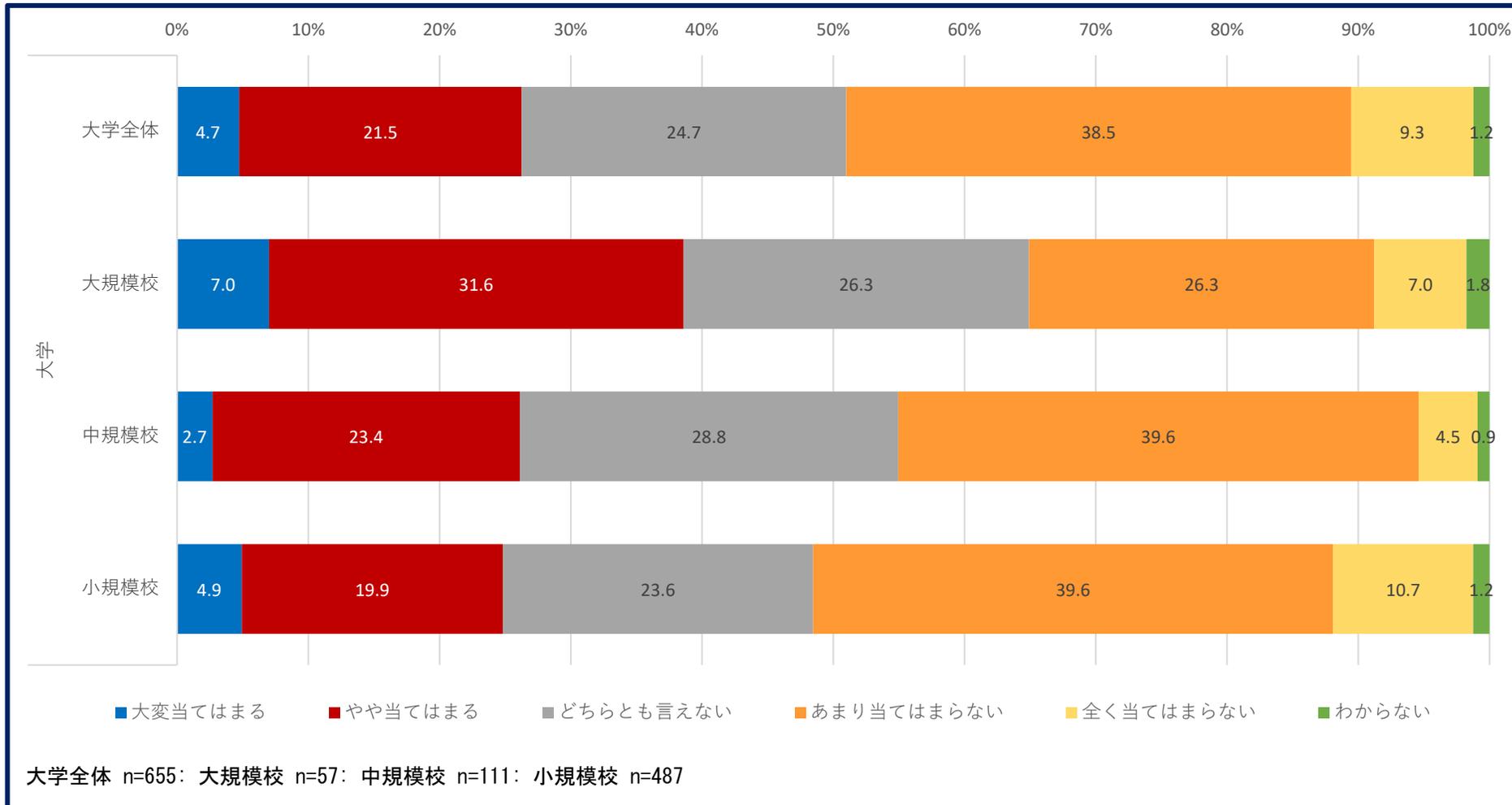
- 大学全体では、「あまり当てはまらない(36.8%)」が最も多く、「大変当てはまる(2.7%)」、「やや当てはまる(22.9%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計比率が約42%であるが、中規模校、小規模校になるにしたがって比率が低下する。



「総合型選抜」導入に対する課題について ②大学・規模別

d. 他の選抜方法より、受験生や高校に対し合否に関する説明が難しい

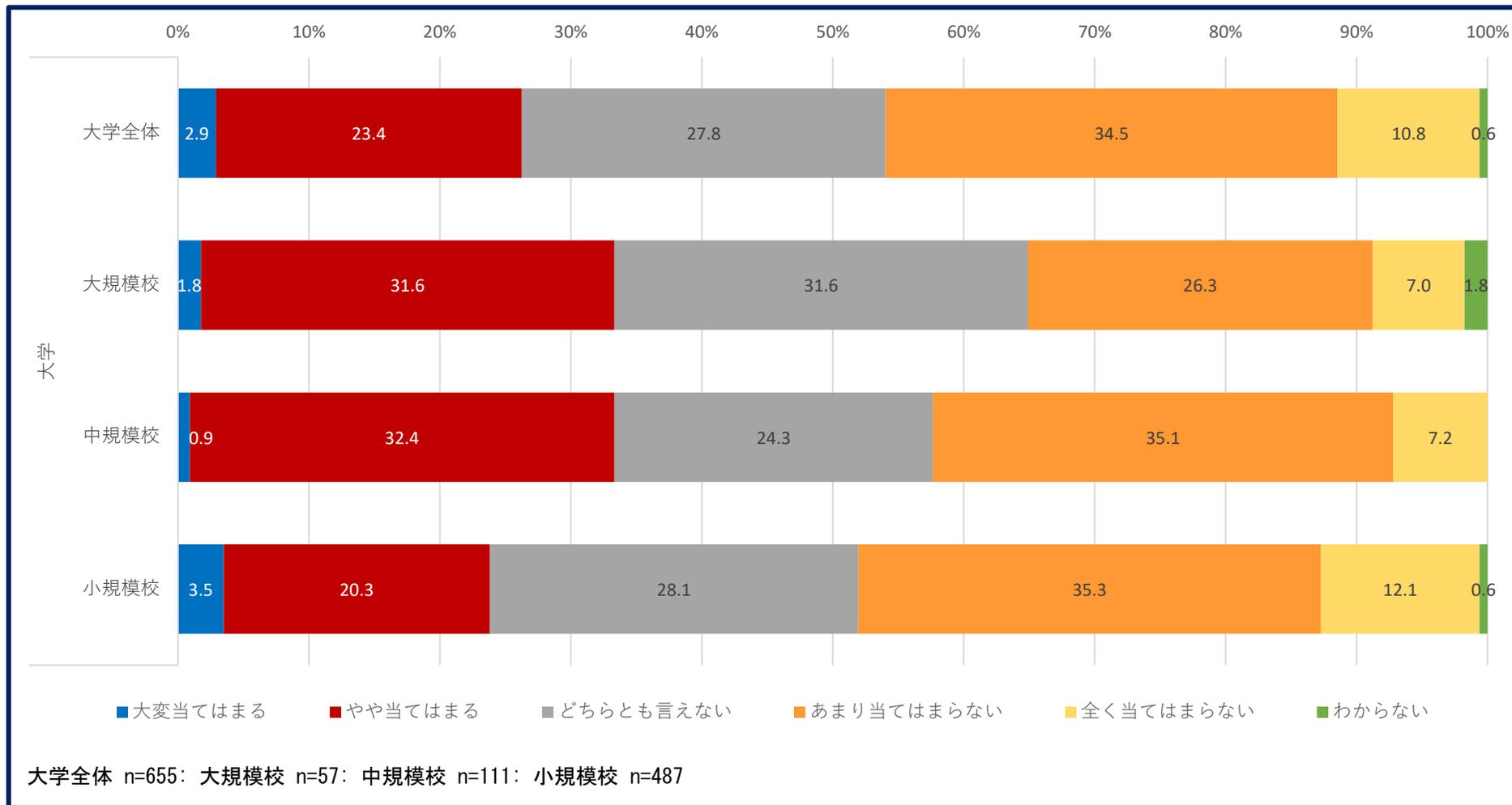
- 大学全体では、「あまり当てはまらない(38.5%)」が最も多く、「大変当てはまる(4.7%)」、「やや当てはまる(21.5%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計比率が約39%であるが、中規模校、小規模校になるにしたがって比率が低下する。



「総合型選抜」導入に対する課題について ②大学・規模別

e. 他の選抜方法より、公平性を確保するための体制や手段の確立が難しい

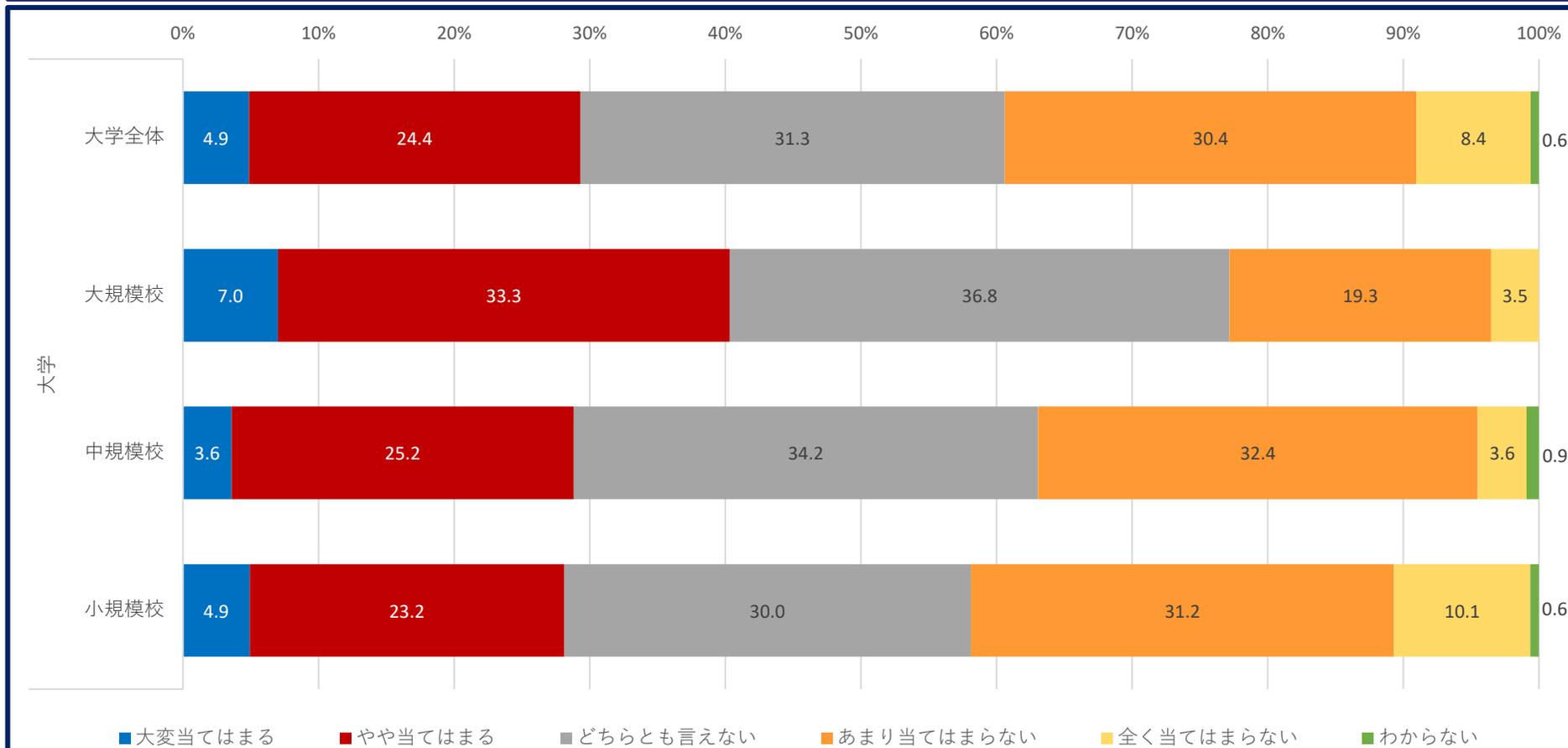
- 大学全体では、「あまり当てはまらない(34.5%)」が最も多く、「大変当てはまる(2.9%)」、「やや当てはまる(23.4%)」となっている。
- 大規模校、中規模校では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計比率が約33%であるが、小規模校では若干比率が少ない。



「総合型選抜」導入に対する課題について ②大学・規模別

f. 他の選抜方法より、選抜の実施に専門的な知識が要求される

- 大学全体では、「大変当てはまる(4.9%)」、「やや当てはまる(24.4%)」であり、「どちらとも言えない(31.3%)」、「あまり当てはまらない(30.4%)」の方が上回っている。
- 大規模校では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計比率が約40%となっており、中規模校、小規模校に比べて多くなっている。

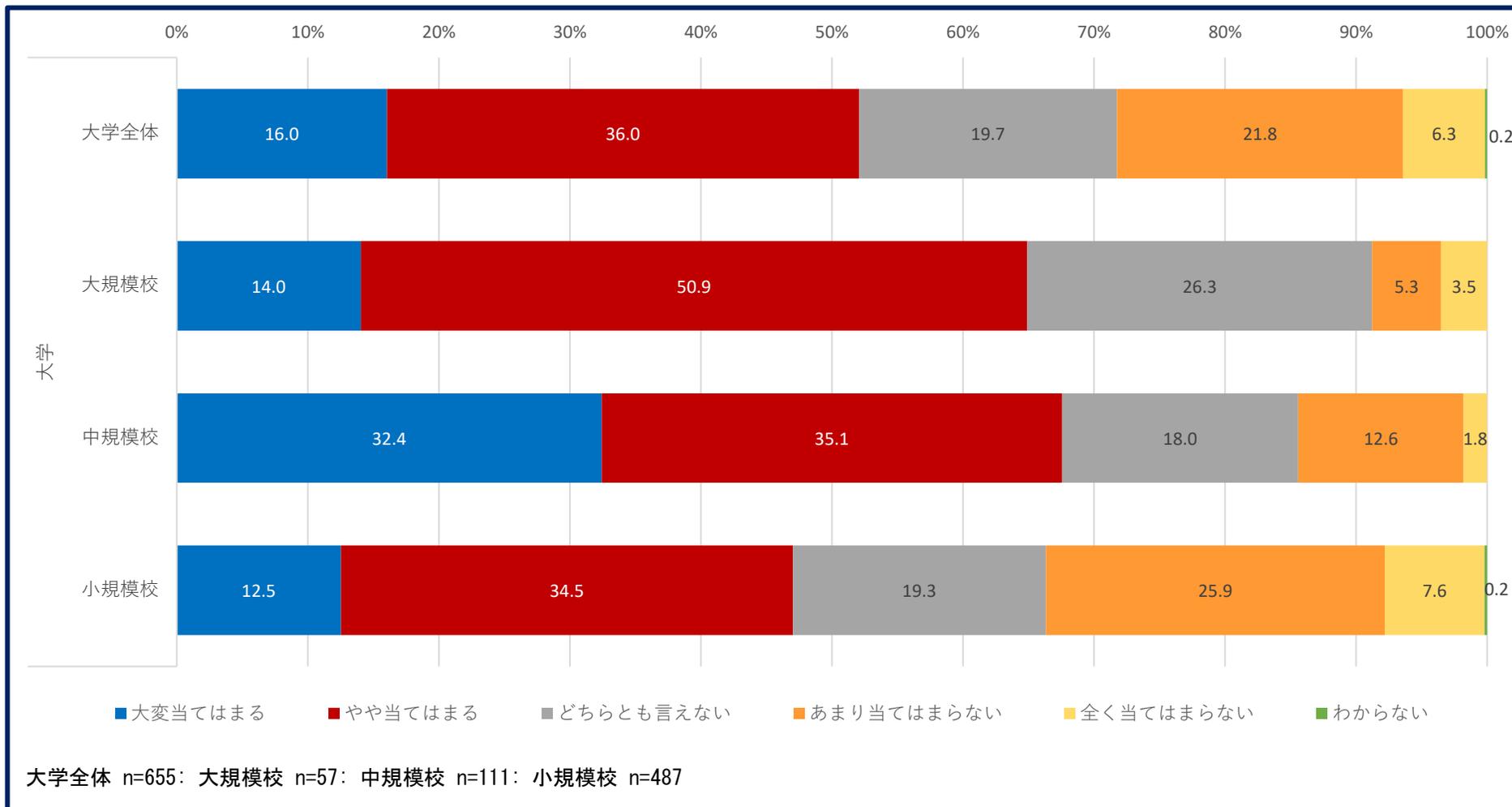


大学全体 n=655：大規模校 n=57：中規模校 n=111：小規模校 n=487

「総合型選抜」導入に対する課題について ②大学・規模別

g. 他の選抜方法より、十分な実施体制を整える負担が大きい

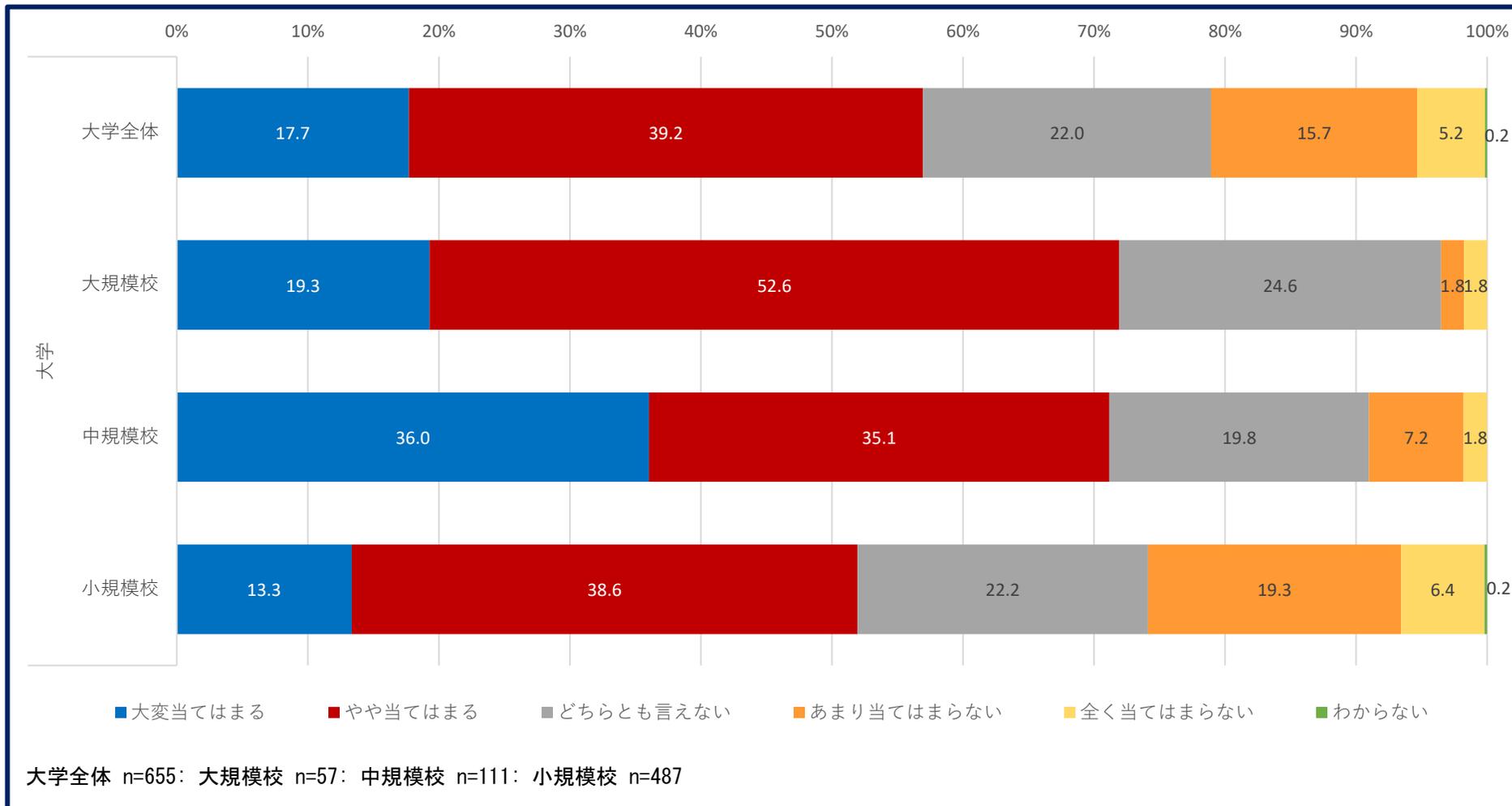
- 大学全体では、「大変当てはまる(16.0%)」、「やや当てはまる(36.0%)」となっている。
- 中規模校では、「大変当てはまる」が32.4%であり、大規模校(14.0%)、小規模校(12.5%)よりも比率が高くなっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ②大学・規模別

h. 他の選抜方法より、選抜に関する業務時間の負担が大きい

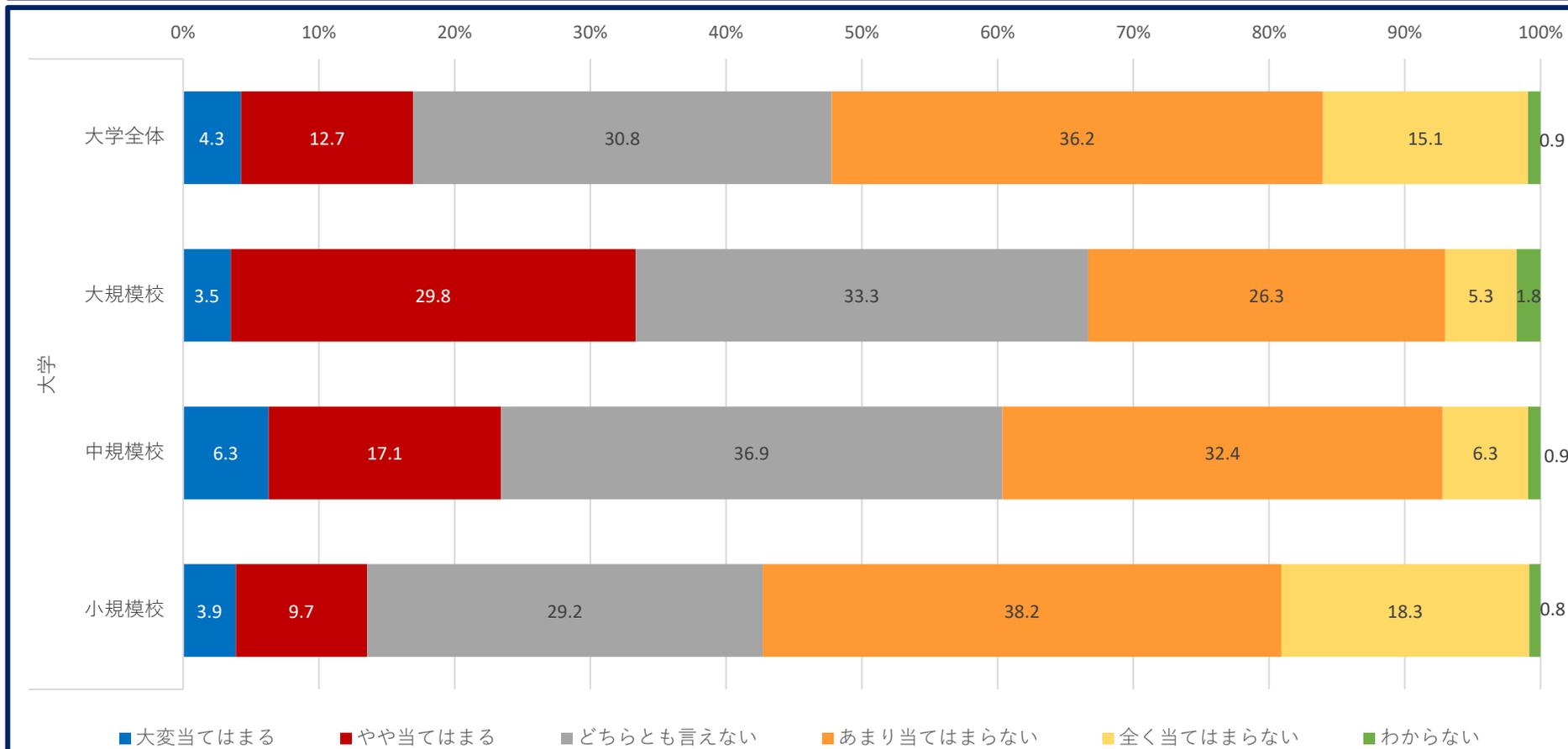
- 大学全体では、「大変当てはまる(17.7%)」、「やや当てはまる(39.2%)」となっている。
- 中規模校では、「大変当てはまる」が36.0%であり、大規模校(19.3%)、小規模校(13.3%)よりも比率が高くなっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ②大学・規模別

i. 他の選抜方法より、選抜に関する費用の負担が大きい

- 大学全体では、「あまり当てはまらない(36.2%)」が最も多く、「大変当てはまる(4.3%)」、「やや当てはまる(12.7%)」となっている。
- 大規模校では、「大変当てはまる」、「やや当てはまる」の合計比率が約33%であるが、中規模校、小規模校になるにしたがって比率が低下する。

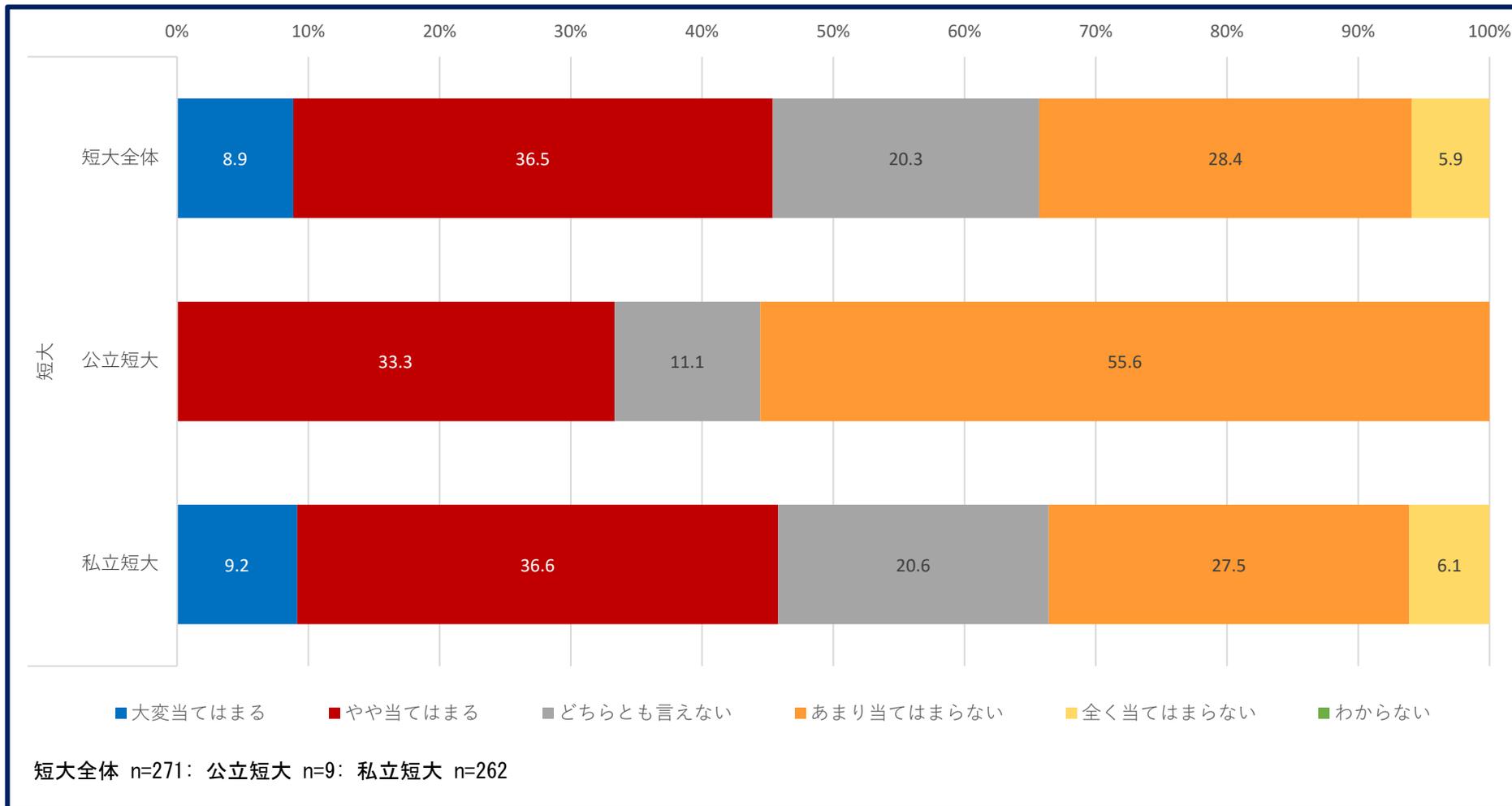


大学全体 n=655: 大規模校 n=57: 中規模校 n=111: 小規模校 n=487

「総合型選抜」導入に対する課題について ③短大・設置主体別

a. 他の選抜方法より、評価する観点の設計が難しい

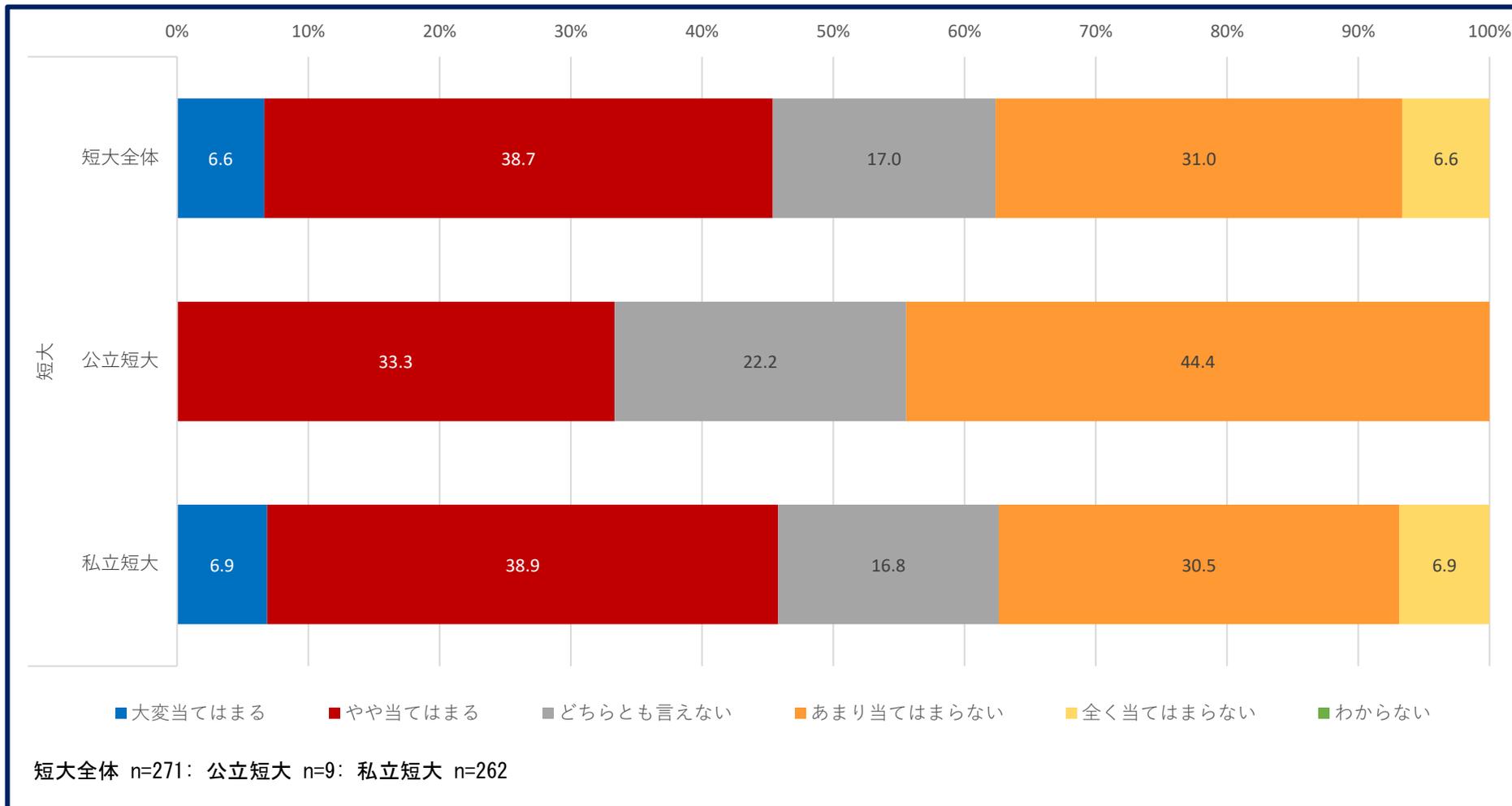
- 短大全体では、「大変当てはまる(8.9%)」、「やや当てはまる(36.5%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(0%)」、「やや当てはまる(33.3%)」で、「あまり当てはまらない」が55.6%となっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ③短大・設置主体別

b. 他の選抜方法より、評価結果の点数化が難しい

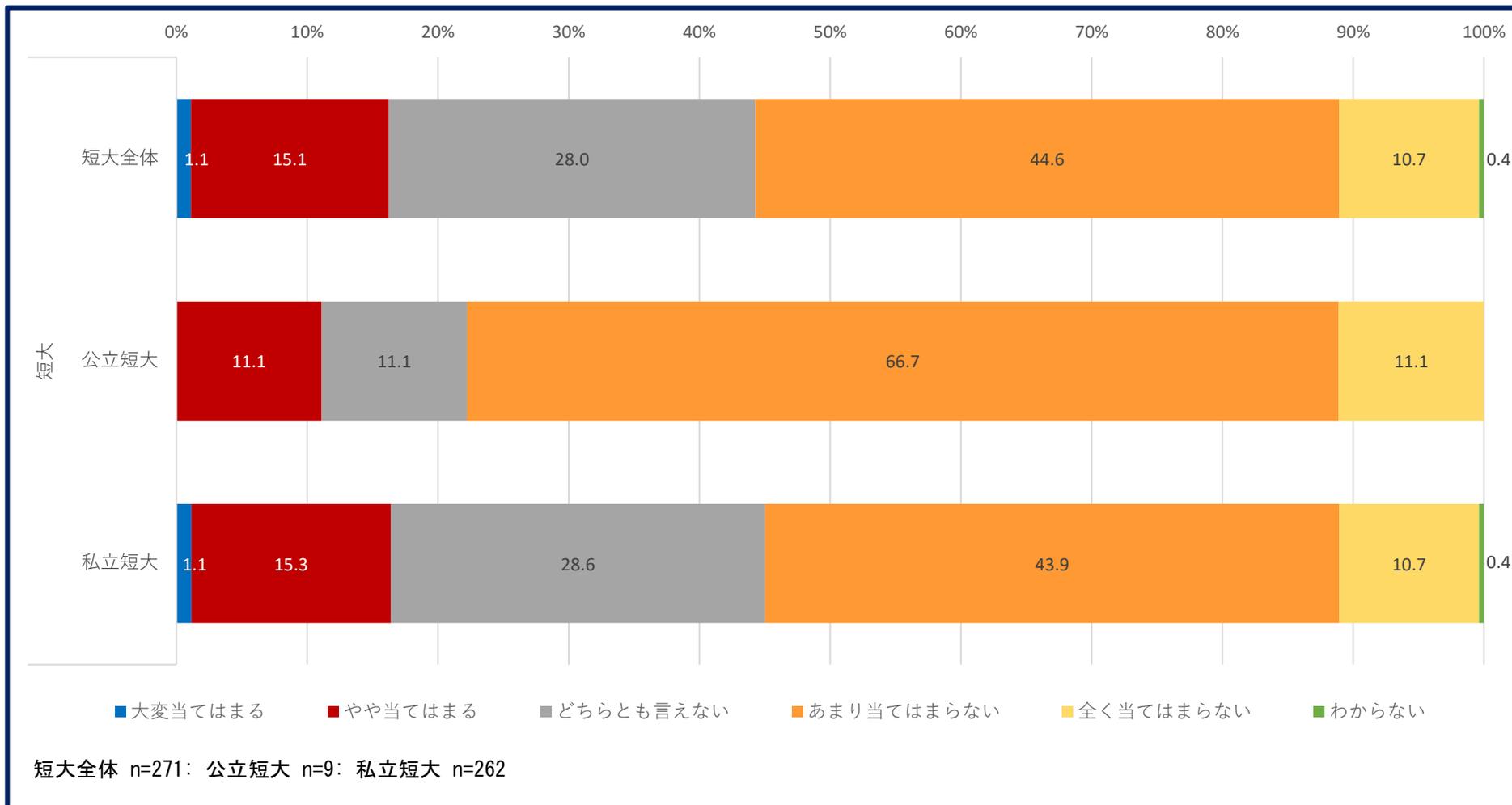
- 短大全体では、「大変当てはまる(6.6%)」、「やや当てはまる(38.7%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(0%)」、「やや当てはまる(33.3%)」で、「あまり当てはまらない」が44.4%となっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ③短大・設置主体別

c. 他の選抜方法より、合否判定が難しい

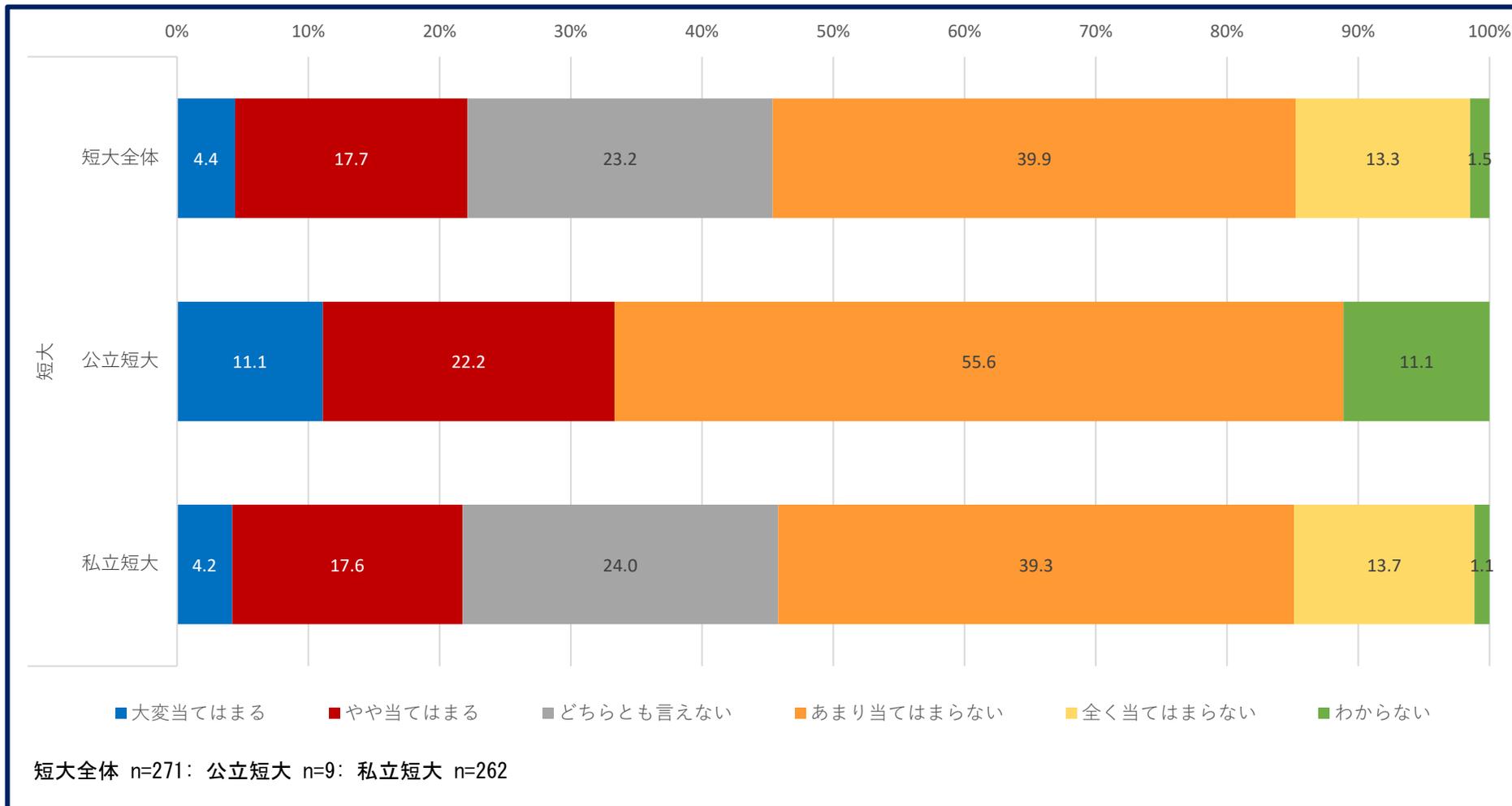
- 短大全体では、「あまり当てはまらない(44.6%)」が最も多く、「大変当てはまる(1.1%)」、「やや当てはまる(15.1%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(0%)」、「やや当てはまる(11.1%)」で、「あまり当てはまらない」が66.7%となっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ③短大・設置主体別

d. 他の選抜方法より、受験生や高校に対し合否に関する説明が難しい

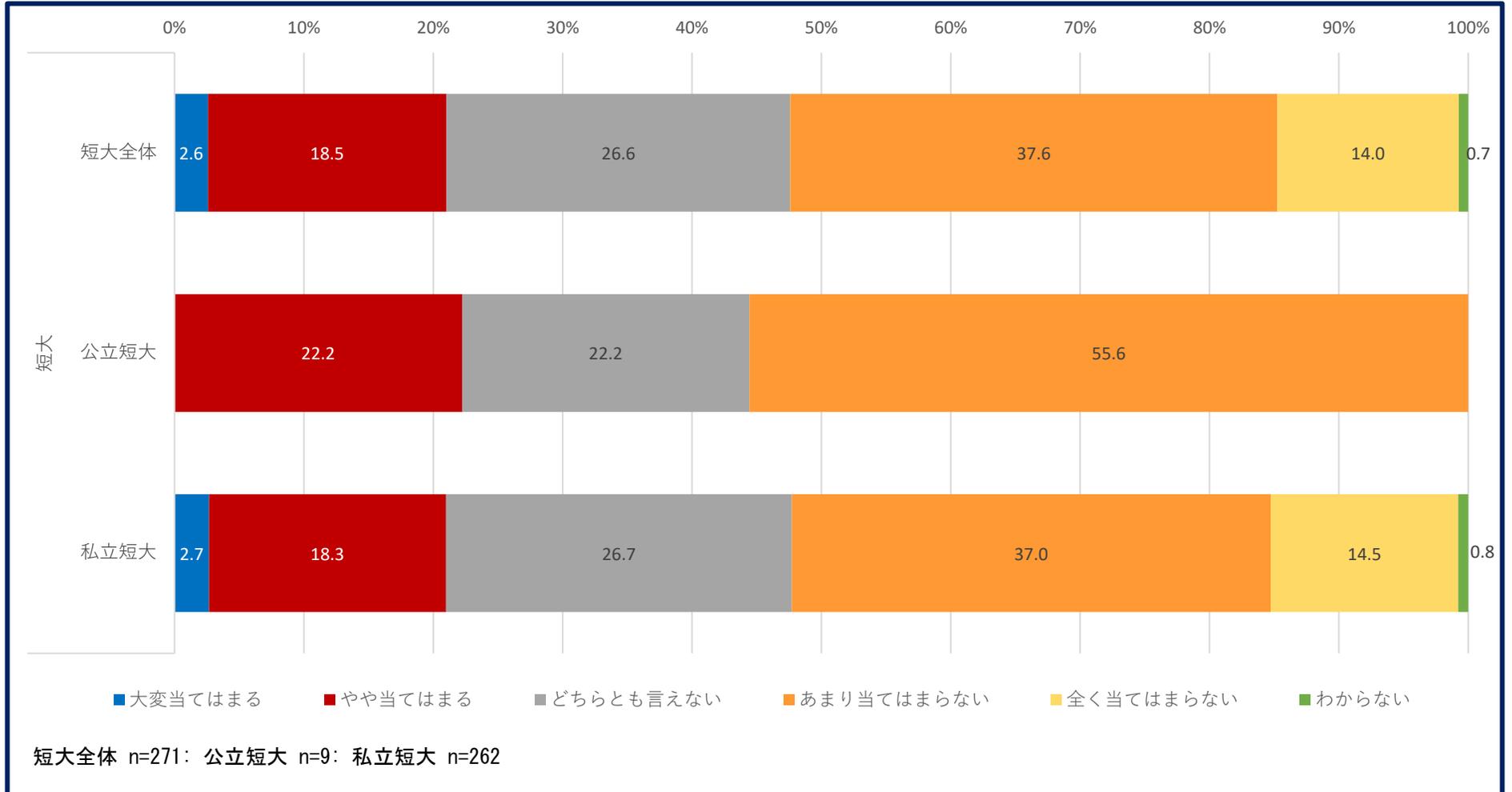
- 短大全体では、「あまり当てはまらない(39.9%)」が最も多く、「大変当てはまる(4.4%)」、「やや当てはまる(17.7%)」となっている。
- 公立短大では、「あまり当てはまらない」とした回答が55.6%となっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ③短大・設置主体別

e. 他の選抜方法より、公平性を確保するための体制や手段の確立が難しい

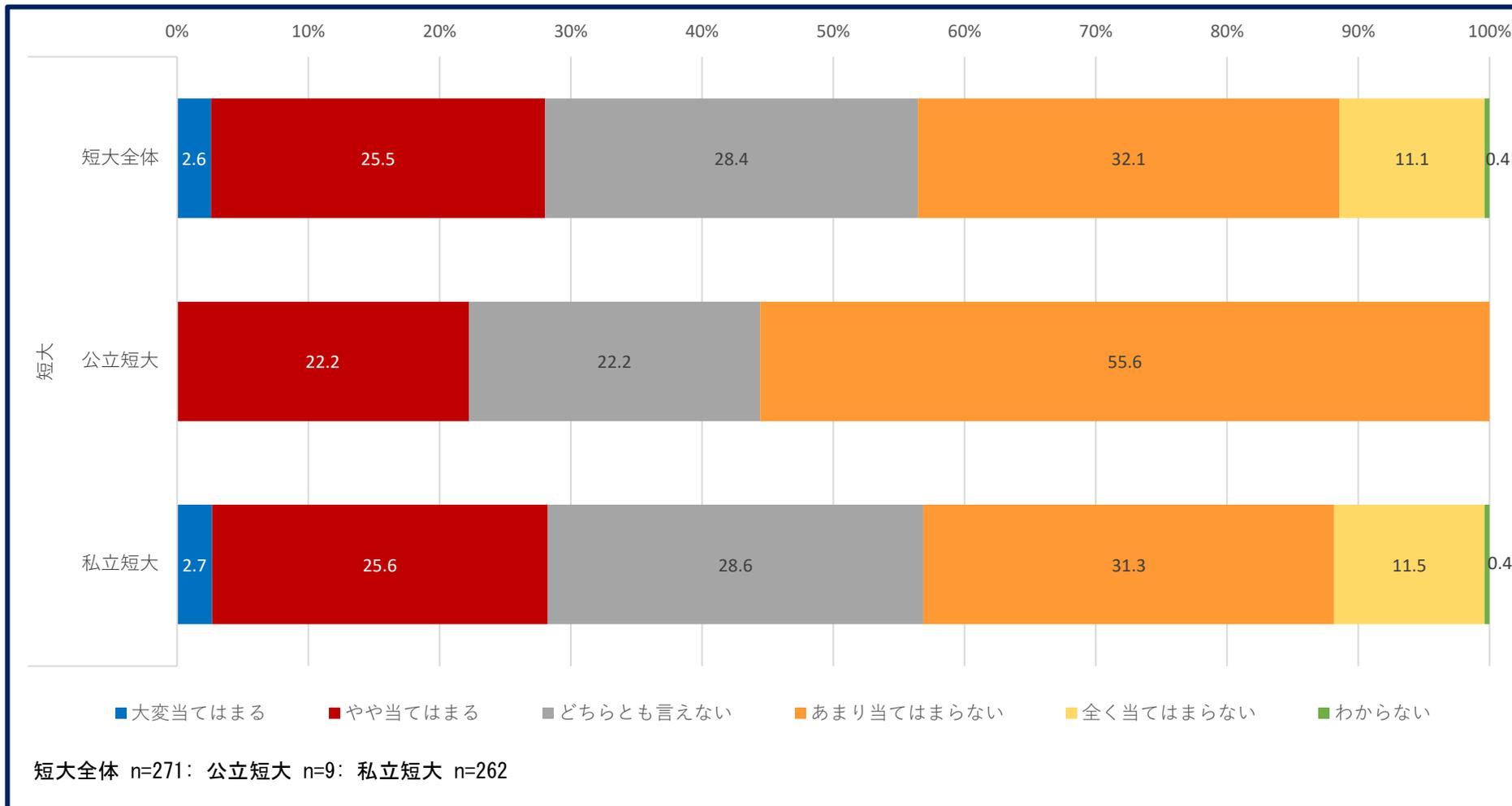
- 短大全体では、「あまり当てはまらない(37.6%)」が最も多く、「大変当てはまる(2.6%)」、「やや当てはまる(18.5%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(0%)」、「やや当てはまる(22.2%)」で、「あまり当てはまらない」が55.6%となっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ③短大・設置主体別

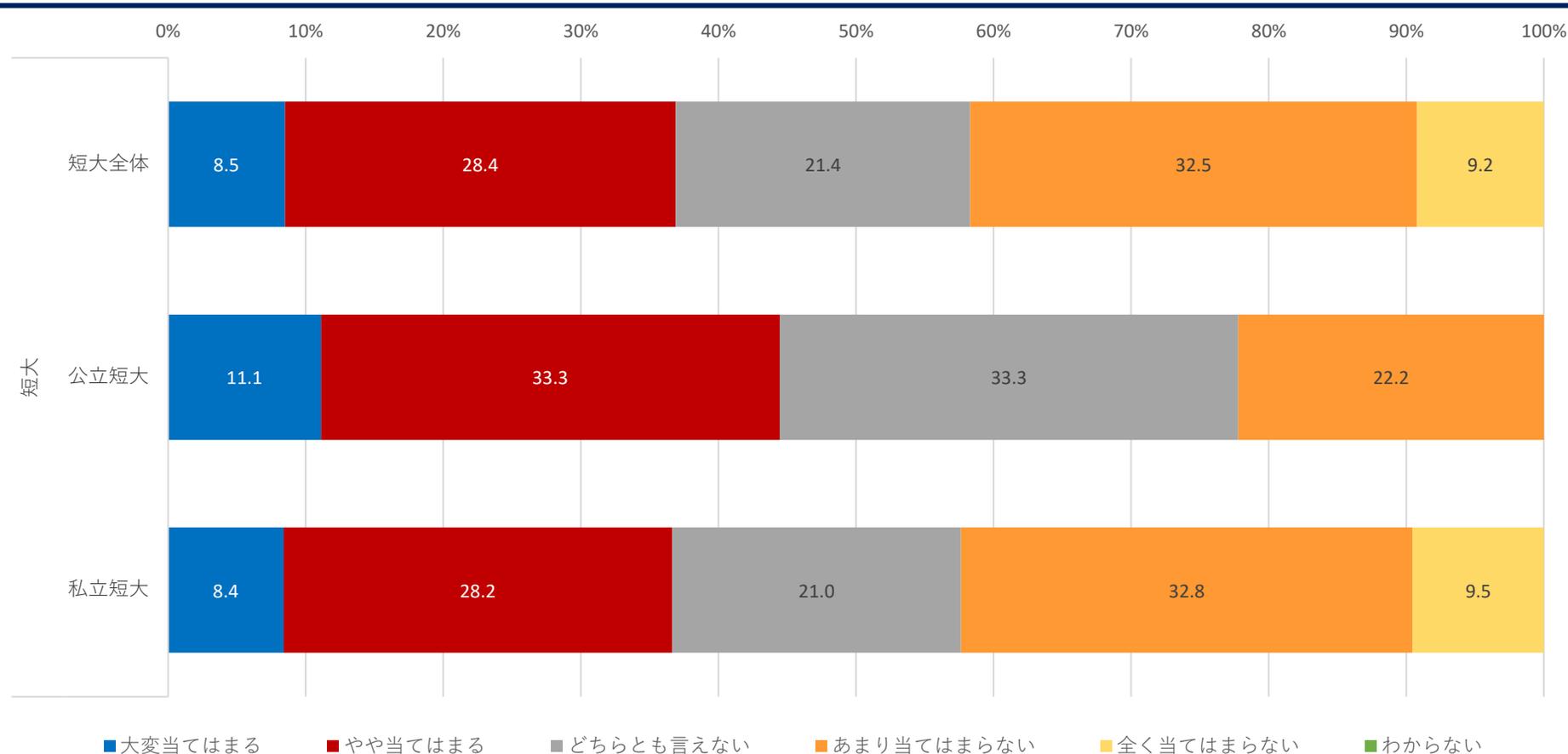
f. 他の選抜方法より、選抜の実施に専門的な知識が要求される

- 短大全体では、「あまり当てはまらない(32.1%)」が最も多く、「大変当てはまる(2.6%)」、「やや当てはまる(25.5%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(0%)」、「やや当てはまる(22.2%)」で、「あまり当てはまらない」が55.6%となっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ③短大・設置主体別 g. 他の選抜方法より、十分な実施体制を整える負担が大きい

- 短大全体では、「あまり当てはまらない(32.5%)」が最も多く、「大変当てはまる(8.5%)」、「やや当てはまる(28.4%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(11.1%)」、「やや当てはまる(33.3%)」で、「どちらとも言えない」が33.3%となっている。

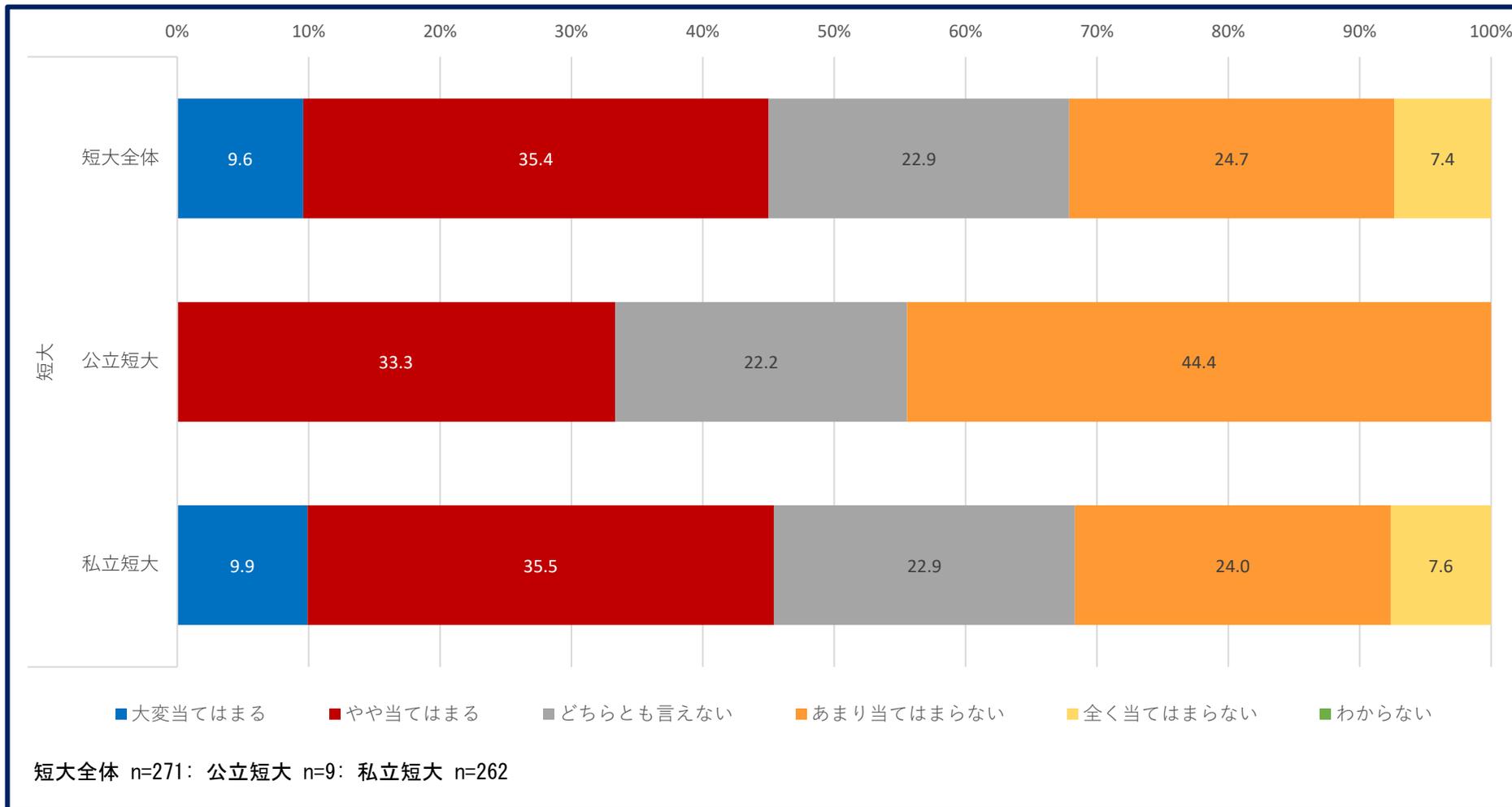


短大全体 n=271: 公立短大 n=9: 私立短大 n=262

「総合型選抜」導入に対する課題について ③短大・設置主体別

h. 他の選抜方法より、選抜に関する業務時間の負担が大きい

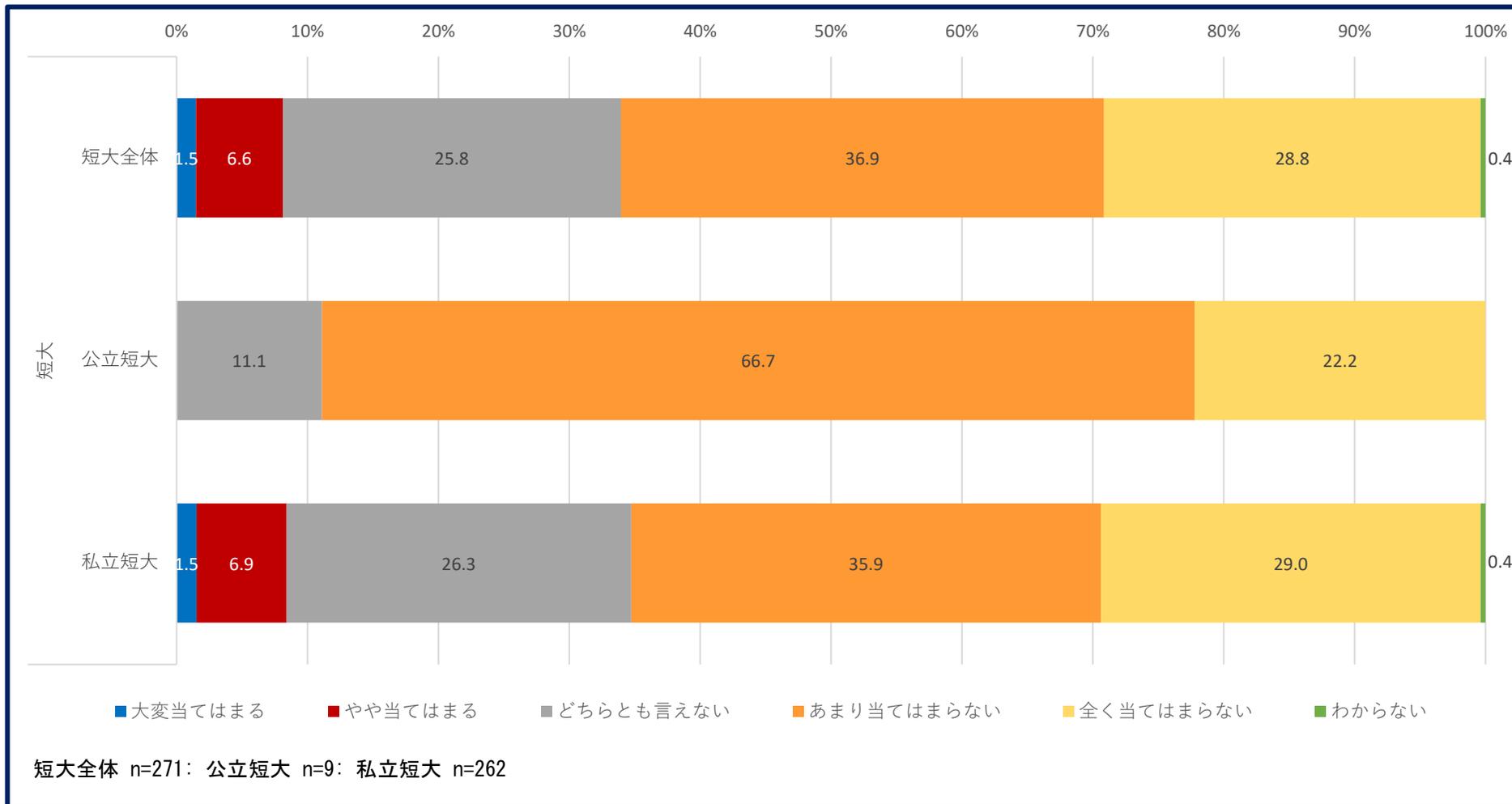
- 短大全体では、「大変当てはまる(9.6%)」、「やや当てはまる(35.4%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(0%)」、「やや当てはまる(33.3%)」で、「あまり当てはまらない」とした回答が44.4%となっている。



「総合型選抜」導入に対する課題について ③短大・設置主体別

i. 他の選抜方法より、選抜に関する費用の負担が大きい

- 短大全体では、「あまり当てはまらない(36.9%)」が最も多く、「大変当てはまる(1.5%)」、「やや当てはまる(6.6%)」となっている。
- 公立短大では、「大変当てはまる(0%)」、「やや当てはまる(11.1%)」で、「あまり当てはまらない」が66.7%となっている。



「総合型選抜」の課題に関する自由記述概要

- 自由記述では、「総合型選抜」に関するその他の課題として、様々な事項があげられた。これらの課題は、受験生への負担に関する課題、試験日程の確保に関する課題、試験の周知、倍率・合格率に関する課題、試験実施に際しての課題に大別される。
- 受験生への負担に関する課題
 - ✓ 試験日を2日間としていたが、受験生への負荷が大きかった。
 - ✓ 課題に対するプレゼンテーション能力を可否の評価として採用したが、受験者の負担が大きい。
- 試験日程の確保に関する課題
 - ✓ 出願期間が9月1日以降と定められたことにより、授業の関係で平日に選抜日程を設定することが困難となった。
 - ✓ 総合型選抜は平日の実施のため、大学の授業期間と重複するので、教員の業務時間の調整が難しい。
- 試験の認知度、倍率・合格率等に関する課題
 - ✓ 一般選抜に比して認知度が低く、志願者数が少ないため、志願者の質が向上しない。
 - ✓ 学部学科・選抜方式によっては、志願者が少ない。
 - ✓ 高い水準での出願要件を課しているが、志願者数が募集数をかなり超えてしまうことがある。
 - ✓ 学科によって出願要件が異なることが原因で、合格率に大きな隔たりが出る。
 - ✓ 総合型選抜を実施してもなお、志願者の男女比の均衡がとれない分野がある。
- 試験実施に際しての課題
 - ✓ オンライン面接の際に、環境が整っておらず通信に不具合が生じる受験者が発生する。
 - ✓ オンライン対応とした際の対面との公平性の確保。
 - ✓ 作品の提出やPCを用いた入試における、機材や郵送手段・保管方法等の確保、セキュリティ対策、機材の接続・互換性。
 - ✓ 現地における実地試験を行う場合、受験者の安全管理に労力がかかる。

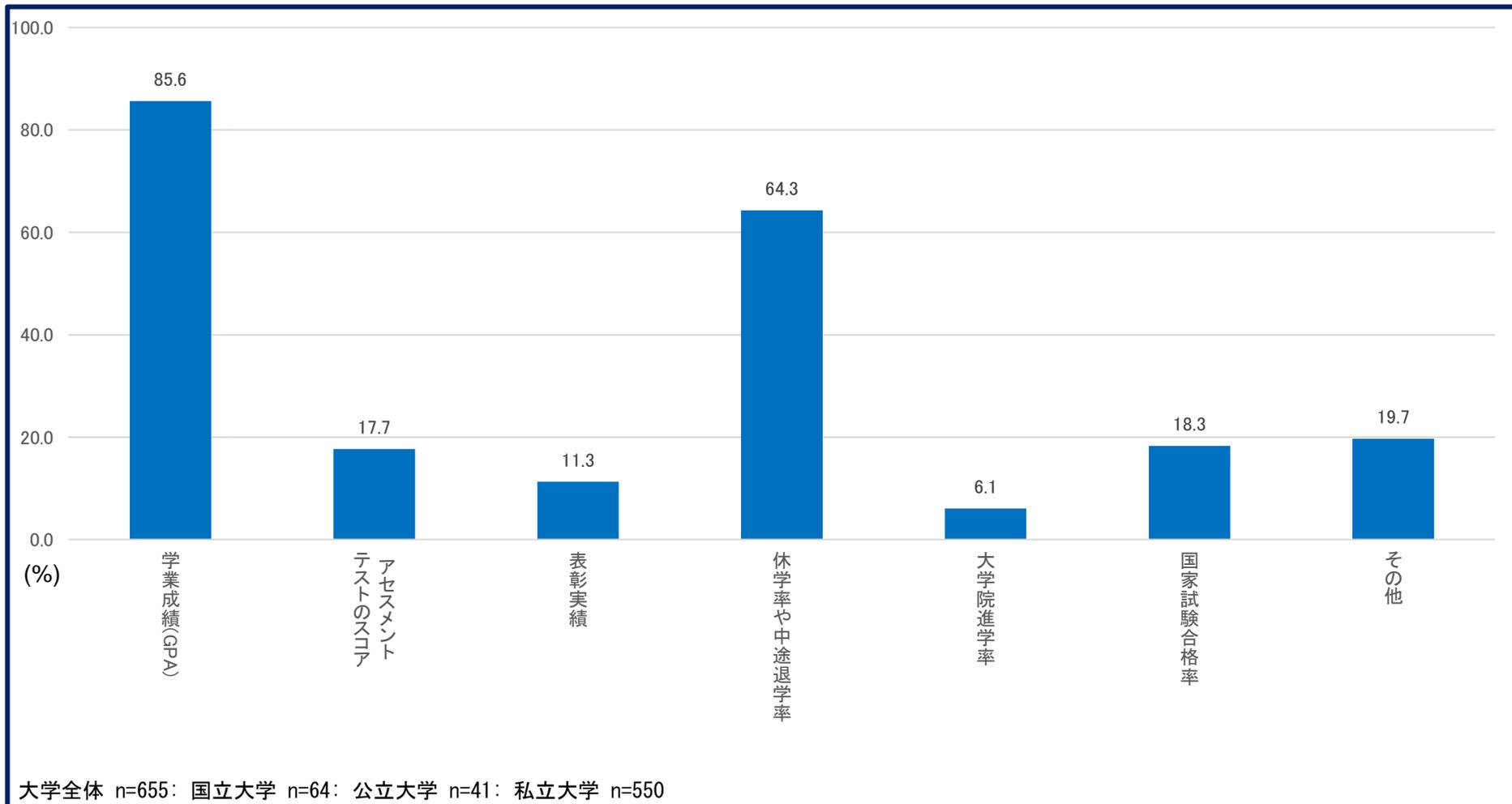
「総合型選抜」の課題への対応策に関する自由記述概要 (1)

- 「総合型選抜」に関する課題への具体的な対応として、次のような対策があげられた。
- 評価する観点の設計、点数化、合否判定が難しい
 - ✓ ルーブリックの活用や従来よりも詳細な採点基準の作成。
 - ✓ 比較的面接試験のスキルがある教員とペアを組ませる。
- 受験生や高校に対して合否に関する説明が難しい
 - ✓ 毎年、高校教員を対象とした入試説明会を実施し、アドミッション・ポリシーの観点からの出題や評価の在り方を説明する。
- 公平性を確保するための体制や手段の確立が難しい
 - ✓ 面接担当者を対象に、具体的な評価指標と基準点等の評価方法に関する研修を実施。
- 選抜の実施に専門的な知識が必要
 - ✓ 全学アドミッションを担当する組織の教員が毎年度継続的に関与することで、問題作成の質の担保と専門性の引継ぎを可能にしている。
- 選抜に関する時間・費用の負担が大きい
 - ✓ 出願から合格発表までの期間を十分に確保できるスケジュール設定。
 - ✓ オンラインで採点できるシステムの導入により、点数集計の負担を軽減。
 - ✓ 入試担当となる教職員に年度当初に年間スケジュールを示し、予定を組んでもらう。

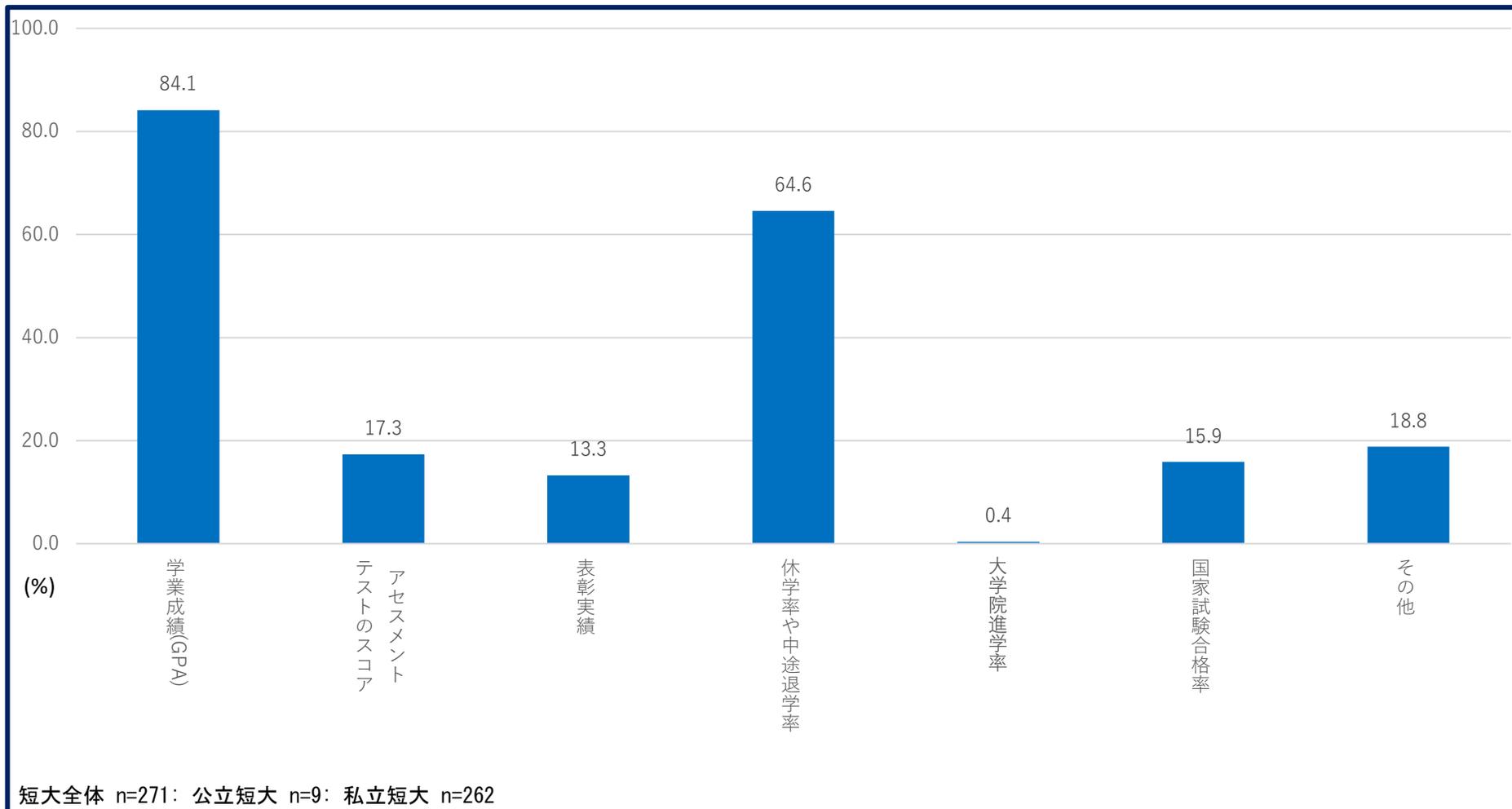
「総合型選抜」の課題への対応策に関する自由記述概要 (2)

- 「総合型選抜」に関するその他の課題への具体的な対応として、以下の事項があげられた。
- 受験生の負担・試験日程に関する課題
 - ✓ 試験日程を2日から1日に短縮。
 - ✓ 土日祝日に総合型選抜の試験日を設定。
- 試験の周知に関する課題
 - ✓ 高校訪問の強化や進学説明会への積極的な参加。
 - ✓ オープンキャンパス等で進学相談ブースを設置。
- 試験実施に際しての課題
 - ✓ 受験者にポスターセッションやUSBメモリを持参させて、PCやタブレット端末の違いによってプレゼンテーションに不利にならないよう対応。
 - ✓ 安全管理については、受験者にヘルメットや軍手を着用させると共に、危険箇所については実地試験時に注意喚起を実施。
 - ✓ オンラインを録画して複数名での多面的評価を行うことにより、対面との評価差を減らす。

- 「総合型選抜」の妥当性を検証するための指標として、大学全体では、「学業成績(GPA)」、「休学率や中途退学率」がそれぞれ85.6%、64.3%となっており、他の指標を大きく上回っている。
- それ以外の指標は、回答の多い順に「国家試験合格率」、「アセスメントテストのスコア」、「表彰実績」、「大学院進学率」となっている。



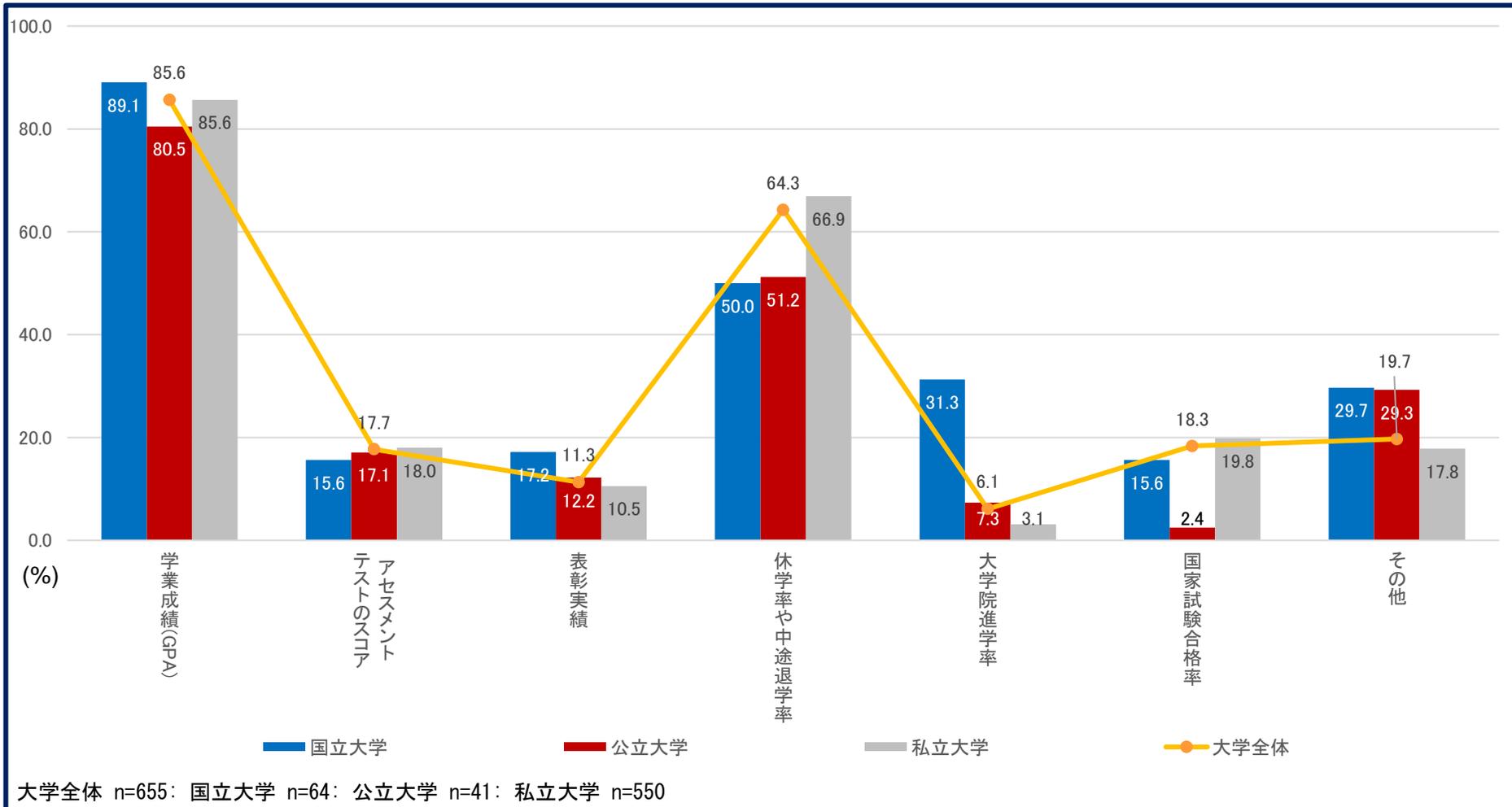
- 短大全体では、「学業成績(GPA)」、「休学率や中途退学率」の利用率がそれぞれ84.1%、64.6%となっており、他の指標を大きく上回っている。
- それ以外の指標は、回答の多い順に「アセスメントテストのスコア」、「国家試験合格率」、「表彰実績」となっており、「大学院進学率」は、ほとんど利用されていない。



「総合型選抜」(AO入試)の妥当性を検証するための指標について

①大学・設置主体別

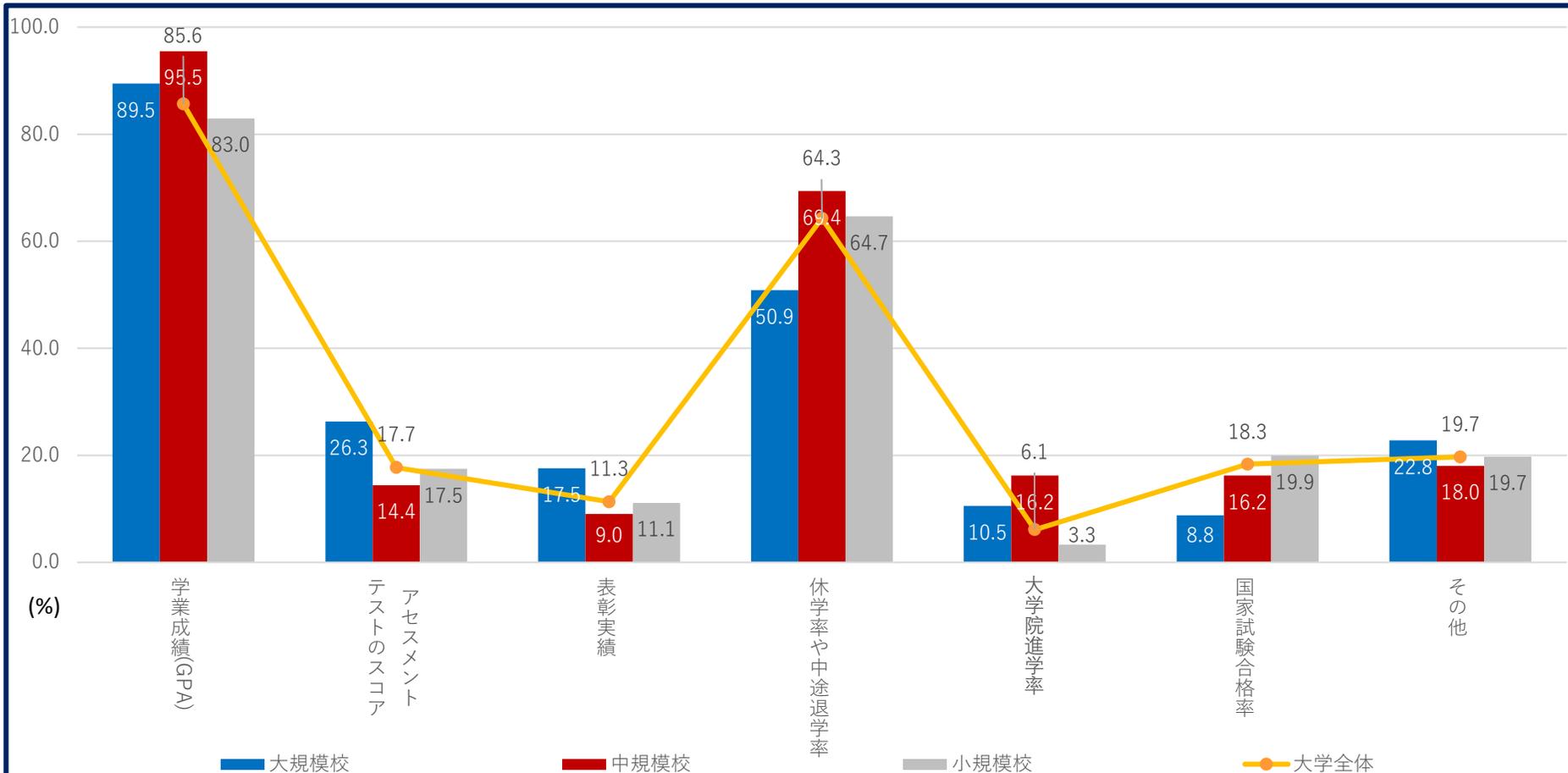
- 「学業成績(GPA)」については、国立大学、公立大学、私立大学とも80%以上が利用していると回答した。「休学率や中途退学率」は、私立大学の利用率が66.9%と少し多くなっている。
- 「大学院進学率」は国立大学の利用が31.3%と顕著に多く、「国家試験合格率」は私立大学、国立大学で利用が多い。



「総合型選抜」(AO入試)の妥当性を検証するための指標について

②大学・規模別

- 「学業成績(GPA)」については、大学の規模によらず利用が多く、特に中規模校での利用率が95.5%となっている。「休学率や中途退学率」は、大規模校に比べて、中規模校、小規模校で多く使用されている。
- 「アセスメントテストのスコア」、「表彰実績」は大規模校での利用がやや多く、「国家試験合格率」は規模が小さくなるほど利用が多くなる。「大学院進学率」は、中規模校の利用が多く、小規模校ではほとんど利用されていない。

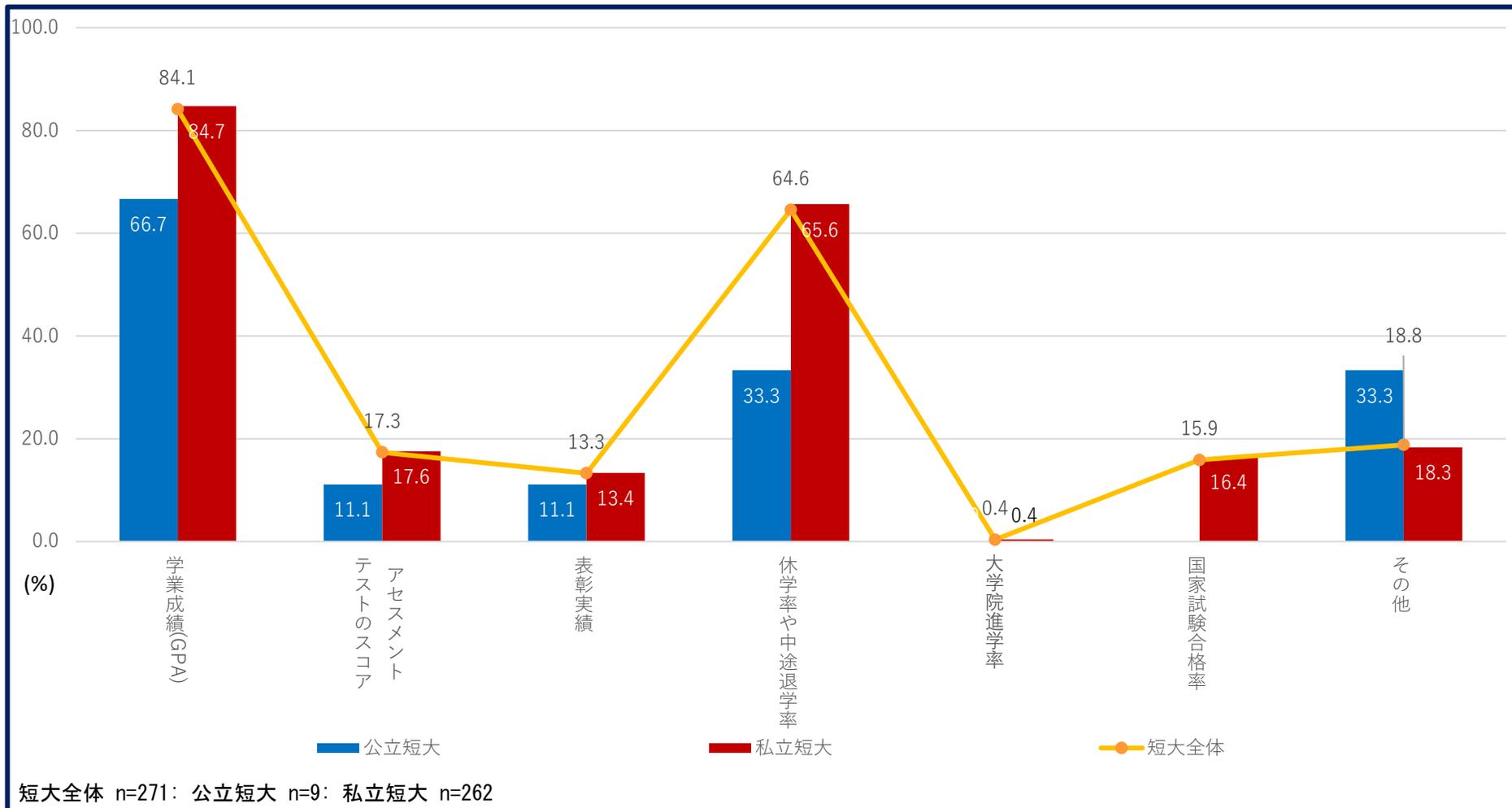


大学全体 n=655: 大規模校 n=57: 中規模校 n=111: 小規模校 n=487

「総合型選抜」(AO入試)の妥当性を検証するための指標について

③短大・設置主体別

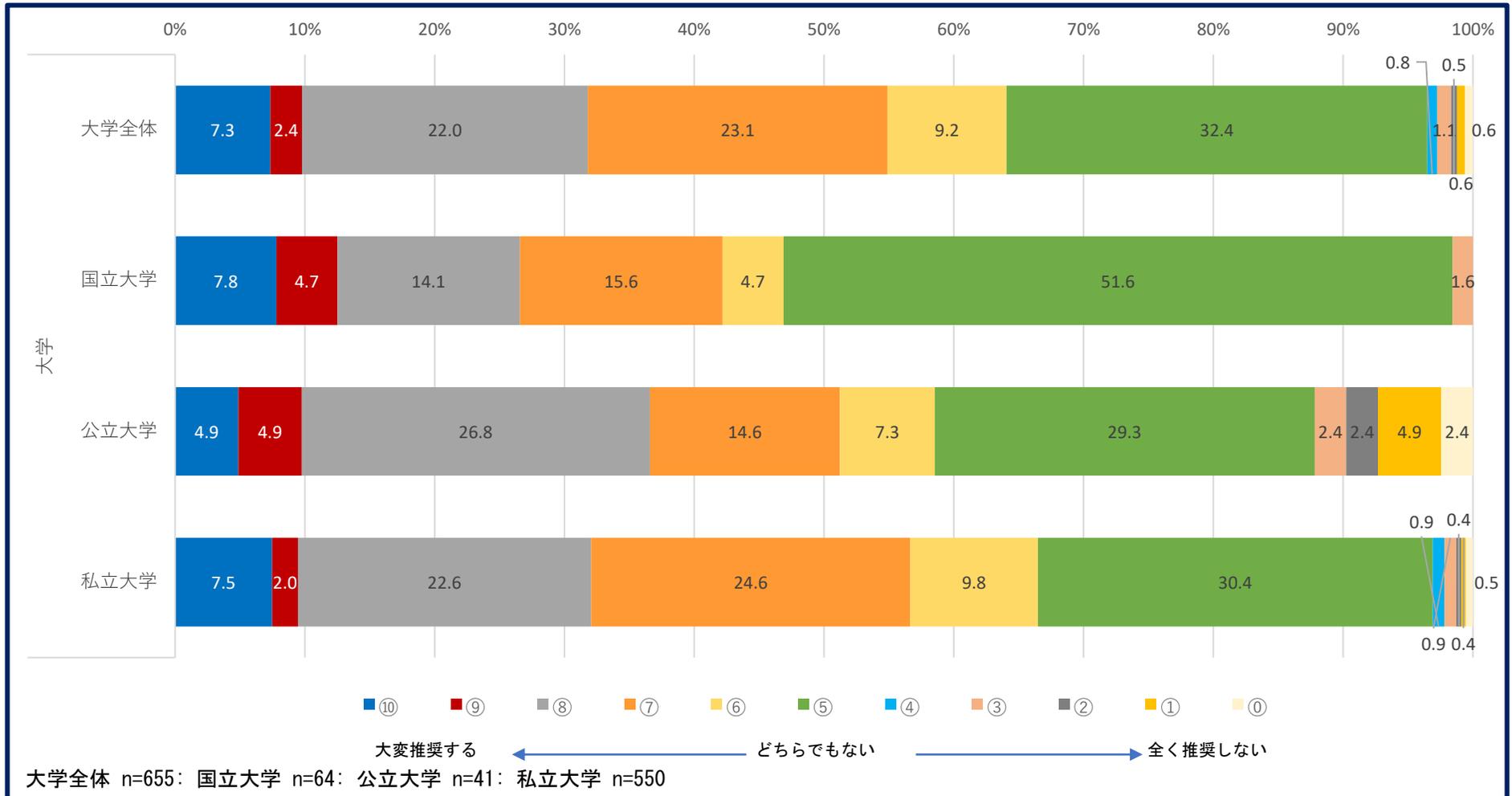
- 私立短大の84.7%が「学業成績(GPA)」を利用し、65.6%が「休学率や中途退学率」を指標として利用している。その他の指標については、「アセスメントテストのスコア」、「国家試験合格率」、「表彰実績」の順になっている。
- 公立短大では、「国家試験合格率」、「大学院進学率」ともに指標として利用されていない。



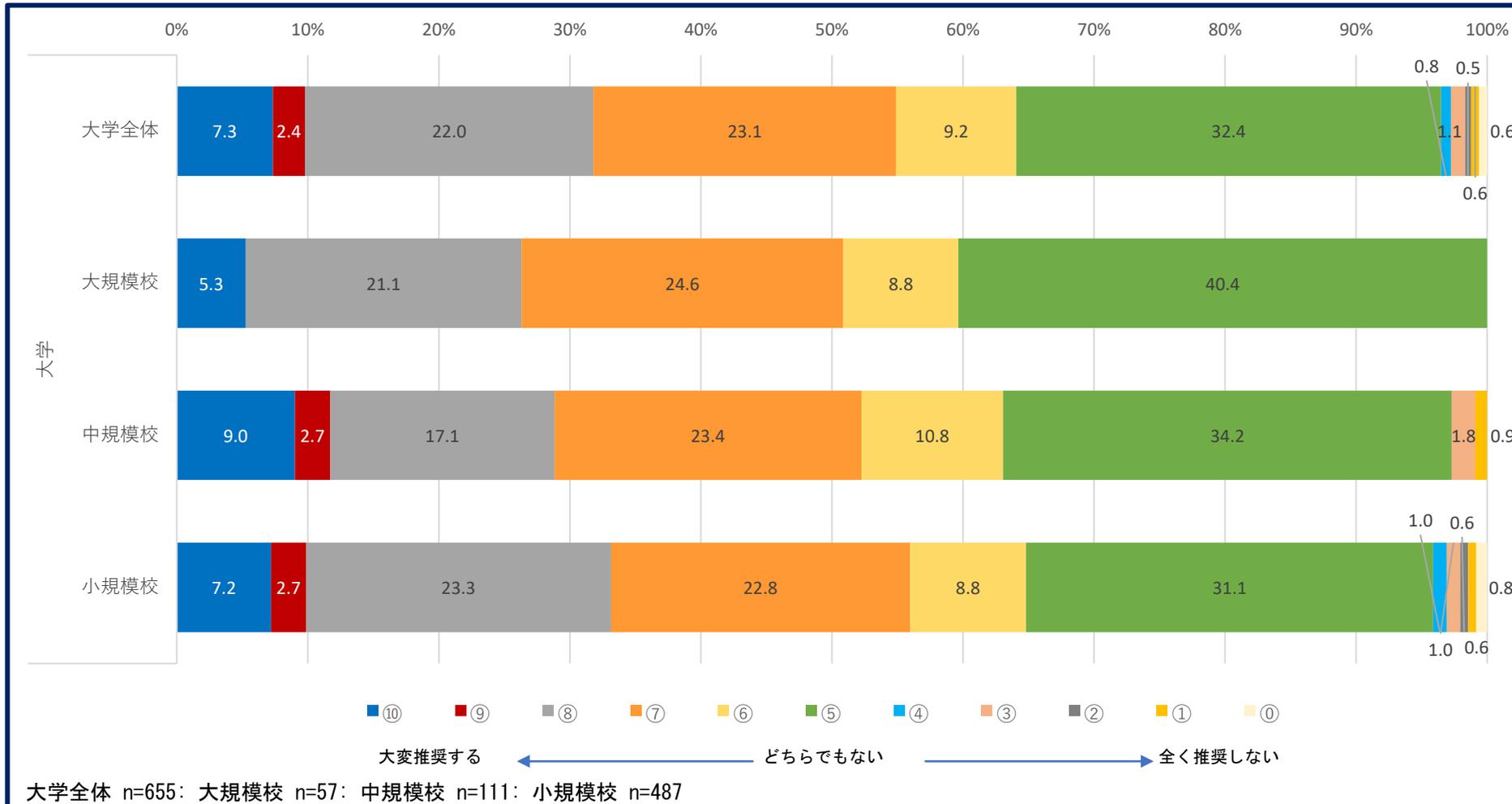
「総合型選抜」導入の推奨度について

①大学・設置主体別

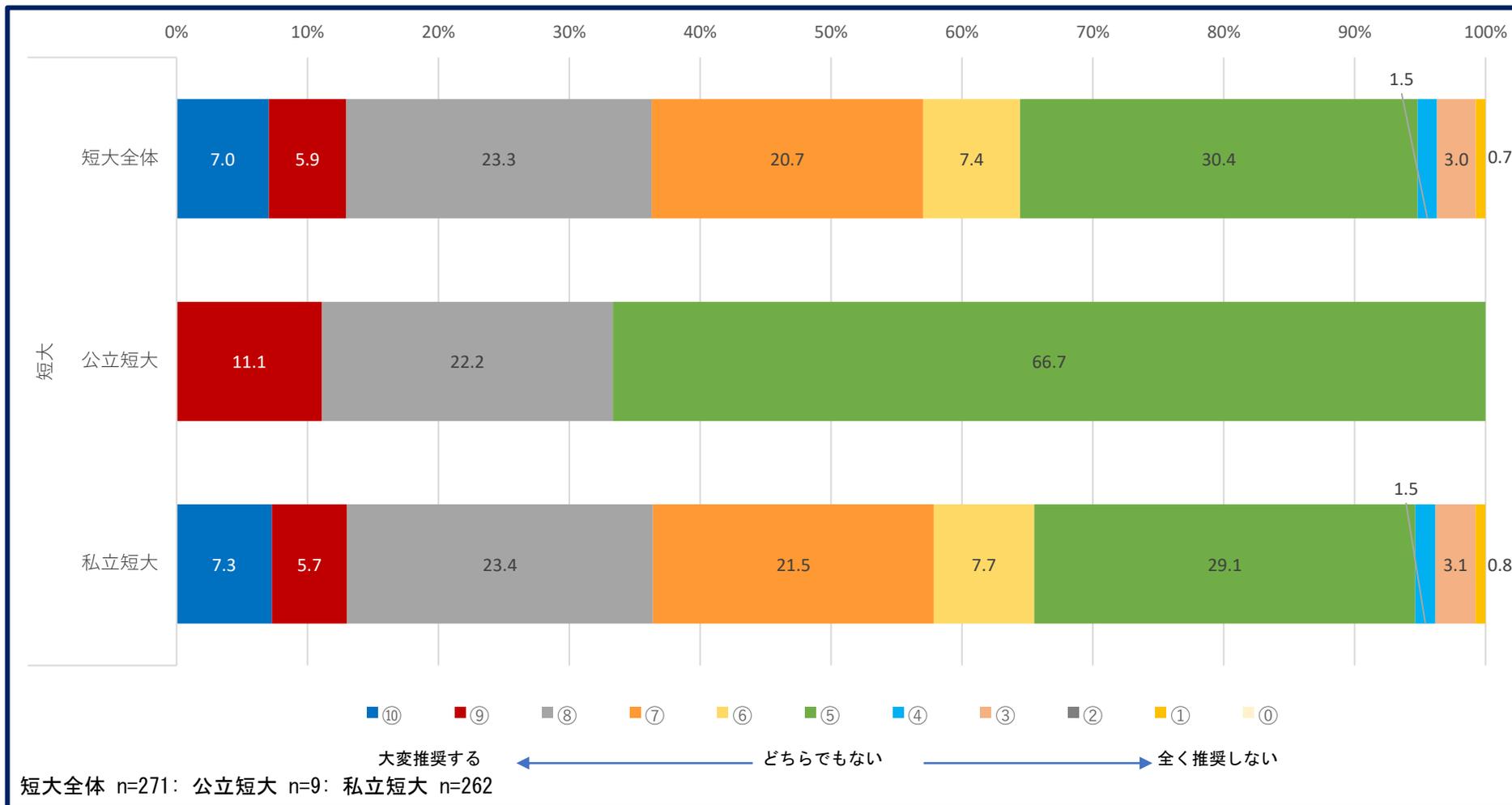
- 大学全体では、「大変推奨する」(推奨度10)が7.3%で、推奨度10-7を合計すると約55%となり、半数以上の大学が「総合型選抜」を推奨している。「全く推奨しない」とする回答は極めて少数である。
- 国立大学では、「大変推奨する」(推奨度10)が7.8%ある一方で、「どちらでもない」(推奨度5)が51.6%となっている。



- 大規模校では、「大変推奨する」(推奨度10)が5.3%で、推奨度10-7を合計すると51%となっている。大規模校は、中規模校、小規模校に比べて推奨度が若干低く、「どちらでもない」が40.4%を占める。



- 短大全体では、「大変推奨する」(推奨度10)が7.0%で、推奨度10-7を合計すると約57%となり、半数以上の短大が「総合型選抜」を推奨している。
- 公立短大では、推奨度がやや低く、「どちらでもない」(推奨度5)が66.7%となっている。



「総合型選抜」の推奨度に関する自由記述概要（1）

■「総合型選抜」を推奨する理由

- 質問11の総合型選抜の推奨度(0～10段階)について、大変推奨する(8～10)を選択した大学からは、以下のような推奨理由があげられた。
 - ✓ アドミッション・ポリシーに合致した学生を選抜できる。
 - ✓ 一般入試では測れない意欲、能力をもった学生を選抜できる。
 - ✓ 出願する高校の幅が広がるなど、多様な学生を選抜できる。
 - ✓ 早期に学生を確保して入学定員を充足できる。受験生側からも早期の合格決定へのニーズが高い。
 - ✓ オープンキャンパス等のイベントに参加した受験生が多く、大学を良く知った上で受験するため、入学後のミスマッチが少ない。
- このほか、「幼児教育・保育、福祉分野などの人材育成には、基礎的な学力だけでなく、分野適性や分野理解、学習意欲も入学者選抜において重要な要素になる」といった分野特有の具体的な理由もあげられた。

「総合型選抜」の推奨度に関する自由記述概要 (2)

■「総合型選抜」を推奨しない理由

- 「総合型選抜」を導入している大学で、「総合型選抜」を推奨しないと回答した大学からは、その理由として以下のような意見が出された。学生の学力への懸念、評価の難しさ、入試業務の負荷に関する意見が比較的多い。

■学生の学力への懸念

- ✓ 基礎学力が足りない学生が多く、入学後の成績が芳しくない。一般選抜のように判断基準が明確ではなく、必ずしも優秀な受験者が入学すると限らない。
- ✓ 学力の低い学生の入学と入学までの学修意欲の継続が難しい。

■評価の難しさ

- ✓ 学力以外の評価基準を定めることが難しい。評価結果の点数化が困難。
- ✓ 多様な学生を獲得できる一方、出願資格確認や判定基準の設定が難しい。
- ✓ 入学後の十分な学びが可能な能力を備えているかを判断するための判断材料としては脆弱。

■入試業務の負荷

- ✓ 実施運営に対して非常に労力を割かれる。学力試験で志願者が十分確保できる見込みであれば、導入するメリットは少ない。
- ✓ 少数の定員に対して、業務量が通常の入試よりもはるかに多い。

■学生確保

- ✓ 早期の学生確保をする観点から、他大学への流出を防ぎたいため。
- ✓ 大学入試の早期化が加速すると思われるため、他校には推奨しない。

■その他

- ✓ ある程度の学生数確保は大切なことだが、本来その大学の理念を追及できなくなる可能性がある。
- ✓ 丁寧な選抜をする方法は総合型以外でもあり、受験勉強をより長い期間することが受験者のためにもなる。

- これらの意見を回答した大学には、医薬・保健、工学、社会科学、人文科学など、様々な学科系統が含まれており、学科系統との明確な関連はなかった。また、これらの大学は、ほとんどが小規模校である。

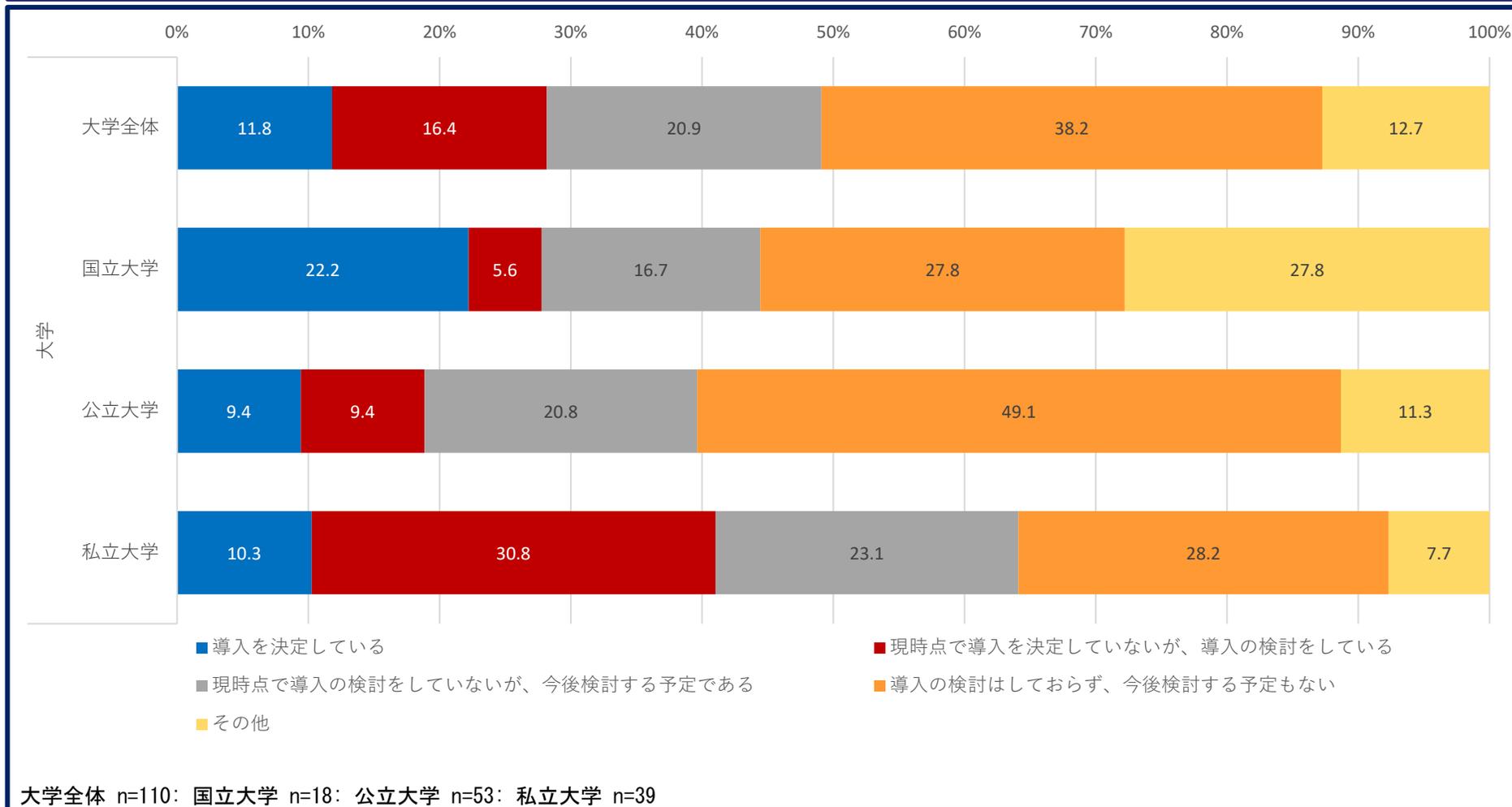
大学入学者選抜における総合型選抜の 導入効果に関するアンケート調査結果 (概要)

(3) 大学入学者選抜において総合型選抜 を導入していない大学等の実態について (概要)

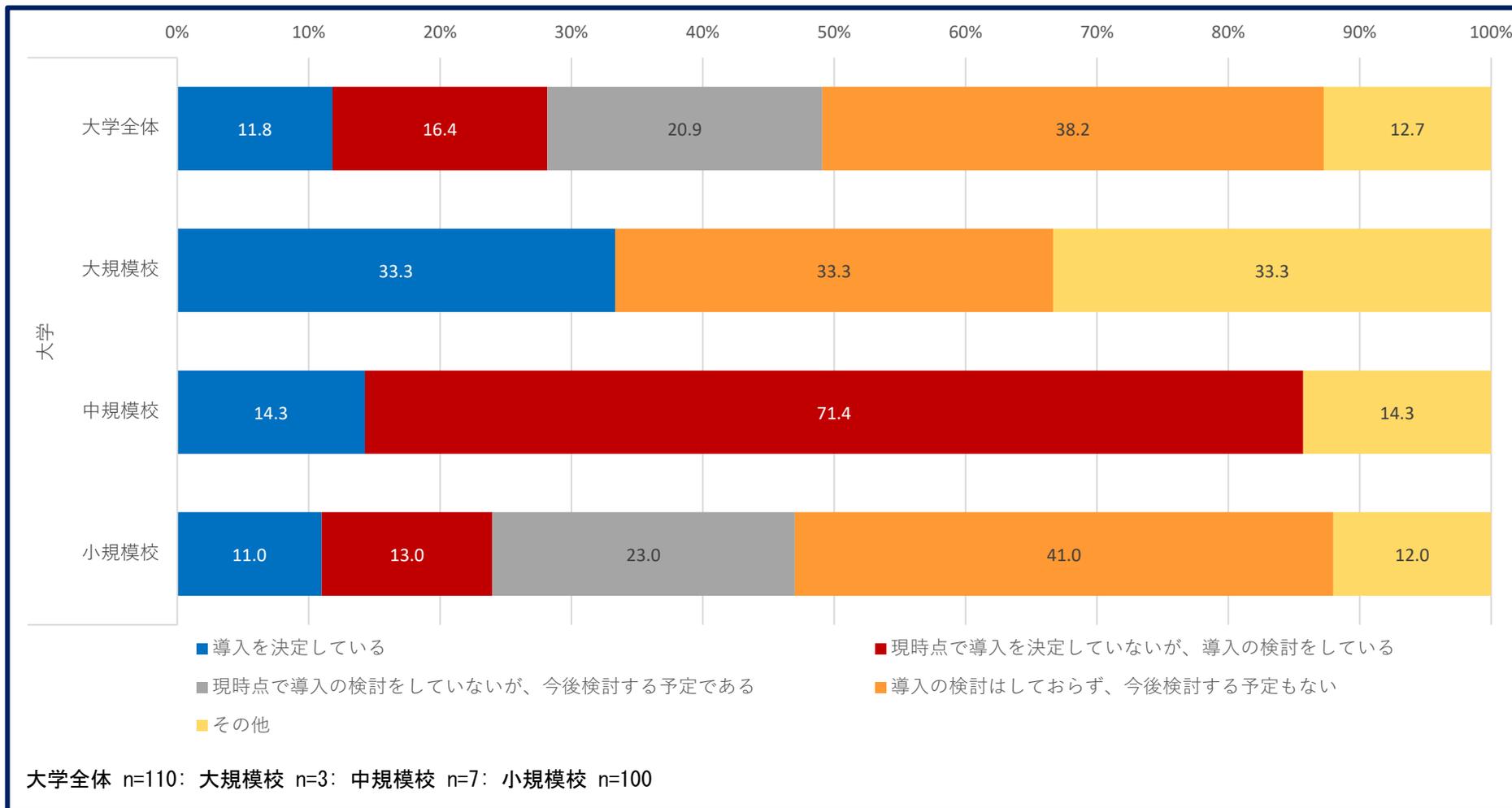
「総合型選抜」の導入予定について

①大学・設置主体別

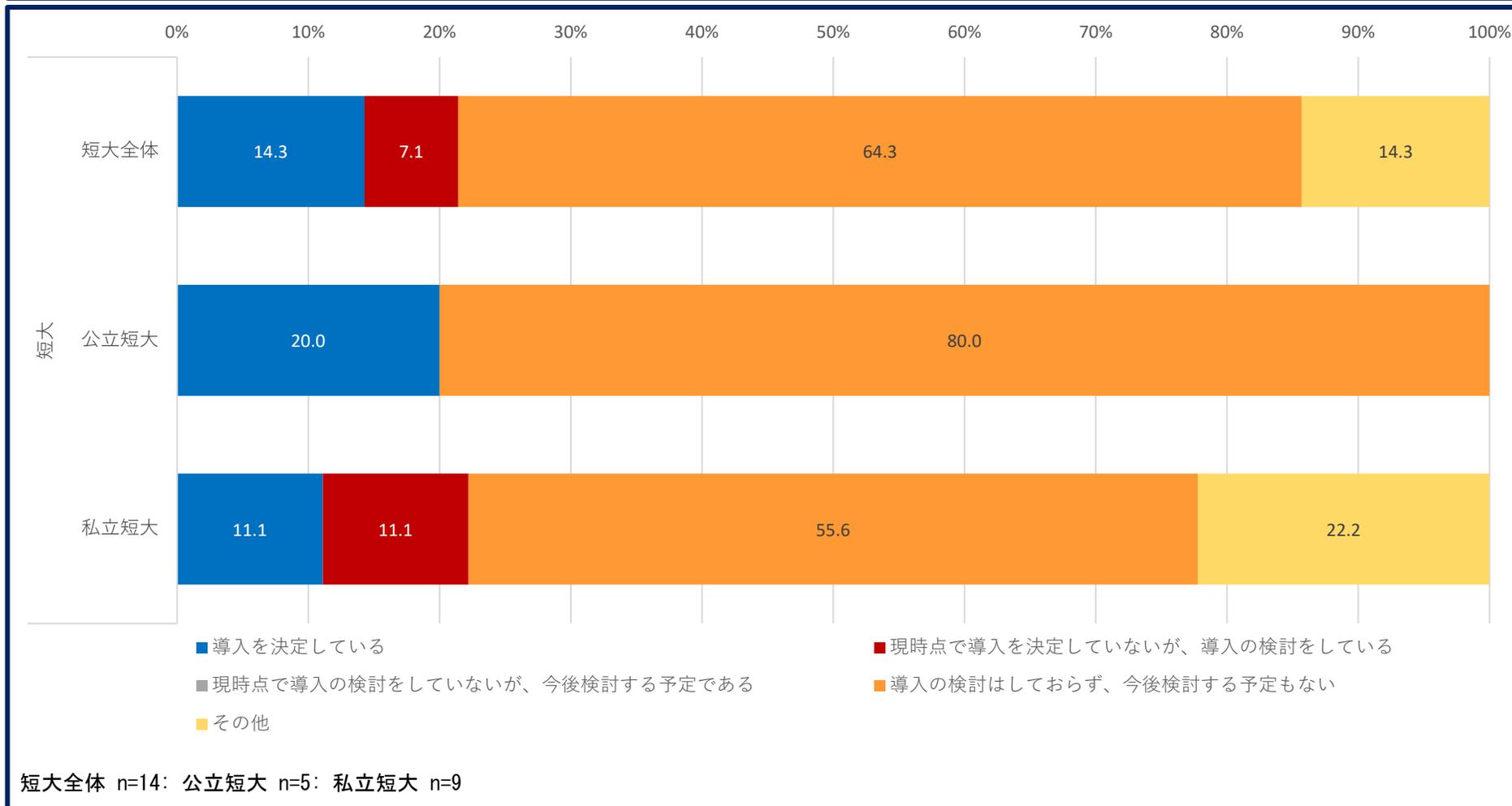
- 大学全体では、「導入を決定している(11.8%)」、「現時点で導入を決定していないが、導入の検討をしている(16.4%)」となっており、「導入の検討はしておらず、今後検討する予定もない」は、38.2%となっている。
- 国立大学では「導入を決定している(22.2%)」であるが、公立大学では「導入を決定している(9.4%)」で、「導入の検討はしておらず、今後検討する予定もない」が49.1%であった。



- 大規模校では、「導入を決定している」と「導入の検討はしておらず、今後検討する予定もない」が共に33.3%となっている。
- 中規模校では、「現時点で導入を検討していないが、導入の検討をしている」が71.4%となっている。
- 小規模校では、「導入の検討はしておらず、今後検討する予定もない」が41.0%となっている。



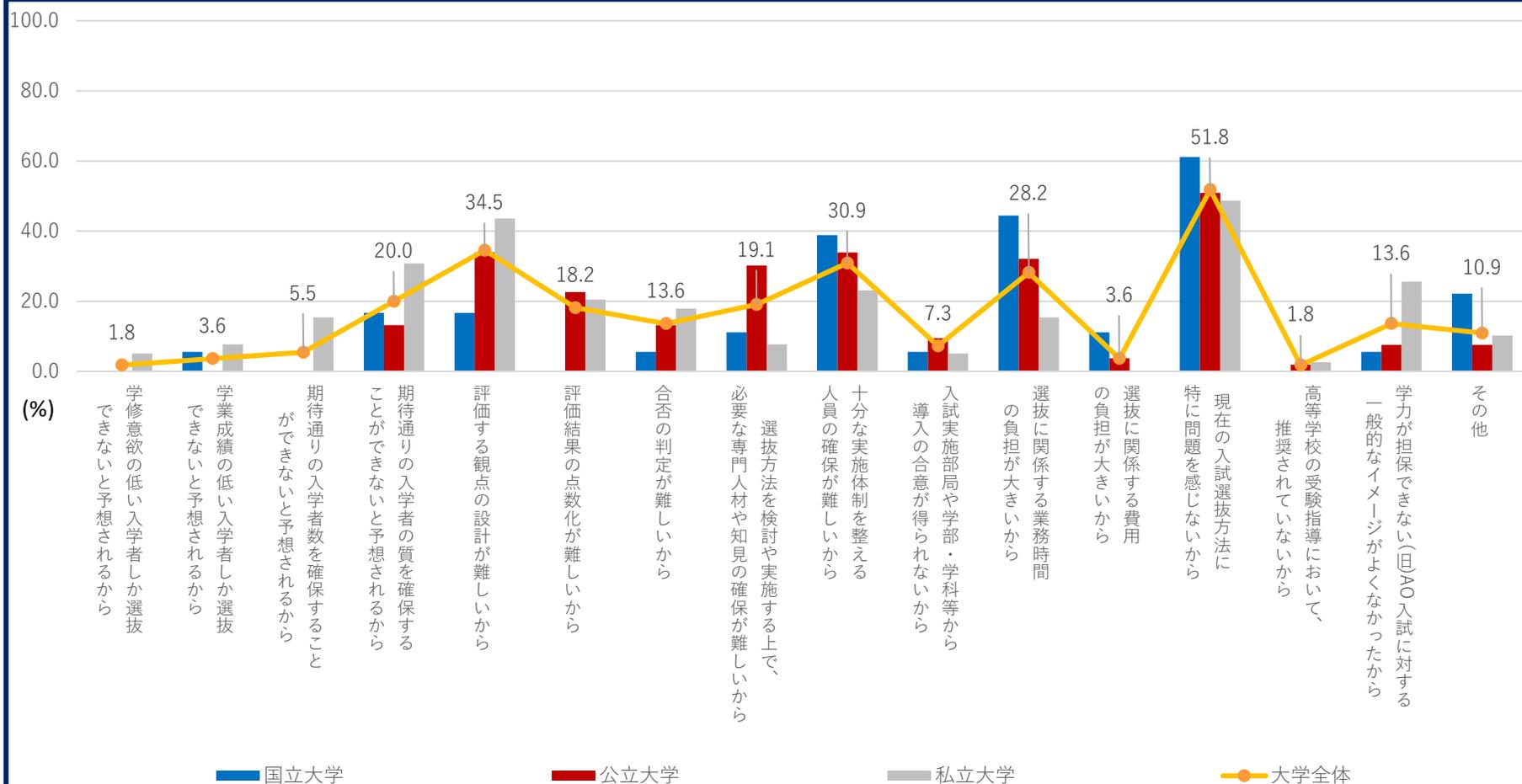
- 短大全体では、「導入を決定している(14.3%)」、「現時点で導入を決定していないが、導入の検討をしている(7.1%)」で、「導入の検討はしておらず、今後検討の予定もない」が64.3%となっている。
- 公立短大では、「導入を決定している(20.0%)」に対して、「導入の検討はしておらず、今後検討の予定もない」が80.0%となっている。



「総合型選抜」を導入していない理由について

①大学・設置主体別

- 国立大学では、「現在の入試選抜方法に特に問題を感じないから」、「選抜に関する業務時間の負担が大きいから」、「十分な実施体制を整える人員の確保が難しいから」が主な理由となっている。
- 私立大学では、「現在の入試選抜方法に特に問題を感じないから」「評価する観点の設計が難しいから」とする回答が多く、「期待通りの入学者の質を確保することができないと予想されるから」という理由も多い。
- 公立大学では、「現在の入試選抜方法に特に問題を感じないから」「評価する観点の設計が難しいから」「十分な実施体制を整える人員の確保が難しいから」が主な理由となっている。

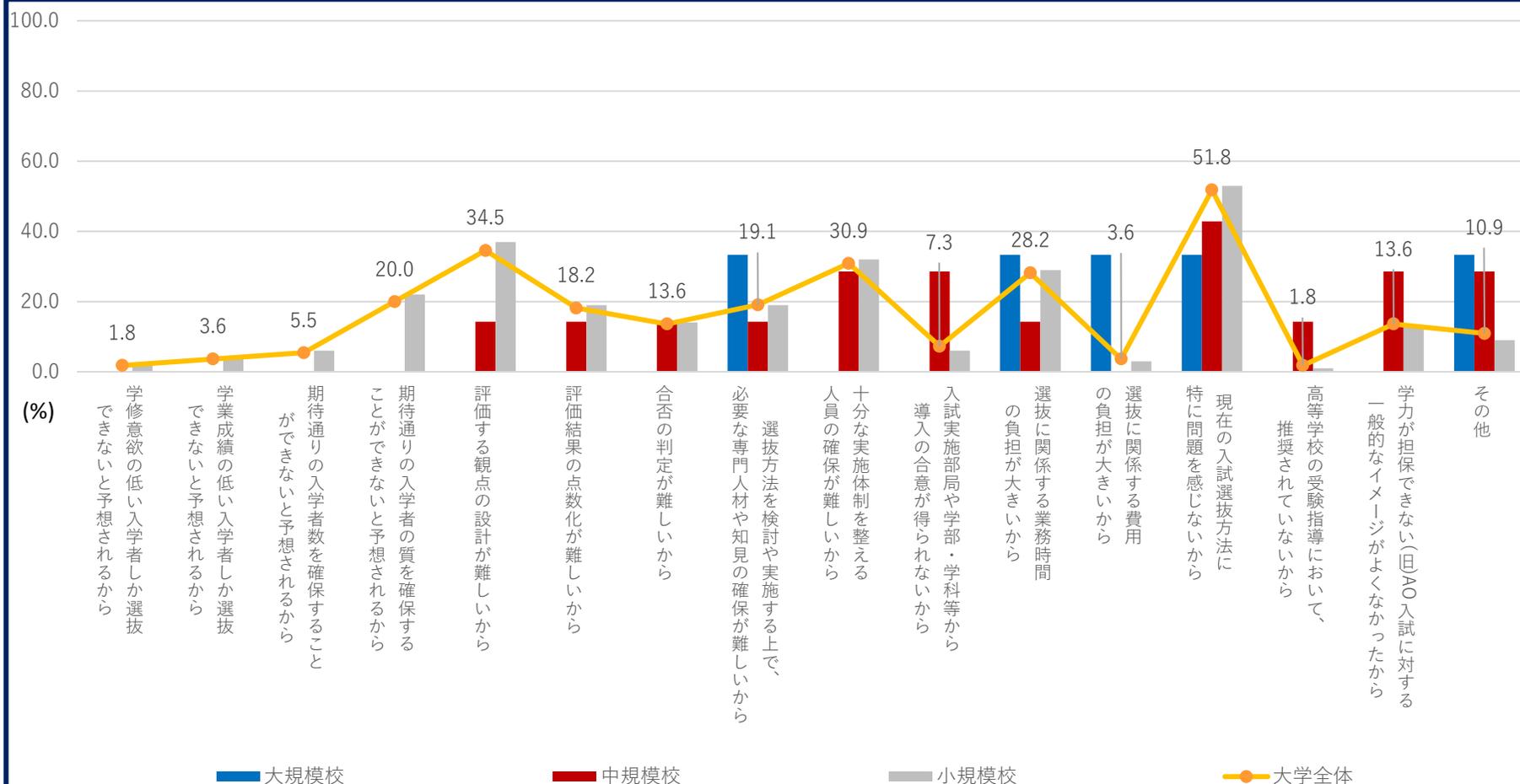


大学全体 n=110: 国立大学 n=18: 公立大学 n=53: 私立大学 n=39

「総合型選抜」を導入していない理由について

②大学・規模別

- 大学の規模によらず、「現在の入試選抜方法に特に問題を感じないから」という理由が多いが、大規模校では、この他に「選抜に関する費用の負担が大きいから」、「選抜に関する業務時間の負担が大きいから」、「選抜方法を検討や実施する上で、必要な専門人材や知見の確保が難しいから」といった理由があげられている。中規模校では、「入試実施部局や学部・学科等から導入の合意が得られないから」、「学力が担保できない(旧)AO入試に対する一般的なイメージが良くなかったから」「十分な実施体制を整える人員の確保が難しいから」という理由もあげられた。
- 小規模校では、「評価する観点の設計が難しいから」、「十分な実施体制を整える人員の確保が難しいから」といった理由のほか「選抜に関する業務時間の負担が大きいから」も比較的多くなっている。

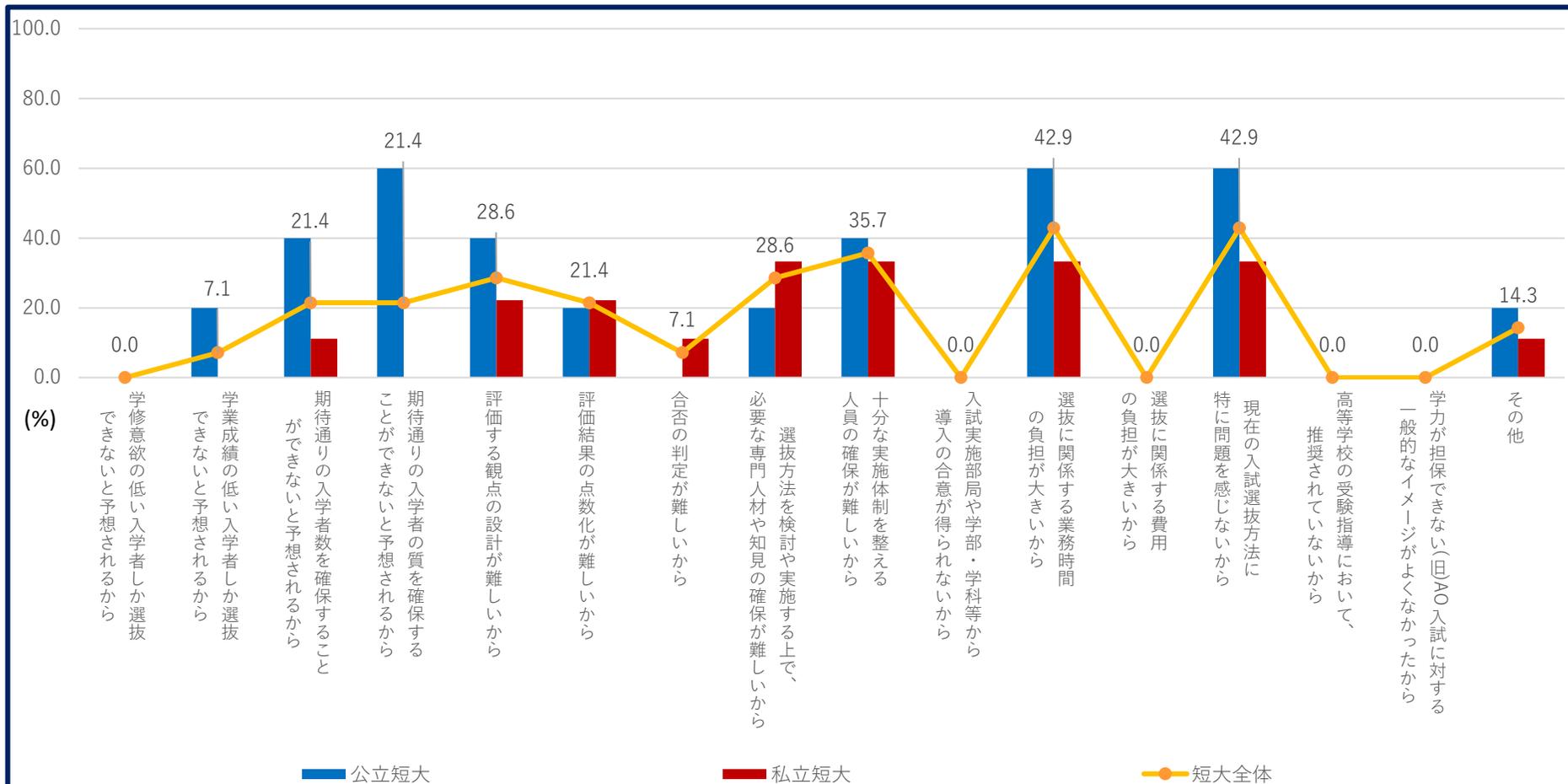


大学全体 n=110: 大規模校 n=3: 中規模校 n=7: 小規模校 n=100

「総合型選抜」を導入していない理由について

③短大・設置主体別

- 短大全体では、「現在の入試選抜方法に特に問題を感じないから」「選抜に関係する業務時間の負担が大きいから」が主な理由となっている。
- 公立短大では、上記に加えて「期待通りの入学者の質を確保することができないと予想されるから」という理由もあげられた。



短大全体 n=14: 公立短大 n=5: 私立短大 n=9

- 「総合型選抜」を導入していない大学(工学・農学系)からは、「総合型選抜」の導入条件について、下記のような内容があげられた。
- 全般的には、学生の学力の確保、評価方法の確立、専門人材の確保、試験実施のための十分な時間確保が条件になるという回答であった。
- これらの意見を寄せた大学は、中規模大学1件を除き、すべて小規模大学であった。また、理学系の大学からは具体的回答がなかった。

「総合型選抜」を導入するための条件(工学・農学系)

□ 学力の確保

- ✓ 農学系大学のため、生物、化学、物理の基礎学力がないと、大学入学後の単位取得が難しい。小論文でも理科の学力検査が実施できる条件が整えば導入可能性が出てくる。
- ✓ 工学部だけの単科大学であり、学習意欲と共に一定の学力水準を有していることを確認できること。
- ✓ 総合型選抜で入学した学生と一般選抜で入学した学生の学力の解離がないことの統計データ。
- ✓ 多文化共生・グローバル化の関連から英語能力の高い学生を獲得することが目的であったが、英語以外の学力が低く学業成績も芳しくなかった。優秀な学生が総合型選抜を選択するようになれば導入可能である。

□ 評価方法の確立、専門人材の確保

- ✓ 大学の人的資源が現状では不足。多様な資質や意欲を見抜く力を持った「採用側のスキル」も必要。こうした人材の雇用自体が難しい。
- ✓ 総合型選抜の設計、実施、評価を、一気通貫でコーディネートすることができる専門人材を確保すること。総合型選抜に精通する人材を(導入前及び導入後の数年間だけでも)複数大学でシェアできれば導入が進むかもしれない。

□ 十分な時間の確保

- ✓ 志願理由書などの提出書類では本人以外の関与が否定できず、本人の能力を正しく評価するのが難しい。数日かけて試験ができれば良いが、時間の確保が難しい。

□ その他

- ✓ 推薦選抜で定員の80%を確保しており、総合型選抜の導入は考えていない。

- 「総合型選抜」を導入していない大学(医薬・保健系)からは、「総合型選抜」の導入条件について、主として下記のような内容があげられた。
- 医療・保健系の大学であることから、国家試験に合格する学力の確保、6年間の効果が不明なことに対する懸念が指摘されたほか、評価方法の確立、入試業務の負担軽減が条件になるという回答も多かった。
- その他の意見として、都道府県などの関係機関との調整が必要との意見もあった。
- なお、これらの意見を寄せた大学は、すべて小規模大学であった。また、この中には全国各地に存在する国公立の医薬・看護系大学が含まれる。

「総合型選抜」を導入するための条件(医薬・保健系)

□ 学力の確保

- ✓ 医学部では、入学後医師になるための基礎学力を有しているかが重視される。総合型選抜は、人物評価の比重が高いため、学力面の評価方法を確立する必要がある。
- ✓ 入学者選抜方法の変更による効果を評価するためには、少なくとも卒業時(6年後)までを見届ける必要があるが、6年以上効果が不確定。
- ✓ 学習態度や学力が備わっていないと卒業や国家試験の合格は困難。

□ 評価方法の確立、入試体制の整備

- ✓ アドミッション・ポリシーに適した入学者を選抜するための専門人材や知見の確保、評価設計。
- ✓ 多様な入試方法で選抜を実施しており、さらに新たな選抜を導入するのは負担が大きい。
- ✓ 小さな負担で「知識・技能」を評価する方法の整備。
- ✓ 総合型選抜は評価者が受験者と接する時間が長くなるため、公平・公正な評価を行うための事前準備が必要。他大学での取組み事例集や指針等の整備が望まれる。

□ その他

- ✓ 募集定員が100名と小規模であるため、入試の種類を今以上に細分化するのが効果的かどうか分からない。
- ✓ 都道府県をはじめとする関係機関との調整が必要(私立大学)。

「総合型選抜」を導入するための条件に関する自由記述 (3)

その他の小規模大学 (教育、家政、芸術、社会科学、人文科学)

- 前述の医療・保健系、農学・工学系以外の小規模大学(教育、家政、芸術、社会科学、人文科学)からは、「総合型選抜」の導入条件について、主に下記のような内容があげられた。
- 専門人材・教職員の確保、入試業務の負担軽減、評価方法の確立が導入条件として指摘された。
- また、短期大学志向が低下する中で、入試制度を変更するよりも、学生への魅力をアピールすることが重要との回答もあった。
- これらの大学の中には、全国各地に存在する国公立の教育大学が含まれている。

「総合型選抜」を導入するための条件(その他の小規模大学:教育、家政、芸術、社会科学、人文科学)

□ 専門人材・教職員の確保、入試業務の負担軽減

- ✓ 知見のある人材の採用また育成。そのための予算措置等。
- ✓ 試験実施に当たり必要となる人員を雇用するための人件費や、円滑に試験を実施するための運営費が十分に措置されること。
- ✓ 小規模大学のため、入学試験に投入できる人的資源が不足していることから、入試の設計から評価までを行える専門的な知見を持ったアドミッション・オフィサーのような教職員が必要である。
- ✓ 選抜等に係る人員の現時点以上の確保。
- ✓ 詳細な書類審査等や丁寧な面接等が必要な総合型選抜を新たに導入することは、教職員の負担を考慮すると困難。
- ✓ 教職員の業務負担の軽減、入試専門職員の確保。

□ 評価方法の確立

- ✓ 受験者の特性を正確に評価する方法の確立。
- ✓ APとの整合性や入試の業務負担を考慮した選抜手法の検討・開発。
- ✓ 評価の観点や点数化について、公平に判断できる基準の設計が必要。

□ その他

- ✓ 現在も実技試験を中心とした選抜を実施しているが、安易に導入すると単に共通テストを免除しただけの選抜方法になってしまう。
- ✓ 美術学部では全学科共通の一般入試を行っており、美術に関する共通の能力を測りたい考えも強いため、学部全体の合意を得るためには新しいカリキュラムや専攻のあり方などを詳細に検討する必要がある。
- ✓ 短期大学部に関しては入試制度ではなく、短期大学部に入学したいという魅力をいかに伝えるかが重要。
- ✓ 短期大学志向が低下する中で、入試制度を変更しても、入学者の量的増加や質的向上が図られるとはいえない。
- ✓ 現在の入試選抜方法に特に問題を感じていないため、導入は検討していない。
- ✓ 総合型選抜の実施事例について、導入各大学における、入試実施に関する制度面、入学前教育の方法、入学後の学修状況などについて、網羅的に閲覧できる仕組みがあるとよいと考える。

- 前述の医薬・保健系、工学・農学系、その他の小規模大学の結果を総括すると、「総合型選抜」を導入できていない大学における、導入阻害要因は以下のように総括できる。
 - ✓ 小規模大学は、「総合型選抜」に関する専門人材が不足している。また、新たな試験制度を導入する際の負担が大きい。
 - ✓ 医薬・保健系の大学では、卒業後の国家試験合格、資格取得が前提であり、修業年数も6年間となる学科系統もあり、「総合型選抜」入学者の学力の担保に不安を抱えている。
 - ✓ 同様に、理学・工学・農学系の大学も、入学後の学力に対する要求度が高いため、一部の大学において「総合型選抜」の導入を躊躇している。